# IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition



## エンタープライズ・サーチの管理

バージョン 8.3

# IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition



## エンタープライズ・サーチの管理

バージョン 8.3

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

http://www.ibm.com/jp/manuals/ の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典: SC18-9283-02

IBM WebSphere Information Integrator

OmniFind Edition

Administering Enterprise Search

Version 8.3

発 行: 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当: ナショナル・ランゲージ・サポート

#### 第1刷 2005.12

この文書では、平成明朝体<sup>™</sup>W3、平成明朝体<sup>™</sup>W7、平成明朝体<sup>™</sup>W9、平成角ゴシック体<sup>™</sup>W3、平成角ゴシック体<sup>™</sup>W5、および平成角ゴシック体<sup>™</sup>W7を使用しています。この(書体\*)は、(財) 日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体"W3、平成明朝体"W7、平成明朝体"W9、平成角ゴシック体"W3、 平成角ゴシック体"W5、平成角ゴシック体"W7

- © Copyright International Business Machines Corporation 2004, 2005. All rights reserved.
- © Copyright IBM Japan 2005

## 目次

	本書のトピックについてvii		Windows での WebSphere II Content Edition 用ク	
	本書の対象読者 vii		ローラー・サーバーの構成	
			DB2 クローラー	. 48
	エンタープライズ・サーチとは?1		DB2 クローラーのための WebSphere Information	
	エンタープライズ・サーチでサポートされているデー		Integrator Event Publisher Edition の構成	
	タ・ソース・タイプ		DB2 クローラーのための WebSphere MQ の構成	52
	エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの概要 .3		イベント・パブリッシングを使用するための	
	エンタープライズ・サーチ・クローラー 4	1		. 54
	エンタープライズ・サーチ・パーサー 5		イベント・パブリッシングを使用するための	
	エンタープライズ・サーチ索引 7	1	Windows でのクローラー・サーバーの構成	. 56
	エンタープライズ・サーチ用検索サーバー 8		DB2 Content Manager クローラー	. 57
	エンタープライズ・サーチ管理コンソール 9		UNIX での DB2 Content Manager 用クローラ	
	エンタープライズ・サーチ・システムのモニター 10		ー・サーバーの構成	. 58
	エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル 10		Windows での DB2 Content Manager 用クローラ	
	エンタープライズ・サーチのカスタマイズ 11		ー・サーバーの構成	. 60
	エンタープライズ・サーチ用サンプル検索アプリ		Domino Document Manager クローラー	
	ケーション		Exchange Server クローラー	. 63
	エンタープライズ・サーチのデータ・フロー 13		セキュア Exchange Server 文書へのアクセスの検	
		1	証	. 64
	エンタープライズ・サーチ管理の概要 15		NNTP クローラー	. 64
	管理コンソールへのログイン		Notes クローラー	. 65
	シングル・サーバー構成のエンタープライズ・サー		Lotus Domino データベースのクロールに関する	
	チ管理者パスワードの変更		ヒント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 67
	マルチサーバー構成のエンタープライズ・サーチ管		Lotus Domino ソースをクロールするための	
	理者パスワードの変更			. 68
	エンタープライズ・サーチ・システムのポート番号		Lotus Domino ソースをクロールするための	
1	の変更		Windows でのクローラー・サーバーの構成	
			DIIOP プロトコルを使用するサーバーの構成 .	. 72
	エンタープライズ・サーチ・コレクション 29		Lotus Domino ソースをクロールするための AIX	
	コレクション・ウィザードを使用したコレクション	I	での I/O 完了ポートの構成	
	の作成	I	QuickPlace クローラー	. 75
	「コレクション」ビューを使用したコレクションの		ローカル・ユーザー・セキュリティーを使用する	
	作成	I	ための QuickPlace サーバーの構成	
	コレクションの編集	I	QuickPlace での Directory Assistance の構成 .	
	コレクションの削除		UNIX ファイル・システム・クローラー	
			Web クローラー	
	エンタープライズ・サーチ・クローラーの		ユーザー・エージェントの構成	
	管理		JavaScript のサポート	
	クローラーの作成		Web クロール・スペースを制限する規則	
	クローラーのプロパティーの編集 41	ı	Web クローラーとの URL 接続のテスト	
	クロール・スペースの編集 41		Web クローラーにおける再クロール間隔の設定	87
	クローラーの削除		Web クローラーにおける URL アクセスのオプシ	
	Content Edition クローラー		ョン	
	WebSphere II Content Edition リポジトリーへのサ			
	ーバー・モード・アクセス		する方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	WebSphere II Content Edition リポジトリーへの直		セキュア Web サイトのクロールのサポート .	. 90
I	接モード・アクセス		プロキシー・サーバーによってサービスされている Web サイト	02
	UNIX での WebSphere II Content Edition 用クロ		る Web サイト	
I	ーラー・サーバーの構成 45		Cookie の官珪	
			シュニハル Web シロール・人へ一人の特別 .	. 95

	リンクをたどらない、索引付けしないディレクテ		索引作成のスケジューリング	150
	ィブ		索引スケジュールの変更.........	151
	Web ページでのリンクをたどらないディレクティ		索引スケジュールの使用可能および使用不可設定	
	ブおよび索引付けをしないディレクティブのオー	1	索引の並行作成の構成	
	バーライド		索引の検索可能ビューに影響するオプション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
ı	WebSphere Portal クローラー		文書の検索に対する索引付きオプション・・・・	
' 	WebSphere Portal クローラー用エンタープライ		照会内のワイルドカード文字・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
1	ズ・アプリケーションのデプロイ		照会でのワイルドカード文字のオプションの構成	
!				
	クロールする URL を WebSphere Portal からコ		有効範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
I	ピーする		有効範囲の構成....................................	
	Windows ファイル・システム・クローラー 101		縮小表示した URI	
	データ・リスナー・アプリケーションのサポートの		検索結果内の URI の縮小表示	
	構成		索引から URI を除去..........	163
	カスタム・クローラー・プラグイン 104			
	エンタープライズ・サーチ索引における URI フォ		エンタープライズ・サーチの検索サーバ	
	ーマット		一管理	165
			検索キャッシュ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	エンタープライズ・サーチ・パーサーの		検索キャッシュの構成	
	管理			
			カスタム同義語辞書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	カテゴリーに関する作業116		システムへの同義語辞書の追加・・・・・	
	ルール・ベースのカテゴリー		同義語辞書とコレクションとの関連付け	
	モデル・ベースのカテゴリー	- 1	カスタムのストップワード辞書	
	カテゴリー・ツリー	-	システムへのストップワード辞書の追加	
	カテゴリー化タイプの選択 121	- 1	ストップワード辞書とコレクションとの関連付け	171
	カテゴリーの構成		動的要約.................	171
	XML 検索フィールドの作業	- [	管理コンソールの文書サマリーのカスタマイズ	172
	XML 検索フィールド		プロパティーの編集による文書サマリーのカスタ	
	XML エレメントを検索フィールドにマップ 125		マイズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	HTML 検索フィールドの作業		クイック・リンクに関する作業	
	HTML 検索フィールド		クイック・リンク	
	検索フィールドへの HTML メタデータ・エレメ		クイック・リンクの構成....................................	
	ントのマッピング			1/4
	カスタム・テキスト処理		エンタープライズ・サーチの文書ランキ	
	システムへのテキスト分析エンジンの追加 130			4 77
l			ング	
	テキスト分析エンジンとコレクションとの関連付		テキスト・ベースのスコアリング	
	け131		静的ランキング	
	共通分析構造への XML エレメントのマッピン	- 1	カスタム・ランキング調整ワード辞書	178
	グ	-	ランキング調整ワード辞書のシステムへの追加	180
	索引への共通分析構造のマッピング 134		ランキング調整ワード辞書とコレクションとの関	
	JDBC 表への共通分析構造のマッピング 135	- [	連付け	180
	パーサー・サービス用スレッドの構成 136	- 1	URI パターンに基づいた文書ランキング	181
	複合語の拡張分析の使用可能化	1	URI パターンに一致する文書のスコアの操作	182
	ネイティブ XML 検索のサポートの使用可能化 137	i.	ランキング調整クラスに基づいた文書ランキング	183
	中国語、日本語、韓国語の文書の言語分析 138	i	ランキング調整クラスへのフィールドのマッピン	100
	N-gram セグメンテーション	i	グ	185
	非 ASCII 文字範囲からの改行文字の除去 138		ランキング調整クラスのランキング調整要因の構	105
	コレクション・パーサーと Stellent セッションに関			
	連付けられた文書タイプ	- !	成	180
	文書タイプとコレクション・パーサーとの関連付	- 1	ブンヤング調整グブスのアノオルト値	187
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		エンカープライブ・サーチの松井マプロ	
	け		エンタープライズ・サーチの検索アプリ	_
			ケーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	規則		コレクションとの検索アプリケーションの関連付け	
	文書タイプと Stellent セッションとの関連付け 142		サンプル検索アプリケーションの機能	190
	Stellent セッション用デフォルト構文解析規則 145		サンプル検索アプリケーションのプロパティー	192
	- 1. h			
	エンタープライズ・サーチ索引の管理 149			

	サンプル検索アプリケーション・プロパティーの編集		<b>エンタープライズ・サーチ・サーバーの</b> 開始と停止
I	エンタープライズ・サーチ外部ソース207システムへの外部ソースの追加		<b>エンタープライズ・サーチ・アクティビ ティーのモニター</b>
	エンタープライズ・サーチ・セキュリティー		コレクションのモニター
	管理役割		クローラーのモニター       262         Web クローラーのアクティビティー詳細の表示       265         Web クローラー・アクティブ・サイト       265         Web クローラー・アクティブ・サイト       265         Web クローラーのクロール速度       266         Web クローラー・レポートの作成       266         Web クローラーの HTTP 戻りコード       268         パーサーのモニター       273         コレクションの索引アクティビティーのモニター       273         エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター       274         検索サーバーのモニター       275         データ・リスナーのモニター       276         文書トラッキング       278         文書トラッキングに対するログ・ファイルの構成       278         除去された文書に関するレポートの表示       278
     	照会処理中の現行の信用証明情報の検証 222 Windows ファイル・システム文書に対する文書 レベルのセキュリティーの施行		エンタープライズ・サーチのログ・ファイルおよびアラート
	ポータル検索エンジンでの文書レベル・セキュリティー		ログ・ファイルの表示
 	検索ポートレットのデプロイ		バックアップとリストア
	WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチへのマイグレーション 243	 	エンタープライズ・サーチ・コマンド、 戻りコード、およびセッション ID 297
	WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造のマイグレーション243		エンタープライズ・サーチの資料 327
	WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション		WebSphere II OmniFind Edition アクセシビリティ
	マイグレーション・ウィザードのログ・ファイル 249		エンタープライズ・サーチの用語集331

WebSphere Information Integration	商標								347
に関する情報の入手 343	索引								353
IBM と連絡を取る345									

## 本書のトピックについて

IBM® WebSphere® Information Integrator OmniFind™ Edition バージョン 8.3 システムを管理するときに、この情報を使用してください。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition (WebSphere II OmniFind Edition) には、xy9ープライズ・サーチ という機能が搭載されています。xy9ープライズ・サーチのコンポーネントは、WebSphere II OmniFind Edition 製品のインストール時に、インストールされます。xy9ープライズ・サーチ という用語は、インストール・パスおよび製品パッケージ化ラベルを参照する場合をのぞき、

WebSphere II OmniFind Edition の資料全体で使用されています。

エンタープライズ・サーチの管理資料では、以下のトピックについて説明します。

- エンタープライズ・サーチの概念、コンポーネント、および機能の紹介
- コレクションの作成、モニター、および管理の方法に関する説明
- データの解析方法、および検索や取り出しを最適化するために解析アクティビティーをカスタマイズする方法
- 解析データの索引付けの方法と、索引付けアクティビティーを管理する方法
- 検索サーバーがデータを検索する方法、ランク付けする方法、検索結果を戻す方 法
- カスタム検索アプリケーションをコレクションと関連付ける方法
- エンタープライズ・サーチで使用可能なセキュリティー・レベルの概要
- エンタープライズ・サーチを IBM WebSphere Portal に組み込む方法
- WebSphere Portal の分類構造とコレクションをエンタープライズ・サーチのカテゴリー・ツリーとコレクションにマイグレーションする方法
- システムのバックアップとリストアの方法
- ログ・ファイルの作成と表示方法
- エンタープライズ・サーチ・コマンドの使用方法と、戻された情報の解釈方法

## 本書の対象読者

本書は、エンタープライズ・サーチ・コレクションの作成、モニター、および管理 を担当するシステム管理者およびシステム・オペレーターを対象としています。

本書では、コレクションの作成、コレクションのコンテンツの選択、コンテンツを 検索可能にするオプションの構成について説明します。また、コレクションおよび システム・アクティビティーのモニター、エンタープライズ・サーチ管理者として のユーザーの登録、検索アプリケーションと、コレクションおよび外部検索可能ソ ースとの関連付けについても説明します。

本書を活用するためには、Web アプリケーションを十分理解していること、検索したいデータ・ソースについての経験があることが必要です。

## エンタープライズ・サーチとは?

エンタープライズ・サーチ・システムは、1回の照会により、構造化されているかどうかを問わず任意の数のデータ・ソースを検索できる幅広い機能を持っています。エンタープライズ・サーチ・システムは照会に対する応答が早く、結果セットを統合してランク付けする機能があるため、必要な情報を簡単に見つけることができます。

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition (WebSphere II OmniFind Edition) と共にインストールされ、企業全体に渡って情報を収集し、それらの情報を検索で利用できるようにします。ユーザーは、Web ブラウザーに照会を入力するだけで、ローカルおよびリモート・データベース、コラボレーション・システム、コンテンツ・マネージメント・システム、ファイル・システム、および内外の Web サイトを同時に検索することができます。

エンタープライズ・サーチ・システムは、既存のシステムとシームレスに統合できるように設計されており、多種多様なソースからデータを収集して高速に検索するために必要な流れを処理します。また、エンタープライズ・サーチでは、言語分析その他の分析をデータに適用し、有用性の高い検索結果を提供することができます。異なるタイプのリポジトリーを検索する場合でも、異なるインターフェースの使い方を習得する必要もありません。

エンタープライズ・サーチ索引に含めることを希望しないデータ・ソースを検索するサポートを追加できます。エンタープライズ・サーチのフェデレーテッド・サーチ機能を使用して、索引付けされたデータ・ソースを検索するときに同時に、これらの外部ソースを検索できます。

#### 検索品質

探している情報をユーザーが確実に検出するために、WebSphere II OmniFind Edition は IBM Unstructured Information Management Architecture (UIMA) をサポートします。UIMA は、テキスト分析法の共通かつ標準インターフェースを定義するオープン・フレームワークです。大規模なテキスト分析にあたって、エンタープライズ・サーチは、概念、潜在的意味、関係、事実、および非構造化テキストではしばしば隠されている他の関連データを識別できます。分析中に抽出される情報は、検索結果の品質を拡大するために使用したり、ビジネス・インテリジェンスやデータ・マイニングなど、他のアプリケーションの品質を拡大するために使用したりすることができます。

#### セキュリティー

セキュリティーは、エンタープライズ・サーチに不可欠な要素です。システム管理は、権限のあるユーザーしか操作できないようになっています。IBM WebSphere Application Server で使用可能なセキュリティー・メカニズムを使用して、管理役割を構成して、さまざまな管理機能に対するアクセス権を、どのユーザーが持つかを制御できます。

Ι

また、データ収集時に、セキュリティー・トークンを収集データに関連付けるオプションを指定することもできます。検索アプリケーションでセキュリティーを使用可能にすれば、索引内の文書と一緒に保管されている、これらのトークンを使用して、アクセス制御を施行し、適切な信用証明情報を持つユーザーのみがデータを照会し、検索結果を表示できるようにすることができます。

特定のタイプのデータ・ソースの場合、オプションを構成して、照会処理中に、現行のアクセス制御によってユーザーのログイン信用証明情報を妥当性検査することができます。この追加のセキュリティーの層は、ネイティブ・データ・ソースによって、リアルタイムでユーザーの権限を確実に妥当性検査するようにします。このオプションによって、文書およびそのセキュリティー・トークンが索引付けされた後、ユーザーの信用証明情報が変更になったインスタンスに対してプロテクトすることができます。

#### 関連概念

エンタープライズ・サーチ・セキュリティー

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』「テキスト分析機能ガイド」の『Unstructured Information Management Architecture (UIMA)』

## エンタープライズ・サーチでサポートされているデータ・ソース・タイプ

データ・ソースを検索する場合に、さまざまなデータ・ソース・タイプが検索できるようにあらかじめサポート設定されています。

IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールすると、次の各タイプのデータ・ソースからのデータの収集を開始できます。

- IBM DB2® Content Manager 項目タイプ (文書、リソース、および項目)
- IBM DB2 Universal Database<sup>™</sup> データベース
- IBM Domino® Document Manager (以前の Domino.Doc®) データベース
- IBM Lotus Notes® データベース
- IBM Lotus® QuickPlace® データベース
- Microsoft® Exchange Server パブリック・フォルダー
- Microsoft Windows® ファイル・システム
- NNTP ニュースグループ
- UNIX® ファイル・システム
- IBM WebSphere Information Integrator Content Edition リポジトリー:
  Documentum、FileNet Panagon Content Services、FileNet P8 Content
  Manager、Hummingbird® Document Management (DM)、OpenText Livelink、およ
  び Portal Document Manager (PDM) の項目クラス
- IBM DB2 Universal Database for z/OS®、IBM Informix®、Microsoft SQL Server、Oracle、および Sybase データベース用の IBM WebSphere Information Integrator ニックネーム表
- IBM WebSphere Portal のサイト
- インターネット上およびイントラネット内の Web サイト

これらのソースをエンタープライズ・サーチ索引に追加せずに、以下のタイプの外 部ソースを検索するサポートを追加できます。

- Java<sup>™</sup> Database Connectivity (JDBC) データベース表 (IBM DB2 Universal Database (DB2 UDB) および Oracle データベースのみ)。外部ソースは JDBC デ ータベース内の各表ごとに個別に作成されます。
- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバー。各 LDAP サーバーごと に 1 つの外部ソースが作成されます。

サポートされるデータ・ソース・タイプに関する情報については、 WebSphere Information Integrator OmniFind Edition Web サイト を参照してください。

#### 関連概念

Ι

Ι

ı ı

エンタープライズ・サーチ外部ソース

## エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの概要

エンタープライズ・サーチでは、そのコンポーネントによって、企業全体からデー 夕を収集し、収集した情報を分析、解析、カテゴリー化し、ユーザーが検索に使用 する索引を作成します。

エンタープライズ・サーチ・コレクションは、ユーザーが 1 回の照会で検索でき るデータ・ソースの集合を表します。コレクションを作成する場合、コレクション に入れるソースを指定し、ユーザーが索引付けされたデータを検索するときのオプ ションを構成します。

コレクションは複数作成することができ、各コレクションにはさまざまな種類のデ ータ・ソースのデータを入れることができます。例えば、IBM DB2 Universal Database、IBM Lotus Notes、および IBM DB2 Content Manager データベースの文 書を含むコレクションを作成することができます。ユーザーがこのコレクションを 検索すると、検索結果にはこれらの各データ・ソースの文書が含まれることになり ます。

フェデレーテッド検索のサポートにより、1回の照会で複数のコレクションを検索 することができます。場合によっては、検索結果にエンタープライズ・サーチ・シ ステム内のすべてのコレクションと外部ソースの文書が組み込まれる可能性があり ます。

コレクションの作成および管理には、次のようなアクティビティーがあります。

#### データの収集

クローラー・コンポーネントによって、連続的に、または指定したスケジ ュールに従ってデータ・ソースから文書が収集されます。頻繁にクロールを 行うことにより、ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようになりま す。

#### データの分析

パーサー・コンポーネントによって、文書からテキストが抽出され、クロ ーラーがクロールした各文書に対して言語分析その他の分析が行われます。 この詳細なコンテンツ分析により、検索結果の品質が向上します。

#### データの索引作成

索引 コンポーネントが、定期的にスケジュールに従って実行され、新規の

文書、変更された文書に関する情報が索引に追加されます。索引コンポーネ ントでは、コレクション内の文書に対してグローバル分析を行い、検索結果 の品質を高めます。

#### データの検索

検索 コンポーネントによって、索引が検索され、検索アプリケーションと 連携して検索要求を処理し、処理された検索結果を戻します。

他の WebSphere Information Integrator OmniFind Edition コンポーネントによって、 セキュリティー設定の指定、システム・アクティビティーのモニター、さらに問題 が発生した場合のトラブルシューティングが行えるようになります。また、この製 品では、独自の検索アプリケーションを作成するときのテンプレートとして使用で きる検索アプリケーションの実用サンプルも提供されています。

#### 関連概念

エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理 エンタープライズ・サーチ・パーサーの管理 エンタープライズ・サーチ索引の管理 エンタープライズ・サーチの検索サーバー管理

## エンタープライズ・サーチ・クローラー

エンタープライズ・サーチ・クローラーは、データ・ソースから文書を収集し、そ れらの文書が分析、索引作成、および検索できるようにします。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition で提供されているクローラー・ コンポーネントには、次のような機能があります。

- クローラーを構成すると、ディスカバリー ・プロセスは、 Lotus Notes データベ ースのすべてのビューとフォルダー名、または UNIX サーバーの全ファイル・シ ステム名など、クロール使用することができるソースに関する情報を探し出しま す。
- クロールするソースを選択し、クローラーを開始すると、クローラー・コンポー ネントはソースからデータを収集し、それらのデータが分析および索引作成でき るようにします。

1 つのコレクションには複数のクローラーを入れることができ、各クローラーは特 定タイプのデータ・ソースからデータを収集するように設計されています。例え ば、ファイル・システム、 Notes® データベース、およびリレーショナル・データ ベースのデータを結合するために、3 つのクローラーを同じコレクションに作成す ることができます。また、同一タイプのクローラーを複数作成し、各クローラーが クロールしているデータの変更頻度に従って、それぞれ異なるクロール・スケジュ ールを設定することもできます。

Web、WebSphere Portal、および Network News Transfer Protocol (NNTP) のソース 用クローラーは継続的に稼働します。クロール対象の URL または NNTP ニュース グループを指定すると、クローラーは、新規または変更されたデータがないか定期 的にそれらの対象に戻ってチェックします。他のタイプのクローラーは、手動で開 始および停止することもできますし、クロール・スケジュールを設定することもで

きます。クローラーのスケジュールを設定する場合、初回実行の日時、および新規 および変更された文書をクロールするためにデータ・ソースにクローラーがアクセ スする頻度を指定します。

クローラーのプロパティー は、特定のクローラーがクロールするときの動作を制御 する規則の集合です。例えば、クローラーのシステム・リソースの使用を制御する 規則を指定します。クロール対象として適格なデータ・ソースの集合は、クローラ ーのクロール・スペース を構成します。クローラーを作成後、クローラーのプロパ ティーは、いつでも編集し、クローラーのデータ収集指定を変更することができま す。また、クロール・スペースを編集して、クローラー・スケジュールの変更、新 規ソースの追加、または今後検索しないソースの除去を行うこともできます。

#### 関連概念

エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理

#### 関連タスク

クローラーのモニター

## エンタープライズ・サーチ・パーサー

エンタープライズ・サーチ・パーサーは、クローラーによって収集された文書を分 析し、文書の索引作成の準備を行います。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition で提供されているパーサー・コ ンポーネントは、文書コンテンツおよび文書のメタデータを分析します。分析結果 は、索引作成コンポーネントがアクセスできるようにデータ・ストアに格納しま す。パーサーは、以下のようなタスクを実行します。

- すまざまなフォーマットによる文書からテキストを抽出する。例えば、パーサー は、XML および HTML 文書のタグ内のテキストを抽出します。Stellent for IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition Outside In Viewer Technology の使用により、パーサーはまた、 Microsoft Word や Adobe Acrobat PDF 文書な どのバイナリー・フォーマットのテキストも抽出します。
- 各文書の文字セット・エンコードを検出する。パーサーは、言語分析を行う前処 理として、検出したこの情報を使用してすべてテキストをユニコードに変換しま す。
- 各文書のソース言語を検出する。
- コレクションに管理者が指定した解析規則を適用する。パーサーの構成時、次の 項目を構成できます。

#### XML 文書および HTML 文書のフィールド・マッピング規則

このオプションを使用して、ユーザーは XML 文書および HTML 文書内 の構造化されたコンテンツ、および構造化されていないコンテンツを区別 して検索することができます。XML エレメントまたは HTML メタデー タ・エレメントをエンタープライズ・サーチ索引の検索フィールドにマッ プすると、ユーザーは照会でフィールド名を指定して、XML 文書および HTML 文書の特定の部分を検索することができます。(特定フィールドを 検索する照会では、文書の全コンテンツを検索するフリー・テキスト照会 より精度の高い検索結果が得られます。)

#### カテゴリー

このオプションで、ユーザーは、文書が属するカテゴリーを基準にして文

コレクションの作成時に、カテゴリーを使用する場合は、使用するカテゴ リーのタイプを選択します。「ルール・ベース」のカテゴリーを使用す ると、文書は管理者が定義した規則に従ってカテゴリーに関連付けられま す。ルール・ベースのカテゴリーは、新規作成したエンタープライズ・サ ーチ・コレクションと IBM WebSphere Portal からマイグレーションした コレクションで構成することができます。

「モデル・ベース」のカテゴリーを使用すると、文書は WebSphere Portal システムにあるモデル・ベースのカテゴリーに関連付けられます。 このオプションを使用するには、エンタープライズ・サーチ索引サーバー に WebSphere Portal がインストールされていなければなりません。ま た、WebSphere Portal のカテゴリー化ツールを使用して、カテゴリーを管 理する必要があります。

#### カスタム・テキスト分析

アプリケーション開発者は、ユーザーが検索するデータに複雑な言語分析 を実行するために、カスタム分析プログラムを作成することができます。 こうしたプログラムをエンタープライズ・サーチ・システムに埋め込み、 これを使用してコレクションのコンテンツに注釈を付けることができま す。注釈に索引付けをすることで、コレクションにセマンティック検索を 行うことができます。

例えば、ユーザーは、互いに隣接して出現する照会用語や、同一文に出現 する照会用語を検索したり、あるいは、照会用語間の関係を検索すること ができます (例: Smith という名前の IBM 技術者ではなく、Smith とい う名前の IBM 営業担当者についての文書、など)。

#### N-gram セグメンテーションのサポート

中国語、日本語、韓国語で書かれた文書の検索性能を高めるためには、字 句解析の N-gram セグメンテーション方式を使用可能にします。この分析 方法では、ワードの区切りに空白文字を使用しません。 (コレクション作 成後に、セグメンテーション方式を変更することはできません。)

#### ネイティブ XML 検索での XML 文書検索サポート

ネイティブ XML 検索は、XML マークアップを検索することで、より正 確な検索結果を提供できます。例えば、照会で、あるワードが特定の XML エレメントに出現しなければならないと指定することができます。

#### フィールドの相対的重要度スコアをランキング調整するクラス

フィールドをランキング調整クラスにマップすると、検索結果でどのよう に文書をランク付けるかに影響を与えることができます。例えば、タイト ル・フィールドのスコアをランキング調整したいとします。照会用語がタ イトルに出現した場合、そのタイトルの用語を持つ文書が、検索結果でよ り高くランク付けされます。

- テキストを抽出し、トークンを追加してデータの検索機能を拡張する。このプロ セスでは、パーサーは、以下のタスクを実行します。
  - 大文字の正規化、およびドイツ語のウムラウトなどの発音区別符号の正規化な どの文字の正規化。

#### 関連概念

カテゴリーに関する作業

XML 検索フィールド

HTML 検索フィールド

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』 「テキスト分析機能ガイド」の『エンタープライズ・サーチに組み込まれている テキスト分析』

#### 関連タスク

パーサーのモニター

## エンタープライズ・サーチ索引

エンタープライズ・サーチの索引作成コンポーネントは、定期的なスケジュールに 従って実行され、新規の文書、変更された文書に関する情報を索引に追加します。

ユーザーが、常に検索対象のソースの最新情報にアクセスできるようにするため、 索引の作成には、次の 2 つの段階があります。

#### 索引の再編成

索引を再編成すると、構成が最適な編成になるように索引全体が再作成されます。索引作成プロセスによって、クローラーが収集し、パーサーが分析したすべてのデータが読み込まれます。

#### 索引のリフレッシュ

索引をリフレッシュすると、最後の索引の再編成の後にクロールされた情報が、索引に追加されます。

コレクションの索引オプションを構成する場合、索引の再編成およびリフレッシュ のスケジュールを指定できます。索引の再編成やリフレッシュの頻度は、システム・リソースや、索引付けされるソースが静的コンテンツと動的コンテンツのどち らを含むかによって異なります。

確実に新しい情報を利用できるようにするため、索引のリフレッシュ・スケジュールは頻繁に行うようにしてください。また、定期的に索引の再編成をスケジュール設定して、新規の情報がすべて統合され、新規のコンテンツが分析されて、索引のパフォーマンスが最適化されるようにしてください。

また、索引作成プロセスは、スケジューリングせずに開始することもできます。例えば、特定の解析規則を変更し、その変更を使用している検索アプリケーションで有効になるようにしたい場合、スケジュールされた時に開始する索引の再編成を待たずにデータを再クロールし、解析した後、索引の再編成を開始することができます。

リソースの使用を制御するには、いくつのコレクションが索引付けプロセスを共用し、索引作成要求を同時にサブミットするかを制御します。同時に索引作成を行うと、大規模な索引の再編成で、他の索引のリフレッシュを妨げないようにすることができます。索引作成は、リソースを集中的に使用するプロセスになりかねません

ので、大規模なシステムの場合、システム負荷をモニターして、索引の再編成およ びリフレッシュ頻度を調整するようにしてください。

索引作成時、索引プロセスでは、グローバル文書分析を行います。この分析では、 文書の重複を識別し、文書のリンク構造を分析し、アンカー・テキスト (ハイパー テキスト・リンクでターゲット・ページを記述するテキスト)に対する特殊処理を 行うアルゴリズムが適用されます。

以下の索引付けアクティビティーのオプションが指定できます。

- ユーザーがワイルドカード文字を指定できるように、照会用語を索引に拡張する サポートを構築するか、照会処理中に照会用語を拡張することを指定します。こ れを判断するときは、リソースの使用量と照会応答時間のトレードオフを考慮す る必要があります。
- 有効範囲を構成できます。有効範囲を設定すると、ユーザーがコレクションで表 示できる内容を制限することができます。例えば、技術サポート部の文書の URI を含む有効範囲を作成したり、人事部の文書の URI を含む別の有効範囲を作成 したりすることができます。検索アプリケーションで有効範囲をサポートする と、ユーザーはコレクション中の該当するサブセットだけを対象として文書を検 索、取得することができます。
- 同じ URI 接頭部をもつ検索結果文書を縮小表示するオプションが指定できま す。また、URI 接頭部が異なる文書を検索結果にまとめて縮小表示できるように グループ名を指定することもできます。
- 索引を作成後、ユーザーに検索させたくない URI を削除することができます。

#### 関連概念

エンタープライズ・サーチ索引の管理

照会内のワイルドカード文字

有効範囲

縮小表示した URI

URI パターンに基づいた文書ランキング

#### 関連タスク

索引作成のスケジューリング

索引の並行作成の構成

索引から URI を除去

コレクションの索引アクティビティーのモニター

エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター

## エンタープライズ・サーチ用検索サーバー

エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーは、検索アプリケーションと連携し て、照会の処理、索引の検索、および検索結果を戻す処理を行います。

エンタープライズ・サーチ用検索サーバーは、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時にインストールされます。コレクションに検索 サーバーを設定すると、コレクションを検索する方法のオプションを指定できま す。

- 検索キャッシュを構成して、頻繁に要求される検索結果を保持することができま す。検索キャッシュを利用すると、検索効率が高まります。
- コレクション内の文書検索のデフォルト言語を指定できます。
- アプリケーション開発者がカスタム辞書を作成する場合、それら辞書をコレクシ ョンに関連付けることができます。
  - ユーザーが同義語辞書 を使用するコレクションを照会するとき、照会用語の 同義語を含む文書は、検索結果に含まれます。
  - ユーザーがストップワード辞書 を使用するコレクションを照会するとき、ス トップワードは、照会が処理される前に、照会から除去されます。
  - ユーザーがランキング調整ワード辞書を使用するコレクションを照会すると き、ランキング調整ワードを含む文書の重要度は、辞書のワードと関連付けら れているランキング調整要因に従って調整されます。
- 特定の文書が特定の照会に関連付けられることが事前にわかっている場合、クイ ック・リンクを構成することができます。クイック・リンク では、特定の URI と特定のキーワードおよび句を関連付けます。照会にクイック・リンク定義で指 定したキーワードまたは句がある場合、関連付けられた URI が自動的に検索結 果に戻されます。

マルチサーバー構成では、障害保護がサーバー・レベルではなく、コレクション・ レベルで使用可能です。 1 つの検索サーバー上のコレクションがいかなる理由にし ろ使用不可になった場合、その後そのコレクションの照会は、自動的に別の検索サ ーバーにルーティングされます。

#### 関連概念

エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション

検索キャッシュ

カスタム同義語辞書

カスタムのストップワード辞書

カスタム・ランキング調整ワード辞書

クイック・リンク

#### 関連タスク

検索サーバーのモニター

## エンタープライズ・サーチ管理コンソール

エンタープライズ・サーチ管理コンソールは、ブラウザーで稼働します。すなわ ち、管理ユーザーは、いつでもどこからでもこのコンソールにアクセスできること になります。同時に、セキュリティー機構によって、管理機能にアクセスすること を許可されたユーザーしかコンソールにアクセスできないことが保証されていま す。

エンタープライズ・サーチの管理コンソールは、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、検索サーバーにインストールされます。

管理コンソールには、さまざまな基本的管理用タスクの実行を助けるウィザードが 付属しています。例えば、コレクション・ウィザードを使用すれば、簡単にコレク ションを作成でき、ドラフト・モードで作業をする手間が省けます。クローラー・

ウィザードは、データ・ソース・タイプによって異なり、ユーザーが検索できるよ うにしたいソースを選択する作業を支援します。

他の管理タスクについては、管理する個別の項目を選択します。例えば、コレクシ ョンを編集する場合、索引スケジュールを変更するには「索引」ページを選択し、 XML文書の構文解析規則を変更するには「解析」ページを選択します。

#### 関連概念

エンタープライズ・サーチ管理の概要

管理役割

#### 関連タスク

管理コンソールへのログイン

## エンタープライズ・サーチ・システムのモニター

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、システム・アクティビテ ィーをモニターし、必要に応じてその運用を調整することができます。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールし、最少でも 1 つのコレクションを作成すると、主要な各アクティビティー (クロール、解析、索 引作成、検索)の詳細な統計データを表示することができます。統計データには、 平均応答時間や、クロールまたは索引作成セッションでいくつの文書がクロールま たは索引作成されたかなどの進行状況データがあります。

ほとんどのアクティビティーは、管理者が開始および停止することができます。例 えば、アクティビティーを一時停止して、構成の変更または問題のトラブルシュー ティングを行い、アクティビティーを進められる状況になった時点で処理を再開す ることができます。

また、アラートを設定することもでき、これによりモニターしている事象が発生し たときはいつでも、特定のモニター・アクティビティーに関する E メールを受信で きるようになります。例えば、検索応答時間が指定したしきい値を超過した場合に アラートを受信することができます。

文書がエンタープライズ・サーチ・システムから除去された場合、文書をトラッキ ングして、いつ、どこで、なぜ、その文書が除去されたのかを判別できます。例え ば、パーサーがその文書を構文解析できなかったか、または管理者が索引から文書 を除去したことが考えられます。

#### 関連概念

エンタープライズ・サーチ・アクティビティーのモニター エンタープライズ・サーチ・サーバーの開始と停止

## エンタープライズ・サーチ用ログ・ファイル

ログ・ファイルは、個別のコレクションおよびシステム・レベル・セッションに対 して作成されます。

特定のエンタープライズ・サーチ・コレクションまたはシステムに対してロギン グ・オプションを構成する場合、ログに記録するメッセージのタイプ (エラー・メ ッセージ、警告メッセージなど)を指定します。また、新しいメッセージのスペー

スを確保するためにシステムが古くなったログ・ファイルを循環使用する頻度を指 定します。特定のメッセージ (アラートを含む) 、あるいはエラーが発生したときの すべてのエラー・メッセージについて、E メールを受信するオプションを選択でき ます。

ログ・ファイルを表示する場合、表示するログ・ファイル (ファイル名を見れば、 ファイル作成日時、メッセージを発行したコンポーネントがわかります)を選択し ます。表示フィルターを指定することもできます。例えば、エラー・メッセージだ けを表示したり、特定エンタープライズ・サーチ・セッションから出されたメッセ ージだけを表示することができます。

#### 関連概念

エンタープライズ・サーチのログ・ファイルおよびアラート

アラート

エンタープライズ・サーチのメッセージ

#### 関連タスク

ログ・ファイルの構成

SMTP サーバー情報の構成

ログ・メッセージについての E メールの受信

ログ・ファイルの表示

## エンタープライズ・サーチのカスタマイズ

エンタープライズ・サーチ用のアプリケーション・プログラミング・インターフェ ース (API) を使用すれば、カスタム検索アプリケーション、コレクションのコンテ ンツを更新するカスタム・アプリケーション、テキスト分析用のカスタム・プログ ラム、および同義語、ストップワード、ランキング調整ワード用の辞書を作成する ことができます。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールすると、エンタ ープライズ・サーチ・コレクションの拡張に使用可能な、次の一連の API が使用で きるようになります。

#### 検索および索引 API (SIAPI)

この API を使用して、カスタム検索アプリケーションおよびカスタム管理 インターフェースを作成します。

#### データ・リスナー API

ı

この API は、外部クローラーからデータを検索する場合に使用します。外 部クローラーは、エンタープライズ・サーチのデータ・リスナーに接続で き、その後コレクションにデータを追加したり、コレクションからデータを 除去したりすることができます。

#### クローラー・プラグイン

Web および Web 以外のクローラー用 API を使用して、クロール中の文書 にメタデータを追加したり、あるいは組織の業務を強化するセキュリティ ー・トークンとセキュリティー規則を関連付けたりします。

言語分析用カスタム・プログラムをエンタープライズ・サーチ・コレクションと統 合することで情報の検索性を高めることができます。 カスタム・テキスト分析エン ジンをシステムに追加すると、そのエンジンをコレクションに関連付けることがで

きます。 ユーザーがコレクションを照会したときに、カスタム・プログラムで索引 に構築したワードの関連付けが有効に働きます。例えば、ユーザーは単に用語その ものだけではなく、概念および用語と用語の間の関係を検索できます。

また、頭字語、省略語、業界固有の用語などを反映したカスタム辞書を統合するこ とで、情報をより多く取得できるようになります。辞書をシステムに追加した後、 それら辞書をコレクションに関連付けることができます。ユーザーがコレクション を照会したとき、次のような仕方で利点がもたらされます。

- 照会に同義語として定義されたワードが含まれる場合、照会用語の同義語を含む 文書は、検索結果に含まれることになります。
- 照会にストップワードが含まれる場合、そのストップワードは照会から除外され ることになり、無関係な文書は検索結果に戻されません。
- 照会にランキング調整ワードが含まれる場合、ランキング調整ワードを含む文書 は、検索結果において、辞書のワードと関連付けられたランキング調整値に従っ て調整されて、ランク付けされます。

#### 関連概念

エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション

カスタム同義語辞書

カスタムのストップワード辞書

カスタム・ランキング調整ワード辞書

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレン ス」の『検索および索引 API の概要』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレン ス」の『データ・リスナー』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレン ス」の『クローラー・プラグイン』

#### 関連タスク

データ・リスナー・アプリケーションのサポートの構成

## エンタープライズ・サーチ用サンプル検索アプリケーション

カスタム検索アプリケーションを作成する場合、エンタープライズ・サーチ用のサ ンプル検索アプリケーションを、提供されたまま、またはそれをテンプレートとし て使用することができます。

サンプル検索アプリケーションは、 WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、併せてインストールされます。サンプル検索アプリケ ーションによって、エンタープライズ・サーチで使用可能な検索および取り出し機 能のほとんどを実際に試すことができます。また、このアプリケーションは実用的 なサンプルで、これによってエンタープライズ・サーチ・システム内のすべてのア クティブ・コレクションおよび外部ソースを検索できます。コレクションまたは外 部ソースをユーザーに提供する前に、サンプル・アプリケーションを使用して、新 規のコレクションおよび外部ソースをテストできます。

サンプル検索アプリケーションは、一度に複数のコレクションおよび外部ソースの 検索を可能にして、フェデレーテッド検索の対応も実際に試すことができます。

コレクションに対するセキュリティーを使用可能にし、またシステムに対する WebSphere II OmniFind Edition ID 管理を使用可能にすると、ユーザーは検索アプ リケーションを使用する際にプロファイルを作成できます。ユーザー・プロファイ ルは、さまざまなドメインにログインするためにユーザーが指定する信用証明情報 を保管します。

照会の処理中、検索プロセスは、保管された信用証明情報 (WebSphere II OmniFind Edition によって管理されるセキュア保管に暗号化された)を使用して、セキュア・ ドメインを検索する許可をユーザーが持っているかどうかを判別します。信用証明 情報が欠如しているか、またはドメインに対して有効でない場合、そのドメインか らの文書は、検索結果から除外されます。

サンプル検索アプリケーションの使用方法については、アプリケーションの使用中 に「ヘルプ」をクリックしてください。カスタム検索アプリケーションを作成する には、エンタープライズ・サーチ用検索および索引 API を使用します。

#### 関連概念

エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション

サンプル検索アプリケーションの機能

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレン ス」の『検索および索引 API の概要』

#### 関連タスク

サンプル検索アプリケーションへのアクセス サンプル検索アプリケーション・プロパティーの編集 サンプル検索アプリケーションに対するセキュリティーの使用可能化

## \_\_\_\_\_ エンタープライズ・サーチのデータ・フロー

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition と共にインストールされるエン タープライズ・サーチ・コンポーネントは、互いに連携してシステム内のデータ・ フローを確保しています。

クローラーは、企業全体のデータ・ソースから文書を収集します。パーサーは、ク ロール済みの文書から有用な情報を抽出し、さらに、例えば文書をカテゴリーに関 連付け、検索要求にある用語と文書の適合性を判断するときに役立つトークンを生 成します。そして、索引コンポーネントは、効率的な検索が行われるようにデータ を保管します。

Web ブラウザーと検索アプリケーションを使用することにより、ユーザーは索引処 理済みのコレクションおよび外部ソースを検索します。検索アプリケーションは、 ユーザーがブラウザーでクリックして利用できる結果リストを表示することができ ます。また、より高度に使用して、さまざまなデータ・ソースの情報に基づいて動 的に生成されたコンテンツを戻すこともできます。

例えば、カタログ検索アプリケーションを使用すれば、検索要求を満たす結果表示 をカスタマイズすることができます。 1 回の照会で、例えば IBM DB2 Content Manager および Lotus Notes リポジトリーにある文書の組み合わせなど、異なるタ イプのデータ・ソースから文書を検索することができます。

管理者は、収集対象のデータを指定し、それらのデータのクロール、解析、索引作成、および検索に関する設定を行います。システム・アクティビティーをモニターすることにより、管理者は、必要な調整を行ってデータのスループットを最適にします。

次のダイアグラムは、エンタープライズ・サーチ・システムにおけるデータの流れ を示しています。

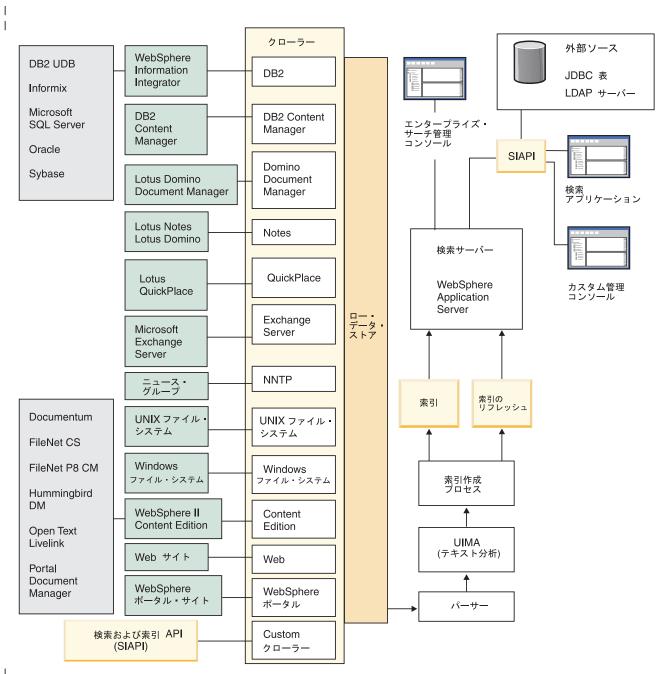


図1. エンタープライズ・サーチ・システムにおけるデータ・フロー

## エンタープライズ・サーチ管理の概要

コレクションおよび外部ソースの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティーおよびログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、検索アプリケーションのコレクションおよび外部ソースへの関連付け、セキュリティー施行情報の指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

#### 「コレクション」ビュー

以下のガイドラインに従って、最初のコレクションを作成し、システムを管理します。

#### ログイン

エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインします。「コレクション」ビューは、コレクションの作成および管理のエントリー・ポイントです。

**ヒント:** 管理コンソールを使用する場合は、ツールバーの「**ヘルプ**」または「このページのヘルプ」をクリックします。メッセージに関する詳細情報および修正アクションがある場合は、メッセージの最後にある「<a> 詳細」アイコンをクリックして、詳細を見ることができます。</a>

#### コレクションの作成

以下のいずれかの方法を選択して、空の新規コレクションを作成します。

- コレクション・ウィザードを使用してコレクションを作成するには、「コレクション・ウィザード」をクリックし、ウィザードの指示に従ってください。
- 「コレクション」ビューを使用してコレクションを作成するには、「コレクションの作成」をクリックし、「コレクションの作成」ページの各フィールドに必要なデータを入力して「OK」をクリックします。

#### コレクションの構成

新規コレクションは空なので、編集してコンテンツを追加する必要があります。またデータをクロールするときやデータを検索可能にする場合のオプションを指定します。

作成した新規のコレクションに対して「**② 編集**」をクリックし、続いてそのコレクションのオプションを指定するページを選択します。

**重要:** Web ブラウザーで「戻る」または「最新表示」ボタンをクリックすると、矛盾した結果が出たり、潜在的なデータ損失が起きる可能性があります。コレクション構成時に、前のページに戻ったり、管理コンソールの情報を最新表示する必要がある場合は、 Web ブラウザーの「戻る」や「最新表示」ボタンではなく、エンタープライズ・サーチ管理コンソールの「**前へ**」および「最新表示」ボタンをクリックしてください。

- 「一般」ページでは、コレクション全体に適用するオプションを指定しま す。
  - 一般オプションを編集して、コレクションの名前や説明を変更した り、あるいは、コレクションの見積もりサイズを変更することができ ます。
  - コレクション ID や検索結果で文書をランキングする静的ランキング 方法などのコレクションに関する変更不可能な情報を表示することが できます。
  - コレクション作成時にそのコレクションのセキュリティーを使用可能 に設定している場合、文書レベルでセキュリティー制御を使用可能に したり、使用不可にすることができます。
- 「クロール」ページでは、クローラーを必ず 1 つは構成します。

1 つのコレクションには、さまざまな種類のデータ・ソースのデータを入 れることができます。コレクションに組み込む各データ・ソースのタイプ ごとに、1つ以上のクローラーを構成する必要があります。クローラーを 作成する場合、クロール対象のデータ・タイプに固有のウィザードがあ り、これを使用すると簡単にクローラーを構成できます。

- 「構文解析」ページでは、クロール対象データの検索が効率的に行われる ようにするための構文解析方法のオプションを構成します。
  - ネイティブ XML 検索で検索できるように XML 文書を構文解析する かどうかを指定することができます。
  - 文書をカテゴリーに関連付けることができます。こうすることでユー ザーはコレクションのサブセットを検索したり、文書が含まれるカテ ゴリーを基準にして検索結果の文書を参照することができます。
  - XML エレメントと HTML メタデータ・エレメントを索引の検索フィ ールドにマップすると、ユーザーが照会にフィールド名を指定して文 書の特定部分を検索することができるようになります。
  - エンタープライズ・サーチ・システムにカスタム・テキスト分析エン ジンを追加した場合、コレクションで使用するものを 1 つ選択し、テ キスト処理オプションを指定して情報の検索性を高めることができま す。
  - フィールドをランキング調整クラスに関連付けて、照会用語に一致す るフィールドの検索結果におけるランクを調整することができます。
- 「索引」ページでは、索引の再編成およびリフレッシュのスケジュールを 設定します。スケジュールは、ユーザーが常に最新の情報にアクセスでき るようにするため、索引作成が頻繁に実行されるように設定してくださ い。オプションで次のようなアクティビティーを実行することもできま
  - ユーザーが照会用語にワイルドカード文字を指定できるようにしま す。
  - 有効範囲を設定し、ユーザーが索引のすべての文書ではなくコレクシ ョンの限定された一部分を検索できるようにします。
  - 検索結果を省略表示して、同じソースの文書をすべてグループ化し て、検索結果にまとめて省略表示されるようにします。

- ランキング調整要因を割り当てて、URI パターンに一致する文書の検 索結果におけるランクを調整します。
- 索引から URI を除去します。たとえば、コレクション作成後に、特定 の文書をユーザーが表示できないようにする必要がある場合に行いま
- 「検索」ページでは、コレクションの文書を検索するためのオプションを 指定します。
  - 検索結果用のキャッシュ・スペースを確保し、またコレクションのデ フォルト言語を変更できます。
  - エンタープライズ・サーチ・システムに、同義語、ストップワード、 ランキング調整ワードに関するカスタム辞書を追加した場合、コレク ションの検索時に使用する辞書を選択できます。
  - 検索結果に表示する文書サマリーの長さを指定できます。
  - 照会に特定のキーワードまたは句が含まれているときに必ず特定の URI が自動的に表示されるように、クイック・リンクを構成すること ができます。
- 「ログ」ページでは、以下のアクティビティーを実行することができま
  - ログに記録するメッセージのタイプと、ログ・ファイルのリサイクル 頻度を指定します。
  - コレクション・アクティビティーに関するアラートを受信する場合の オプションを指定します。例えば、検索の平均応答時間が指定した限 度を超える場合にアラート通知されるように設定することができま
  - また、特定のメッセージあるいは特定タイプのメッセージがログに記 録された場合に、必ず E メールを受信するようにするオプションを指 定できます。
  - 文書がエンタープライズ・サーチ・システムから除去された時間や場 所や理由を判別するためのロギング情報のオプションを指定します。

#### コンポーネントの始動

Ι

Ι

I

1

クロール対象のデータ・ソース、およびデータ収集、検索に関するオプションを指 定すると、コレクション作成プロセスを開始することができます。コンポーネント を開始する順序は重要です。 クローラーはデータが構文解析される前にクロールす る必要があり、パーサーはクロールされたデータが索引付けされる前に分析する必 要があり、索引は検索サーバーが検索要求処理を開始する前にリフレッシュあるい は再編成される必要があります。

#### 「外部ソース」ビュー

データ・ソースをクロールまたは索引付けせずに検索する場合は、ツールバーの 「外部ソース」をクリックして、データ・ソースを検索可能にするオプションを指 定できます。ご使用の Java Database Connectivity (JDBC) データベースおよび Lightweight Directory Access Protocol サーバーをエンタープライズ・サーチでアク セスできるように設定する情報を指定する必要があります。外部ソースと検索アプ リケーションを関連付けると、クロール、構文解析、索引付けされたデータを使用

してコレクションを検索できると同時に、関連付けた外部ソースを検索することが できます。

#### 「システム」ビュー

エンタープライズ・サーチ管理者の役割を担当している場合、ツールバーの「シス **テム**」をクリックして、以下のアクティビティーを行うことができます (コレクシ ョン管理者、オペレーター、およびモニター担当者は、エンタープライズ・サーチ 管理者によってアクセス権限が付与されている場合にのみ、このビューにアクセス できます)。

- システム・リソースのアベイラビリティーを確認する。
- クライアント・データ・リスナー・アプリケーションがコレクションを更新でき るように構成する。
- カスタム・テキスト分析エンジンをシステムに追加する。
- システムに、同義語、ストップワード、ランキング調整ワードに関するカスタム 辞書を追加する。
- 並行して索引を作成できるコレクションの数を指定する。また、単一のコレクシ ョンに対するリフレッシュおよび再編成要求を並行して実行できるかどうかを指 定する。
- システム・レベルのイベントに対するアラートを構成する。
- システム・レベル・セッションで生成されるロギング・メッセージのオプション を指定する。
- メール・サーバーに関する情報を指定して、エンタープライズ・サーチ・アクテ ィビティーに関する E メールを受信できるようにする。

#### 「セキュリティー」ビュー

エンタープライズ・サーチ管理者の役割を担当している場合、「セキュリティー」 をクリックしてセキュリティー・オプションを指定することができます。コレクシ ョン管理者、オペレーター、およびモニター担当者は、このビューにはアクセスで きません。

IBM WebSphere Application Server でセキュリティーを使用可能に設定している場 合、「セキュリティー」ビューを使用して管理役割を構成することができます。管 理役割を構成することで、システム管理を実施できるユーザーを増やすと同時に、 それぞれのユーザーがアクセスできる対象を、特定の機能およびコレクションに制 限することができます。

独自の検索アプリケーションを作成するまで、サンプル検索アプリケーションを使 用して、あらゆるコレクションおよび外部ソースの検索ができます。カスタム検索 アプリケーションの作成後は、「セキュリティー」ビューを使用して、アプリケー ションを、アプリケーションで検索可能なコレクションおよび外部ソースに関連付 けてください。

### 「モニター」ビュー

 「モニター」 をクリックすると、システムまたはコレクション・コンポーネン トをいつでもモニターできます。管理役割で権限が与えられていれば、モニターす るだけでなく、コンポーネント・プロセスの開始および停止もできます。

#### 関連概念

37ページの『エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理』 コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラー を構成できます。1 つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることが できます。

257 ページの『エンタープライズ・サーチ・アクティビティーのモニター』 システム・アクティビティーおよびコレクション・アクティビティーをモニター すると、さまざまな プロセスの状況の表示、問題発生の可能性の監視、また は、パフォーマンス改善のための構成設定の調整を行うことができます。

#### 関連タスク

251 ページの『エンタープライズ・サーチ・サーバーの開始』 ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、システム・プロセスを 開始し、 その後、コレクションのクロール、構文解析、索引付け、検索を行う サーバーを開始する必要があります。

253 ページの『エンタープライズ・サーチ・サーバーの停止』 エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの構成に変更を加えた場合や、 問 題のトラブルシューティングが必要な場合などには、エンタープライズ・サー チ・サーバーを 停止して再始動する必要があります。

コレクション・ウィザードを使用したコレクションの作成 エンタープライズ・サーチにまだ慣れていなければ、ウィザードのガイドに従い ながら、コレクションを作成できます。ウィザードは、処理の各ステップの詳細 を提供し、途中で設定を保管できます。

31ページの『「コレクション」ビューを使用したコレクションの作成』 「コレクション」ビューを使用して、空のコレクションを作成します。その後、 このコレクションを編集して、コレクションにデータを追加したり、コレクショ ンを検索可能にするオプションを指定できます。

## 管理コンソールへのログイン

エンタープライズ・サーチ・システムを管理するには、Web ブラウザーで URL を 指定した後で、管理コンソールにログインします。

#### 始める前に

ログインに使用するユーザー ID は、エンタープライズ・サーチ管理コンソールへ のアクセスを認可されている必要があります。

- WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にしてい ない場合、管理コンソールにアクセスできるのは、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されたエンタープライズ・サーチ管理者だけで す。
- WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能に設定し てある場合、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、管理役割を 構成できます。構成するユーザー ID は、WebSphere Application Server ユーザ ー・レジストリー内に存在していなければなりません。管理役割を構成すると、 より多くのユーザーが管理コンソールにログインするのを許可することになりま すが、各管理ユーザーがアクセス可能な機能およびコレクションは制御すること ができます。

#### 手順

エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインするには、次のようにしま す。

1. Web ブラウザーで、管理コンソールの URL を入力します。 以下に例を示しま

http://SearchServer.com/ESAdmin/

SearchServer.com は、エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーのホスト名 です。

ご使用の Web サーバー構成によっては、ポート番号を指定する必要がある場合 もあります。以下に例を示します。

http://SearchServer.com:9080/ESAdmin/

2. 「ようこそ」ページで、ユーザー ID とパスワードを入力し、「**ログイン**」をク リックします。

システムおよびコレクションの管理の入り口点である「コレクション」ビューが 表示されます。管理役割を使用する場合、実行できるアクションと表示されるコ レクションは、使用する管理役割によって決まります。

一定の時間セッションが非アクティブな状態が続くと、システムによって自動的に ログアウトされます。システムの管理を続けるには、もう一度ログインしてくださ 61

コレクションの管理の終了後、「**ログアウト**」をクリックすると、コンソールをロ グアウトできます。その後、別の ID とパスワードを使ってログインすることもで きますし、Web ブラウザーを閉じて管理コンソールを終了することもできます。

#### 関連概念

212ページの『管理役割』

エンタープライズ・サーチは管理コンソールのさまざまな機能へのアクセスを制 御するために、 役割の概念を使用します。

#### 関連タスク

251 ページの『エンタープライズ・サーチ・サーバーの開始』 ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、システム・プロセスを 開始し、 その後、コレクションのクロール、構文解析、索引付け、検索を行う サーバーを開始する必要があります。

## シングル・サーバー構成のエンタープライズ・サーチ管理者パスワードの変 更

エンタープライズ・サーチ管理者のパスワードは、暗号化されたフォーマットで保 管されます。パスワードを変更するには、eschangepw スクリプトを使用してくださ 61

#### 始める前に

エンタープライズ・サーチ管理者の ID とパスワードは、ご使用のオペレーティング・システムで有効であり、さらに DB2 Universal Database にアクセスして構成する権限がなければなりません。

#### このタスクについて

エンタープライズ・サーチ管理者 ID の初期パスワードは、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されます。

このパスワードを変更するためには、eschangepw スクリプトを実行して、エンタープライズ・サーチ・システム全体に変更を周知させる必要があります。インストール・プログラムでは、 eschangepw スクリプトで使用できる、次の 2 つの環境変数を生成します。

#### ES INSTALL ROOT

エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリー

#### ES NODE ROOT

エンタープライズ・サーチのデータ・ディレクトリー。エンタープライズ・サーチ管理者 ID のパスワードは、このディレクトリーの es.cfg ファイル に保管されます。

eschangepw スクリプトは、 ES\_INSTALL\_ROOT/bin ディレクトリーにインストールされるため、システムのどこからでも、それを実行できます。

#### 手順

シングル・サーバー構成のエンタープライズ・サーチ管理者パスワードを変更するには、以下のようにします。

- 1. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。
- 2. 次のコマンドを入力してサーバーを停止します。 esadmin stop
- 3. WebSphere Application Server 管理コンソールを開いて、エンタープライズ・アプリケーション server1 および ESSearchServer を停止します。
- 4. UNIX オペレーティング・システムのコマンド、または Microsoft Windows のパスワード変更機能を使用して、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID のシステム・パスワードを変更します。
- 5. 以下のスクリプトを実行します。ここで、newValue は、ステップ 4 で指定したパスワードです。

オペレーティング・システム	コマンド					
UNIX	eschangepw.sh newValue					
Windows	eschangepw <i>newValue</i>					

- 6. WebSphere Application Server 管理コンソールで、アプリケーション server1 および ESSearchServer を開始します。
- 7. 以下のコマンドを入力することによって、WebSphere II OmniFind Edition 共通 通信層 (CCL) を再生します。

オペレーティング・システム	コマンド						
UNIX	stopccl.sh、次に startccl.sh -bg						

オペレーティング・システム	コマンド
Windows コマンド・プロンプト	stopccl、次に startccl
Windows Services 管理ツール	1. Windows Services を起動する。
	2. \[ \text{WebSphere Information Integrator} \]
	OmniFind Edition」を右クリックし、 「停止」を選択する。
	3. 再度「WebSphere Information Integrator
	OmniFind Edition」を右クリックし、 「プロパティー」を選択する。
	4. 「 <b>ログオン</b> 」タブをクリックする。
	5. $newValue$ を指定してパスワードを変更してから、「 $OK$ 」をクリックする。
	6. 再度「WebSphere Information Integrator
	OmniFind Edition」を右クリックし、 「開始」を選択する。

8. 次のコマンドを入力して、エンタープライズ・サーチを再始動します。 esadmin start

#### 関連資料

297ページの『エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッ ション ID』

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッショ ンの開始および停止、 あるいはシステムの始動および停止を行うことができま す。

## マルチサーバー構成のエンタープライズ・サーチ管理者パスワードの変更

エンタープライズ・サーチ管理者のパスワードは、暗号化されたフォーマットで保 管されます。このパスワードを変更するには、ご使用のエンタープライズ・サー チ・システムのすべてのコンピューターで eschangepw スクリプトを実行して変更 してください。

#### 始める前に

エンタープライズ・サーチ管理者の ID とパスワードは、ご使用のオペレーティン グ・システムで有効であり、さらに DB2 Universal Database にアクセスして構成す る権限がなければなりません。

エンタープライズ・サーチ管理者のパスワードは、WebSphere II OmniFind Edition のこのインストール環境に属するすべてのコンピューターで同一である必要があり ます。

#### このタスクについて

エンタープライズ・サーチ管理者 ID の初期パスワードは、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されます。

パスワードを変更し、その変更をエンタープライズ・サーチ・システム全体に周知 させるには、マルチサーバー構成の各コンピューターで、eschangepw スクリプトを 実行する必要があります。インストール・プログラムでは、 eschangepw スクリプ トで使用できる、次の 2 つの環境変数を生成します。

#### ES INSTALL ROOT

エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリー

#### **ES NODE ROOT**

エンタープライズ・サーチのデータ・ディレクトリー。エンタープライズ・ サーチ管理者 ID のパスワードは、このディレクトリーの es.cfg ファイル に保管されます。

eschangepw スクリプトは、 ES\_INSTALL\_ROOT/bin ディレクトリーにインストー ルされるため、システムのどこからでも、それを実行できます。

#### 手順

マルチサーバー構成のエンタープライズ・サーチ管理者パスワードを変更するに は、以下のようにします。

- 1. 索引サーバーをインストールしたコンピューターで、エンタープライズ・サー チ管理者としてログインします。
- 2. 次のコマンドを入力して、システム保守モードを開始します。 esadmin system maintenance
- 3. UNIX オペレーティング・システムのコマンド、または Microsoft Windows の パスワード変更機能を使用して、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID のシステム・パスワードを変更します。
- 4. 以下のスクリプトを実行します。ここで、newValue は、ステップ 3 で指定し たパスワードです。

オペレーティング・システム	コマンド						
UNIX	eschangepw.sh newValue						
Windows	eschangepw newValue						

5. 索引サーバーで以下のコマンドを入力することによって、WebSphere II OmniFind Edition 共通通信層 (CCL) を再生します。

オペレーティング・システム	コマンド							
UNIX	stopccl.sh、次に startccl.sh -bg							
Windows コマンド・プロンプト	stopccl、次に startccl							

オペレーティング・システム	コマンド
Windows Services 管理ツール	1. Windows Services を起動する。
	2. \( \sqrt{WebSphere Information Integrator} \)
	OmniFind Edition」を右クリックし、 「停止」を選択する。
	3. 再度「WebSphere Information Integrator
	OmniFind Edition」を右クリックし、 「プロパティー」を選択する。
	4. 「 <b>ログオン</b> 」タブをクリックする。
	5. newValue を指定してパスワードを変更してから、「OK」をクリックする。
	6. 再度「WebSphere Information Integrator
	OmniFind Edition」を右クリックし、 「開始」を選択する。

- 6. クローラー・サーバーをインストールしたコンピューターで、エンタープライ ズ・サーチ管理者としてログインします。
- 7. UNIX オペレーティング・システムのコマンド、または Windows パスワード 変更機能を使用して、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID のシス テム・パスワードを変更します。 このパスワードは、ステップ 3(23ページ) で指定したパスワードと一致している必要があります。
- 8. 以下のスクリプトを実行します。ここで、newValue は、ステップ 3 (23 ページ) で指定したパスワードです。

オペレーティング・システム	コマンド							
UNIX	eschangepw.sh newValue							
Windows	eschangepw <i>newValue</i>							

9. 以下のコマンドを入力してクローラー・サーバーの CCL を再生します。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	stopccl.sh、次に startccl.sh -bg
Windows コマンド・プロンプト	stopccl、次に startccl
Windows Services 管理ツール	1. Windows Services を起動する。
	2. 「WebSphere Information Integrator OmniFind Edition」を右クリックし、「停止」を選択する。
	3. 再度「WebSphere Information Integrator OmniFind Edition」を右クリックし、「プロパティー」を選択する。
	4. 「 <b>ログオン</b> 」タブをクリックする。
	5. newValue を指定してパスワードを変更してから、「OK」をクリックする。
	6. 再度「WebSphere Information Integrator
	OmniFind Edition」を右クリックし、 「開始」を選択する。

- 10. 検索サーバーをインストールしたコンピューターの 1 つで、エンタープライ ズ・サーチ管理者としてログインします。
- 11. IBM HTTP Web サーバーを停止します。 (このステップにより Network Dispatcher が照会を該当サーバーにルーティングしないようにします。)
- 12. 以下のコマンドを入力して検索サーバーの CCL を停止します。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	stopccl.sh
Windows コマンド・プロンプト	stopccl
Windows Services 管理ツール	1. Windows Services を起動する。
	2. \( \text{WebSphere Information Integrator} \)
	OmniFind Edition」を右クリックし、
	「停止」を選択する。

- 13. WebSphere Application Server 管理コンソールを開いて、アプリケーション server1 および ESSearchServer を停止します。
- 14. UNIX オペレーティング・システムのコマンド、または Windows パスワード 変更機能を使用して、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID のシス テム・パスワードを変更します。 このパスワードは、ステップ 3(23ページ) で指定したパスワードと一致している必要があります。
- 15. 以下のスクリプトを実行します。ここで、newValue は、ステップ 3 (23 ページ) で指定したパスワードです。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	eschangepw.sh newValue
Windows	eschangepw <i>newValue</i>

16. 以下のコマンドを入力して検索サーバーの CCL を再始動します。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	startccl.sh -bg
Windows コマンド・プロンプト	startccl
Windows Services 管理ツール	1. Windows Services を起動する。
	2. \( \text{WebSphere Information Integrator} \)
	OmniFind Edition」を右クリックし、
	「プロパティー」を選択する。
	3. 「 <b>ログオン</b> 」タブをクリックする。
	4. newValue を指定してパスワードを変更し
	てから、「 <b>OK</b> 」をクリックする。
	5. 再度「WebSphere Information Integrator
	OmniFind Edition」を右クリックし、
	「開始」を選択する。

- 17. 2 番目の検索サーバーで、ステップ 10 から 16 までを繰り返します。
- 18. IBM HTTP Web サーバーを開始します。

- 19. WebSphere Application Server 管理コンソールで、エンタープライズ・アプリケーション server1 および ESSearchServer を開始します。
- 20. 索引サーバーをインストールしたコンピューターで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインし、次のコマンドを入力してエンタープライズ・サーチを開始します: esadmin start
- 21. エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインして、コレクションをモニターし、「検索」ページをクリックしてから、「停止」と「開始」をクリックして検索サーバーを再始動します。ご使用のエンタープライズ・サーチ・システムのそれぞれのコレクションごとにこのステップを繰り返してください。

#### 関連資料

297ページの『エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッション ID』

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッションの開始および停止、 あるいはシステムの始動および停止を行うことができます。

## エンタープライズ・サーチ・システムのポート番号の変更

エンタープライズ・サーチ・システムが通信用に使用するポート番号が、別の製品が使用するポート番号と競合する場合、エンタープライズ・サーチのポート番号を変更する必要があります。

#### このタスクについて

エンタープライズ・サーチ・システムのポート番号は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されます (マルチサーバー構成の場合、すべてのサーバーで同じポート番号が指定されます)。

ポート番号が使用不能の場合 (例えば、そのポート番号が同じサーバー上の別の製品に割り当てられている場合など)、競合が原因となって、CCLServer\_date.log ファイルに以下のエラー・メッセージが出力されます (ここで、date は、ファイルが作成された日付を指定しています)。

FFQ00273W 内部警告 java.net.BindException: アドレスは既に使用されています: NET\_Bind at java.net.PlainSocketImpl.socketBind(Native Method)

- at java.net.PlainSocketImpl.bind(PlainSocketImpl.java:357)
- at java.net.ServerSocket.bind(ServerSocket.java:341)
- at java.net.ServerSocket.<init>(ServerSocket.java:208)
- at java.net.ServerSocket.<init>(ServerSocket.java:120)

#### 手順

エンタープライズ・サーチが使用するポート番号を変更するには、次のようにします。

1. 以下のコマンドを入力して、エンタープライズ・サーチ・システムを停止します。

#### esadmin stop

2. ポート番号を変更する必要のあるサーバーに移動し、以下のコマンドを入力して 共通通信層 (CCL) を停止します。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	stopccl.sh,
Windows コマンド・プロンプト	stopccl
Windows Services 管理ツール	1. Windows Services を起動する。
	2. \( \text{WebSphere Information Integrator} \)
	OmniFind Edition」を右クリックし、 「停止」を選択する。

3. \$ES\_NODE\_ROOT/nodeinfo/es.cfg ファイル (UNIX) または %ES\_NODE\_ROOT%¥nodeinfo¥es.cfg ファイル (Windows) を編集し、以下のプロ パティーを見つけ、新しいポート番号値を指定し、ファイルを保管してクローズ します。

CCLPort=new\_port\_number

4. 以下のコマンドを入力して CCL を再始動します。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	startccl.sh -bg
Windows コマンド・プロンプト	startccl
Windows Services 管理ツール	1. Windows Services を起動する。
	2. \( \sqrt{WebSphere Information Integrator} \)
	OmniFind Edition」を右クリックし、
	「開始」を選択する。

- 5. 索引サーバーに移動し、ステップ 2(26ページ) の手順に従って CCL を停止し ます。
- 6. \$ES\_NODE\_ROOT/nodeinfo/es.cfg ファイル (UNIX) または %ES\_NODE\_ROOT%¥nodeinfo¥es.cfg ファイル (Windows) を編集します。
  - a. 以下のプロパティーを見つけます。ここで、computer\_name は、ステップ 3 でポート番号を変更したサーバーの名前です。nodeN プロパティー内の N は、サーバーを識別する番号です。

nodeN.destination=computer name

b. 以下のサブプロパティーを見つけ、ステップ 3 でサーバーに指定したのと同 じポート番号を指定し、ファイルを保管してクローズします。

nodeN.port=new port number

- 7. ステップ 4 の手順に従って、CCL を再始動します。
- 8. 以下のコマンドを入力して、エンタープライズ・サーチ・システムを再始動しま す。

#### esadmin start

このコマンドが完了したら、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで新 しいポート番号が更新されます。

297ページの『エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッ ション ID』

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッショ ンの開始および停止、 あるいはシステムの始動および停止を行うことができま

# エンタープライズ・サーチ・コレクション

エンタープライズ・サーチ・コレクションには、ユーザーが 1 回の照会で検索できる全ソースが格納されています。フェデレーションによって、ユーザーは複数のコレクションを 1 回の照会で検索することができます。

コレクションを作成する場合、コレクション全体に適用されるオプションを指定します。コレクションは、コンテンツを追加するまでは空の状態です。

コレクションをエンタープライズ・サーチ・システムに追加する方法には、次の 2 つの方法があります。

- ・ エンタープライズ・サーチ管理コンソールの操作に不慣れな場合、また、さまざまなコレクション・コンポーネントが連携してどのように機能するかが、まだよくわからない場合は、コレクション・ウィザードを使用してコレクションを作成してください。コレクション・ウィザードを使用すれば、作成タスクを順序良く実行することができ、ドラフト・コレクションで作業する手間が省けます。
- 管理コンソールの操作に慣れている場合は、「コレクション」ビューで管理を行う特定のページを選択しながらコレクションを作成する方法もあります。

コレクションの作成後は、「コレクション」ビューのコントロールを使用して、コレクション、エンタープライズ・サーチ・システム、およびセキュリティー・オプションの編集とモニターをすることができます。

## コレクション・フェデレーション

フェデレーションのサポートが検索アプリケーションに組み込まれて構築されている場合、ユーザーは同時に複数のコレクションを検索できます。また、フェデレーションにより、コレクションのサイズ制限 (コレクションあたり 20 000 000 文書)を拡大することができます。例えば、それぞれ 20 000 000 個の文書を含む 2 つのコレクションを検索できます。

検索の質は、マージされて最終的な結果セットを構成する前の、個別のコレクションで生成されたスコアに依存します。 結果は、2 つの別々の検索を実行してから、その結果をマージしてランキングした場合と同じになります。

#### 関連タスク

259 ページの『コレクションのモニター』

コレクション内の各コンポーネントの状態に関する一般情報を表示するか、または、 個々のコンポーネントおよび URI に関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。

245 ページの『WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション』 WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにコレクションをマイグレーションするには、WebSphere Portal にコレクションを準備し、マイグレーション・ウィザードを使用して準備したコレクションをマイグレーションします。

# コレクション・ウィザードを使用したコレクションの作成

エンタープライズ・サーチにまだ慣れていなければ、ウィザードのガイドに従いな がら、コレクションを作成できます。ウィザードは、処理の各ステップの詳細を提 供し、途中で設定を保管できます。

#### 始める前に

コレクションを作成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーで ある必要があります。

コレクションにコンテンツを追加したり、コレクション内のコンテンツの構文解 析、索引付け、または検索方法のオプションを指定したりするには、エンタープラ イズ・サーチ管理者であるか、そのコレクションのコレクション管理者でなければ なりません。

#### このタスクについて

コレクションの作成途中で、それをドラフト状態として保管できます。それがドラ フト状態にある間、コレクションを管理する権限を持つ管理者は、それを変更する ことができます。例えば、Lotus Notes ソースに詳しいコレクション管理者が Lotus Notes クローラーを構成します。その後、ドラフト状態のそのコレクションを、 UNIX システムに詳しい管理者が編集して UNIX ファイル・システム クローラー を構成します。

#### 手順

コレクション・ウィザードを使用してコレクションを作成するには、次のようにし ます。

- 1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
- 2. 「**コレクション・ウィザード**」をクリックします。
- 3. ウィザードの指示に従って、空のコレクションを作成し、それにコンテンツを追 加します。

コレクションについての一般情報を構成し、少なくとも 1 つのクローラーを作 成しなければなりません。その他の構成オプションについては、デフォルト値を 受け入れることも、あるいは、新規コレクションのオプションを指定することも できます。

4. コレクションの作成が完了する前にコレクションを保管するには、「ドラフトと して保管」をクリックします。

そのコレクションが他のドラフト・コレクションと一緒に「コレクション」ビュ ーにリストされます。コレクションのセキュリティーを使用可能にしてある場 合、「**▲ コレクション・セキュリティー使用可能**」アイコンがコレクション名 の横に表示されます。

- 5. 作成途中のコレクションに戻るには、「コレクション」ビューで、「**ウィザード** に戻る」をクリックします。
- 6. 「完了」をクリックして、コレクションを作成します。

新規コレクションが他のコレクションと一緒に「コレクション」ビューにリスト されます。

コレクションを作成したあと、コレクションのクロール、構文解析、索引付け、お よび検索のプロセスを開始しなければなりません。コレクションを検索できる検索 アプリケーションにコレクションを関連付ける準備ができるまで、サンプル検索ア プリケーション (名前は Default) を使用して、新規コレクションを検索できます。

# 「コレクション」ビューを使用したコレクションの作成

「コレクション」ビューを使用して、空のコレクションを作成します。その後、こ のコレクションを編集して、コレクションにデータを追加したり、コレクションを 検索可能にするオプションを指定できます。

#### 始める前に

コレクションを作成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーで ある必要があります。

コレクションにコンテンツを追加したり、コレクション内のコンテンツの構文解 析、索引付け、または検索方法のオプションを指定したりするには、エンタープラ イズ・サーチ管理者であるか、そのコレクションのコレクション管理者でなければ なりません。

#### このタスクについて

新規コレクションに指定できる値の情報は、コレクションを作成している間に「へ ルプ」をクリックすると表示されます。

#### 手順

「コレクション」ビューからコレクションを作成するには、次のようにします。

- 1. 「コレクション」ビューで、「**コレクションの作成**」をクリックします。
- 2. 「コレクションの作成」ページで、次のフィールドに情報を入力するか、選択を 行います。
  - コレクション名。コレクションのコンテンツまたは目的の記述名を指定しま
  - **コレクション・セキュリティー**。コレクションのセキュリティーを使用可能に するかどうかを指定します。コレクションを作成した後、この値を変更するこ とはできません。コレクション・セキュリティーが使用可能であれば、あと で、文書レベルのアクセス制御を実行するためのオプションを指定できます。
  - ・ 文書の重要度 (静的ランキング・モデル)。検索結果での文書のランク付けに使 用される静的ランキング要素を割り当てるための方法を指定します。コレクシ ョンの作成後、この値を変更することはできません。
  - **カテゴリー化タイプ**。文書を、所属するカテゴリーで検索できるようにするか どうかを指定します。
  - 使用する言語。 コレクション内の文書検索のデフォルト言語を指定します。
- 3. 次のフィールドについては、デフォルト値を受け入れることも、あるいは、この コレクションで使用するオプションを指定することもできます。

- 説明。デフォルトでは、説明は作成されません。
- 見積もり文書数。コレクションのデフォルトの見積もり文書数は 1 000 000 です。システムは、この値を使用して、コレクションのメモリーとディスク・ リソースを見積もります。コレクションのサイズを制限することはありませ  $h_{\circ}$
- **コレクション・データの場所**。コレクション関連ファイルのデフォルトの場所 は、索引サーバー上にあります。コレクションの作成後、この値を変更するこ とはできません。
- **コレクション ID**。デフォルトのコレクション ID は、コレクション名に基づ きます。コレクションの作成後、この値を変更することはできません。(カス タムのコレクション ID を指定すると、検索アプリケーションは、システムが 作成する意味の分かりにくい ID の代わりにこの ID を使用してコレクション を呼び出します。)
- N-gram セグメンテーション。デフォルトのセグメンテーション方式は、 Unicode ベースの、空白文字セグメンテーションです。このオプションは、コ レクションに中国語、日本語、または韓国語の文書が含まれており、ワードを 区切るのにパーサーに N-gram セグメンテーションを使用させたい場合にの み、選択します。コレクションの作成後、この値を変更することはできませ  $h_{\circ}$
- 4. 「**OK**」をクリックします。

「コレクション」ビューに、新規コレクションが、エンタープライズ・サーチ・ システム内の他のコレクションと一緒にリストされます。コレクションのセキュ リティーを使用可能にしてある場合、「**a コレクション・セキュリティー使用** 可能」アイコンがコレクション名の横に表示されます。

コレクションは、コンテンツを追加するまでは空の状態です。新規コレクションに コンテンツを追加するには、「コレクション」ビューでコレクションを選択し、そ れを編集し、少なくとも 1 つのクローラーを作成します。そして、データの構文解 析、索引付け、および検索の方法を指定します。

そして、コレクションのクロール、構文解析、索引付け、および検索のプロセスを 開始しなければなりません。カスタム検索アプリケーションでユーザーが新規コレ クションを検索できるようにする準備を終えるまでは、新規コレクションの検索に サンプル検索アプリケーションを使用できます。

#### 関連概念

15ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションおよび外部ソースの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、シ ステム・アクティビティーおよびログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構 成、検索アプリケーションのコレクションおよび外部ソースへの関連付け、セキ ュリティー施行情報の指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使 用します。

# コレクションの編集

コレクションに入れる文書に関する情報を指定するために、コレクションを編集し ます。

#### 始める前に

コレクションを編集するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーで あるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

#### このタスクについて

コレクションを編集するときに、データ・ソースのクロール、文書の構文解析、索 引の再編成とリフレッシュ、索引付きコンテンツの検索、およびエラー・メッセー ジのログ記録のオプションを指定します。コレクションを作成するときに、コレク ションを編集して、それにコンテンツを追加しなければなりません。あとでコレク ションを編集して、コンテンツを更新したり、情報のクロール、構文解析、索引付 け、検索、またはログの方法を変更したりできます。

#### 手順

コレクションを編集するには、次のようにします。

- 1. ツールバーの中の「コレクション」をクリックして「コレクション」ビューを開 きます。
- 2. コレクションのリストで編集したいコレクションを指して、「▶ 編集」をクリ ックします。
- 3. 次のページで変更を行います。
  - コレクションに関する一般情報を指定し、変更できない設定を確認しま す。コレクションの作成時にそのコレクションに対してセキュリティー を使用可能にすると、文書レベルのセキュリティーのオプションを構成 することができます。

#### クロール

クロールするデータ・ソースを指定し、コンテンツのクロール方法のオ プションを指定します。すべてのコレクションは、それぞれ少なくとも 1 つのクローラーを含む必要があり、1 つのコレクションに、複数のタ イプのデータ・ソースからのデータを含めることができます。コレクシ ョンに含めるデータ・ソースのタイプごとに、少なくとも 1 つのクロー ラーを構成しなければなりません。

#### 構文解析

クロールされた文書の構文解析および分析方法のオプションを指定しま す。カテゴリーを構成することで、ユーザーがコレクションのサブセッ トを検索できるようにすることができます。また、XML 文書および HTML 文書の特定の部分をユーザーが検索できるようにする規則を構成 できます。カスタム・テキスト分析エンジンをエンタープライズ・サー チ・システムに追加する場合、その 1 つをこのコレクション内のコンテ ンツの分析と注釈付けに使用するよう選択できます。また、フィールド をランキング調整クラスと関連付けて文書ランキングを操作するように できます。

- 全体の索引を再編成するスケジュールと、新規および変更されたコンテ 索引 ンツで索引をリフレッシュするスケジュールを指定します。照会でワイ ルドカード文字を使用するためのオプション、コレクションのビューを 一定範囲の URI に制限するためのオプション、同じ Web サイトからの 検索結果を縮小表示するためのオプション、索引から URI を除去する ためのオプションも構成できます。
- 検索キャッシュの構成、検索言語の選択といった、コレクションの検索 検索 処理オプションを指定します。また、クイック・リンクを構成すること もできます。これは、ユーザーが照会の中に特定の語または句を含めた ときは、必ず事前に決められた URI が戻されるようにする機能です。 エンタープライズ・サーチ・システムにカスタム同義語辞書を追加した 場合、それらの辞書をこのコレクションの検索に使用するよう選択でき ます。
- ログ ログに記録するメッセージのタイプと、ログ・ファイルの作成と循環の オプションを指定します。特定のイベントが発生した時に通知されるよ うにアラートを構成でき、特定のメッセージまたは特定のタイプのメッ セージがログに記録されたら必ず E メールを受信するオプションを指定 できます。また、エンタープライズ・サーチ・システムからドロップさ れた文書に関する情報をログに記録するオプションを指定することもで きます。

# コレクションの削除

コレクションを削除すると、そのコレクションに関するすべての情報がエンタープ ライズ・サーチ・システムから除去されます。

#### 始める前に

コレクションを削除するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーで ある必要があります。

コレクションを削除するには、その前に、そのコレクションに関連付けられたすべ てのプロセスを停止しなければなりません。

#### このタスクについて

コレクションの削除は、処理に時間がかかることがあります。コレクションの削除 を確認すると、システムは、システムにあるコレクションに関連するすべてのデー 夕を削除します。

**ヒント:** プロヤスがバックグラウンドでまだ実行されているにもかかわらず、要求 された操作がタイムアウトになったというメッセージが表示される場合が あります。タスクが完了したかどうかを判断するには、管理コンソールで 「**リフレッシュ**」をクリックします (Web ブラウザーの「**リフレッシュ**」 はクリックしないでください)。削除処理は、コレクション名がコレクショ ン・リストに表示されなくなったときに完了します。

#### 手順

コレクションを削除するには、次のようにします。

- 1. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
- 2. コレクションのリストで、削除したいコレクションを指して、「画 削除」をク リックします。

# エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理

コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラーを構成できます。1 つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることができます。

### クローラーの構成

クローラーの作成、編集、および削除には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。 クローラーの構成は、通常、クロール対象のデータ・タイプに精通した担当者が行います。例えば、 Lotus Notes データ・ソースをクロールするクローラーをセットアップする場合、コレクション管理者には Notes 管理者がなるか、または、クロール対象のデータベースを十分理解している担当者と緊密な協力を得ながら作業を行います。

クローラーを作成する場合、クロール対象のデータ・タイプ専用のウィザードがあり、これを使用するとクローラーによるシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指定できます。また、このウィザードによって検索対象のソースを選択することもできます。

既存のクローラーは、いつでも変更できます。クローラー・プロパティーの編集またはクロール・スペースの一部変更を必要に応じて行うことができます。クローラー・ウィザードを使用すれば、これらの変更を行うこともできます。

## 新規のクローラーにベースとなる値を移植する

クローラーは、システム・デフォルト値を使用するか、または同じタイプの別のクローラーに指定されている値をコピーして作成することができます。既存のクローラーを新規クローラーのベースとして使用すると、類似したプロパティーを持つ複数のクローラーを手早く作成でき、それらのクローラーを構成して異なるソースをクロールするようにしたり、また、例えば、異なるクロール・スケジュールで運用したりすることができます。

同一のクローラーをコピーすれば、同じクロール規則に従う複数のクローラーにクロールの負荷を分散することができます。例えば、異なる Lotus Notes サーバーで同じプロパティーおよびフィールド・クロール規則を使用する場合、同一の Lotus Notes クローラーをコピーすることが考えられます。この場合、各クローラーで異なるのは、クロール対象のデータベースと文書レベルのセキュリティー設定だけとなります。

## 単一コレクション内で異なるクローラー・タイプを組み合わせる

エンタープライズ・サーチ・クローラーは、特定タイプのデータ・ソースから情報を収集するように設計されています。コレクションに対してクローラーを構成する場合、さまざまな異なるデータ・ソース・タイプをどのように組み合わせればユーザーが簡単にエンタープライズ・データを検索できるか、その組み合わせを決定する必要があります。例えば、ユーザーが Microsoft Windows ファイル・システムと Microsoft Exchange Server のパブリック・フォルダーを 1 回の照会で検索できるよ

うにするには、Windows ファイル・システム・クローラーと Exchange Server クロ ーラーを含むコレクションを作成します。

1 つのコレクションに複数のタイプのクローラーを組み合わせる場合、必ずすべて のクローラーが同一の静的ランキング方式を使用できることを確認してください。 (静的ランキング方式は、コレクション作成時に指定します。) 例えば、Web ソース (ランキング係数として文書リンクを使用) と NNTP ソース (ランキング係数とし て、通常、文書日付を使用)を組み合わせてしまうと、検索結果の品質が低下する 可能性があります。

## 文書レベル・セキュリティー

コレクションの作成時に、そのセキュリティーを使用可能にすると、文書レベルの セキュリティー・オプションを構成することができます。 各クローラーは、クロー ル対象の文書にセキュリティー・トークンを関連付けることができます。クローラ 一の構成時に文書レベルのセキュリティーを使用することを指定すると、そのクロ ーラーは指定したセキュリティー・トークンを各文書に関連付けます。そして、こ れらのトークンは文書の索引に追加されます。

カスタム検索アプリケーションでセキュリティーを使用可能にした場合、そのアプ リケーションはクローラーが文書に関連付けたセキュリティー・トークンを使用し てユーザーを認証します。この機能を使えば、コレクション内の一部の文書をアク セス制限し、他の文書はすべてのユーザーが検索できるように設定することができ ます。例えば、あるコレクションで、Microsoft Exchange Server のパブリック・フ ォルダー内の全文書をすべてのユーザーがアクセスできるようにし、Lotus Notes デ ータベース文書にアクセスできるのは特定のユーザー ID のユーザーだけに限定す るように設定できます。

規則を Java クラスでエンコードすることにより、セキュリティー・トークンの値の 判別にカスタム・ビジネス・ルールを適用することができます。クローラー・プロ パティーを構成するときに、文書をクロールする際にクローラーに使用させたいプ ラグインの名前を指定します。プラグインが追加するセキュリティー・トークン は、索引に保管され、文書へのアクセス制御に使用されます。

特定のタイプのクローラーを構成する場合、さらにセキュリティー制御を追加指定 することができます。例えば、照会処理中にユーザーの検証を行うように指定する ことができます。このオプションを設定すると、ユーザーの信用証明情報は検索対 象のデータ・ソースで維持されている現在のアクセス制御リストと比較されます。 この現行の信用証明情報に関する検証は、エンタープライズ・サーチ索引に保管さ れているセキュリティー・トークンに基づく検証の代わりに、あるいはその検証に 加えて行うことができます。

## クローラーのスケジューリング

Web、NNTP、および WebSphere Portal ソースに対して作成したクローラーは、連 続的に実行されます。このようなクローラーについては、クローラーをいったん始 動後は、通常、クローラーの構成を変更しない限り特に停止する必要はありませ  $h_{\circ}$ 

それ以外のすべてのクローラー・タイプについては、クローラーの構成時にクロー ル・スケジュールを指定します。データ・タイプによっては、1 つのスケジュール

で、クローラーがクロール・スペース内のすべてのデータ・ソースにアクセスする 日時が管理されます。また、他のデータ・ソース・タイプの場合は、特定のデー タ・ソースに対して複数の異なるスケジュールを指定できます。例えば、Lotus Notes データベースについて、クローラーがクロールする各データベースに異なる クロール・スケジュールを指定できます。

スケジュールを構成する際に、行われるクロールのタイプを指定します。クロー ル・スペース内の全文書の完全クロールをスケジュールしたり、クロール・スペー スに対するすべての更新 (新規文書、変更された文書、削除された文書) を対象とす るクロールをスケジュールしたり、新規および変更された文書のみを対象とするク ロールをスケジュールすることができます。完全クロールは、最も時間がかかりま す。削除された文書を除去するクロールは、削除された文書を無視するクロールに 比べて時間がかかります。

クローラーのクロール・スペースを編集する際に、2番目のクロール・スケジュー ルを指定することができます。例えば、毎週土曜日の夜にクロール・スペース内の すべての文書をクロールするスケジュールを構成し、新規および変更された文書の クロールをもっと頻繁に実行する 2 番目のスケジュールを構成することができま す。

複数のクローラー・スケジュールを作成すれば、クローラーのターゲット・ソース へのアクセス日時をより適切に管理できます。例えば、異なるタイム・ゾーンにあ る複数のデータベースをクロールする場合、ユーザーが日中の仕事を終了している と思われる時間にクローラーがクロールするように、タイム・ゾーンに合わせて複 数のスケジュールを設定できます。

#### 関連概念

15ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションおよび外部ソースの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、シ ステム・アクティビティーおよびログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構 成、検索アプリケーションのコレクションおよび外部ソースへの関連付け、セキ ュリティー施行情報の指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使 用します。

221ページの『文書レベル・セキュリティー』

コレクションが作成されたときに、そのコレクションに対するセキュリティーを 使用可能にすると、 文書レベルのセキュリティー制御を構成することができま す。文書レベルのセキュリティーによって、コレクションを検索するユーザー は、見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。

#### 関連タスク

262 ページの『クローラーのモニター』

コレクション内の各クローラーの状態に関する一般情報を表示するか、または、 クローラーのアクティビティーに関する詳細情報を表示するオプションを選択す ることができます。

### 関連資料

105ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』 エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

# クローラーの作成

クローラーを作成するとき、作成するクローラーのタイプを指定します。コレクシ ョンに含めるデータについて、指定する情報をウィザードがガイドします。

#### 始める前に

クローラーを作成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであ るか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければな りません。

#### このタスクについて

1 つのコレクションに対して、クローラーを少なくとも 1 つ作成しなければなりま せん。作成するクローラーのタイプは、コレクションに含めるデータのタイプによ って異なります。作成するクローラーのタイプに対応するウィザードが、クローラ ーのオプションの指定をガイドします。ウィザードは、例えば、クローラーがシス テム・リソースをどのように使用するかについてのオプションを指定する手助けを します。また、ウィザードは、コレクションに含めるデータ・ソースの選択の手助 けもします。

#### 手順

クローラーを作成するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「クロール」ページを選択し、「クローラーの作成」を クリックします。
- 2. クローラー・タイプと、クローラーの基本値を選択します。
  - a. Web サイト、Lotus Notes データベース、または UNIX ファイル・システム など、クロールするデータのタイプをサポートするクローラーのタイプを選 択します。

クローラー・タイプを選択したあと、その作成方法についてのオプションが 表示されます。

b. クローラーの基本値を選択します。

#### 「システム・デフォルト値を新規クローラーに使用」

クローラー初期設定値に、インストールのデフォルト値を設定しま す。

このオプションを選択した場合、「次へ」をクリックすると、新規ク ローラーの構成が開始されます。

#### 「新規クローラーに既存のクローラーの値を複製」

クローラー初期設定値に、このタイプの別のクローラーに構成されて いる値を設定します。

このオプションを選択すると、このクローラー・タイプに一致するク ローラーのリストが表示されます。新規クローラーとして使用するク ローラーを選択し、「**次へ**」をクリックして、新規クローラーの構成 を開始します。

作成しているクローラー・タイプ用のウィザードが開きます。ウィザードのプロン プトに従って、クローラーを作成します。ウィザードのどのページでも、「**ヘル** プ」をクリックすると、そのタイプのクローラーに指定できるオプションの説明が 表示されます。

新規クローラーは、そのコレクションに属する他のクローラーと一緒に「クロー ル」ページにリストされます。クローラーを変更する必要があるときはいつでも、 クローラーのプロパティーおよびクロール・スペースを編集するオプションをクリ ックできます。

# クローラーのプロパティーの編集

クローラーについての情報と、クローラーがデータをクロールする方法を変更でき ます。例えば、クローラーがシステム・リソースを使用する方法を変更できます。

#### 始める前に

クローラー・プロパティーを編集するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割 のメンバーであるか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理 者でなければなりません。

#### このタスクについて

クローラーのプロパティーを編集するときに、「ヘルプ」をクリックすると、変更 できるタイプを知ることができます。編集できるプロパティーは、クローラー・タ イプによって異なります。

#### 手順

クローラーのプロパティーを編集するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「クロール」ページを選択し、編集するクローラーを指 して「 *フ* **クローラーのプロパティー**」をクリックします。
- 2. クローラーのプロパティーを変更して、「OK」をクリックします。
- 3. 変更を有効にするために、クローラーを停止し、再開します。 (クローラーの説 明のみを変更した場合、クローラーを再始動する必要はありません。)

# クロール・スペースの編集

クローラーがクロールするデータ・ソースについての情報を変更できます。例え ば、データ・ソースの追加、データ・ソースの除去、クロール・スケジュールの変 更、および、特定のデータ・ソース内の文書のクロール規則の変更を行うことがで きます。

#### 始める前に

クロール・スペースを編集するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメン バーであるか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でな ければなりません。

#### このタスクについて

管理するクローラーのタイプで行える変更については、クロール・スペースを編集 している間に「ヘルプ」をクリックすると説明が表示されます。

#### 手順

クロール・スペースを編集するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「クロール」ページを選択し、編集するクローラーを指 して「 **同 クロール・スペース**」をクリックします。
- 2. 変更するオプションを選択して、クロール・スペースを変更します。

選択できるオプションは、クローラー・タイプによって異なります。データ・ソ ースをコレクションに追加するといった一部のオプションについては、クローラ ー・タイプに応じたウィザードが開き、クロール・スペースの変更を手助けしま す。

3. 変更を有効にするために、クローラーを停止し、再開します。

# クローラーの削除

クローラーを削除すると、そのクローラーに関するすべての情報がエンタープライ ズ・サーチ・システムから除去されます。前にそのクローラーでクロールされた情 報は、索引を再編成するまで、索引の中に残ります。

#### 始める前に

クローラーを削除するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであ るか、そのクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければな りません。

#### このタスクについて

クローラーの削除は、時間のかかるプロセスです。クローラーの削除を確認する と、システムは、システムにあるクローラーに関連するすべてのデータを削除しま す。

**ヒント:** このタスクは完了するのに時間がかかるため、プロセスがバックグラウン ドでまだ実行中であっても、要求された操作のタイムアウトに関するメッ セージが表示されます。タスクが完了したかどうかを確認するには、時 々、管理コンソールで「**リフレッシュ**」をクリックします (Web ブラウザ ーの「**リフレッシュ**」をクリックしないでください)。クローラー名がクロ ーラーのリストに表示されなくなったら、削除プロセスは終了です。

#### 手順

クローラーを削除するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「クロール」ページを選択します。
- 2. 削除するクローラーを指して「面 削除」をクリックします。

# Content Edition クローラー

Ι

ı

1

ı

IBM WebSphere Information Integrator Content Edition リポジトリーをエンタープラ イズ・サーチ・コレクションに入れる場合は、Content Edition クローラーを構成す る必要があります。

Content Edition クローラーを使用して、Documentum、FileNet Panagon Content Services, FileNet P8 Content Manager, Hummingbird Document Management (DM), OpenText Livelink、および Portal Document Manager (PDM) のリポジトリー をクロールすることができます。

クローラーを構成する場合、クローラーがクロール・スペースのすべてのリポジト リーをクロールするときのオプションを指定します。また、各リポジトリーでクロ ールする項目クラスも選択します。

Content Edition クローラーを作成または変更する場合は、エンタープライズ・サー チ管理コンソールにログインします。この場合、操作者はエンタープライズ・サー チ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクショ ン管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指 定します。クローラーのプロパティーで、クローラーがクロール・スペース内の すべてのリポジトリーをクロールする方法を制御します。
- クローラーがリポジトリーへのアクセスに直接モードまたはサーバー・モードの いずれを使用するかを指定します。サーバー・モードの場合は、クローラーが Web アプリケーション・サーバーにアクセスするための情報を指定する必要があ ります。
- クロールするリポジトリーを選択します。
- 選択されたリポジトリーのコンテンツにクローラーがアクセスできるようにする ためのユーザー ID とパスワードを指定します。
- リポジトリーをクロールするスケジュールを設定します。
- 各リポジトリーでクロールする項目クラスを選択します。
- 項目クラスのプロパティーを検索可能にするときのオプションを指定します。例 えば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、特定リポジトリ ーの特定バージョンをクロールすると指定したりすることができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ ーションは、アクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに基づいたア クセス制御を実行できるようになります。

Documentum、FileNet Panagon Content Services、Portal Document Manager 項目ク ラスの場合は、ユーザーが照会をサブミットするときにユーザーの信用証明情報 を検証するオプションを選択することもできます。この場合、システムは、ユー ザーの信用証明情報を索引付きセキュリティー・データではなく、元のデータ・

ソースで維持されている現行のアクセス制御リストと比較します。 (このタイプ の現行信用証明情報の妥当性検査は、他のリポジトリー・タイプには使用できません。)

クローラーの作成中に「**ヘルプ**」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示されます。

# WebSphere II Content Edition リポジトリーへのサーバー・モード・アクセス

Content Edition クローラーを構成して、サーバー・モードでリポジトリーにアクセスすることができます。

サーバー・モードでは、クローラーがデータのアクセスに使用する WebSphere Information Integrator Content Edition コネクターが WebSphere Application Server にエンタープライズ・アプリケーションとしてインストールされ、クローラーはサーバーを介してリポジトリーにアクセスします。この方法により、J2EE アプリケーション・サーバー環境の利点を活用することができます。

サーバー・モードで WebSphere Information Integrator Content Edition リポジトリーにアクセスできるようにクローラーを構成する前に、クローラー・サーバーでスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、 WebSphere Information Integrator OmniFind Edition で提供されており、これによって、Content Edition クローラーがサーバー上のリポジトリーにアクセスできるようになります。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、サーバー・モードを使用するように Content Edition クローラーを構成する前に、ご使用の環境に該当するタスクを実行する必要があります。

- 45 ページの『UNIX での WebSphere II Content Edition 用クローラー・サーバー の構成』
- 46ページの『Windows での WebSphere II Content Edition 用クローラー・サーバーの構成』

# WebSphere II Content Edition リポジトリーへの直接モード・アクセス

Content Edition クローラーを構成して、直接モードでリポジトリーにアクセスすることができます。

直接モードでは、クローラーは、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時 にクローラー・サーバーにインストールされる WebSphere Information Integrator Content Edition コネクターを使用します。

## 手順

リポジトリーが直接モードでアクセスされるようにシステムを構成するには、次のようにします。

- 1. *iice\_install\_root*/bin/config.sh ファイル (UNIX) または *iice\_install\_root*¥bin¥config.bat ファイル (Microsoft Windows) の VBR\_HOME および JAVA\_HOME 環境変数で正しいディレクトリーが指定されているか確認します。
- WebSphere Information Integrator Content Edition 管理コンソールが直接モードで 実行されるように構成するために、 vbr.as.operationMode=direct Java システム・プロパティーを iice\_install\_root/bin/Admin.bat ファイル (UNIX) または iice\_install\_root\u00e4bin\u00e4Admin.bat ファイル (Windows) に追加します。
- 3. WebSphere Information Integrator Content Edition 管理コンソールを直接モードで開始して、WebSphere II OmniFind Edition クローラー・サーバーのコネクターを構成します。(手順については、WebSphere Information Integrator Content Edition 文書を参照してください。)
- 4. WebSphere II OmniFind Edition 管理コンソールの使用時に直接モードを選択して、Content Edition クローラーを構成します。

# UNIX での WebSphere II Content Edition 用クローラー・サーバーの構成

IBM AIX®、Linux®、または Solaris オペレーティング環境を稼働するコンピューターに、 WebSphere II OmniFind Edition をインストールし、リポジトリーにアクセスする際にサーバー・モードを使用する Content Edition クローラーを構成する場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトによって、Content Edition クローラーは、 WebSphere Information Integrator Content Edition リポジトリーにアクセスできるようになります。

#### このタスクについて

1

ı

1

Content Edition クローラーは、 Java クライアントとして WebSphere Information Integrator Content Edition Java ライブラリーを使用します。サーバー・モードで、これらの Java ライブラリーは、WebSphere Application Server の EJB 関連 Java ライブラリーを必要とします。Content Edition クローラーが Java ライブラリーと確実に連動できるようにするため、WebSphere Application Server をインストールした後、クローラー・サーバー上に WebSphere II OmniFind Edition が提供するセットアップ・スクリプトを実行する必要があります。

WebSphere Information Integrator Content Edition は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に、クローラー・サーバーにインストールされます。 Content Edition クローラーをサーバー・モードで使用できるようにするには、vbr\_access\_services.jar ファイルを WebSphere Information Integrator Content Edition サーバーからクローラー・サーバーにコピーする必要があります。

#### 手順

クローラー・サーバーが WebSphere Information Integrator Content Edition リポジトリーをクロールできるように構成するには、次のようにします。

1. WebSphere II OmniFind Edition がマルチサーバー構成でインストールされる場合、WebSphere Application Server Java ライブラリーをインストールおよびバインドします。

2. クローラー・サーバー上で、 Content Edition クローラー用のセットアップ・ス クリプトを実行します。 a. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。 b. 以下のスクリプト (これは、\$ES INSTALL ROOT/bin ディレクトリーにイン ストールされています)を開始し、プロンプトに応えます。 escrvbr.sh 3. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エ ンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。 esadmin stop stopccl.sh startccl.sh -bg esadmin start 4. vbr\_access\_services.jar ファイルを WebSphere Information Integrator Content Edition サーバーからクローラー・サーバーにコピーします。 コピー元: vbr\_access\_services.jar ファイルは、次のデフォルト場所にあります。 was\_install\_root/installedApps/server\_name/application\_name was install root は WebSphere Application Server インストール・ディレ クトリーであり、server\_name はサーバーに指定した名前であり、そして application name は WebSphere Application Server の WebSphere Information Integrator Content Edition アプリケーションに指定した名前 コピー先: クローラー・サーバー上のターゲット・ディレクトリーは iice\_install\_root/lib です。ここで、iice\_install\_root は、クローラー・サー バー上の WebSphere Information Integrator Content Edition インストー ル・ディレクトリーです。 Windows での WebSphere II Content Edition 用クローラー・ サーバーの構成 Microsoft Windows コンピューターに、 WebSphere II OmniFind Edition をインスト

ールし、リポジトリーにアクセスする際にサーバー・モードを使用する Content Edition クローラーを構成する場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを 実行する必要があります。このスクリプトによって、Content Edition クローラー は、WebSphere Information Integrator Content Edition リポジトリーにアクセスでき るようになります。

### このタスクについて

Content Edition クローラーは、 Java クライアントとして WebSphere Information Integrator Content Edition Java ライブラリーを使用します。サーバー・モードで、 これらの Java ライブラリーは、WebSphere Application Server の EJB 関連 Java ラ イブラリーを必要とします。Content Edition クローラーが Java ライブラリーと確 実に連動できるようにするため、WebSphere Application Server をインストールした

1 ı 1

後、クローラー・サーバー上に WebSphere II OmniFind Edition が提供するセット アップ・スクリプトを実行する必要があります。

WebSphere Information Integrator Content Edition は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に、クローラー・サーバーにインストールされます。 Content Edition クローラーをサーバー・モードで使用できるようにするには、 vbr\_access\_services.jar ファイルを WebSphere Information Integrator Content Edition サーバーからクローラー・サーバーにコピーする必要があります。

#### 手順

クローラー・サーバーが WebSphere Information Integrator Content Edition リポジト リーをクロールできるように構成するには、次のようにします。

- 1. WebSphere II OmniFind Edition がマルチサーバー構成でインストールされる場 合、WebSphere Application Server Java ライブラリーをインストールおよびバイ ンドします。
- 2. クローラー・サーバー上で、 Content Edition クローラー用のセットアップ・ス クリプトを実行します。
  - a. エンタープライズ・サーチ管理者 ID でログインします (このユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されたもので す)。
  - b. 以下のスクリプト (これは、%ES INSTALL ROOT%¥bin ディレクトリーに インストールされています)を開始し、プロンプトに応答します。

escrvbr.vbs

- 3. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エ ンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。
  - a. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・シス テムを停止します。

esadmin stop

- b. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択し て、IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始 動します。
- c. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・シス テムを始動します。

esadmin start

4. vbr\_access\_services.jar ファイルを WebSphere Information Integrator Content Edition サーバーからクローラー・サーバーにコピーします。

#### コピー元:

vbr access services.jar ファイルは、次のデフォルト場所にあります。

was\_install\_root\{\text{YinstalledApps}\{\text{Yserver\_name}\}\{\text{application\_name}\}

was\_install\_root は WebSphere Application Server インストール・ディレ クトリーであり、server\_name はサーバーに指定した名前であり、そして *application\_name* は WebSphere Application Server の WebSphere Information Integrator Content Edition アプリケーションに指定した名前です。

### コピー先:

クローラー・サーバー上のターゲット・ディレクトリーは *iice\_install\_root*¥lib です。ここで、*iice\_install\_root* は、クローラー・サーバー上の WebSphere Information Integrator Content Edition インストール・ディレクトリーです。

# DB2 クローラー

DB2 クローラーを使用して、IBM DB2 Universal Database データベースをコレクションに入れます。また、DB2 クローラーを使用して、IBM DB2 Universal Database for z/OS、IBM Informix、 Oracle、Microsoft SQL Server データベース用に作成したニックネーム表を入れることもできます。

クローラーは、クロール対象の各データベース・サーバーごとに独立したクローラーを構成する必要があります。クローラーを構成する場合、クローラーが同じサーバー上のすべてのデータベースをクロールするときのオプションを指定します。また、各データベースでクロールする特定の表も選択します。

クロール用に選択する表は、データベース表、ニックネーム表、ビューのいずれかでなければなりません。DB2 クローラーは結合表をサポートしません。

# イベント・パブリッシング

WebSphere Information Integrator Event Publisher Edition を使用している場合に、クロールするデータベースをパブリッシング・キュー・マップに関連付けると、DB2クローラーは、マップを使用してデータベース表への更新をクロールできます。

パブリッシング・キュー・マップは、データベース表に対する更新が行われると、XML メッセージを受け取る WebSphere MQ キューを識別します。クローラーは、表が更新されると、発行されたイベントに関する情報のキューを listen し、クロール・スペースを更新します (クローラーは、最初に表をクロールする場合、すべての文書をクロールします)。

イベント・パブリッシングにより、新規文書および変更された文書は、クローラーがクローラー・スケジュールに従ってクロールする文書よりも速く検索されるようになります。

一部またはすべての表がイベント・パブリッシングを使用するように構成されている場合は、クローラーの構成時に、クローラーが WebSphere MQ およびパブリッシング・キュー・マップにアクセスできるように指定することができます。

また、クロールされるサーバーで WebSphere MQ および WebSphere Information Integrator Event Publisher Edition が構成されており、クローラー・サーバーで WebSphere MQ クライアント・モジュールが構成されていることを確認する必要が あります。イベント・パブリッシングを DB2 クローラーで使用するには、以下の タスクを実行します。

• 52ページの『DB2 クローラーのための WebSphere MQ の構成』

- 54 ページの『イベント・パブリッシングを使用するための UNIX でのクローラ ー・サーバーの構成』
- 56ページの『イベント・パブリッシングを使用するための Windows でのクロー ラー・サーバーの構成』

## 構成の概要

DB2 クローラーを作成または変更する場合は、エンタープライズ・サーチ管理コン ソールにログインします。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役 割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者で なければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指 定します。クローラーのプロパティーは、クローラーによる特定のデータベー ス・サーバーのすべてのデータベースに対するクロールを制御します。
- クロールするデータベースのタイプに関する情報を指定します。

ローカル・データベース・サーバーでカタログされていないリモート・データベ ースをクロールする予定がある場合、まず、リモート・サーバーで DB2 Administration Server を始動してから、 DB2 クローラーを使用してそれらのデー タベースをクロールします。また、クローラーの構成時にそのリモート・データ ベースのホスト名とポートを指定する必要があります。

- クロールするデータベースを選択します。
- アクセス制御をしているデータベースにクローラーがアクセスできるようにする ためのユーザー ID とパスワードを指定します。
- データベースをクロールするスケジュールを設定します。
- 各データベースでクロールする表を選択します。

重要: ディスカバリー・プロセスのパフォーマンスを最適化するため (そしてク ローラー構成プロセスがタイムアウトになるのを防止するため)、すべての表をク ロールする選択は、データベース中の表の数が少ない場合か、各表に含まれる列 の数が少ない場合のみ行うようにしてください。一部の表についてすぐにクロー ルする選択をした場合、後からクロール・スペースを編集して、さらに多くの表 をコレクションに追加できます。

- イベント・パブリッシング・キューで表に対する更新が行われた際にクロールす る表を選択し、クローラーがイベント・パブリッシング・キューにアクセスする ための情報を指定します。
- 特定の表の列を検索可能にするときのオプションを指定します。例えば、特定の 列をパラメトリック照会で使用できるようにしたり、検索結果に戻すことのでき る列を指定したりすることができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ ーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに 基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

Ι 

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関 する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示さ れます。

# DB2 クローラーのための WebSphere Information Integrator Event Publisher Edition の構成

イベント・パブリッシングを使用するように DB2 クローラーを構成する前に、ク ロール対象のサーバー上に IBM WebSphere Information Integrator Event Publisher Edition が構成されていることを確認してください。

#### このタスクについて

DB2 クローラーと共に使用するために WebSphere Information Integrator Event Publisher Edition を構成する際には、以下のガイドラインを使用してください。

- ソース表内の変更された列と未変更の列の両方がパブリッシングに選択されなけ ればなりません。
- ソース表内の削除された行がパブリッシングに選択されなければなりません。
- 1 つのイベント・パブリッシング・キューを複数のデータベースで共用すること はできません。
- 単一のデータベースが複数のキュー・マップおよびキューを持つことはできませ
- 1 つの表は、1 つのパブリッシング・キュー・マップに関連付けられた 1 つの XML パブリケーションを持っているべきです。(1 つの表が、1 つのパブリッシ ング・キュー・マップに関連付けられた複数の XML パブリケーションを持つべ きではありません。各 XML パブリケーションがそれぞれ異なる 1 つのパブリ ッシング・キューに関連付けられている場合は、1 つの表が複数の XML パブリ ケーションを持つことができます。)

#### 手順

DB2 クローラーがイベント・パブリッシング・キューにパブリッシュされる表更新 にアクセスできるようにデータベース・サーバーを構成するには、次のステップを 実行します (これらのステップについての不明点は、WebSphere Information Integrator Publisher Edition 資料を参照してください)。

- 1. クロールされるデータベース・サーバー上に WebSphere Information Integrator Event Publisher Edition をインストールします。
- 2. レプリケーション・センターのランチパッドを開始します。

オペレーティング・システム	コマンド
UNIX	db2rc
Windows	「スタート」 → 「IBM DB2 Replication
	Center」を選択

- 3. O キャプチャー制御テーブルを作成します。
  - a. ランチパッドのビューとして「**イベント・パブリッシング**」を選択し、「**0** キャプチャー制御テーブルの作成」を選択して「次へ」をクリックします。

ı

- b. 「**Q キャプチャー・サーバー**」フィールドで、選択可能なデータベース・サ ーバーのリストから、Q キャプチャー・サーバーとして使用するサーバーを 選択し、「OK」をクリックします。
- c. 選択した O キャプチャー・サーバーへのアクセスを認可されているユーザー ID とパスワードを指定します。O キャプチャーのスキーマを変更するか、デ フォルトのスキーマ名を受け入れ、「**次へ**」をクリックします。
- d. このデータベース・サーバー上に WebSphere MQ を構成したときに指定し た、キュー・マネージャー、管理キュー、および再始動キューの名前を指定 し、「**次へ**」をクリックします。
- e. 「完了」をクリックします。メッセージと SOL スクリプトを示すページが 表示された後、「**クローズ**」をクリックします。
- f. 処理オプションに「すぐに実行」を選択し、「OK」をクリックします。 SOL スクリプトが完了したことを示すメッセージが表示された後、「**クローズ**」 をクリックします。
- 4. XML パブリケーションを作成します。
  - a. レプリケーション・センターのランチパッドで、ランチパッドのビューとし て「イベント・パブリッシング」を選択し、「XML パブリケーションの作 成」を選択して「次へ」をクリックします。
  - b. 「開始」ページで、「**次へ**」をクリックします。
  - c. 「サーバーおよびキュー・マップ」ページで、O キャプチャー・サーバーと O キャプチャー・スキーマが正しいことを確認し、「**パブリッシング・キュ ー・マップ**」フィールドの横のボタンをクリックし、パブリッシング・キュ ー・マップを作成するため「新規」をクリックします。
  - d. 「一般」ページで、キュー・マップの名前を入力します。
  - e. 「プロパティー」ページで、送信キューの名前 (例えば、このサーバー上に WebSphere MO を構成したときに指定したデータ・キューの名前)を指定 し、メッセージ内容のタイプに「行操作」または「トランザクション」を選 択し、ハートビート・メッセージ送信のチェック・ボックスと JMS メッセー ジ・ヘッダー追加のチェック・ボックスをクリアし、「OK」をクリックしま
  - f. メッセージと SOL スクリプトを示すページが表示された後、「**クローズ**」を クリックします。
  - g. 処理オプションに「**すぐに実行**」を選択し、「OK」をクリックします。 SQL スクリプトが完了したことを示すメッセージが表示された後、「クロー **ズ**」をクリックします。
  - h. 「パブリッシング・キュー・マップの選択」ページで、作成したキューを選 択して「**OK**」をクリックします。
  - i. 「サーバーおよびキュー・マップ」ページで、キュー・マップ名が正しいこと を確認して「**次へ**」をクリックします。
  - i. 「ソース表」ページで、「**追加**」をクリックし、「**すべて取得**」をクリック し、イベント・パブリッシングに使用可能化したい表を選択して「OK」をク リックし、「次へ」をクリックします。
  - k. 「列と行」ページで、DB2 クローラーがクロールする対象にする列 (または すべての列)を選択し、キー列を選択します。クロールする行(またはすべて

の行)を選択したページで、ソース表の削除をパブリッシュするオプション を選択します。これらのオプションの構成を完了した後、「次へ」をクリッ クします。 1. 「メッセージ内容」ページで、列データには変更された列と未変更の列の両方 を組み込むオプションを選択し、新規データ値のみのオプションを選択しま す。XML パブリケーションを自動的に開始するよう指定するチェック・ボッ クスが選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。 m. 「XML パブリケーションの検討」ページで、「次へ」をクリックします。 n. 「サマリー」ページで、「完了」ページをクリックします。メッセージと SOL スクリプトを示すページが表示された後、「クローズ」をクリックしま す。 o. 処理オプションに「**すぐに実行**」を選択し、「**OK**」をクリックします。 SOL スクリプトが完了したことを示すメッセージが表示された後、「クロー **ズ**」をクリックします。 5. O キャプチャー・サーバーを開始します。 a. レプリケーション・センターのランチパッドをクローズし、レプリケーショ ン・センターを開始します。 b. オブジェクト・ツリーで、「O レプリケーション」 → 「定義」 → 「O キャ プチャー・サーバー」を順にクリックします。 c. 構成した Q キャプチャー・サーバーのアイコンを右クリックし、「データベ **ースを Q レプリケーションに使用可能にする**」を選択します。 d. 警告メッセージが表示された後、「OK」をクリックします。 e. DB2 メッセージを示すページが表示された後、「クローズ」をクリックしま す。 f. オブジェクト・ツリーで、O キャプチャー・サーバーのアイコンを右クリッ クし、「**Q キャプチャー・プログラムの開始**」を選択します。 g. 処理オプションに、「**すぐに実行**」を選択し、システム名、DB2 ユーザーの ユーザー ID とパスワード、ログを保管するディレクトリーのパス、および DB2 インスタンス名を指定し、「OK」をクリックします。 h. 要求がサブミットされたことを示すメッセージが表示された後、「**クロー ズ**」をクリックします。 i. オブジェクト・ツリーで、Q キャプチャー・サーバーのアイコンを右クリッ クし、「**状況のチェック**」を選択します。 O キャプチャー・サーバーの状況が表示されます。エラーが発生した場合、 サーバーがダウンしたと推定されることを示す状況メッセージが表示されま

asnqcap Capture\_Server=capture server name LOGSTDOUT=y

す。ログを検討し、エラーの原因を判別するには、コマンド行で以下のコマン

# DB2 クローラーのための WebSphere MQ の構成

イベント・パブリッシングを使用するように DB2 クローラーを構成する前に、ク ローラーが listen するサーバー上に IBM WebSphere MQ が構成されていることを 確認してください。

ドを入力します。

#### 始める前に

ı

1

1

ı

1

1

Ι

1

ı

1

1

ı

1

ı

1

1

1

Ī

DB2 UDB、WebSphere Information Integrator Event Publisher Edition、および WebSphere MO がターゲット・データベース・サーバーにインストール済みである ことを確認してください。

#### 制約事項

ターゲット・データベース・サーバーが Linux コンピューターにインストールされ ている場合、すべての DB2 Universal Database (DB2 UDB) ユーザー、WebSphere MQ ユーザー、および WebSphere II OmniFind Edition ユーザーは、以下の環境変 数を設定する必要があります。

export LD ASSUME KERNEL=2.4.19

この環境変数は、LinuxThread スレッド化インプリメンテーションのエクスポート が、インストールが実行されるシェル、WebSphere MQ 制御コマンドが発行される シェル、または WebSphere MQ アプリケーションが実行される任意のシェルから行 われることを可能にします。WebSphere MQ は、この環境変数がエクスポートされ ることを必要とします。

#### このタスクについて

DB2 クローラーは、 WebSphere MQ サーバーへのクライアント接続モードをサポ ートします。このクローラーは、イベント・パブリッシング・キューにパブリッシ ュされる XML メッセージを listen します。クローラーは、複数のキューを経由し て移送される XML メッセージを listen できません。

WebSphere MO を構成すると、それ以降、DB2 クローラーはキュー・マネージャー 名、キュー名、サーバー・ホスト名、サーバー・ポート番号、およびサーバー・チ ャネル名を使用して、パブリッシング・キューから XML メッセージを取得しま す。クローラーは、メッセージを構文解析し、更新された表についての情報でクロ ール・スペースを更新します。

#### 手順

DB2 クローラーがイベント・パブリッシング・キューを listen できるようにデータ ベース・サーバーを構成するには、次のステップを実行します(これらのステップ についての不明点は、WebSphere MQ 資料を参照してください)。

- 1. WebSphere MO 管理者役割としてログインし、キュー・マネージャーおよびキュ ーを作成するため以下のコマンドを入力します。
  - a. コマンド行で、以下のコマンドを入力します。

crtmgm QM1

b. Setup completed メッセージが表示されたら、以下のコマンドを入力しま す。

strmqm QM1

c. 'OM1' started メッセージが表示されたら、以下のコマンドを入力します。

runmqsc QM1

d. Starting MQSC for gueue manager QM1 メッセージが表示されたら、以下の コマンドを入力して管理キューを作成します。

DEFINE QLOCAL('ASN.QM1.ADMINQ')

e. WebSphere MO gueue created メッセージが表示されたら、以下のコマンドを 入力して再始動キューを作成します。

DEFINE QLOCAL(' ASN.QM1.RESTARTQ')

f. WebSphere MQ queue created メッセージが表示されたら、以下のコマンドを 入力してデータ・キューを作成します。

DEFINE QLOCAL(' ASN.QM1.DATAQ')

g. WebSphere MQ queue created メッセージが表示されたら、以下のコマンドを 入力して終了します。

2. 以下のコマンドを入力してデータベース・サーバー上で MO Listener を開始し ます (MQ Listener は、イベント・パブリッシングを使用する DB2 クローラー 作成時に実行中でなければなりません)。 この例では、サーバーのポート番号は 1414 であり、デフォルトのチャネル SYSTEM.DEF.SVRCONN が使用されてい ます。

runmqlsr -m QM1 -t TCP -p 1414 &

3. 以下のコマンドを入力して、イベント・パブリッシングのために Message Queuing Interface (MQI) を経由してキュー・マネージャーおよびキューにアクセ スすることを DB2 UDB ユーザーに認可します (この例では、ユーザー ID は db2inst1 です)。

```
setmqaut -m QM1 -t qmgr -p db2inst1 +allmqi
setmqaut -m QM1 -t queue -n ASN.QM1.DATAQ -p db2inst1 +allmqi
setmqaut -m QM1 -t queue -n ASN.QM1.ADMINQ -p db2inst1 +allmqi
setmqaut -m QM1 -t queue -n ASN.QM1.RESTARTQ -p db2inst1 +allmqi
```

4. DB2 クローラーを作成し、イベント・パブリッシングと共にこのクローラーを 実行するのに使用されるユーザー ID に対して、以下のコマンドを入力します。 これらのコマンドは、イベント・パブリッシングのために Message Queuing Interface (MOI) を経由してそのユーザー ID がキュー・マネージャーおよびキュ ーにアクセスすることを認可します。この例では、ユーザー ID は esuser で す。

setmgaut -m ASN.QM1.QM2 -t qmgr -p esuser +allmgi setmgaut -m ASN.QM1.QM2 -t queue -n ASN.QM1.DATAQ -p esuser +allmgi

# イベント・パブリッシングを使用するための UNIX でのクローラ ー・サーバーの構成

IBM AIX、Linux、または Solaris オペレーティング環境が稼働するコンピューター に WebSphere II OmniFind Edition をインストールし、イベント・パブリッシング を使用するよう DB2 クローラーを構成する場合、クローラー・サーバーを構成す

るスクリプトを実行する必要があります。そのスクリプトは、クローラーが WebSphere MQ キュー・マネージャーおよびキューにアクセスできるようにしま す。 このタスクについて DB2 クローラーは、 Java Messaging 用の WebSphere MQ 5.3 モジュールを使用し て WebSphere MQ キュー・マネージャーおよびキューにアクセスします。これらの ı モジュールをクローラー・サーバーにインストールする必要があります。 Ι WebSphere MQ モジュールをインストールした後、 DB2 クローラーがイベント・ 1 パブリッシングを確実に使用できるようにするため、 WebSphere II OmniFind Edition によって提供されているセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバー ı で実行する必要もあります。 Ī 手順 イベント・パブリッシングを使用するようクローラーを構成するには、次のように します。 1. Java Messaging 用の WebSphere MQ 5.3 モジュールをクローラー・サーバーに Ι インストールします。 ı a. root ユーザーとしてログインし、以下のコマンドを入力します。 1 Ι export LD ASSUME KERNEL=2.4.19 b. WebSphere MQ CD を挿入します。 c. Java Messaging 用の MQ モジュールが入っているディレクトリーに移動しま Ι す。 d. これらのモジュールをインストールするため、以下のコマンドを入力しま す。 rpm -i MQSeriesJava-5.3.0-1.i386.rpm 2. クローラー・サーバー上で DB2 クローラー用のセットアップ・スクリプトを実 行します。 a. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします (このユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されたもので す)。 b. 以下のスクリプト (これは、\$ES INSTALL ROOT/bin ディレクトリーにイン ストールされています)を開始し、プロンプトに応答します。 1 escrdb2.sh 3. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エ ı ンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。 esadmin stop stopccl.sh startccl.sh -bg ı esadmin start

# イベント・パブリッシングを使用するための Windows でのクローラー・サーバーの構成

Microsoft Windows が稼働するコンピューターに WebSphere II OmniFind Edition をインストールし、イベント・パブリッシングを使用するよう DB2 クローラーを構成する場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。そのスクリプトは、クローラーが WebSphere MQ キュー・マネージャーおよびキューにアクセスできるようにします。

#### このタスクについて

DB2 クローラーは、 Java Messaging 用の WebSphere MQ 5.3 モジュールを使用して WebSphere MQ キュー・マネージャーおよびキューにアクセスします。 これらの モジュールをクローラー・サーバーにインストールする必要があります。

WebSphere MQ モジュールをインストールした後、 DB2 クローラーがイベント・パブリッシングを確実に使用できるようにするため、 WebSphere II OmniFind Edition によって提供されているセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバーで実行する必要もあります。

#### 手順

イベント・パブリッシングを使用するようクローラーを構成するには、次のようにします。

- 1. Java Messaging 用の WebSphere MQ 5.3 モジュールをクローラー・サーバーに インストールします。
  - a. WebSphere MQ CD を挿入します。
  - b. WebSphere MQ インストーラーを開始します。
  - c. 「製品フィーチャーの選択」ウィンドウで、インストール・オプションに「Java Messaging」を選択します。
- 2. クローラー・サーバー上で DB2 クローラー用のセットアップ・スクリプトを実行します。
  - a. エンタープライズ・サーチ管理者 ID でログインします (このユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです)。
  - b. 以下のスクリプト (これは、%ES\_INSTALL\_ROOT%¥bin ディレクトリーに インストールされています) を開始し、プロンプトに応答します。

#### escrdb2.vbs

- 3. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。
  - a. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・システムを停止します。

#### esadmin stop

b. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択して、IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始動します。

ı

c. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・シス テムを始動します。

esadmin start

# DB2 Content Manager クローラー

ı

IBM DB2 Content Manager 項目タイプをエンタープライズ・サーチ・コレクション に入れる場合は、 DB2 Content Manager クローラーを構成する必要があります。

## クローラー・サーバーの構成

DB2 Content Manager サーバーをクロールするには、あらかじめクローラー・サー バーで特定のスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition で提供されており、これによって DB2 Content Manager クローラーが DB2 Content Manager サーバーと通信できるように なります。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、DB2 Content Manager クロ ーラーを構成する前に、ご使用の環境に該当するタスクを実行する必要がありま す。

- 58ページの『UNIX での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構 成』
- 60ページの『Windows での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構 成』

## 構成の概要

DB2 Content Manager クローラーを使用して、任意の数の DB2 Content Manager サ ーバーをクロールすることができます。クローラーを構成する際に、クローラーが クロール・スペースのすべての DB2 Content Manager サーバーをクロールするため のオプションを指定します。また、各サーバーでクロールする特定の項目タイプも 選択します。

DB2 Content Manager クローラーを作成または変更する場合は、エンタープライ ズ・サーチ管理コンソールにログインします。この場合、操作者はエンタープライ ズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコ レクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指 定します。クローラーのプロパティーは、クローラーによるクロール・スペース 内のすべての DB2 Content Manager サーバーのあらゆる項目タイプのクロールを 制御します。
- クロールする DB2 Content Manager サーバーを選択します。
- クローラーが DB2 Content Manager サーバーのコンテンツにアクセスできるよう にするためのユーザー ID とパスワードを指定します。
- サーバーをクロールするスケジュールを設定します。
- 各 DB2 Content Manager サーバーでクロールする項目タイプを選択します。

- 一部の項目タイプの属性を検索可能にするときのオプションを指定します。例え ば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、検索結果に戻すこ とのできる属性を指定したりすることができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ ーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに 基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関 する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示さ れます。

# UNIX での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバーの構 成

IBM AIX、Linux、または Solaris オペレーティング環境が稼働するコンピューター に WebSphere II OmniFind Edition をインストールする場合、クローラー・サーバ ーを構成するスクリプトを実行する必要があります。そのスクリプトは、 DB2 Content Manager クローラーが IBM DB2 Content Manager サーバーと通信できるよ うにします。

#### このタスクについて

DB2 Content Manager クローラーは、DB2 Content Manager バージョン 8 用の Java コネクターを使用して、DB2 Content Manager サーバーにアクセスします。こ のコネクターは、クローラー・サーバーに IBM DB2 Information Integrator for Content バージョン 8.2 以降をインストールすると、インストールされます。DB2 Content Manager クローラーが DB2 Content Manager と連動して機能できるように するには、コネクターをインストールした後で、WebSphere II OmniFind Edition が 提供するセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバー上で実行します。

#### 手順

クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーをクロールできるように構 成するには、次のようにします。

- 1. クローラー・サーバーに DB2 Content Manager バージョン 8 の Java コネクタ ーをインストールします。
  - a. クローラー・サーバーに、root ユーザーとしてログインします。

su - root

- b. db2profile ファイルを実行します。以下に例を示します。
  - . /home/db2inst/sqllib/db2profile
- c. JAVAHOME 環境変数をエクスポートします。以下に例を示します。

export JAVAHOME=/usr/IBMJava2-141

d. Java ディレクトリーを PATH 環境変数に追加します。

export PATH=\$PATH:\$JAVAHOME/bin

- e. DB2 Information Integrator for Content インストール CD を挿入し、インスト ール・ウィザードを実行します。
- f. 「コンポーネントの選択」ウィンドウで、次の操作を行います (Information Integrator for Content バージョン 8.3 を使用して作業している場合、「コン ポーネントの選択」ウィンドウには、カスタム・インストールのオプション が表示されます。)
  - 1) 「コンポーネント」リストから「ローカル・コネクター」を選択し、「サ ブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コネクター」を選 択します。
  - 2) 「コンポーネント」リストから「コネクター・ツールキットとサンプル」 を選択し、「サブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コ ネクター」を選択します。
- g. DB2 Content Manager ライブラリーのデータベース名、ユーザー名、および パスワードを指定し、残りのウィンドウでは、デフォルトの設定値を受け入 れます。
- 2. クローラー・サーバーに、DB2 管理グループの中のユーザー ID でログインし ます。
- 3. リモート DB2 Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースをカタ ログし、クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーに接続できる ことを確認します。

db2 catalog tcpip node node name remote hostname server port db2 catalog database database name as alias at node node name

- 4. オプション: root ユーザーとしてログインし、データベース接続をテストしま す。
  - . Information\_Integrator\_for\_Content\_install\_directory/bin/cmbenv81.sh cd Information Integrator for Content install directory/samples/java/icm javac \*.java

java SConnectDisconnect ICMdatabase name CMadmin ID CMadmin password

- 5. クローラー・サーバー上で DB2 Content Manager クローラー用のセットアッ プ・スクリプトを実行します。
  - a. 次のようにして、ES INSTALL ROOT/bin ディレクトリーに移動します。

cd \$ES INSTALL ROOT/bin

b. 以下のスクリプトを開始し、プロンプトに応答します。

escrcm.sh

6. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エ ンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。

esadmin stop stopccl.sh startccl.sh -bg esadmin start

# Windows での DB2 Content Manager 用クローラー・サーバー の構成

Microsoft Windows コンピューターに WebSphere II OmniFind Edition をインストールする場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要があります。そのスクリプトは、 DB2 Content Manager クローラーが IBM DB2 Content Manager サーバーと通信できるようにします。

#### このタスクについて

DB2 Content Manager クローラーは、DB2 Content Manager バージョン 8 用の Java コネクターを使用して、DB2 Content Manager サーバーにアクセスします。このコネクターは、クローラー・サーバーに IBM DB2 Information Integrator for Content バージョン 8.2 以降をインストールすると、インストールされます。DB2 Content Manager クローラーが DB2 Content Manager と連動して機能できるように するには、コネクターをインストールした後で、WebSphere II OmniFind Edition が 提供するセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバー上で実行します。

#### 手順

クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーをクロールできるように構成するには、次のようにします。

- 1. クローラー・サーバーに DB2 Content Manager バージョン 8 の Java コネクターをインストールします。
  - a. DB2 Information Integrator for Content インストール CD を挿入します。 インストール・プログラムが自動的に始動します。

DB2 Content Manager Enterprise Information Portal インストール・ウィザードが開きます。

- b. 「コンポーネントの選択」ウィンドウで、次の操作を行います (Information Integrator for Content バージョン 8.3 を使用して作業している場合、「コンポーネントの選択」ウィンドウには、カスタム・インストールのオプションが表示されます。)
  - 1) 「コンポーネント」リストから「ローカル・コネクター」を選択し、「サ ブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コネクター」を選 択します。
  - 2) 「コンポーネント」リストから「コネクター・ツールキットとサンプル」 を選択し、「サブコンポーネント」リストから「Content Manager V8 コ ネクター」を選択します。
- c. DB2 Content Manager ライブラリーのデータベース名、ユーザー名、およびパスワードを指定し、残りのウィンドウでは、デフォルトの設定値を受け入れます。
- 2. リモート DB2 Content Manager ライブラリー・サーバー・データベースをカタログし、クローラー・サーバーが DB2 Content Manager サーバーに接続できることを確認します。 クローラー・サーバー上のコマンド・プロンプトで、次のコマンドを入力します。

db2 catalog tcpip node node\_name remote hostname server port db2 catalog database database\_name as alias at node node\_name

3. オプション: データベース接続をテストするため、コマンド・プロンプトをオー プンし、以下のコマンドを入力します。

cmbenv81.bat

cd Information Integrator for Content install directory\samples\java\icm javac \*.java

java SConnectDisconnect ICMdatabase name CMadmin ID CMadmin password

- 4. クローラー・サーバー上で DB2 Content Manager クローラー用のセットアッ プ・スクリプトを実行します。
  - a. 次のようにして、ES\_INSTALL\_ROOT¥bin ディレクトリーに移動します。

cd %ES INSTALL ROOT%¥bin

b. 以下のスクリプトを開始し、プロンプトに応答します。

escrcm.vbs

- 5. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エ ンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。
  - a. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・シス テムを停止します。

esadmin stop

- b. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択し て、IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始 動します。
- c. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・シス テムを始動します。

esadmin start

# Domino Document Manager クローラー

1

Domino Document Manager ライブラリーおよびキャビネットをエンタープライズ・ サーチ・コレクションに入れる場合は、Domino Document Manager クローラーを構 成する必要があります。

## クローラー・サーバーの構成

クロールする Domino Document Manager サーバーが Notes リモート・プロシージ ャー・コール (NRPC) プロトコルを使用している場合は、クローラー・サーバーで 特定のスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、 WebSphere Information Integrator OmniFind Edition で提供されており、これによって、Domino Document Manager クローラーが NRPC を使用するサーバーと通信できるようにな ります。

クロールする Domino Document Manager サーバーが Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) を使用している場合、クローラー・サーバーでセットアップ・スク リプトを実行する必要はありません。ただし、 Domino Document Manager クロー ラーが Domino Document Manager サーバーにアクセスできるようにサーバーを構 成する必要があります。

WebSphere II OmniFind Edition が IBM AIX システムにインストールされている場合は、I/O 完了ポート・モジュールがクローラー・サーバーにインストールされており、使用可能であることを確認してください。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、Domino Document Manager クローラーを構成する前に、ご使用の環境に該当するタスクを実行する必要があります。

- 68ページの『Lotus Domino ソースをクロールするための UNIX でのクローラー・サーバーの構成』
- 70 ページの『Lotus Domino ソースをクロールするための Windows でのクローラー・サーバーの構成』
- 72 ページの『DIIOP プロトコルを使用するサーバーの構成』
- 73 ページの『Lotus Domino ソースをクロールするための AIX での I/O 完了ポートの構成』.

## 構成の概要

Domino Document Manager クローラーを使用して、任意の数の Domino Document Manager ライブラリーをクロールすることができます。クローラーを作成する際に、単一の Domino Document Manager サーバーからクロールするライブラリーを選択します。後でクロール・スペースを編集する際に、同じクロール・スペースに別の Domino Document Manager サーバーの文書を追加できます。クローラーを作成または編集する際に、クロール対象として選択したライブラリー内のすべてのキャビネットをクロールするか、または、特定のキャビネットをクロールするかを指定できます。

Domino Document Manager クローラーを作成または変更する場合は、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインします。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指定します。クローラーのプロパティーで、クローラーがクロール・スペース内のすべての文書をクロールする方法を制御します。
- Domino Document Manager サーバーおよび通信プロトコルを識別します。
- クロールするライブラリーを選択します。
- ライブラリーをクロールするスケジュールを設定します。
- クロールする文書を選択します。クローラーは、ライブラリー内のすべてのキャビネットをクロールするか、またはユーザーが選択したキャビネット内のある特定の文書のみをクロールすることができます。
- さまざまなライブラリーおよびキャビネットのフィールドを検索可能にするオプションを指定します。例えば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、添付ファイル検索のオプションを指定したりすることができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ

ーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに 基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

また、ユーザーが照会をサブミットするときにユーザーの信用証明情報を検証す るオプションを選択することもできます。この場合、システムは、ユーザーの信 用証明情報を索引付きセキュリティー・データではなく、元のデータ・ソースで 維持されている現行のアクセス制御リストと比較します。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関 する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示さ れます。

# Exchange Server クローラー

Ι

Ι

Microsoft Exchange Server のパブリック・フォルダーをエンタープライズ・サー チ・コレクションに入れる場合は、Exchange Server クローラーを構成する必要があ ります。

Exchange Server クローラーを使用して、 Exchange Server のパブリック・フォルダ ー・サーバー上の任意の数のフォルダーおよびサブフォルダーをクロールすること ができます。クローラーの作成時に、パブリック・フォルダー・サーバーでクロー ルする対象コンテンツを選択します。クロール対象については、後からクロール・ スペースを編集して、別のパブリック・フォルダー・サーバーのコンテンツを追加 することができます。

Exchange Server クローラーを作成または変更する場合は、エンタープライズ・サー チ管理コンソールにログインします。この場合、操作者はエンタープライズ・サー チ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクショ ン管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指 定します。クローラーのプロパティーは、クローラーによるクロール・スペース 内の全サーバーの全サブフォルダーに対するクロールを制御します。
- クロールする Exchange Server パブリック・フォルダー・サーバーに関する情報 を指定します。

クローラーがサーバーのコンテンツにアクセスできるようにするためのユーザー ID とパスワードを指定する必要があります。サーバーが Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用している場合、クローラーがクローラー・サーバーの鍵 ストア・ファイルにアクセスできるようにするためのオプションを指定すること ができます。

- パブリック・フォルダー・サーバーをクロールするスケジュールを設定します。
- クロールするフォルダーおよびサブフォルダーを選択します。
- サブフォルダー内の文書を検索可能にするときのオプションを指定します。例え ば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外することができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ

ーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに 基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関 する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示さ れます。

# セキュア Exchange Server 文書へのアクセスの検証

ファイアウォールによって保護された文書を Exchange Server クローラーを使用し てクロールするには、クローラー・サーバーが Microsoft Exchange Server パブリッ ク・フォルダー・サーバーにアクセスできることを検証する必要があります。

#### このタスクについて

クローラー・サーバーがセキュア Exchange Server サーバーにアクセスできない場 合、サーバーから HTTP コード 501 (インプリメントされていない) を受け取りま す。予期しない HTTP 応答を受け取ったことを示すメッセージも表示されます。

#### 手順

ファイアウォールで保護された文書にクローラー・サーバーがアクセスできること を検証するには、次のようにします。

- 1. クローラー・サーバー上で Web ブラウザーを起動します。
- 2. クロールしたい Exchange Server パブリック・フォルダー・サーバーの URL に 移動します。 例: http://exchange.yourCompany.com/public/
- 3. Exchange Server ページをオープンできることを検証します。

Exchange Server サーバーにアクセスできない場合、社内のサーバー管理者に連 絡してください。

# NNTP クローラー

NNTP ニュース・グループの記事をエンタープライズ・サーチ・コレクションに入 れる場合は、 NNTP クローラーを構成する必要があります。

NNTP クローラーを使用して、任意の数の NNTP サーバーをクロールすることがで きます。クローラーの構成時に、各サーバーごとにクロールするニュースグループ を選択します。また、対象から除外するニュースグループのパターンを指定するこ ともできます。この設計により、特定サーバーの大多数のニュースグループをクロ ーラーのクロール対象として容易に許可することができ、また、ユーザーに検索し てほしくない少数のニュースグループをクロール禁止にすることができます。

例えば、特定の NNTP サーバーのすべてのニュース・グループを含める規則を指定 して、そのサーバーのニュース・グループのうち、 private というストリングが名 前に含まれているニュース・グループは除外する規則を指定できます。

NNTP クローラーを作成または変更する場合は、エンタープライズ・サーチ管理コ ンソールにログインします。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者 役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者 でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指 定します。クローラーのプロパティーは、クローラーによるクロール・スペース 内の全ニュースグループに対するクロールを制御します。
- クロール対象のニュースグループを指定し、さらにクロール・スペースから除外 する一定のニュースグループのパターンを指定します。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ ーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに 基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関 する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示さ れます。

# Notes クローラー

Ι

IBM Lotus Notes データベースをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れ る場合は、Lotus Notes クローラーを構成する必要があります。

## クローラー・サーバーの構成

クロールする Lotus Notes サーバーが Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) プロトコルを使用している場合、クローラー・サーバーで特定のスクリプト を実行する必要があります。このスクリプトは、 WebSphere Information Integrator OmniFind Edition で提供されており、これによって、Lotus Notes クローラーが NRPC を使用するサーバーと通信できるようになります。

クロールする予定の Lotus Notes サーバーが Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) を使用している場合、クローラー・サーバーに対してセットアップ・スク リプトを実行する必要はありません。ただし、 Lotus Notes クローラーが Lotus Notes サーバーにアクセスできるようにサーバーを構成する必要があります。

WebSphere II OmniFind Edition が IBM AIX システムにインストールされている場 合は、I/O 完了ポート・モジュールがクローラー・サーバーにインストールされて おり、使用可能であることを確認してください。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、Lotus Notes クローラーを構 成する前に、ご使用の環境に該当するタスクを実行する必要があります。

- 68 ページの『Lotus Domino ソースをクロールするための UNIX でのクローラ ー・サーバーの構成』
- 70 ページの『Lotus Domino ソースをクロールするための Windows でのクロー ラー・サーバーの構成』
- 72 ページの『DIIOP プロトコルを使用するサーバーの構成』
- 73ページの『Lotus Domino ソースをクロールするための AIX での I/O 完了ポ ートの構成』

## 文書レベル・セキュリティー

コレクションのセキュリティーが使用可能で、クロールする Lotus Notes サーバーが NRPC プロトコルを使用している場合は、クローラー・サーバーで Lotus Domino トラステッド・サーバーを構成する必要があります。トラステッド・サーバーは、文書レベルのアクセス制御を行うために使用されます。ユーザーに対してコレクションを検索可能にする前に、以下のタスクを行います。

- 228 ページの『ユーザーの信用証明情報を検証するための Lotus Domino トラステッド・サーバーの構成』
- セキュリティーを使用するために、 WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にし、検索アプリケーションを構成します。このステップにより、ユーザーが検索アプリケーションを使用する際に、信用証明情報を指定するように指示するプロンプトが出されます。検索サーバーは、指定された信用証明情報を使用して、Lotus Notes 文書に対するユーザーのアクセス権限を検査します。

## 構成の概要

Lotus Notes クローラーを使用して、任意の数の標準 Lotus Notes データベース (.nsf ファイル) をクロールすることができます。クローラーを作成するときに、単一の Lotus Notes サーバーからクロールするデータベースまたはディレクトリーを 選択します。後でクロール・スペースを編集して、同じクロール・スペースに別の Lotus Notes サーバーから文書を追加できます。 クローラーを作成または編集する ときに、サーバー上のすべてのデータベースまたはディレクトリーをクロールする か、あるいは、特定のデータベース、ビューまたはフォルダーをクロールするかを 指定できます。

Lotus Notes クローラーを作成または変更する場合は、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインします。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指定します。クローラーのプロパティーで、クローラーがクロール・スペース内のすべての文書をクロールする方法を制御します。
- Lotus Notes サーバーのホスト名、ポート、および通信プロトコルを指定します。
- クロールするデータベースまたはディレクトリーを選択します。
- データベースまたはディレクトリーをクロールするスケジュールを設定します。
- クロールする文書を選択します。ディレクトリー内のすべての文書、データベース内のすべての文書、またはデータベース内の選択したビューおよび選択したフォルダー内の文書をクロールすることができます。
- さまざまなデータベース、ビュー、およびフォルダーのフィールドを検索可能に するオプションを指定します。例えば、特定タイプの文書をクロール・スペース から除外したり、添付ファイル検索のオプションを指定したりすることができま す。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ

ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ ーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに 基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

また、ユーザーが照会をサブミットするときにユーザーの信用証明情報を検証す るオプションを選択することもできます。この場合、システムは、ユーザーの信 用証明情報を索引付きセキュリティー・データではなく、元のデータ・ソースで 維持されている現行のアクセス制御リストと比較します。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関 する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示さ れます。

#### 関連概念

228 ページの『Lotus Domino 文書に対する文書レベルのセキュリティーの施 行』

クロールされる Lotus Notes サーバーが、Notes リモート・プロシージャー・コ ール (NRPC) プロトコルを使用する場合、文書レベルのアクセス制御を施行する ように、クローラー・サーバーを構成する必要があります。

### 関連タスク

1

1

ı

Ι

1

1

1

ı ı

228ページの『ユーザーの信用証明情報を検証するための Lotus Domino トラス テッド・サーバーの構成』

Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) プロトコルを使用する Lotus Notes クローラーによってクロールされたドキュメントのためにセキュリティー を施行するには、クロールされる Domino サーバーを、Lotus Domino トラステ ッド・サーバーとして構成する必要があります。

# Lotus Domino データベースのクロールに関するヒント

Lotus Notes クローラーを構成する前に、Lotus Domino データベースのクロールに 関するガイドラインを示します。

- 標準テンプレートに基づく Notes データベース (ディスカッション・データベー スなど) は、クロールするのに最適なタイプのデータベースです。
- Lotus Notes クローラーは、以下のフィールド・マッピング規則を適用します。
  - Domino 標準テンプレートの主フィールド名が最初に登録されます。
  - マッピング規則表に指定されている Notes フィールドの値は、検索結果で文書 サマリーとして使用されます。
  - マッピング規則表に指定されていない Notes フィールドの値は、文書サマリー で使用されません。
  - Title フィールドにマップされる Notes フィールドの値は、検索結果で文書タ イトルとして使用されます。
  - 以下の表のフィールドは、デフォルトで、以下の検索フィールド名にマップさ れます。

表1. デフォルトのフィールド・マッピング規則

Notes データベースのフィールド名	検索フィールド名
Title	Title
EventTitle	Title

表 1. デフォルトのフィールド・マッピング規則 (続き)

Notes データベースのフィールド名	検索フィールド名
Subject	Title
Body	Body
Mission	Body
From	Creator
Author	Creator
Keywords	Categories
Categories	Categories
TeamRoomName	Organization
TeamName	Organization
Department	Organization

- Lotus Notes クローラーは、computed for display フィールドを除くすべてのタ イプのフィールドをクロールすることができます。
- Notes フォーム上の静的テキストおよびイメージは、クロールされません。
- クローラーを構成する際に、「**すべてのフィールドをクロール**」チェック・ボッ クスを選択して、すべてのフィールドをクロールし、クロールされるフィール ド・データを最大限にします(「以下を除くすべてのフィールドをクロール」フ ィールドを使用して、 クロールされるフィールドを制限することができます)。

不要なフィールドのクロールを最小限にとどめるには、検索フィールドにマップ されているフィールドを除くすべてのフィールドについて「**クロール**」チェッ ク・ボックスのチェックを外します。

# Lotus Domino ソースをクロールするための UNIX でのクローラ ー・サーバーの構成

IBM AIX、Linux、または Solaris オペレーティング環境が稼働するコンピューター に WebSphere II OmniFind Edition をインストールした場合で、 Notes リモート・ プロシージャー・コール (NRPC) プロトコルを使用するサーバーをクロールする予 定の場合、クローラー・サーバーを構成するスクリプトを実行する必要がありま す。そのスクリプトの実行によって、 Lotus Notes クローラー、QuickPlace クロー ラー、および Domino Document Manager クローラーがデータベース・サーバーと 通信できるようになります。

## 制約事項

Domino Server は、NRPC プロトコルを使用するよう構成された Lotus Notes クロ ーラー、OuickPlace クローラー、または Domino Document Manager クローラーと は、同じコンピューター上で同時に稼働できません。Domino Server が稼働中にこ れらのクローラーのいずれかを開始しようとすると、エラーが発生し、クローラー は停止します。

#### このタスクについて

NRPC プロトコルを使用するクローラーは、Domino ライブラリーをクライアント として使用します。これらのライブラリーは、クローラー・サーバーに Lotus

Ι

Ι

Domino Server バージョン 6.0.2 以降をインストールすることによってインストー ルされます。クローラーが Domino ライブラリーと連動できるようにするため、 Domino ライブラリーをインストールした後、WebSphere II OmniFind Edition によ って提供されているセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバー上で実行し てください。

### 手順

Lotus Notes サーバー、Lotus QuickPlace サーバー、および Domino Document Manager サーバーをクロールできるようにクローラー・サーバーを構成するには、 次のようにします。

- 1. クローラー・サーバー上にユーザー notes とグループ notes を作成します。
  - a. root ユーザーとしてログインします。

su - root

b. ユーザーを追加します。

useradd notes

c. このユーザーのパスワードを追加します。

passwd notes

パスワードを変更するようプロンプトが出されます。

- 2. クローラー・サーバーに Lotus Domino Server をインストールします。
  - a. Domino Server CD バージョン 6.0.2 以降を挿入し、マウントします。 (CD がない場合、イメージをダウンロードできます。)
  - b. ご使用のオペレーティング・システムに応じたフォルダーに移動します。

AIX: cd /mnt/cdrom/aix

Linux: cd /mnt/cdrom/linux Solaris: cd /mnt/cdrom/solaris

c. インストール・プログラムを開始します。

./install

d. プロンプトに応答し、デフォルト値を受け入れるか、希望するインストール 設定値 (インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーのパ スなど)を指定します。

Domino Server のインストールで不明な点があれば、Domino 資料を参照して ください。

- 3. クローラー・サーバー上で、WebSphere II OmniFind Edition によって提供され るセットアップ・スクリプトを実行します。
  - a. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします (このユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されたもので す)。
  - b. 以下のスクリプトを開始します。これは、\$ES\_INSTALL\_ROOT/bin ディレク トリーにインストールされています。

escrnote.sh

- c. プロンプトに応答します。
  - 次のプロンプトに対して、Domino Server がデフォルトのディレクトリー にインストールされている場合は Y、そうでない場合は N と応答します。

Lotus Notes ディレクトリー・パス /opt/lotus/notes/latest/linux が見つかりました。

これは正しい Lotus Notes ディレクトリー・パスですか?

AIX の場合のデフォルトのパスは /opt/lotus/notes/latest/ibmpow です。 Linux の場合のデフォルトのパスは /opt/lotus/notes/latest/linux です。 Solaris の場合のデフォルトのパスは /opt/lotus/notes/latest/sunspa です。

• Domino Server がクローラー・サーバー上のデフォルトのディレクトリー にインストールされていない場合、次のプロンプトに対して Domino がイ ンストールされている場所を指定します。

Lotus Notes ディレクトリーのパスを入力してください

例えば、Linux コンピューターで /opt/lotus/notes/latest/linux のよう に指定します。

• 次のプロンプトに対して、Domino Server データ・ディレクトリーがデフ ォルトのディレクトリーにインストールされている場合は Y、そうでない 場合は N と応答します。

Lotus Notes データ・ディレクトリー・パス /local/notesdata が見つかりました。 これは正しい Lotus Notes データ・ディレクトリー・パスですか?

デフォルトのパスは /local/notesdata です。

• Domino Server データ・ディレクトリーがクローラー・サーバートのデフ ォルトの場所にデプロイされていない場合、次のプロンプトに対して、 Domino データ・パスを指定します。

Lotus Notes データ・ディレクトリーのパスを入力してください。

4. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エ ンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。

esadmin stop stopccl.sh startccl.sh -bg esadmin start

# Lotus Domino ソースをクロールするための Windows でのクロ ーラー・サーバーの構成

Microsoft Windows コンピューターに WebSphere II OmniFind Edition をインストー ルした場合で、Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) プロトコルを使 用するサーバーをクロールする予定の場合、クローラー・サーバーを構成するスク リプトを実行する必要があります。そのスクリプトの実行によって、 Lotus Notes クローラー、QuickPlace クローラー、および Domino Document Manager クローラ ーがデータベース・サーバーと通信できるようになります。

#### 制約事項

Lotus Domino Server および Lotus Notes クライアントは、 NRPC プロトコルを使用するよう構成された Lotus Notes クローラー、QuickPlace クローラー、または Domino Document Manager クローラーとは、同じコンピューター上で同時に稼働できません。 Domino Server が稼働中にこれらのクローラーのいずれかを開始しようとすると、エラーが発生し、クローラーは停止します。

#### このタスクについて

NRPC プロトコルを使用するクローラーは、Lotus Notes クライアント・ライブラリーを使用します。これらのライブラリーは、クローラー・サーバーに Lotus Notes リリース 6.0.2 以降をインストールすることによってインストールされます。クローラーが Lotus Notes クライアント・ライブラリーと連動できるようにするため、Lotus Notes クライアントをインストールした後、WebSphere II OmniFind Edition によって提供されているセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバー上で実行してください。

### 手順

Lotus Notes サーバー、Lotus QuickPlace サーバー、および Domino Document Manager サーバーをクロールできるようにクローラー・サーバーを構成するには、次のようにします。

- 1. クローラー・サーバー上で、管理者グループのメンバーであるユーザー ID でログインします。 このユーザー ID に Lotus Notes をインストールする権限があることを確認してください。
- 2. Lotus Notes をインストールします。
  - a. Lotus Notes CD リリース 6.0.2 以降を挿入します。 (CD がない場合、イメージをダウンロードできます。)
  - b. インストール・プログラム setup.exe を開始します。
  - c. プロンプトに応答し、デフォルト値を受け入れるか、希望するインストール 設定値 (インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーのパス など) を指定します。

不明な点があれば、Lotus Notes 資料を参照してください。

- 3. クローラー・サーバー上で、WebSphere II OmniFind Edition によって提供されるセットアップ・スクリプトを実行します。
  - a. エンタープライズ・サーチ管理者 ID でログインします (このユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです)。
  - b. 以下のスクリプトを開始します。これは、%ES\_INSTALL\_ROOT%¥bin ディレクトリーにインストールされています。

### escrnote.vbs

- c. プロンプトに応答します。
  - 次のプロンプトに対して、Lotus Notes がデフォルトのディレクトリーにインストールされている場合は Y、そうでない場合は N と応答します。

Lotus Notes ディレクトリー・パス c:¥lotus¥notes が見つかりました。これは正しい Lotus Notes ディレクトリー・パスですか?

Ι

Windows コンピューターでの標準的なインストール・パスは、 c:¥lotus¥notes または c:¥lotus¥domino です。

• Lotus Notes がクローラー・サーバー上のデフォルトのディレクトリーにイ ンストールされていない場合、次のプロンプトに対して Lotus Notes がイ ンストールされている場所を指定します。

Lotus Notes ディレクトリーのパスを入力してください

• 次のプロンプトに対して、Lotus Notes データ・ディレクトリーがデフォル トの場所にデプロイされている場合は Y、そうでない場合は N と応答しま

Lotus Notes データ・ディレクトリー・パス c:¥lotus¥notes¥data が見つかりました。 これは正しい Lotus Notes データ・ディレクトリー・パスですか?

Windows コンピューターでの標準的なパスは、c:¥lotus¥notes¥data また は c:¥lotus¥domino¥data です。

• Lotus Notes データ・ディレクトリーがクローラー・サーバー上のデフォル トの場所にデプロイされていない場合、次のプロンプトに対して、デー タ・ディレクトリー・パスを指定します。

Lotus Notes データ・ディレクトリーのパスを入力してください。

- 4. エンタープライズ・サーチ共通通信層 (CCL) のすべてのセッションを含め、エ ンタープライズ・サーチ・システムを停止して再始動します。
  - a. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・シス テムを停止します。

esadmin stop

- b. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択し て、IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始 動します。
- c. コマンド・プロンプトで、次のようにしてエンタープライズ・サーチ・シス テムを始動します。

esadmin start

# DIIOP プロトコルを使用するサーバーの構成

Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) を使用するサーバーをクロールするに は、Lotus Notes クローラー、QuickPlace クローラー、および Domino Document Manager クローラーがこのプロトコルを使用できるようにサーバーを構成する必要 があります。

### 始める前に

クロールしたいサーバーは、DIIOP タスクおよび HTTP タスクを実行中でなければ なりません。

#### 手順

DIIOP プロトコルを使用するサーバーを構成するには、次のようにします。

1. サーバー文書を構成します。

1

ı

1

ı

1

ı

- a. クロールしたい Lotus Notes サーバー、Lotus QuickPlace サーバー、または Domino Document Manager サーバー上の server 文書を開きます。 この文書 は、Domino ディレクトリーに格納されています。
- b. 「構成」ページで、「**サーバー**」セクションを拡張します。
- c. 「セキュリティー」ページの「プログラマビリティー制約事項」領域の以下 のフィールドに、ご使用の環境に適したセキュリティー制約事項を指定しま す。
  - 制限された Lotus Script/Java エージェントの実行
  - 制限された Java/Javascript/COM の実行
  - 制限されない Java/Javascript/COM の実行

例えば、アスタリスク (\*) を指定して Lotus Script/Java エージェントによる 無制限のアクセスを許可し、Java/Javascript/COM 制約事項に対しては Domino ディレクトリーに登録済みのユーザー名を指定します。

重要: DIIOP プロトコルを使用するこのサーバーをクロールするために構成 するクローラーは、これらのフィールドに指定するユーザー名を使用で きなければなりません。

- d. 「インターネット・プロトコル」ページを開き、次に「HTTP」ページを開 き、「HTTP クライアントにデータベースの参照を許可する」オプションを 「はい」に設定します。
- 2. ユーザー文書を構成します。
  - a. クロールしたい Lotus Notes サーバー、Lotus QuickPlace サーバー、または Domino Document Manager サーバー上の user 文書を開きます。 この文書 は、Domino ディレクトリーに格納されています。
  - b. 「基本」ページの「**インターネット・パスワード**」フィールドに、パスワー ドを指定します。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用してこのサーバーのクロー ルについてのオプションを構成するときに、このユーザー ID とパスワード を、クロールするサーバーを指定するページで指定します。クローラーは、 これらの信用証明情報を使用してサーバーにアクセスします。

3. サーバーで DIIOP タスクを再始動します。

# Lotus Domino ソースをクロールするための AIX での I/O 完了 ポートの構成

Lotus Notes クローラー、QuickPlace クローラー、または Domino Document Manager クローラーを IBM AIX システム上で使用するには、その前に、I/O 完了 ポート (I/O completion port (IOCP)) モジュールをインストールし、このモジュール をクローラーが使用できるよう構成する必要があります。

### このタスクについて

IOCP モジュールがないと、クローラーを作成しようとしたときにディスカバリー処 理が失敗します。以下のエラー・メッセージが表示されます。

FFQM0105E サーバーからエラーを受け取りました -メッセージ: FFQG0024E 予期しない例外がキャッチされました: discover 以下のメッセージ (ENOEXEC エラーを含んでいます)が、 \$ES\_NODE\_ROOT/logs/system\_yyyymmdd.log ファイルに書き込まれます (読みやすく するために、一部のメッセージ・テキストは複数行に分けて記述してあります)。 5/20/05 18:08:52.423 JST [Error] [ES ERR EXCEPTION DEFAULT MESSAGE] [] [discovery] iies10.yamato.ibm.com:0:2108088751:control:ComponentDiscoveryW.java: com.ibm.es.control.discovery.server.ComponentDiscoveryW.discover:86 FFQ00277E 例外がキャッチされました。詳細 'java.lang.UnsatisfiedLinkError: /opt/lotus/notes/65010/ibmpow/liblsxbe\_r.a: load ENOEXEC on shared library(s) /opt/lotus/notes/latest/ibmpow/libnotes r.a' and a stack trace of 'java.lang.UnsatisfiedLinkError: /opt/lotus/notes/65010/ibmpow/liblsxbe\_r.a: load ENOEXEC on shared library(s) /opt/lotus/notes/latest/ibmpow/libnotes r.a at java.lang.ClassLoader\$NativeLibrary.load(Native Method) at java.lang.ClassLoader.loadLibraryO(ClassLoader.java:2120) at java.lang.ClassLoader.loadLibrary(ClassLoader.java:1998) at java.lang.Runtime.loadLibrary0(Runtime.java:824) at java.lang.System.loadLibrary(System.java:908) at lotus.domino.NotesThread.load(NotesThread.java:306) at lotus.domino.NotesThread.checkLoaded(NotesThread.java:327) at lotus.domino.NotesThread.sinitThread(NotesThread.java:181) at com.ibm.es.crawler.discovery.notes.NotesLibrary\$NotesOperation.discover (Unknown Source) at com.ibm.es.crawler.discovery.api.DiscoveryAPI.discover(Unknown Source) at com.ibm.es.control.discovery.server.ComponentDiscoveryW.discover (ComponentDiscoveryW.java:72) at sun.reflect.NativeMethodAccessorImpl.invoke0(Native Method) at sun.reflect.NativeMethodAccessorImpl.invoke(NativeMethodAccessorImpl.java:85) at sun.reflect.NativeMethodAccessorImpl.invoke(NativeMethodAccessorImpl.java:58) at sun.reflect.DelegatingMethodAccessorImpl.invoke (DelegatingMethodAccessorImpl.java:60) at java.lang.reflect.Method.invoke(Method.java:391) at com.ibm.es.ccl.sessionwrapper.CallThread.run(CallThread.java:77) 手順 IOCP モジュールをインストールし、それがクローラー・サーバー上に正しくインス トールされたことを確認するには、次のようにします。 1. AIX 製品 CD から IOCP モジュール (bos.iocp.rte) をクローラー・サーバーにイ ンストールします。 IOCP モジュールのインストールを完了したら、 Lotus Notes クローラー、 QuickPlace クローラー、または Domino Document Manager クローラーを作成す る前に、このモジュールのソフトウェア修正を適用します。以下のリンクで説明 を参照してください。 http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21086556 2. IOCP モジュールがクローラー・サーバーにインストールされたことを確認する ため、以下のコマンドを入力します。 \$ lslpp -l bos.iocp.rte 1slpp コマンドからの出力は、次の例に似たものです。 Fileset Level State Description Path: /usr/lib/objrepos bos.iocp.rte 5.2.0.10 COMMITTED I/O Completion Ports API Path: /etc/objrepos

bos.iocp.rte

5.2.0.10 COMMITTED I/O Completion Ports API

3. IOCP ポート状況が Available であることを確認するため、以下のコマンドを入 力します。 1 \$ 1sdev -Cc iocp lsdev コマンドからの出力は、次の例と一致するはずです。 iocp0 Available I/O Completion Ports 4. IOCP ポート状況が Defined である場合、次のようにして状況を Available に変 更します。 a. root としてクローラー・サーバーにログインし、以下のコマンドを発行しま す。 # smit iocp b. 「I/O 完了ポートの特性の変更/表示」を選択し、「システム再始動時に構成 される状態」を「定義済み」から「使用可能」に変更します。 c. クローラー・サーバーをリブートします。 d. もう一度 lsdev コマンドを入力し、IOCP ポート状況が Available に変わっ たことを確認します。 **| QuickPlace クローラー** Lotus QuickPlace のプレースおよびルームをエンタープライズ・サーチ・コレクシ ョンに入れる場合は、QuickPlace クローラーを構成する必要があります。 クローラー・サーバーの構成 Ι クロールする QuickPlace サーバーが Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) プロトコルを使用している場合は、クローラー・サーバーでスクリプトを実 行する必要があります。このスクリプトは、 WebSphere Information Integrator OmniFind Edition で提供されており、これによって、QuickPlace クローラーが NRPC を使用するサーバーと通信できるようになります。 クロールする QuickPlace サーバーが Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) を使用している場合、クローラー・サーバーでセットアップ・スクリプトを実行す

Ι

る必要はありません。ただし、 QuickPlace クローラーが QuickPlace サーバーにア クセスできるようにサーバーを構成する必要があります。

クロールする QuickPlace サーバーが Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーを使用している場合は、DIIOP プロトコルを使用するように QuickPlace サ ーバーを構成する必要があります (QuickPlace クローラーは NRPC プロトコルを使 用して LDAP データをクロールできません)。また、 Directory Assistance データベ ースを構成し、LDAP サーバーを 2 次 Lotus Domino Server として使用するように QuickPlace サーバーを構成する必要があります。

WebSphere II OmniFind Edition が IBM AIX システムにインストールされている場 合は、I/O 完了ポート・モジュールがクローラー・サーバーにインストールされて おり、使用可能であることを確認してください。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、QuickPlace クローラーを構 成する前に、ご使用の環境に該当するタスクを実行する必要があります。

- 68 ページの『Lotus Domino ソースをクロールするための UNIX でのクローラ ー・サーバーの構成』
- 70 ページの『Lotus Domino ソースをクロールするための Windows でのクロー ラー・サーバーの構成』
- 72 ページの『DIIOP プロトコルを使用するサーバーの構成』
- 77ページの『ローカル・ユーザー・セキュリティーを使用するための QuickPlace サーバーの構成』
- 78 ページの『QuickPlace での Directory Assistance の構成』
- 73 ページの『Lotus Domino ソースをクロールするための AIX での I/O 完了ポ ートの構成』

## 構成の概要

OuickPlace クローラーを使用して、任意の数の OuickPlace プレースをクロールする ことができます。クローラーを作成する際に、単一の QuickPlace サーバーからクロ ールするプレースを選択します。後でクロール・スペースを編集して、同じクロー ル・スペースに別の OuickPlace サーバーから文書を追加できます。 クローラーを 作成または編集する際に、クロール対象として選択したプレース内のすべてのルー ムをクロールするか、または、特定のルームをクロールするかを指定できます。

OuickPlace クローラーを作成または変更する場合は、エンタープライズ・サーチ管 理コンソールにログインします。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管 理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管 理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指 定します。クローラーのプロパティーで、クローラーがクロール・スペース内の すべての文書をクロールする方法を制御します。
- QuickPlace サーバーおよび通信プロトコルを識別します。
- サーバーに関連したユーザー・ディレクトリーに関する情報を指定します (クロ ーラーはこの情報を必要とするので、ユーザーがコレクションを検索する際にア クセス制御が行われます)。
- クロールするプレースを選択します。
- プレースをクロールするスケジュールを設定します。
- クロールする文書を選択します。クローラーは、プレース内のすべてのルームを クロールできるか、またはユーザーが選択したルーム内の特定の文書のみをクロ ールすることができます。
- ・ さまざまなプレースおよびルームのフィールドを検索可能にするオプションを指 定します。例えば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、添 付ファイル検索のオプションを指定したりすることができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ

ーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに 基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

また、ユーザーが照会をサブミットするときにユーザーの信用証明情報を検証す るオプションを選択することもできます。この場合、システムは、ユーザーの信 用証明情報を索引付きセキュリティー・データではなく、元のデータ・ソースで 維持されている現行のアクセス制御リストと比較します。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関 する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示さ れます。

# ローカル・ユーザー・セキュリティーを使用するための QuickPlace サーバーの構成

ローカル・ユーザー・オプションを使用してセキュリティーをインプリメントする ように OuickPlace クローラーを構成する予定の場合、クローラーを作成する前に、 Lotus QuickPlace サーバー上に Domino Directory を構成する必要があります。

## このタスクについて

1

Ι

1

Ι

Ι

Ι

Ι

Ι

Ι

Ι

QuickPlace クローラーを構成するときに、文書レベル・セキュリティーを施行する ために使用するクローラーのセキュリティー・モードを選択します。「ローカル・ ユーザー」モードを選択する場合、すべてのローカル・ユーザー ID およびローカ ル・グループが Domino Directory (Domino Directory 階層は QuickPlace 階層に対応 していなければなりません)に登録されていることを確認する必要があります。

また、クローラーが使用するよう指定するユーザー ID とパスワードが Domino Directory に登録されていて、クロール対象データベースの読み取り許可があること も確認する必要があります。

QuickPlace を使用するには、ユーザー名のみが必要です。しかし、QuickPlace ソー スをクロールするには、完全に展開されたユーザー ID が必要です。展開されたユ ーザー ID のフォーマットは次のとおりです。

username/placename/QP/domainname

この手順を使用して、完全に展開されたバージョンのユーザー ID を決定し、この ユーザー ID が QuickPlace データベースの読み取りを認可されていることを確認 し、ユーザー ID を Domino Directory に追加します。 Domino Directory には、 QuickPlace データベースのクロールに使用されるユーザー ID と、すべての OuickPlace ローカル・ユーザーおよびグループが含まれている必要があります (Domino Directory 階層は QuickPlace 階層に対応していなければなりません)。

#### 手順

ローカル・ユーザー・セキュリティーを使用するために QuickPlace サーバーを構成 するには、次のようにします。

- 1. ユーザー ID 許可を確認します。
  - a. QuickPlace サーバーで Server 文書を開きます。

I			
i			
ı			
i			
I			
•			
I			
I			
ĺ			
I			
I			
'			
I			
I			
ı			
ı			
' 			
1			

- b. 「ファイル」ページを開き、クロールするデータベースのアクセス制御リス ト (ACL) を開きます。
- c. クローラーが使用するよう構成するローカル・ユーザー ID が ACL に存在 することと、このユーザー ID がデータベースの読み取り許可を持っている ことを確認します。

このユーザー ID は、ステップ 2 に説明がある完全に展開された形式で指定 する必要があります。

- 2. ユーザーを Domino Directory に追加します。
  - a. OuickPlace サーバーで Server 文書を開きます。
  - b. 「ユーザーとグループ」ページのユーザー・ツリー項目に、ステップ 1 で確 認した、完全に展開されたユーザー ID を追加します。
  - c. 「**インターネット・パスワード**」フィールドに、このユーザー ID のパスワ ードを指定します。

# QuickPlace での Directory Assistance の構成

LDAP ディレクトリーを使用してセキュリティーをインプリメントするように QuickPlace クローラーを構成する予定の場合、クローラーを作成する前に、Lotus OuickPlace サーバー上に Directory Assistance データベースを作成する必要がありま す。

### 制約事項

クロール対象にする OuickPlace サーバーは、DIIOP タスクおよび HTTP タスクを 実行中でなければなりません。

#### 手順

QuickPlace サーバー上に LDAP Directory Assistance を構成するには、次のように します。

- 1. Directory Assistance データベースを作成します。
  - a. QuickPlace サーバーで Server 文書を開きます。
  - b. **Directory Assistance(6)** テンプレートを使用してデータベースを作成します。 このテンプレートは、サーバー上にあります。
  - c. データベース内に文書を作成するため「Directory Assistance の追加」をクリ ックします。
  - d. 「基本」タブを開き、「DomainType」フィールドで「LDAP」を選択しま
  - e. 「命名コンテキスト」タブを開き、「信用証明情報に対してトラステッド」 チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
  - f. 「LDAP」タブで LDAP サーバーに関する情報を指定します。
  - g. Server 文書を保管してクローズします。
- 2. 次のように、Directory Assistance データベースを使用するための QuickPlace サ ーバーの構成を行います。
  - a. QuickPlace サーバーで Server 文書を開きます。

- b. 「基本」タブを開き、「Directory Assistance データベース名」フィールド に、ステップ1で作成したデータベースの名前を指定します。
- c. Server 文書を保管してクローズします。

これで、OuickPlace サーバーは、2 次 Domino ディレクトリーとして LDAP サーバーを使用できるようになります。

# UNIX ファイル・システム・クローラー

I

UNIX ファイル・システムに保管されている文書をエンタープライズ・サーチ・コ レクションに入れる場合は、UNIX ファイル・システム・クローラーを構成する必 要があります。

UNIX ファイル・システム・クローラーを使用して、任意の数の UNIX ファイル・ システムをクロールすることができます。クローラーの構成時に、クロールするロ ーカルおよびリモートのディレクトリー、サブディレクトリーを選択します。

Windows コンピューターにクローラー・サーバーをインストールした場合、そのサ ーバーを使用して UNIX ファイル・システム・ソースをクロールすることはできま せん (UNIX ファイル・システム・クローラーは、選択可能なクローラー・タイプ のリストに表示されません)。

UNIX ファイル・システム・クローラーを作成または変更する場合は、エンタープ ライズ・サーチ管理コンソールにログインします。この場合、操作者はエンタープ ライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクション のコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指 定します。クローラーのプロパティーは、クローラーによるクロール・スペース 内のすべてのサブディレクトリーに対するクロールを制御します。
- ファイル・システムをクロールするスケジュールを設定します。
- クローラーがクロールするサブディレクトリー、サブディレクトリーのレベルを 選択します。
- サブディレクトリー内の文書を検索可能にするときのオプションを指定します。 例えば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外することができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ ーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに 基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関 する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示さ れます。

## Web クローラー

Web サイトのページをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合は、 Web クローラーを構成する必要があります。

Web クローラーを使用すれば、任意の数の HTTP サーバーおよびセキュア HTTP (HTTPS) サーバーをクロールすることができます。クローラーが Web サイトにア クセスし、サイト上のデータを読み取ります。その後、文書内のリンクをたどって 他の文書をクロールします。Web クローラーは、個々のページあるいはフレームセ ット (HTML フレームを使用して作成されたページ) のリンクをクロールして、抜 き出すことができます。

クロールされたデータは、フォーマットもソースも様々です。一般的に使用される フォーマットは数多くありますし、イントラネットまたはインターネットの様々な ところから取得されます。一般的なフォーマットには、HTML、PDF、Microsoft Word、Lotus WordPro、 Extensible Markup Language (XML) などがあります。

Web クローラーを作成または変更する場合は、エンタープライズ・サーチ管理コン ソールにログインします。また、この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管 理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管 理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指 定します。クローラーのプロパティーは、クローラーによるクロール・スペース 内の全 Web ページに対するクロールを制御します。
- Web サイトへのアクセスを許可または禁止するための規則を指定します。クロー ル規則を指定する場合、規則をテストして、ユーザーがクロール・スペースに入 れたいサイトにクローラーがアクセスできるかどうか検証することができます。
- 特定のタイプのファイルを含めるためのオプション、および特定のファイル拡張 子を持つファイルを除外するためのオプションを指定します。
- Web クローラーがソフト・エラーのページを処理するための規則を指定します。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ ーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに 基づいたアクセス制御を実行できるようになります。
- パスワード保護された Web サイトをクロールする場合のオプションを指定しま す (クロール対象の Web サーバーは HTTP 基本認証、またはパスワード入力の プロンプトを出す HTML フォームを使用する必要があります)。
- プロキシー・サーバーによってサービスされている Web サイトをクロールする ためのオプションを指定します。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関 する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示さ れます。

# ユーザー・エージェントの構成

Web クローラーは、ロボット排他プロトコルに従います。このプロトコルを使用す る Web サイトをクロールするには、その Web サイト上の robots.txt ファイルで、 Web クローラー用に設定したユーザー・エージェント名が Web サイトへのアクセ スを許可されるようにしてください。

エンタープライズ・サーチ・システムが開始されると、Web クローラーは、構成さ れたユーザー・エージェント名をロードします。クローラーが、まだ訪れたことの ない (あるいは、しばらく訪れていない) Web サイトからページをダウンロードす る前に、クローラーは、まず robots.txt というファイルをダウンロードしようとし ます。このファイルは、Web サイトのルート・ディレクトリーにあります。

robots.txt ファイルがない場合、その Web サイトは、制限なくクロールできるよう に公開されます。このファイルがある場合、それは、サイト (ディレクトリー) のど の領域がクローラーの立ち入り禁止になっているかを明示します。 robots.txt ファ イルは、ユーザー・エージェント名を特定してクローラーに許可を出します。

Robots Exclusion プロトコルは、任意のものですが、エンタープライズ・サーチ Web クローラーはこれに従います。

- robots.txt ファイルに、Web クローラー用に設定されたユーザー・エージェント名 の項目が含まれている場合、Web クローラーはそのユーザー・エージェント上 の制約に従います。
- ユーザー・エージェント名が robots.txt ファイルになく、最後の項目が User-agent: \*(任意のユーザー・エージェントを意味する)と指定されていて、 その制約が Disallow: / (この Web サイトのルートを起点とするいかなるクロ ールも許可しないことを意味する)になっている場合、Web クローラーはそのサ イトのクロールができません。
- ユーザー・エージェント名が robots.txt ファイルになく、最後の項目が User-agent: \* と指定されていて、その制約が Allow: / になっている場合は、 Web クローラーはそのサイトをクロールすることができます。

Web サイト管理者は、明示的にアクセスを認可されていないすべてのクローラーに 対してアクセスを禁止する最後の項目を指定することがよくあります。新規に Web クローラーを構成するとき、クロール対象の Web サイトの一部で Robots Exclusion プロトコルを使用していることがわかっている場合は、 Web サイト管理者に依頼 して、クローラーの項目をその robots.txt ファイルに追加してもらってくださ 61

Web クローラーのプロパティーと対象とする Web サイトに含まれるすべての robots.txt ファイルに同じユーザー・エージェント名が指定されていることを確認し てください。

クロール予定の Web サイトのいずれも Robots Exclusion プロトコルを使用してい ない場合は、ユーザー・エージェント・プロパティーに指定する値は通常、何でも かまいません。ただし、一部のアプリケーション・サーバー、JSP、およびサーブレ ットでは、ユーザー・エージェント名に対応するように調整しています。例えば、 ブラウザーの非互換性に対処するために異なる応答が用意されています。このよう な場合は、Robots Exclusion プロトコルの使用に関係なく Web クローラーに指定し たユーザー・エージェント名が重要になります。 このタイプのサイトをクロールす る必要がある場合は、 Web サイト管理者に相談して Web クローラーのアクセスが 許可されるようにしてください。

# JavaScript のサポート

エンタープライズ・サーチの Web クローラーが、 Web 文書の JavaScript<sup>™</sup> 部分に 含まれているリンク (URL) を検出する場合があります。

Web クローラーは、相対リンクと絶対リンクの両方を検出できます。HTML 文書に BASE エレメントが含まれている場合、クローラーはそのエレメントを使用して相 対リンクを解決します。そうでない場合は、クローラーは、文書固有の URL を使 用します。

JavaScript のサポートはリンク抽出に限定されています。クローラーは JavaScript の構文解析、 DOM (Document Object Model) の構築、および、JavaScript ステート メントの解釈や実行は行いません。 クローラーは JavaScript ステートメントの URL である可能性の高いストリングを文書コンテンツ (JavaScript 部分を含むがそ れに限定しない)で検索します。これは2つのことを意味しています。

- 一部の URL は検出されても、厳しい HTML パーサーでは無視されます。クロ ーラーは、構文的に有効でない URL はすべて拒否しますが、スキャンのステッ プで戻される有効な URL の中には、検索にあまり重要でないものがあります。
- 人がブラウザーでページを表示させて、そのブラウザーが JavaScript を実行する ときなどに JavaScript によって生成される文書コンテンツは、Web クローラーで は見ることができず、したがって、索引付けもされません。

# Web クロール・スペースを制限する規則

ユーザーが、検索を許可されている Web サイトのみにアクセスするように、 Web クローラーのクロール対象を制限する規則を指定します。

Web クローラーが Web ページをクロールするときに他のページへのリンクをディ スカバーすると、それらのリンクを次にクロールされるようにキューに入れます。 このクロールとディスカバリーは、時間とメモリー・リソースが許す限り繰り返し て行われます。Web クローラーを構成する場合、クローラーがクロールを開始する 場所を指定します。Web クローラーは、この初期 URL (開始 URL といいます)か ら始めて、直接または間接的に接続されている Web 上のあらゆる文書に到達でき ます。

クロール・スペースを制限するには、Web クローラーを構成するときに特定の URL は完全にクロールし、関心がある領域外を示すリンクは無視するように設定し ます。デフォルトではクローラーは、ディスカバーしたすべての URL を受け付け るようになっているため、コレクションに入れる URL を指定し、それ以外のペー ジは除外する規則を指定する必要があります。

Web クローラーにクロール対象とクロールから除外する対象を指定するには、いく つかの方法があります。次のような指定を行うことができます。

- クローラーがクロールを開始する開始 URL のリスト
- 3 種類のクロール規則 (ドメイン、IP アドレス、URL 接頭部)
- クロール対象の文書を指定する MIME タイプのリスト

- 除外対象の文書を指定するファイル拡張子のリスト
- 1 つの URL パスに許容される最大ディレクトリー数

クロール規則は、次の書式で指定します。

action type target

action は forbid または allow、type はドメイン (domain)、IP アドレス (IP address)、または URL 接頭部 (HTTP または HTTPS) で、target は type の値に よって異なります。パターンに一致するターゲットの指定には、ワイルドカード文 字としてアスタリスク(\*)を指定できますが、その使用は限定的になります。

## ドメイン規則

ドメイン規則のターゲットは DNS ドメイン・ネームです。例えば、www.ibm.com ドメイン全体をクロール対象にする場合、次のように指定します。

allow domain www.ibm.com

ターゲットの最初の文字は、アスタリスクでもかまいません。その場合、ホスト名 の末尾が後半部分のパターンに一致するあらゆるホスト名がこの規則に該当するこ とになります。例えば、次のパターンに一致するすべてのドメインをクロール対象 から除外する場合、次のように指定します。

forbid domain \*.ibm.com

ホスト名の突き合わせでは、具体的なドメイン・ネームを明示して指定した場合で も、ドメイン・ネームのパターンを指定した場合でも大/小文字は区別されます。例 えば、「\*.user.ibm.com」と指定すると、「joe.user.ibm.com」および

「mary.smith.user.ibm.com」は一致となりますが、「joe.user.IBM.com」は一致と なりません。

ポート番号を指定しないドメイン規則は、そのドメイン上のすべてのポートに適用 されます。以下の例では、sales ドメインのすべてのポートが許可されます。

allow domain sales.ibm.com

ドメイン規則でポート番号を指定する場合、その規則はそのポートのみに適用され ます。以下の例では、 sales ドメインのポート 443 のみ許可されます。

allow domain sales.ibm.com:443

## 接頭部規則

接頭部規則は、指定されたストリングで始まる URL のクロールを制御します。タ ーゲットは、単独の URL で、通常、1 つ以上アスタリスクを入れてパターンを指 定します。例えば、よくある方法として、接頭部ストリングの末尾文字にアスタリ スクを指定します。

接頭部規則を使用すれば、Web サイトのすべて、または一部をクロールすることが できます。ディレクトリー・パスかパターンを指定し、ディレクトリー・ツリーの それ以降のすべてを対象として、クロールを許可または禁止します。例えば、次の 2 つの規則では、sales.ibm.com の public ディレクトリーのすべてのコンテンツをク ローラーのクロール対象とし、そのサイトの他のすべてのページについてはアクセ スを禁止します。

allow prefix http://sales.ibm.com/public/\*
forbid prefix http://sales.ibm.com/\*

接頭部規則を指定する場合、アスタリスクは複数指定が可能で、末尾に限らず接頭部ストリングの任意の位置に指定できます。例えば、次の規則では、 sales.ibm.comサイトでディレクトリー名の末尾が fs の最上位ディレクトリーの文書を、クローラーがクロールするのを禁止します。(検索索引で有用な情報がないファイル・システム・マウントなどの場合が考えられます。)

forbid http://sales.ibm.com/\*fs/\*

## アドレス規則

アドレス規則は、ターゲットとして IP アドレス (IPv4 のみ) とネットマスクを指定することにより、ホストまたはネットワーク全体のクロールを制御します。例えば、次のように指定します。

allow address 9.0.0.0 255.0.0.0

ネットマスクを使用するとパターン・マッチングを指定できます。アドレス規則を候補となる IP アドレスに適用するには、規則の IP アドレスと候補 IP アドレスが、ネットマスクでゼロで隠されている部分を除き、同一でなければなりません。アドレス規則はパターンを定義し、ネットマスクはアドレス・パターン中の有意のビット部分を定義します。ネットマスク中のゼロは、ワイルドカードのような働きをし、アドレス内でゼロと同じビット位置にある値はすべて一致すると見なされます。

上記の例の allow 規則は、最初のオクテットが 9 で末尾の 3 つのオクテットが任意の値のすべての IP アドレスに適合します。

規則リストの最後に入れるアドレス規則として、「forbid address 0.0.0.0 0.0.0.0」を入れておくと便利です。この規則は、ネットマスクの全ビットを有意でないビットとしているため、あらゆる IP アドレスが一致となります (この規則では、規則リストでこの前のすべての規則で許可されていないすべてのアドレスを禁止することになります)。

プロキシー・サーバーに対する制限: プロキシー・サーバーによってサービスされ

ている Web サイトをクロールする場合は、IP アドレス規則を指定しないでください。プロキシー・サーバーは、通常、ユーザー・エージェント (ブラウザーまたはクローラー) が、Web サーバーがあるネットワークに対して直接アクセス権限を持っていない場合に使用されます。例えば、HTTP プロキシー・サーバーは、HTTP 要求をクローラーから Web サーバーに中継し、それに対する応答をクローラーに送信することができます。

Web クローラーがプロキシー・サーバーを使用する場合、プロキシー・サーバーの IP アドレスは、クローラーが別のホスト用に持っている唯一の IP アドレスです。 IP アドレス規

則が、クローラーを IP アドレスのサブネット に制約するために使用される場合、制約によ ってほとんどすべての URL が戻りコード 760 に分類されます (この戻りコードは、URL が Web スペースによって禁止されていること を示します)。

### クロール規則の順序

クローラーは、URL のディスカバーおよびクロール処理中、クロール規則を何度も 適用します。規則の順序は重要ですが、それは同タイプの規則に限られます。ある アドレス規則が別のアドレス規則の前に来るか、後ろに来るかでは意味が違います が、あるアドレス規則が別の接頭部規則の前に来るか、後ろに来るかでは意味の違 いはありません。クローラーがこの 2 つの規則を同時に適用することはないからで す。

同タイプの規則セット内については、クローラーは候補ドメイン、アドレス、また は URL を最初に指定した規則から順次最後の規則まで適合する規則が見つかるま で1つずつテストします。適合する最初の規則に指定された処置が使用されます。

順序に依存しているため、多くのクロール規則は以下のような典型的構成になりま す。

- ドメイン規則のセットは、通常、クロール・スペースから単独のドメインを除外 する forbid 規則を先に置きます。例えば、コレクション管理者は、有用な情報が ないドメインをここで除外指定します。
- forbid 規則のリストの後には、通常、ワイルドカード文字を入れた一連の allow 規則を設定し、これによって、エンタープライズ・イントラネットを定義する上 位レベルのドメイン・ネームが末尾に来る任意のドメイン (\*.ibm.com、\*.lotus.com など) をクローラーがアクセスできるようにします。

ドメイン規則のセットの最後に次のデフォルト規則を入れ、それより前の規則で 許可されなかったドメインをクロール対象から除外します。

forbid domain \*

この最後の規則は、クロール・スペースにインターネット全体が入らないように するため、重要です。

• アドレス規則のセットは、通常、少数の allow 規則が先頭に置かれ、これによっ てクローラーがエンタープライズ・イントラネットにわたる上位レベル (クラス A、クラス B、またはクラス C) のネットワークをクロールできるようにしま す。

アドレス規則の最後は、通常、次の規則が置かれ、これによってクローラーが企 業ネットワーク外の Web サイトをクロールしないようにします。

forbid 0.0.0.0 0.0.0.0

• 通常、接頭部規則のセットは、ツリーまたはサブツリーで許可および禁止指定さ れる領域が詳細にその都度指定されるため、この規則セットが一番大きなセット になります。よい方法としては、まず、より特定化された領域を許可または禁止 し、それから逆に一般的なパターンでその他すべての領域を許可または禁止しま す。

接頭部セクションの最後は、通常の規則とは異なります。ドメイン規則およびアドレス規則について推奨される最終規則を使用すれば、URL の接頭部をテストするよりも効率的に、クローラーがエンタープライズ・ネットワークを超えてクロールしないようにすることができます。

接頭部規則の場合、処置 (forbid または allow) 別に規則をまとめるほうが、クローラーはより効率的に処理を行うことができます。例えば、allow および forbid 規則を交互に短い指定で並べるよりも、片方の処置を規定する規則を長く並べ、それから他方の処置を規定する規則を同様に長く並べるようにします。allow 規則と forbid 規則を混在させるようにしても目的のクロール・スペースを作成することはできますが、allow 規則と forbid 規則をそれぞれひとまとめにしたほうが、クローラーのパフォーマンスは良くなります。

## ファイル拡張子、MIME タイプ、およびクロールの最大の深さ

これらのオプションを使用すれば、クロール・スペースの内容をさらに詳細に指定することができます。特定タイプの文書を文書のファイル拡張子に基づいて除外したり、文書の MIME タイプを基に特定タイプの文書を組み入れたりすることができます。クローラーにクロールさせる MIME タイプを指定する場合、 Web 文書では MIME タイプが誤って設定されていることが多いので注意してください。

クロールの最大の深さは、サイト・ルートから数えた URL 内のスラッシュ数で表されます。このオプションを使用すると、クローラーが深さが無限の再帰的なファイル・システム構造にはまり込むのを防ぐことができます。クロールの深さは、クローラーがある文書から別の文書にリンクをトラバースする時のレベル数とは一致しません。

### 開始 URL

開始 URL は、クローラーがクロールを開始する URL のことを指し、クローラーが開始されるたびにこの URL がクロール対象となります。開始 URL がすでにディスカバーされた場合は、その URL がクロール規則で許可された他の Web サイトよりも早くクロールまたは再クロールされることはありません。

開始 URL は Web クローラーが初めて始動され、クロール・スペースが空の場合に重要です。また、まだディスカバーされていなかった開始 URL をクロール・スペースの開始 URL のリストに追加するときにも重要となります。

開始 URL にはドメイン・ネームだけでなく完全修飾 URL を指定する必要があります。プロトコル、およびポートが 80 でない場合は、ポート番号も指定してください。

以下に、有効な開始 URL の例を示します。

http://w3.ibm.com/ http://sales.ibm.com:9080/

以下の URL は無効な開始 URL です。

www.ibm.com

また、開始 URL をクロール規則に入れる必要があります。例えば、クロール規則で開始 URL をクロール対象として許可していなければ、クローラーは指定された

開始 URL でクロールを開始することができなくなります。

# Web クローラーとの URL 接続のテスト

Ι

Т

1

Web クローラーがクロールする URL を指定したら、クロール規則の構成をテスト できます。

テスト結果により、クローラーのプロパティーに指定されているユーザー・エージ ェント名を使用して、クローラーが URL にアクセスできるかどうかが示されま す。また、テスト結果により、 URL が排他規則によりクロールできないかどうか も示されます (例えば、クロール・スペースから除外されている拡張子に一致する ファイル拡張子を持つ文書はクロールされません)。

サイトが少なくとも 1 度クロールされた後、URL をテストして、追加情報を入手 できます。例えば、テスト・レポートにより、最新の HTTP 戻りコード (URL の クロールが正常に行われたかどうかを示します)、URL の最終クロール日時、再ク ロールがスケジュールされている日時、ユーザー・エージェントが Web サーバー の現行の robots.txt ファイルを使用しているかどうか、などが示されます。

# Web クローラーにおける再クロール間隔の設定

Web クローラーが URL に再アクセスする頻度を調整するには、Web クローラーの プロパティーのオプションを指定します。

エンタープライズ・サーチ・システムの他のほとんどのクローラー・タイプの場 合、管理者が指定したスケジュールに従ってクロールが実行されます。これに対し て、Web クローラーの場合、通常、開始されると連続して実行されます。前にクロ ールした URL に再アクセスする頻度を調節するには、最大および最小再クロール 間隔を指定します。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して Web クローラーを作成す る、または Web クローラーのプロパティーを編集するときに、拡張プロパティー を構成するオプションを選択できます。最大および最小再クロール間隔は、この 「Web クローラーの拡張プロパティー」ページで指定します。Web クローラーは、 指定したこの値を使用して、データの再クロール間隔を計算します。

あるページが最初にクロールされると、クローラーはそのページがクロールされた 日時と指定された最大と最小再クロール間隔の平均値を使用して、再クロール日付 を設定します。そのページはその日付までは再クロールされません。その日付以 後、そのページが再クロールされる実際の日時は、クローラー負荷とクロール・ス ペース内の新旧の URL のバランスによって異なります。

毎回、そのページが再クロールされるごとに、クローラーはその内容に変更がない か確認します。内容に変更がある場合、次の再クロール間隔は前回よりも短くなり ますが、指定された最小再クロール間隔よりも短くなることはありません。内容に 変更がない場合、次の再クロール間隔は前回よりも長くなりますが、指定された最 大再クロール間隔よりも長くなることはありません。

# Web クローラーにおける URL アクセスのオプション

Web クローラーには、特定の URL をできる限り早くアクセスするように強制する ことができます。

特定の Web サイトの情報でクロール・スペースをリフレッシュする必要がある場 合、クローラーをモニターし、「**アクセスまたは再アクセスする URL**」オプション を選択して、クロールまたは再クロールする必要があるページの URL または URL パターンを指定します。

例えば、企業の情報通信部門がイントラネットにある Web ページを追加する、ま たは重要な方針変更があったため、それを反映するようにページを改訂する場合、 その新規、または変更済みのページの URL を指定します。クローラーが実行中の 場合、クローラーは指定された URL を次にクロールするようにキューに入れ、ア クセスを待機しているページがないかその URL を確認します (通常 10 分ごと)。 クローラーが実行されていない場合は、クローラーは指定された URL をキューに 入れ、クローラーが次回開始されたときにクロールできるようにします。

クロール規則の中に、指定した URL のアクセスをクローラーに許可する規則が必 ず含まれるようにしてください。クローラーは、指定した URL には通常より早く アクセスできますが、前提としてすべてのクロール対象の URL は、その URL の クロールを許可するクロール規則がなければなりません。

新規にクロールされたデータは、次回索引が再編成またはリフレッシュされた時点 で検索可能になります。

# Web クローラーがソフト・エラーのページを処理する方法

特定ページ要求の返答に標準的なエラー・コードを返したくない場合に、 Web サ イト管理者が作成したカスタム・ページを処理する Web クローラーを構成するこ とができます。

HTTP サーバーが、クライアントが要求したページを返すことができない場合、サ ーバーは、通常、ヘッダーから成る応答に戻りコードを付けて返します。 戻りコー ドで、何が問題であるかを示します (例えば、ファイルが見つからなかったことを 表すエラー 404 など)。Web サイト管理者によっては、問題をより詳細に説明する 特別なページを作成し、代わりにそのページを戻すように HTTP サーバーを構成し ます。こうしたカスタム・ページは、ソフト・エラー・ページと呼ばれます。

ソフト・エラー・ページは、Web クローラーの結果をゆがめることがあります。例 えば、クローラーは、問題を表すヘッダーを受け取る代わりに、ソフト・エラー・ ページと戻りコード 200 (有効な HTML ページの正常なダウンロードを表す) を受 け取ることがあります。しかし、ダウンロードされるこのソフト・エラー・ページ は要求された URL には関連せず、その内容は、要求されたページの代わりに戻さ れるときは毎度、ほとんど同じです。関連のない、ほとんど重複しているこれらの ページが、索引および検索結果をゆがめます。

この状況に対応するために、Web クローラーの構成時にソフト・エラー・ページの 処理オプションを指定することができます。 Web クローラーは、ソフト・エラ ー・ページを返す各 Web サイトについて以下の情報を必要とします。

• ソフト・エラー・ページを使用するサイトの URL パターン。この URL パター ンは、プロトコル (HTTP または HTTPS)、ホスト名、ポート番号 (標準でない場 合)、およびパス名で構成されます。パターンには、ワイルドカード文字としてア

スタリスク(\*)を使用することができ、非ワイルドカード文字が次に現れる位置 までの 1 字以上の文字とマッチングさせることができます。指定するパターン は、大/小文字を区別します。

- HTML 文書の <TITLE> タグに対応するテキストのタイトル・パターン。このパ ターンの指定には、ワイルドカード文字としてアスタリスク (\*) を使用できま す。指定するパターンは、大/小文字を区別します。
- HTML 文書のコンテンツに対応するテキストのコンテンツ・パターン。 <BODY> タグがある場合、コンテンツは、単に <BODY> タグの内容だけではあ りません。 コンテンツは、ファイルの HTTP ヘッダーの後にあるすべてです。 このパターンの指定には、ワイルドカード文字としてアスタリスク(\*)を使用で きます。指定するパターンは、大/小文字を区別します。
- 指定した URL、タイトル、およびコンテンツ・パターンと一致する文書に使用す る戻りコードを表す整数。

#### 例

以下の構成は、Web クローラーに、 http://www.mysite.com/hr/\* Web サイトから 戻される、すべての有効な HTML ページ (戻りコード 200) を、指定されたタイト ルおよびコンテンツ・パターンと比較するように指示します。ページの <TITLE> タグが、「Sorry, the page」で始まっていて、文書のコンテンツに任意の文字 (\*) が 含まれている場合には、クローラーはそのページを、戻りコード 404 を返す (ペー ジが見つからなかった)場合と同じ方法で扱います。

表 2. ソフト・エラー・ページの例

	タイトル・パター	コンテンツ・パ	
URL パターン	ン	ターン	HTTP 戻りコード
http://www.mysite.com/hr/*	Sorry, the page*	*	404

異なる戻りコードを扱うために、同一の Web サイトについて複数の項目を作成で きます。同一の Web サイトからの戻りコードはそれぞれ、Web クローラーの構成 で固有の項目を必要とします。

#### ワイルドカード文字の使用

URL、タイトル、および、コンテンツ・パターンは、正規表現ではありません。ア スタリスク文字は、非ワイルドカード文字が次に現れる位置までの任意の文字と一 致します。例えば、以下のようになります。

\*404 は、any characters 404 と一致します。

404: \* は、404: any characters と一致します。

http://\*.mysite.com/\* は、http://any host.mysite.com/任意のファイル名 と 一致します。

\* は、any characters と一致します。

### パフォーマンスへの影響

ソフト・エラー・ページの処理オプションを構成すると、正常にクロールされたペ ージをすべて検査する必要があるため、クローラー・プロセスの時間が長くなりま す。パターン・マッチングの検査と、ページまたは置き換えた戻りコードを返すか どうかの判断に、さらに処理時間が必要になります。

# セキュア Web サイトのクロールのサポート

エンタープライズ・サーチ管理コンソールに信用証明情報を指定することで、アク セスにパスワードが必要な文書などの制限付きコンテンツに Web クローラーが、 アクセスできるように設定することができます。

Web サーバーが HTTP 基本認証または HTML フォーム・ベースの認証を使用し て、Web サイトへのアクセスを制限している場合、Web クローラーの構成で信用証 明情報を指定して、パスワード保護された Web サイト上のページをクロールでき るようにします。また、Cookie ファイルを手動で構成するオプションも指定できま す。

## HTTP 基本認証によって保護された Web サイト

Web サーバーが HTTP 基本認証を使用して Web サイトへのアクセスを制限してい る場合、Web クローラーがパスワード保護されたページにアクセスできるように 認証のための信用証明情報を指定してください。

ユーザー (あるいはクライアント・アプリケーション) に Web サイト上のページへ のアクセス権があるかどうかを判別するために、多くの Web サーバーが HTTP 基 本認証と呼ばれるクライアント認証方式を採用し、ユーザーの身元を確認していま す。通常、この操作は、対話式に行われます。

- HTTP ユーザー・エージェント (Web ブラウザーなど) が HTTP 基本認証で保護 されているページを要求すると、Web サーバーは、要求側に要求ページへのアク セス権限がないことを意味する、戻りコード 401 を返します。
- また、Web サーバーは、ユーザーが制限付きコンテンツへのアクセス許可を得て いるかどうかを検証するために信用証明情報を提示するよう要求側に求めます。
- Web ブラウザーは、ユーザー名、パスワード、その他のユーザーの信用証明情報 に必要な情報を要求するダイアログをユーザーに表示します。
- Web ブラウザーは信用証明情報をエンコードして、保護されたページの要求のた びにそれを組み込みます。
- 信用証明情報が有効であれば、Web サーバーは、戻りコード 200 と要求ページ のコンテンツを返します。
- それ以降の同じ Web サーバーからのページ要求には、通常、同じ信用証明情報 が組み込まれ、許可ユーザーが要求のたびごとに信用証明情報の入力を求められ ることなく、他の制限付きコンテンツにアクセスできるようになります。

一度、ユーザーの身元が確認されると、Web サーバーと HTTP ユーザー・エー ジェントは、通常、 Cookie というトークンを交換し、複数の HTTP 要求にわた って維持する必要のあるユーザー・ログイン状況の認識を可能にします。

Web クローラーは対話式で動作しないので、パスワード保護されたページのクロー ルを可能にするための信用証明情報を、クロールの開始前に指定しておく必要があ ります。 Web クローラーを作成したり、クロール・スペースを編集する場合、ク ロール対象のセキュア Web サイトそれぞれについて情報を指定してください。

この情報を指定するには、HTTP 基本認証によって保護されている Web サイトま たは Web サーバーの管理者と緊密に作業する必要があります。管理者は、クロー

ル対象の Web サイトのセキュリティー要件を提供してくれるはずです。これに は、Web クローラーの識別の認証や、制限付きページをクロールするアクセス権が クローラーにあるかどうかの判別に使用するあらゆる情報が含まれます。

コレクションの作成時にそのコレクションに対してセキュリティーを使用可能に設 定している場合は、文書へのアクセスを制御するために、ユーザー ID、グループ ID、あるいはユーザー役割などのセキュリティー・トークンを、クローラー構成時 に指定してください。 Web クローラーは、このセキュリティー・トークンを、指 定されたルート URL のファイル・システム・ツリーでクロールするあらゆる文書 に関連付けます。 このトークンは Web クロール・スペース全体に対して設定する 文書レベルのセキュリティー・トークンとは別に使用されます。

URL の順序は、重要です。パスワード保護された Web サイトに関する情報を追加 したら、それをクローラーに処理させたい順序に配置する必要があります。リスト 内では、特定的な URL を最初に置き、汎用的な URL が続くように配置してくだ さい。Web クローラーは、候補の URL を評価するとき、その候補の URL と一致 した、リストの最初にある URL に対して指定された認証データを使用します。

### **フォーム・ベースの認証によって保護された Web サイト**

Web サーバーが HTML フォームを使用して Web サイトへのアクセスを制限する 場合、Web クローラーがパスワード保護されたページにアクセスできるようにす る認証のための信用証明情報を指定できます。

ユーザー (あるいはクライアント・アプリケーション) に Web サイト上のページへ のアクセス権があるかどうかを判別するために、多くの Web サーバーで HTML フ ォームを使用して、ユーザーの身元を確認しています。通常、この操作は、対話式 に行われます。

- HTTP ユーザー・エージェント (Web ブラウザーなど) が フォーム・ベースの認 証で保護されているページを要求すると、Web サーバーは、要求にユーザーの身 元を証明する Cookie が含まれているかどうかを確認します。
- Cookie がない場合は、Web サーバーはユーザーにプロンプトを出して、セキュ リティー・データをフォームに入力するよう求めます。 ユーザーがフォームをサ ブミットすると、Web サーバーは、必要な Cookie を戻し、それからパスワード 保護されたページの要求処理が進められます。
- また、必要な Cookie を組み込んでいれば、その後の要求も処理されます。許可 ユーザーは、要求のたびごとにフォームへの入力や信用証明情報の指定を求めら れることなく、他の制限付きコンテンツにアクセスできます。

Web クローラーは対話式で動作しないので、パスワード保護されたページのクロー ルを可能にするための信用証明情報を、クロールの開始前に指定しておく必要があ ります。 Web クローラーを作成したり、クロール・スペースを編集する場合、ク ロール対象のセキュア Web サイトそれぞれについて情報を指定してください。

指定したフィールドは、対話式ユーザーが Web ブラウザーにプロンプトで求めら れて入力するフィールド、および、ログイン実行に必要な隠しフィールドや静的フ ィールドと対応します。

この情報を指定するには、フォーム・ベースの認証によって保護されている Web サイトまたは Web サーバーの管理者と緊密に作業する必要があります。管理者

は、クロール対象の Web サイトのセキュリティー要件を提供してくれるはずで す。これには、Web クローラーの識別の認証や、制限付きページをクロールするア クセス権がクローラーにあるかどうかの判別に使用するあらゆる情報が含まれま す。

URL パターンの順序は、重要です。パスワード保護された Web サイトに関する情 報を追加したら、それをクローラーに処理させたい順序に配置する必要がありま す。リスト内では、特定的な URL パターンを最初に置き、汎用的な URL パター ンが続くように配置してください。Web クローラーは、候補の URL を評価すると き、その候補の URL と一致した、リストの最初にある URL パターンに対して指 定されたフォーム・データを使用します。

# プロキシー・サーバーによってサービスされている Web サイト

Web クローラーがネットワークへの直接アクセスを許可されていない場合、クロー ラーが HTTP プロキシー・サーバーを使用してクロール対象のコンテンツにアクセ スするように構成することができます。

Web クローラーが稼働するコンピューター上で TCP/IP ネットワークへのアクセス が使用できない場合、あるいは、アクセスが特権のある処理に制限されている場合 は、Web クローラーで HTTP プロキシー・サーバーを使用するように構成できま す。 HTTP プロキシーは、指定されたホストの指定されたポートで HTTP 要求を listen するプロセスです。プロキシー・サーバーは要求を Web サーバーにつなぎ、 Web サーバーからの応答を要求元のクライアント (Web クローラー) にリレーしま す。プロキシー・サーバーは、Web クローラーと同じコンピューター上で稼働する ことも、別のコンピューター上で稼働することもできます。

プロキシー以外のクロールでは、URL に対する要求は直接ホストに送信されます。 プロキシーのクロールでは、要求はプロキシー・サーバーに送信されます。

Web クローラーの作成や、クロール・スペースの編集の際は、Web クローラーがプ ロキシー・サーバー・ドメインでページのクロールに使用するプロキシー・サーバ 一の情報を指定してください。以下の情報を入手してから、プロキシー・サーバー をクロール・スペースに追加してください。

#### プロキシー・サーバー・ドメイン

プロキシー・サーバーによってサービスされているドメイン。アスタリスク (\*) をワイルドカード文字として使用できます。例えば、\* は、このプロキ シー・サーバーによってサービスされているすべてのドメインと一致し、 \*.resource.com は、末尾に resource.com があるすべてのドメインと一致 します。

制約事項:プロキシー・サーバーのクロールに IP アドレス規則を指定する ことはできません。プロキシー・サーバーの IP アドレスは、ク ローラーが別のホスト用に持っている唯一の IP アドレスである からです。IP アドレス規則が、クローラーを IP アドレスのサブ ネットに制約するために使用される場合、制約によってほとんど すべての URL が戻りコード 760 に分類されます (この戻りコー ドは、URL が Web スペースによって禁止されていることを示 します)。

#### プロキシー・サーバーのホスト名または IP アドレス

DNS ホスト名あるいはプロキシー・サーバーのドットの付いた IP アドレ ス。

## プロキシー・サーバーのポート番号

プロキシー・サーバーが HTTP プロキシー要求を listen する TCP/IP ポー 卜番号。

プロキシー・サーバーを追加した後は、それを選択して、クローラーに処理させた い順序で配置する必要があります。リスト内では、特定的なドメイン・ネームを最 初に置き、汎用的なドメイン・ネームが続くように配置してください。Web クロー ラーは、候補 URL を評価するときに、候補 URL と一致して、かつ、リストの最 初のドメインに指定されたプロキシー・サーバー・データを使用します。 (どのプ ロキシー規則にも一致しない URL は、クローラーに直接アクセス可能であると想 定されます。)

## Cookie の管理

通常、Cookie の管理は自動的に行われ、エンタープライズ・サーチ管理者が特別な 処置をする必要はありません。 必要な場合は、Web クロール・セッションの Cookie を手動で指定することができます。

Cookie は、Web サーバーが HTTP 応答ヘッダーの一部としてユーザー・エージェ ントに戻す内部が見えないトークンです。 これは、発行した Web サーバーにのみ 意味があるもので、HTTP 要求の間の状態維持に使用されます。 例えば、クライア ントの認証の間、Web サーバーは Cookie を戻し、認証されたユーザーがすでにロ グインされていることをサーバーが判断できるようにします。 Cookie があること でユーザーは再度ログインを求められることなく、その Web サーバー上の他のペ ージの要求を出すことができます。

Web クローラーは、Web サーバーから受け取った Cookie を保持し、そのクローラ ー・インスタンスが継続している間、それを使います。Cookie は、 cookies.ini ファ イルに保管されます。これは、クローラー・セッションが終了するたびに再度書き 込まれます。Web クローラーが停止すると、期限切れになっていない Cookie はす べて保管されて次のセッションの開始時に再ロードされます。

手動で Cookie を指定する場合は、まず別ファイルに保管して、必要なときに cookies.ini ファイルの Cookie とマージしてください。クローラーは、期限切れにな っていない Cookie を廃棄しませんが、問題が発生して Cookie コレクション全体の 書き込みができない場合には、手動で指定した Cookie は失わずにすみます。クロ ール・セッションが開始するまでにクローラーが自動的に保守している Cookie と ユーザーの Cookie をマージする必要があります。

## Cookie フォーマット

エンタープライズ・サーチの cookies.ini ファイルとマージする予定の Cookie は特 定のフォーマットである必要があります。

- 各 Cookie は単一行に入っていなければなりません。ブランク行とコメントは許 可されていますが、 cookies.ini ファイルに保存することはできません。
- 各 Cookie は次のフォーマットでなければなりません。 CookieN(cookie length, URL length) cookie text, validation URL

#### Cookie

Cookie 項目の始まりを示す必要なキーワード。

Cookie キーワードには、ブランクを含むことはできず、また、最後に 0 か、 1 か、 2 のいずれかの 1 桁の数字が付いていなければなりません。この数字は、次の Cookie タイプを表します: バージョン-0 (Netscape)、バージョン-1 (RFC2109)、あるいは バージョン-2 (RFC2965)。ポート・リストは、RFC2965 Cookie ではサポートされていません。

#### cookie length

関連した Cookie テキストの文字数。

#### URL length

関連した検証 URL の文字数。

#### cookie text

発信元の Web サーバーに送信される予定の Cookie のコンテンツ。このストリング (HTTP 応答ヘッダーにある Set-Cookie ディレクティブの右側に相当する部分) には、 Cookie の名前と値の組、およびその Cookie と一緒に送信するその他のコンテンツ (パス、セキュリティー設定など) が入ります。 このストリングの後ろには、区切り記号のコンマ (、) が続きます。

#### validation URL

この Cookie がディスカバーされた URL。この URL は、Cookie の送信先の決定に使用されます (例えば、ドメイン名とパス名を指定することで決定します)。検証 URL は、発信元の Web サーバーの Cookie に関するセキュリティーとプライバシーの制約事項を満たしている必要があります。

次の例では、読みやすくするために 2 行に分けて示します。 Cookie を指定するときは、一行に入れてください:

Cookie0(53,40)ASPSESSIONIDQSQTACSD=SLNSIDFNLISDNFLSIDNFLSNL;path=/,
https://www.ibm.com:443/help/solutions/

## Web クローラーの Cookie の構成

Web クロール・セッションの Cookie を手動で指定し、Web クローラーが維持する Cookie とマージできます。

#### 始める前に

Web クローラーが使用する Cookie を手動で構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者でなければなりません。

#### 手順

Web クローラーの Cookie を手動で構成するには、次のようにします。

- 1. エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、Cookie を指定したいコレクションをモニターして、Web クローラーを停止します。
- 2. クローラー・サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。 (このユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです。)

- 構成したいクローラーのデータ・ディレクトリーに移動します。ここで、 crawler session ID は、エンタープライズ・サーチ・システムによりクローラ ー・セッションに割り当てられたものです。 以下に例を示します。
  - ES NODE ROOT/data/col 56092.WEB 88534
- 4. cookies.ini ファイルを編集し、手動で指定した Cookie 項目を、すでにリストさ れている項目に追加して、そのファイルを保管して終了します。 追加する Cookie が、すでに存在しているものをオーバーライドしないようにします。
- 5. エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、停止した Web クローラーを再 始動します。

# グローバル Web クロール・スペースの構成

Web クローラーのためにグローバル・クロール・スペースを構成できます。これに より索引からの URL の除去をより制御できるようになります。

Web クローラーはそれぞれ、クロール対象の URL あるいは、クロール対象外の URL を定義するクロール・スペースで構成されます。 クロール・スペースにある ディスカバー済み URL は、後でクロールするときのために (データベースに) 保存 されます。クロール・スペースにない URL は、廃棄されます。 クローラーが空の データベースで始動した場合、クローラーが稼働中は、そのクロール・スペースの 定義とデータベースは整合しています。

時々、クローラーは停止されて、そのクロール・スペースが、(例えば、ページのク ロールを禁止する新規規則によって)削減されます。 クローラーが再始動されると そのクロール・スペース定義とデータベースは、整合しなくなります。データベー スには URL (クロールされるものもあれば、クロールされないものもある) が含ま れ、これらの URL は小さくなった新しいクロール・スペースにはありません。

コレクションに Web クローラーが 1 つしかない場合、その Web クローラーが こ れらの URL 用の HTTP 戻りコードを 760 (除外される予定であると指定する) に 変更し、新規に除外されたページを索引から除去することで、整合性が戻ります。

複数の Web クローラー間でクロール・スペースを分割する場合 (例えば、一部のペ ージは残りのものより頻繁にクロールされるようにするなど)、各 Web クローラー が独立したデータベース表 (初期は空) を保守し、それらはそれぞれ Web クロー ル・スペースの別の部分をクロールします。元のクローラーのクロール・スペース は削減されて、他のクローラーがクロールする予定の部分が除去された後に残った 分のみになります。元のクローラーが、移動済みのページを索引から除去すること で整合性を復元しようとすると問題が発生します。移動済みのページは、他のクロ ーラーによってクロールされているので、そのページは索引に残っている必要があ ります。

高水準のグローバル・クロール・スペースを構成することで、元のクローラーによ ってクロールされないが、索引からも削除されない URL を識別することができま す。 クローラーのクロール・スペースにすでにない URL は、ディスカバリー・プ ロセスによって除外とマークされたままになり、再度クロールされるときに索引か ら除去されます。

グローバル・クロール・スペースは、global.rules という名前の構成ファイルに定義 されます。このファイルは、クローラー構成ディレクトリーに存在しなければなり

ません。 (global.rules ファイルがあることで、グローバル・クロール・スペース機 能が使用可能になります。) このファイルがある場合は、クローラーの初期化時に 読み取られます。このファイルが存在しないと、クローラーは単一レベルのクロー ル・スペースで作動することになり、クロール・スペースの定義とデータベースの 間の整合性を維持するために、必要に応じて索引から文書を除去します。

グローバル・クロール・スペースが存在する場合、クローラーは従来どおり URL が存在するかしないかを判定しますが、索引からの URL の除去を要求するのは URL がどの Web クロール・スペースにも存在しない場合のみです。

global.rules ファイルは、ローカルの crawl.rules ファイルと構文は同じですが、ドメ イン名の規則のみを含むことができることが異なります。この制約事項により、ク ロール・スペースは IP アドレスや HTTP 接頭部パターンではなく DNS ホスト名 に基づいてのみ、複数クローラー間でパーティション化されるようになります。 URL 接頭部やローカル・クロール・スペースの IP アドレスの規則で (crawl.rules に定義されているように)除外される URL はグローバル・クロール・スペースに よって影響を受けません。そのような URL はやはり除外されます。

グローバル・クロール・スペースは、索引から URL を除去できなくするためにの み使用されます。この URL はローカルのドメイン規則によってクローラーのクロ ール・スペースから除去されます。以下の規則が以下の順序で適用されます。

- 1. ローカルの接頭部規則やアドレス規則によって、クローラーのデータベースから URL が除去される場合、その URL には戻りコード 760 が割り当てられ、索引 から除去されます。 URL は再度クロールされません。
- 2. ローカルのドメイン規則によって、クローラーのデータベースから URL が除去 されて、さらにグローバル・クロール・スペースがない場合に、URL には戻り コード 760 が割り当てられ、索引から除去されます。 URL は再度クロールさ れません。
- 3. ローカルのドメイン規則によって、クローラーのデータベースから URL が除去 されても、グローバル・クロール・スペースの規則によって明示的に許可されて いる場合、URL には 戻りコード 761 が割り当てられます。クローラーは、そ の URL を再度クロールしませんが、索引から URL が除去されることはありま せん。 (他のクローラーのローカル・クロール・スペースにあるものと想定され ます。)
- 4. ローカルのドメイン規則によってクローラーのデータベースから URL が除去さ れており、グローバル・クロール・スペースの規則によって明示的には許可され ていない場合、その URL には戻りコード 760 が割り当てられ、索引から除去 されます。

グローバル・クロール・スペースは、ローカル・クロール・スペースによりすでに 除外されている URL の除去を防ぐためにのみ調べられるので、グローバル・クロ ール・スペースからのデフォルトの結果は、候補 URL に適用する規則がない場合 に、それに対するクロールを禁止することです。

global.rules ファイルは、グローバル・クロール・スペースを共用するあらゆるクロ ーラーの master config ディレクトリーに存在しなければなりません。 global.rules ファイルとローカルの crawl.rules ファイルのすべてのコピーを注意深く編集して、 それらが相互に整合性を保っていることを確認してください。

# リンクをたどらない、索引付けしないディレクティブ

ページ上のリンクをたどるか、ページに索引付けをするかを制御する Web クロー ラー用のディレクティブを指定することで検索の質を上げることができます。

一部の Web ページには、リンクをたどらない、あるいは索引付けをしないディレ クティブがあり、これにより Web クローラーなどのロボットがそのページで検出 したリンクをたどらないように指示したり、あるいは、そのページのコンテンツを 索引に含めないように指示したり、あるいは、そのどちらも行わないように指示し ます。

これらの設定を制御することで、クロールの質を向上させることができます。例え ば、ディレクトリー・ページの中には、多数のリンクを含んでいるものの、他に有 効なコンテンツが無いものがあります。こうしたページはクロールしてリンクをた どる必要はありますが、ディレクトリー・ページそのものを索引付けする利点はあ りません。

また、クローラーが階層の下方に行かないようにしたい場合がありますが、要求し たリーフ・ページにリンクが組み込まれていて、しかもリンクをたどらないディレ クティブが含まれていない場合があります。これらのページには自動生成されてい るものがあり、必要なディレクティブを挿入できる所有者がいません。

そうしたページのクロールに規則を指定するために、followindex.rules という名前の 構成ファイルを作成、編集します。このファイルに規則を指定するときは、以下の ガイドラインに従ってください。

- 設定する規則では、URL 接頭部を指定する必要があります (IP アドレスあるい は DNS ホスト名で Web サイトを識別することはできません)。
- URL 接頭部には、類似した URL を持つ複数のサイトを許可したり禁止するため にワイルドカード文字としてアスタリスク(\*)を含めることができます。
- 順序は重要です (クローラーは、候補 URL と一致する最初の規則を適用しま す)。
- リンクをたどることや索引付けを明示的に許可および禁止する規則は、ターゲッ ト文書内の設定を含む他の設定に優先します。

# Web ページでのリンクをたどらないディレクティブおよび索引付 けをしないディレクティブのオーバーライド

構成ファイルに規則を指定して、Web クローラーがリンクをたどらないディレクテ ィブまたは索引付けをしないディレクティブが含まれているページへのリンクまた は索引ページをたどるかどうかを制御できます。

#### 始める前に

Web クローラーについてリンクをたどらないディレクティブおよび索引付けをしな いディレクティブを指定するには、エンタープライズ・サーチ管理者でなければな りません。指定されたディレクティブは、クロールされるページに存在するディレ クティブをオーバーライドします。

#### 手順

リンクをたどらないディレクティブおよび索引付けをしないディレクティブをオーバーライドするには、次のようにします。

- 1. エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、規則を構成したいコレクションをモニターして、Web クローラーを停止します。
- 2. クローラー・サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。 (このユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです。)
- 3. 構成したいクローラーの構成ディレクトリーに移動します。ここで、 crawler\_session\_ID は、エンタープライズ・サーチ・システムによりクローラー・セッションに割り当てられたものです。 以下に例を示します。

 ${\tt ES\_NODE\_ROOT/master\_config/} col\_56092.WEB\_88534$ 

- 4. followindex.rules という名前のファイルを作成または編集します。
- 5. 以下の形式でクローラーの規則を入力します。ここで、URLprefix は、リンクの たどりまたは索引付けを許可または禁止したい Web サイトの先頭文字です。

forbid follow URLprefix allow follow URLprefix forbid index URLprefix allow index URLprefix

- 6. ファイルを保管して、終了します。
- 7. エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、停止した Web クローラーを再始動します。

# WebSphere Portal クローラー

IBM WebSphere Portal サイトのページをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れるには、WebSphere Portal クローラーを構成する必要があります。

# WebSphere Portal サーバーの構成

WebSphere Portal クローラーを作成する前に、エンタープライズ・アプリケーション ESPACServer.ear を WebSphere Portal にデプロイする必要があります。このエンタープライズ・アプリケーションは、 WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に検索サーバーにインストールされます。このエンタープライズ・アプリケーションをデプロイするには、以下のタスクを完了させます。

• 99 ページの『WebSphere Portal クローラー用エンタープライズ・アプリケーションのデプロイ』.

## 構成の概要

WebSphere Portal クローラーを使用して、単一の WebSphere Portal サイトをクロールすることができます。クローラーを構成する際に、クロールするポータル・サイトの URL を指定します。これにより、クローラーは、指定されたポータルで使用可能なポートレットをダウンロードします。

WebSphere Portal クローラーを作成または変更する場合は、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインします。この場合、操作者はエンタープライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクションのコレクション管理者でなければなりません。

1 Ι Ι ı Ι ı

1

Ι

Ī クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指 定します。クローラーのプロパティーは、クローラーによるサイトの全ページの クロールを制御します。
- クロールするポータル・サイトの URL とクローラーがサイトに接続するための 情報を指定します。このようなタイプの URL は長く、エンコードされた非 ASCII 文字が含まれているので、 URL を WebSphere Portal サーバーからコピー し、エンタープライズ・サーチ管理コンソールに貼り付けると便利です。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ ーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに 基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

また、ユーザーが照会をサブミットするときにユーザーの信用証明情報を検証す るオプションを選択することもできます。この場合、システムは、ユーザーの信 用証明情報を索引付きセキュリティー・データではなく、元のデータ・ソースで 維持されている現行のアクセス制御リストと比較します。

クローラーの作成中に「**ヘルプ**」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関 する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示さ れます。

## WebSphere Portal クローラー用エンタープライズ・アプリケー ションのデプロイ

WebSphere Portal クローラーを作成する前に、エンタープライズ・アプリケーショ ン ESPACServer.ear を WebSphere Portal にデプロイする必要があります。

### このタスクについて

ESPACServer.ear ファイルは、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時 に、検索サーバーの ES INSTALL ROOT/bin ディレクトリーにインストールされま す。デフォルトのインストール・パスは、次のとおりです。

#### UNIX システム:

/opt/IBM/es/bin/ESPACServer.ear

#### Windows システム:

C:\Program Files\IBM\es\bin\ESPACServer.ear

#### 手順

WebSphere Portal クローラーで WebSphere Portal サイトをクロールできるようにす るエンタープライズ・アプリケーションをデプロイするには、次のようにします。

- 1. WebSphere Portal サーバー・インスタンスを停止します。
- 2. WebSphere Application Server server1 サーバー・インスタンスがまだ開始され ていない場合は、開始します。
- 3. WebSphere Portal サーバーで、WebSphere Application Server 管理コンソールを 開始します。ログインを指示するプロンプトが出されたら、ログインします。

管理コンソールは、以下の方法でオープンできます。

- Windows の「**スタート**」メニューを使用して、該当するプログラムを選択し ます。
- WebSphere Application Server バージョン 5 の場合、Web ブラウザーをオー プンし、 http://hostname:port/admin にアクセスします。ここで、hostname は 検索サーバーのホスト名であり、port は WebSphere Application Server 管理 コンソールのポート番号です。通常、管理コンソールのポートは 9090 で す。
- WebSphere Application Server バージョン 6 の場合、Web ブラウザーをオー プンし、 http://hostname:port/ibm/console にアクセスします。ここで、 hostname は検索サーバーのホスト名であり、port は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソールのポートは 9060 です。
- 4. 「アプリケーション」をクリックして、「新規アプリケーションのインストー **ル**」をクリックします。
- 5. 「**ブラウズ**」をクリックし、ご使用のシステムの ESPACServer.ear ファイルを 選択します。
- 6. 「**次へ**」を 2 回クリックします。 ポリシー・ファイルに関する警告が出され た場合は、「継続」をクリックします。
- 7. 「アプリケーション・サーバーへのモジュールのマップ」ページが表示される まで「次へ」をクリックし、以下を選択して、「適用」をクリックします。
  - a. 「**クラスターおよびサーバー**」テキスト・ボックスで、 WebSphere:cell=cell\_name, node=node\_name, server=WebSphere Portal を選択します。
  - b. **ESPACServer.ear** モジュールの横のチェック・ボックスを選択します。
- 8. 「サマリー」ページが表示されるまで「次へ」をクリックし、「完了」をクリ ックします。
- 9. 「マスター構成に保管」リンクをクリックして、「保管」ボタンをクリック し、WebSphere Application Server 構成に変更を保管します。
- 10. WebSphere Portal サーバーを再始動します。

#### 関連概念

233 ページの『エンタープライズ・サーチの WebSphere Portal との統合』 WebSphere Portal および WebSphere Portal 検索センターにエンタープライズ・ サーチ・ポートレットをデプロイすることにより、 IBM WebSphere Portal の検 索機能を拡張することができます。

## クロールする URL を WebSphere Portal からコピーする

誤った URL の入力をできる限り少なくするために、WebSphere Portal クローラー の構成時に、クロールしたい WebSphere Portal サイトの URL を適切なフィールド にコピーして貼り付けることができます。

#### このタスクについて

WebSphere Portal クローラーの作成時に、クロールしたい WebSphere Portal サーバ 一上のポータルの URL を指定します。 URL は長く、通常、エンコードされた非

ASCII 文字が含まれているので、この手順を使用して、URL を WebSphere Portal サーバーからコピーし、エンタープライズ・サーチ管理コンソールに貼り付けると 便利です。

### 手順

1

Ι

Ι 

1

Ι

ı

WebSphere Portal クローラーがクロールする URL を指定するには、次のようにし

- 1. エンタープライズ・サーチ管理コンソールで「クロールする WebSphere Portal Server」ページを開き、WebSphere Portal Server が始動していることを確認した ら、管理者として WebSphere Portal にログインします。
- 2. 右上にある「管理」を選択します。
- 3. 左側のナビゲーション・エリアで「ポータル設定」を選択して、「検索管理」を 選択します。
- 4. 「検索コレクションの管理」ページで、「検索コレクション」エリアにある 「PortalCollection」を選択します。 (他のコレクションが選択可能な場合、別の コレクションを選択できます。)
- 5. 「コレクション」エリアの「コンテンツ・ソース」で、「**コンテンツ・ソースの** 追加」をクリックします。
- 6. 「クロール・ソース・タイプ」で、「ポータル・サイト」を選択します。 の URL でリンクされる文書を収集」フィールドにサイトの URL が表示されま
- 7. URL をクリップボードにコピーします。 (例えば、URL を強調表示して、 Ctrl キーを押しながら Insert (挿入) キーを押します。)
- 8. エンタープライズ・サーチ管理コンソールに戻って、「WebSphere Portal サイ トの URL」フィールドにコピーした URL を貼り付けます。

## Windows ファイル・システム・クローラー

Microsoft Windows ファイル・システムに格納された文書をエンタープライズ・サー チ・コレクションに入れる場合は、 Windows ファイル・システム・クローラーを 構成する必要があります。

Windows ファイル・システム・クローラーを使用して、任意の数の Windows ファ イル・システムをクロールすることができます。クローラーの構成時に、クロール するローカルおよびリモートのディレクトリー、サブディレクトリーを選択しま す。

UNIX コンピューターにクローラー・サーバーをインストールした場合、 Windows ファイル・システム・ソースのクロールにそのサーバーを使用することはできませ ん (Windows ファイル・システム・クローラーは、選択可能なクローラー・タイプ のリストに表示されません)。

Windows ファイル・システム・クローラーを作成または変更する場合は、エンター プライズ・サーチ管理コンソールにログインします。この場合、操作者はエンター プライズ・サーチ管理者役割の担当者か、またはクローラーを所有するコレクショ ンのコレクション管理者でなければなりません。

クローラーを作成する場合、ウィザードに従えば以下のタスクを実行できます。

- クローラーの動作およびシステム・リソースの使用を制御するプロパティーを指 定します。クローラーのプロパティーは、クローラーによるクロール・スペース 内のすべてのサブディレクトリーに対するクロールを制御します。
- ファイル・システムをクロールするスケジュールを設定します。
- クロールするサブディレクトリーを選択します。

クローラーでクロールするサブディレクトリーのレベル数も指定できます。リモ ート・ファイル・システムをクロールするには、クローラーがデータにアクセス できるようにするためのユーザー ID とパスワードも併せて指定します。

- サブディレクトリー内の文書を検索可能にするときのオプションを指定します。 例えば、特定タイプの文書をクロール・スペースから除外したり、クローラーが 特定サブディレクトリーのファイルにアクセスできるようにユーザー ID とパス ワードを指定したりすることができます。
- 文書レベルのセキュリティー・オプションを構成します。コレクションの作成時 にセキュリティーが使用可能にされている場合、クローラーは、セキュリティ ー・データを索引内の文書に関連付けます。このデータによって、検索アプリケ ーションは、保管されたアクセス制御リストまたはセキュリティー・トークンに 基づいたアクセス制御を実行できるようになります。

また、ユーザーが照会をサブミットするときにユーザーの信用証明情報を検証す るオプションを選択することもできます。この場合、システムは、ユーザーの信 用証明情報を索引付きセキュリティー・データではなく、元のデータ・ソースで 維持されている現行のアクセス制御リストと比較します。

文書レベルのセキュリティーを施行するには、ユーザーおよびドメイン・アカウ ント情報がクローラー・サーバーに正しく構成されていることを確認する必要が あります。

クローラーの作成中に「ヘルプ」をクリックすると、ウィザードのフィールドに関 する説明や、データのクロールに必要な情報をクローラーに指定する方法が表示さ れます。

#### 関連概念

225 ページの『Windows ファイル・システム文書に対する文書レベルのセキュ リティーの施行』

Windows ファイル・システム・クローラーでクロールされた文書をユーザーが 検索するときに現行の信用証明情報を検証するようにするには、クローラー・サ ーバーおよびMicrosoft Windows サーバーの両方でドメイン・アカウント情報を 構成する必要があります。

# データ・リスナー・アプリケーションのサポートの構成

外部クローラーを作成するデータ・リスナー API を使用することによって、エンタ ープライズ・サーチを拡張することができます。カスタム・データ・リスナー・ア プリケーションは、コレクションへのデータの追加、コレクションからのデータの 除去、または Web クローラーに対する URL へのアクセスおよび再アクセスの指 示を行えます。

#### 始める前に

データ・リスナー・アプリケーションを構成するには、エンタープライズ・サーチ 管理者役割のメンバーである必要があります。

#### このタスクについて

クライアント・データ・リスナー・アプリケーションは、エンタープライズ・サー チのデフォルトのクローラーではクロールできないデータ・ソース・タイプのクロ ールを可能にします。データ・リスナー・アプリケーションを使用するためには、 アプリケーションがコレクションのアクセスおよび更新を行えるようにする信用証 明情報を構成しておく必要があります。

クライアント・データ・リスナー・アプリケーションは、データ・リスナーに接続 するときに、クライアント・アプリケーション ID とパスワード、更新されるコレ クションの ID を渡す必要があります。この情報は、管理コンソールでアプリケー ションについて構成した情報と同じでなければなりません。

データ・リスナーは、エンタープライズ・サーチ・システムが開始されるときに自 動的に開始されます。管理コンソールでアプリケーションを構成した後でポート番 号を変更した場合は、データ・リスナーを再始動する必要があります。

#### 手順

データ・リスナー・アプリケーションを構成するには、次のようにします。

- 1. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- 2. 「 編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
- 3. 「データ・リスナー」ページで、「**データ・リスナー・アプリケーションの構** 成」をクリックします。
- 4. 「データ・リスナー・アプリケーション」ページで、データ・リスナーがクライ アント・アプリケーションからの要求の処理用に作成できるスレッドの数、およ びデータ・リスナーが要求を listen するポート番号を指定します。
- 5. クライアント・アプリケーションについての情報を追加するため、「**データ・リ** スナー・アプリケーションの追加」をクリックします。
- 6. 「データ・リスナー・アプリケーションの追加」ページで、クライアント・デー タ・リスナー・アプリケーションがエンタープライズ・サーチ・コレクションに アクセスできるようにする認証情報を指定します。 データ・リスナーのクライ アント ID は、エンタープライズ・サーチ・システム内で固有のものでなければ なりません。
- 7. データ・リスナー・アプリケーションが更新できるコレクションを選択します。
  - すべてのコレクションをアプリケーションが更新できるようにするには、「す べてのコレクション」をクリックします。
  - 指定するコレクションのみをアプリケーションが更新できるようにするには、 「**特定のコレクション**」をクリックします。

このオプションを選択すると、コレクション名のリストが表示されます。アプ リケーションが更新できるコレクションごとに、それの「選択」チェック・ボ ックスを選択します。

ı ı

Ι 1

1 ı

1 

- 8. 「**OK**」をクリックします。
- 9. データ・リスナーのポート番号を変更した場合は、データ・リスナーを再始動し
  - a. 「 🕝 **モニター**」をクリックして、システム・モニター・ビューに移動しま す。
  - b. 「データ・リスナー」ページで、「 **▶ 再始動**」をクリックします。

#### 関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレン ス」の『データ・リスナー』

#### 関連タスク

277 ページの『データ・リスナーのモニター』 データ・リスナーをモニターしてその状況を確認し、クライアント・データ・リ スナー・アプリケーションのアクティビティーに関する詳細を表示します。

## 」カスタム・クローラー・プラグイン

クローラーのプロパティーを構成するときに、文書レベルのアクセス制御の施行、 およびメタデータとエンタープライズ・サーチ索引内の文書との関連付けを行なう ために Java クラスを使用するよう指定できます。

プラグインには、クローラーがクロールする各文書ごとに呼び出される Java クラス が含まれています。その Java クラスには、エンタープライズ・サーチ索引からの文 書 ID (URI)、セキュリティー・トークン、およびメタデータが渡されます。クラス は、セキュリティー・トークンまたはメタデータの新規セットまたは変更されたセ ットを戻すか、あるいは、文書がクローラーに無視されることを示すことができま す。

クロール・スペース内のすべての文書が 1 回クロールされた後は、プラグインは新 規文書または修正された文書についてのみ呼び出されます。エンタープライズ・サ ーチ索引内にあるが、元のデータ・ソースでは更新されていない文書のセキュリテ ィー・トークンおよびメタデータを変更するには、クロール・スペース内のすべて の文書のフル・クロールを開始し、索引を再編成します。

既存のクローラーにプラグインを関連付けることはできません。プラグインのクラ ス名とクラス・パスは、新規クローラーのプロパティーを構成するときに指定する 必要があります。

## プラグインを使用してセキュリティーを施行する

文書レベルのセキュリティーは、クローラーがクロールする各文書に 1 つ以上のセ キュリティー・トークン (コンマで区切られたストリング) を関連付けることによっ て施行されます。通常、セキュリティー・トークンとしてグループ ID が使用され ます。

デフォルトで、各文書には、文書を全員に使用可能にするパブリック・トークンが 割り当てられています。パブリック・トークンは、管理者が提供する値、またはク ロール対象文書中のフィールドから抽出された値で、置き換えることができます。

プラグインを使用すると、独自のビジネス・ルールを適用して、クロールされる文書のセキュリティー・トークンの値を決定できます。各文書に関連付けられたセキュリティー・トークンは、索引に保管されます。セキュリティー・トークンを使用して、それらに一致する文書を選出するようフィルター操作し、ユーザーに表示を許可された文書だけが検索結果に戻されるようにできます。

### プラグインを使用してメタデータを文書に追加する

文書の最終変更日時などの文書メタデータは、クロールされるすべての文書について作成されます。クローラー・プラグインを使用すると、独自のビジネス・ルールを適用して、索引付けされるメタデータの値を各文書について決定することができます。

メタデータは、名前と値のペアとして作成されます。ユーザーは、フリー・テキスト検索またはメタデータ・フィールド名を指定した照会で、メタデータを検索できます。

### Web クローラー・プラグイン

Web クローラー用のアプリケーション・プログラミング・インターフェースで、文書がどのようにクロールされ、構文解析用に準備されるのかを制御できます。例えば、クローラーが文書を要求するときに使用されるフィールドを HTTP 要求ヘッダーに追加できます。文書がクロールされた後、構文解析およびトークン化される前に、コンテンツ、セキュリティー・トークン、およびメタデータを変更できます。また、文書がパーサーに送られるのを停止することもできます。

### 関連概念

Ι

1

Ι

ı

1

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『クローラー・プラグイン』

## エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット

エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

コレクションのカテゴリー、有効範囲、クイック・リンクを構成する際、URI および URI パターンを指定できます。また、索引から文書を除去する必要がある場合、または、特定の URI に関する詳細状況情報を表示する必要があるときにも、URI を指定します。

文書の URI または URI パターンを判別するには、コレクションを検索してください。検索結果内の URI をクリックすれば、興味のある文書を取得できます。検索結果から URI をコピーして、その URI をエンタープライズ・サーチ管理コンソールで使用できます。例えば、URI パターンを指定して、その URI パターンに一致する文書を、エンタープライズ・サーチ・カテゴリーに自動的に関連付けることができます。

### Content Edition クローラー

サーバー・アクセス・モードの Content Edition クローラーによってクロールされる 文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

   	vbr://Server_Name/Repository_System_ID/Repository_Persistent_ID /Item_ID/Version_ID /Item_Type/?[Page=Page_Number&] JNDI_properties	
I I	直接アクセス・モードの Content Edition URI フォーマットは、次のとおりです。	1 クローラーによってクロールされる文書の
 	vbr:///Repository_System_ID/Repository_Persistent_ID /Item_ID/Version_ID /Item_Type/[?Page=Page_Number]	
	パラメーター	
I	すべてのフィールドに URL エ	ンコード方式が適用されます。
I I	Server_Name WebSphere Information	Integrator Content Edition サーバーの名前。
 	Repository_System_ID リポジトリーのシステム	
I I	Repository_Persistent_ID リポジトリーの永続 ID	o
I I	Item_ID 項目の ID。	
 	Version_ID バージョンの ID。バー の最新バージョンを示し	ジョン IDがブランクの場合、この値は文書 シます。
I I	Item_Type 項目のタイプ (CONTENT または FOLDER)。  Page_Number ページ番号。  JNDI_properties	
I I		
 	<b>java.naming.factory.initi</b> EJB ハンドルを ン・サーバーの	作成するのに使用されるアプリケーショ
 		l 要求するのに使用されるアプリケーショ ネーミング・サービスへの URL。
I	例 Documentum:	
 	<pre>vbr://vbrsrv.ibm.com/Documentum/c06b/094e827780000302//CONTENT/? java.naming.provider.url=iiop%3A%2F%2Fmyvbr.ibm.com%3A2809&amp; java.naming.factory.initial=com.ibm.websphere.naming.WsnInitContextFactory</pre>	
1	FileNet PanagonCS:	
 	vbr://vbrsrv.ibm.com/PanagonCS/4a4c/003671066//CONTENT/?Page=1& java.naming.provider.url=iiop%3A%2F%2Fmyvbr.ibm.com%3A2809& java.naming.factory.initial=com.ibm.websphere.naming.WsnInitContextFactory	

### DB2 クローラー

DB2 クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおり です。

db2://Database Name/Table Name

/Unique Identifier Column Name1/Unique Identifier Value1 [/Unique\_Identifier\_Column\_Name2/Unique\_Identifier\_Value2/... /Unique\_Identifier\_Column\_NameN/Unique\_Identifier\_ValueN]

#### パラメーター:

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

Database Name

データベースの内部名またはデータベースの別名。

Table\_Name

スキーマの名前を含む、ターゲット表の名前。

Unique Identifier Column Name1 表の先頭の固有 ID 列の名前。

Unique\_Identifier\_Value1 先頭の固有 ID 列の値。

Unique Identifier Column NameN 表のn番目の固有ID列の名前。

Unique Identifier ValueN n 番目の固有 ID 列の値。

例 ローカル、カタログ・データベース:

db2://LOCALDB/SCHEMA1.TABLE1/MODEL/ThinkPadA20

リモート、アンカタログ・データベース

db2://myserver.mycompany.com:50001/REMOTEDB/SCHEMA2.TABLE2/NAME/DAVID

## DB2 Content Manager クローラー

DB2 Content Manager クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマッ トは、次のとおりです。

cm://Server\_Name/Item\_Type\_Name/PID

#### パラメーター

Server Name

IBM DB2 Content Manager ライブラリー・サーバーの名前。

Item Type Name

ターゲット項目タイプの名前。

PIDDB2 Content Manager 永続 ID

例

cm://cmsrvctg/ITEMTYPE1/92+3+ICM8+icmnlsdb12+ITEMTYPE159+26+A1001001A 03F27B94411D1831718+A03F27B+94411D183171+14+1018

## Domino Document Manager クローラー Domino Document Manager クローラーによってクロールされる文書の URI フォー マットは、次のとおりです。 dominodoc://Server Name:Port Number/Database Replica ID/Database Path and Name /View Universal ID/Document Universal ID /?AttNo=Attachment\_Number&AttName=Attachment\_File\_Name パラメーター すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。 Server\_Name Domino Document Manager サーバーの名前。 Port Number オプション: Domino Document Manager サーバー用のポート番号。 Database Replica ID データベース・レプリカの ID。 Database Path and Name ターゲット Domino Document Manager サーバー上の文書 NSF デ ータベースのパスとファイル名。 View\_Universal\_ID Domino Document Manager 文書をクロールするのに使用される View Universal ID. Document Universal ID クロール対象文書で定義される Document Universal ID。 Attachment Number オプション:ゼロから始まる、各添付ファイルの連続番号。 Attachment File Name オプション:添付ファイルのオリジナル名。 例 Domino Document Manager 文書: dominodoc://dominodocsvr.ibm.com/49256D3A000A20DE/domdoc%2FADMN-6FAJXL.nsf /8178B1C14B1E9B6B8525624F0062FE9F/0205F44FA3F45A9049256DB20042D226 文書添付ファイル: dominodoc://dominodocsvr.ibm.com/49256D3A000A20DE/domdoc%2FADMN-6FAJXL.nsf /8178B1C14B1E9B6B8525624F0062FE9F/0205F44FA3F45A9049256DB20042D226 ?AttNo=0&AttName=AttachedFile.doc Exchange Server クローラー Exchange Server クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、 次のとおりです。 exchange://OWA path[?useSSL=true] パラメーター OWA Path

プロトコルを含まない、Outlook Web Access (OWA) パス。

#### useSSL=true

オリジナルの OWA パスのプロトコルが HTTPS である場合に追加 される。

#### 文書本体: 例

exchange://exchangesvr.ibm.com/public/RootFolder1/Folder1/Document.EML

文書添付ファイル:

exchange://exchangesvr.ibm.com/public/RootFolder1/Folder1/Document.EML/ AttachedFile.doc

SSL で使用可能:

exchange://exchangesvr.ibm.com/public/TeamRoom/Folder1/Document.EML ?useSSL=true

### Lotus Notes クローラー

Lotus Notes クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次の とおりです。

domino://Server Name[:Port Number]/Database Replica ID/Database Path and Name /[View Universal ID]/Document Universal ID [?AttNo=Attachment Number&AttName=Attachment File Name]

#### パラメーター

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

Server Name

Lotus Notes サーバーの名前。

Port Number

Lotus Notes サーバーのポート番号。ポート番号はオプションで す。

Database Replica ID

データベース・レプリカの ID。

Database Path and Name

ターゲット Lotus Notes サーバー上の NSF データベースのパスと ファイル名。

View Universal ID

ターゲット・データベース上で定義された View Universal ID。こ の ID は、文書がビューまたはフォルダーから選択されたときにの み指定されます。ビューまたはフォルダーをクロール対象として指 定しない場合(例えば、データベース内の全文書をクロールするよ う指定する場合)、View Universal ID は指定されません。

Document Universal ID

クローラーによってクロールされる文書内で定義された Document Universal ID.

Attachment Number

ゼロから始まる、各添付ファイルの連続番号。添付ファイル番号は オプションです。

Attachment\_File\_Name

添付ファイルのオリジナル名。添付ファイル名はオプションです。

例 ビューまたはフォルダーでクロールするために選択された文書:

domino://dominosvr.ibm.com/49256D3A000A20DE/Database.nsf/ 8178B1C14B1E9B6B8525624F0062FE9F/0205F44FA3F45A9049256DB20042D226

ビューまたはフォルダーでクロールするために選択されていない文書:

domino://dominosvr.ibm.com/49256D3A000A20DE/Database.nsf//
0205F44FA3F45A9049256DB20042D226

文書添付ファイル:

 $\label{local-dominosyr.ibm.com/49256D3A000A20DE/Database.nsf// 0205F44FA3F45A9049256DB20042D226? AttNo=0 \& AttName=Attached File.doc$ 

## QuickPlace クローラー

QuickPlace クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、次のとおりです。

quickplace://Server\_Name:Port\_Number/Database\_Replica\_ID/Database\_Path\_and\_Name
/View\_Universal\_ID/Document\_Universal\_ID
/?AttNo=Attachment Number&AttName=Attachment File Name

### パラメーター

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

Server\_Name

Lotus QuickPlace サーバーの名前。

Port Number

オプション: QuickPlace サーバー用のポート番号。

Database Replica ID

データベース・レプリカの ID。

Database Path and Name

ターゲット QuickPlace サーバー上の文書 NSF データベースのパスとファイル名。

View Universal ID

QuickPlace 文書をクロールするのに使用される View Universal ID。

Document Universal ID

クロール対象文書で定義される Document Universal ID。

Attachment Number

オプション:ゼロから始まる、各添付ファイルの連続番号。

Attachment\_File\_Name

オプション:添付ファイルのオリジナル名。

例 文書:

quickplace://ltwsvr.ibm.com/49257043000214B3/QuickPlace%5Csampleplace
%5CPageLibrary4925704300021490.nsf
/A7986FD2A9CD47090525670800167225
/2B02B1DE3A82B2CE49257043001C2498

添付ページ: quickplace://ltwsvr.ibm.com/49257043000214B3/QuickPlace%5Csampleplace %5CPageLibrary4925704300021490.nsf /A7986FD2A9CD47090525670800167225 /2B02B1DE3A82B2CE49257043001C2498 ?AttNo=0&AttName==QPCons3.ppt UNIX ファイル・システム クローラー I UNIX ファイル・システム クローラーによってクロールされる文書の URI フォー マットは、次のとおりです。 file:///Directory\_Name/File\_Name パラメーター すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。 Directory Name ディレクトリーの絶対パス名。 File Name ファイルの名前。 例 file:///home/user/test.doc WebSphere Portal クローラー I WebSphere Portal クローラーによってクロールされる文書の URI フォーマットは、 次のとおりです。 wps://WPS\_Access\_Path?portletDefID=Portlet\_Def\_ID&pageID=Page\_ID&useSSL=SSL パラメーター すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。 WPS Access Path WebSphere Portal サーバー・パス (プロトコルなし)。 Portlet Def ID Page ID SSL 例 文書本体: 例 SSL で使用可能:

WebSphere Portal サーバー用ポートレット定義 ID。 WebSphere Portal サーバー用ページ ID。 useSSL=true は、パスのプロトコルが HTTPS であるときに追加さ れます。そうでない場合は、useSSL=false が追加されます。 wps://wpserver.ibm.com:9081/wps/myportal/!ut/p/kcxml/04 Sj9SPykssy0x+ LKnPy1vM0Y QjzKCN4g3cQbJgQi0-pFQAW99X4 83FT9AP2C5IhyR0dFRQD8qHRj/delta /base64xml/L01DU1kvd0NrQUpORUEvNFBVROVoQSEvN18wXzZPLzZfMF80RA!! ?portletDefID=3\_0\_3S&pageID=6\_0\_6J&useSSL=false wps://wpserver.ibm.com:9081/wps/myportal/!ut/p/kcxml/04\_Sj9SPykssy0x+ LKnPy1vMOY QjzKCN4g3cQbJgQiO-pFQAW99X4 83FT9AP2C5IhyR0dFRQD8qHRj/delta /base64xml/L01DU1kvd0NrQUpORUEvNFBVR0VoQSEvN18wXzZPLzZfMF80RA!! ?portletDefID=7 0 A4&pageID=6 0 6J&useSSL=true エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理

## Windows ファイル・システム クローラー

Windows ファイル・システム クローラーによってクロールされる文書の URI フォ ーマットは、次のとおりです。

file:///Directory Name/File Name

file:///Network Folder Name/Directory Name/File Name

#### パラメーター

すべてのフィールドに URL エンコード方式が適用されます。

Directory Name

ディレクトリーの絶対パス名。

File Name

ファイルの名前。

Network Folder Name

リモート・サーバー上のみにある文書の場合の、 Windows ネット ワーク上の共有フォルダーの名前。

例 ローカル・ファイル・システム:

file:///d:/directory/test.doc

ネットワーク・ファイル・システム:

file:///filesvr.ibm.com/directory/file.doc

### 関連概念

37ページの『エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理』

コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラー を 構成できます。1 つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることが できます。

#### 関連タスク

122ページの『カテゴリーの構成』

1 つのコレクションのカテゴリーはいくつも作成することができ、 各カテゴリ ーにはいくつもの規則を含めることができます。規則によって、カテゴリーと自 動的に関連付けられる 文書が決まります。

160ページの『有効範囲の構成』

エンタープライズ・サーチ・コレクションの有効範囲を構成するときに、 ユー ザーが検索を許可される索引内の文書の範囲に合うように URI または URI パ ターンを指定します。

163 ページの『索引から URI を除去』

コレクション内の文書をユーザーが検索できないようにするため、 それらの文 書の URI を索引から除去することができます。

174ページの『クイック・リンクの構成』

エンタープライズ・サーチ・コレクションのクイック・リンクを作成するため、 文書の URI を、検索結果に含ませたものをトリガーするキーワードと関連付け

260 ページの『URI についての詳細表示』

URI に関する詳細情報を見ることができます。この URI で表される文書がどの ようにクロール、索引付け、 検索されるのかについての現在情報および履歴情 報を知ることができます。

279ページの『除去された文書に関するレポートの表示』 エンタープライズ・サーチ・システムから除去された文書に関する詳細情報を 表示することができます。この情報は、コレクションに対する文書トラッキング を 使用可能にした場合にのみ有効です。

## エンタープライズ・サーチ・パーサーの管理

文書の検索性を高めるために、文書およびメタデータが、エンタープライズ・サーチ索引に追加される前に、どのように構文解析、分析、および分類されるのかに関するオプションを指定できます。

文書コンテンツの構文解析および情報の検索性の最適化のために指定できるオプションには、以下のものがあります。

### 中国語、日本語、韓国語の文書に対する構文解析オプションの構成

中国語、日本語、韓国語で書かれた文書を構文解析するために N-gram セグメンテーション使用のオプションを指定することができます。また、中国語と日本語の文書内の空白文字から改行文字を除去することもできます。

### ネイティブ XML 検索の使用可能化

ご使用のコレクションに XML 文書が含まれている場合、XPath および XML フラグメントなどの、ネイティブ XML 照会構文を使用した検索を可能にできます。ネイティブ XML 検索により、ユーザーは、さまざまな XML エレメント間の関係に基づいた照会を指定できるようになります。

### カテゴリーの構成

類似 URI パターンを共有する文書、または特定の語句を含む文書をカテゴリーとしてまとめることができます。ユーザーは、コレクションの検索時に、検索結果を特定のカテゴリーに属する文書に限定することができます。

#### 検索フィールドの構成

XML 文書内のエレメントを索引の検索フィールドにマップできます。また、 HTML 文書のメタデータ・エレメントを検索フィールドにマップすることもできます。エンタープライズ・サーチ索引に検索フィールドを作成することで、ユーザーが XML および HTML 文書の特定部分を照会できるようになり、検索結果の精度を上げることができます。

### テキスト処理オプションの構成

カスタム・テキスト分析エンジンがエンタープライズ・サーチ・システムに追加されている場合、その 1 つを特定のコレクションで使用するよう選択できます。分析エンジンをコレクションに関連付けた後、コンテンツが言語的に分析され注釈が付けられるようにコンテンツをマップするオプションを指定できます。また、分析結果がどのようにエンタープライズ・サーチ索引または JDBC データベース表にマップされるのかを指定することもできます。

### ランキング調整クラスへのフィールドのマッピング

照会用語に一致するフィールドが含まれている文書が、照会用語に一致する他の文書よりも検索結果内で高くランク付けされるよう指定できます。フィールドをランキング調整クラスにマップするときには、どのコンテンツおよびメタデータ・フィールドがランキング調整されるのかを指定します。また、各ランキング調整クラスが文書のランク付けに使用するスコアを構成することもできます。

#### 関連概念

「テキスト分析機能ガイド」の『セマンティック検索の言語サポート』 「テキスト分析機能ガイド」の『エンタープライズ・サーチに組み込まれている テキスト分析』

「テキスト分析機能ガイド」の『Unstructured Information Management Architecture (UIMA)』

「テキスト分析機能ガイド」の『セマンティック検索アプリケーション』 「テキスト分析機能ガイド」の『セマンティック検索照会』

## カテゴリーに関する作業

カテゴリーを使用すると、共通の特性を共用する文書をグループにまとめ、そのグ ループのメンバーに対する基準に合う文書だけを検索、取得することができます。

文書がカテゴリーに関連付けられていて、検索アプリケーションがこの機能をサポ ートする場合、ユーザーはカテゴリー名を指定してコレクションのサブセットを検 索することができます。コレクション全体を検索する場合、ユーザーは検索結果を 絞り込んで、同じカテゴリーにある文書だけを結果文書として参照できるようにす ることができます。

エンタープライズ・サーチでは、文書をカテゴリーに分類する場合、次の2つの方 式をサポートしています。

### ルール・ベース

この方式は、指定した規則に従って文書をカテゴリーに関連付ける場合に使 用します。例えば、URI パターンを共有する文書をグループ化したり、ま たは文書コンテンツ (特定の語句を含む、あるいは含まない文書など) に基 づいて文書をグループ化することができます。

### モデル・ベース

この方法は、IBM WebSphere Portal を使用しており、WebSphere Portal で 事前定義されたカテゴリーを使ってエンタープライズ・サーチ・コレクショ ンを検索する場合に使用します。

### カテゴリー化の変更

カテゴリーを作成、管理するには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使 用します。

- コレクションの作成時に、カテゴリー化タイプを選択します。カテゴリーを使用 しない、ルール・ベースのカテゴリーを使用する、またはモデル・ベースのカテ ゴリーを使用する、のいずれかを選択できます。
- コレクションの構文解析規則を構成する場合、必要に応じてカテゴリー化タイプ を変更できます。文書のクロール、索引作成の終了後にカテゴリー化タイプを変 更する場合、その全文書を再クロールして、再解析し、索引を再編成しないと、 検索の品質が低下します。
- ルール・ベースのカテゴリーを使用する場合、管理コンソールを使用して、カテ ゴリー・ツリー、カテゴリー、およびカテゴリー規則を管理することができま す。文書のクロール、索引作成の終了後にカテゴリーおよびカテゴリー規則を変 更する場合、その全文書を再クロールして、再解析し、索引を再編成しないと、 検索の品質が低下します。

### 文書コンテンツ・フィールド

モデル・ベースのカテゴリーあるいは、(URI パターン規則ではなく) 文書コンテン ツ規則を使用するルール・ベースのカテゴリーでコレクションを作成する場合、カ テゴリー化する文書にコンテンツ・フィールドが含まれるようにしてください。

モデル・ベースのカテゴリーおよび文書コンテンツに基づいたカテゴリー規則は、 文書のコンテンツ・フィールドについて作用しますが、文書メタデータは考慮しま せん。コンテンツ・フィールドを含む文書、あるいは、クローラーの構成時に、コ ンテンツ・フィールドに構成可能なフィールドを含む文書のみ、これらのカテゴリ ー化オプションを使用してカテゴリー化することができます。

モデル・ベースのカテゴリーを構成するか、または文書コンテンツに基づくカテゴ リー規則を作成する場合、規則は、文書のコンテンツ部分にのみ適用されます。以 下のクローラー・タイプでは、規則はファイル (UNIX のコンテンツまたは Microsoft Windows ファイルなど) あるいは Web ページのコンテンツに適用されま す。

- Exchange Server
- NNTP

ı

Ι

ı

1

Ι

1

1

ı

- UNIX ファイル・システム
- Web
- WebSphere Portal
- Windows ファイル・システム

以下のクローラー・タイプでは、個々のデータ・ソースに対してオプションを構成 する際に、どのフィールドが文書コンテンツ・フィールドであるかを指定します。 このオプションは、クローラー作成時に、クローラー・ウィザードの最終ページで 選択できます。クローラーがすでに存在する場合は、クロール・スペースを編集 し、オプションを編集するデータ・ソースを選択してから、どのフィールドがその データ・ソースの文書コンテンツ・フィールドであるか指定します。

- · Content Edition
- DB2 Content Manager
- DB2
- Domino Document Manager
- Lotus Notes
- · OuickPlace

## ルール・ベースのカテゴリー

エンタープライズ・サーチ・コレクションで文書をカテゴリーに関連付ける場合、 規則を構成してどの文書を関連付けるか制御することができます。

カテゴリーの作成、およびエンタープライズ・サーチで作成したコレクションに対 するカテゴリー規則および、 IBM WebSphere Portal コレクションからマイグレー ションしたルール・ベースのカテゴリーに対するカテゴリー規則の作成を行うこと ができます。文書をカテゴリー化するときの規則を構成する場合、コレクション作 成時、またはコレクションの解析規則の指定時にルール・ベースのカテゴリーを使 用することを指定する必要があります。

パーサーは、指定した規則を使用して文書を 1 つまたは複数のカテゴリーに関連付 けます。

- 文書が特定のカテゴリー内の少なくとも 1 つの規則に該当した場合、パーサーは その文書をその特定カテゴリーに関連付けます。
- 文書が複数のカテゴリー内の少なくとも 1 つの規則に該当した場合、パーサーは その文書をそれらすべてのカテゴリーに関連付けます。
- 文書がカテゴリーのどの規則にも該当しない場合は、パーサーはその文書をカテ ゴリーに関連付けません。コレクションを検索すれば、この文書を検索、取得す ることができますが、特定のカテゴリーを検索してもこの文書が取得されること はありえません。

コレクションのカテゴリー・ツリー (分類構造) を管理する場合、新規のカテゴリー をカテゴリー階層のどこに追加するかを指定します。また、カテゴリー・ツリーを 使用して、編集するカテゴリーを選択し、文書をカテゴリー化する場合の規則を追 加、削除、および個別規則の内容を変更することもできます。

文書のカテゴリー化規則を構成する場合、エンタープライズ・サーチが、文書がカ テゴリーに属しているかどうかを判別する際に文書の URI を使用するか、文書内の コンテンツを使用するかを選択します。

#### URI パターン

URI 規則を文書の URI に適用します。URI の一部 (パターン) を指定し、 指定されたパターンを URI に持つ文書がその規則に該当することになりま す。

例えば、規則のテキストに「/hr/」と指定した場合、次に挙げる最初の URI は規則に該当しますが、2番目のURI は該当しないことになります。

file:///corporate/hr/medicalform.doc http://company.com/human resources/medicalform.htm

URI はすべてパターンとして扱うため、パターンの最初あるいは最後に指 定したワイルドカード文字としてのアスタリスクは、システムによって無視 されます。例えば、\*/hr/\* と /hr/ は、同一の URI とマッチングするこ とになります。

URI のパターン規則は、大/小文字の区別をしません。 URI にスペースが 含まれる場合、URI パターンは URI エンコード用のエンタープライズ・サ ーチ規則に従う必要があります。次の例は、Windows ファイル・システ ム・パスの URI を指定する場合の正しい方法と間違っている方法を示して います。

Incorrect URI: file:///c:/program files/ 正しい URI: file:///c:/program+files/

## 文書コンテンツ

文書コンテンツ規則の指定は、照会と同じフォーマットで行います。文書が その照会に対して有効な場合、その文書は規則に該当することになります。 規則を構成する場合、文書に含まれる、または含まれてはならない語句を指 定し、語のステミング規則を適用する言語を選択します。

例えば、次の規則では、語として「hr」を含むか、または句として「human resources」を含む文書が規則に該当することになります。

hr "human resources"

また別の例として、次の規則では、語として「hr」を含み、かつ 「benefits」という句を含まない文書が規則に該当することになります。

#### +hr -benefits

コンテンツ規則では、検索および索引 API (SIAPI) 照会と同様の言語正規 化が行われます。 しかし、コンテンツ規則の構文でサポートされるのは、 SIAPI 照会構文で使用可能な操作のサブセットです。以下の照会演算子のみ を使用できます。

- 項の前に正符号を付けると、その項が文書に出現しなければならな いことを示します。
- 項の前に負符号を付けると、その項が文書に出現してはならないこ とを示します。
- 複数の項を引用符で囲むと、その句が文書中に正確に出現する必要 があることを示します。

文書コンテンツ規則は、文書のコンテンツ部分にのみ適用されます。以下の クローラー・タイプでは、規則はファイル (UNIX のコンテンツまたは Microsoft Windows ファイルなど) あるいは Web ページのコンテンツに適 用されます。

- Exchange Server
- NNTP
- UNIX ファイル・システム
- Web
- · WebSphere Portal
- Windows ファイル・システム

以下のクローラー・タイプでは、個々のデータ・ソースに対してオプション を構成する際に、どのフィールドが文書コンテンツ・フィールドであるかを 指定します。このオプションは、クローラー作成時に、クローラー・ウィザ ードの最終ページで選択できます。クローラーがすでに存在する場合は、ク ロール・スペースを編集し、オプションを編集するデータ・ソースを選択し てから、どのフィールドがそのデータ・ソースの文書コンテンツ・フィール ドであるか指定します。

- · Content Edition
- DB2 Content Manager
- Domino Document Manager
- · Lotus Notes
- · QuickPlace

#### 関連タスク

245 ページの『WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション』 WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにコレクションをマイグレーシ

1

1

1

ı ョンするには、WebSphere Portal にコレクションを準備し、マイグレーション・ ウィザードを使用して準備したコレクションをマイグレーションします。

## モデル・ベースのカテゴリー

IBM WebSphere Portal システムで、モデル・ベースのカテゴリーを使用している場合、エンタープライズ・サーチ・コレクションでもそれらのカテゴリーを継続して使用することができます。

WebSphere Portal では、2,300 を超えるサブジェクトで構成される事前定義の分類を提供しています。これらのサブジェクトは、「コンピューター」、「金融」、および「交通機関」などの業種別カテゴリー分野に分類されています。 Portal ユーザーは、これらのサブジェクト・エリアに対応する文書を自動的に判別するアプリケーションを作成でき、さらに、ユーザーの業務ニーズに合わせてこれらのカテゴリーをカスタマイズできます。

WebSphere Portal カテゴリーをエンタープライズ・サーチで使用する場合、次の条件に従う必要があります。

- マイグレーション・ウィザードを使ってモデル・ベース分類構造ファイルをエンタープライズ・サーチにインポートすること。
- コレクションの作成時、またはコレクションの解析規則の構成時に、モデル・ベースのカテゴリーの使用を指定すること。
- WebSphere Portal がエンタープライズ・サーチ索引サーバーにインストールされていること。
- カテゴリーの管理には WebSphere Portal のカテゴリー化ツールを使用すること。 モデル・ベースのカテゴリーは、エンタープライズ・サーチ管理コンソールで管 理することはできません。

#### 関連タスク

243 ページの『WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造のマイグレーション』

WebSphere Portal 分類管理ポートレットを使用すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションで使用するモデル・ベースの分類構造を選択することができます。すでにエンタープライズ・サーチにマイグレーション済みのコレクションは、新たな分類マイグレーションを選択してもその影響を受けることはありません。

## カテゴリー・ツリー

カテゴリー・ツリーを使用すると、コレクション内のルール・ベースのすべてのカテゴリーを表示できます。カテゴリー・ツリーを使って、カテゴリーの作成、カテゴリーの削除、およびカテゴリーに文書を関連付けるときの規則を編集することもできます。

カテゴリー・ツリーは、分類構造とも呼ばれ、階層構造になっています。このツリーは、ルート・カテゴリーを起点とし、他のカテゴリーはすべてこのルート・カテゴリーから分岐します。任意の数のカテゴリーおよびサブカテゴリーをネスト化して、文書の参照および検索のさまざまな選択肢をユーザーに提供することができます。

例えば、ある文書が複数のカテゴリーに規則を受け渡す場合、その文書はそれらす べてのカテゴリーに関連付けられます。ユーザーが特定のカテゴリーを検索する、 または、検索結果を参照するときに特定のカテゴリーに属する文書を参照する場 合、文書が複数のカテゴリーに属していればユーザーがその文書を見つける可能性 が高まります。

カテゴリー・ツリーを管理する場合、新規のカテゴリーを既存のカテゴリー下にネ ストすることにより、どの文書がどのカテゴリー (1 つ以上) に属するかを調整する ことができます。カテゴリーを作成するときに、そのカテゴリーがルート・レベル で作成されるのか、別のカテゴリーのサブカテゴリーとして作成するのかを指定で きます。また、カテゴリー・ツリーを使用して、コレクションからカテゴリーを削 除したり、文書をカテゴリーに関連付けるときの規則を変更したりすることもでき ます。カテゴリーの編集時には、カテゴリーの名前変更、カテゴリー化規則の追加 または削除、また個別規則の内容を変更することができます。

カテゴリー・ツリーを管理する場合、検索および参照動作のガイドラインとして以 下に記載する説明を参考にしてください。

- ユーザーが上位レベルのカテゴリーを検索すると、そのカテゴリー、およびその カテゴリー以下のすべてのサブカテゴリーが、検索基準に合致する文書の検索対 象となります。ユーザーがサブカテゴリーのないカテゴリーを検索する場合、そ のカテゴリーだけが検索されます。
- ユーザーが検索結果を参照しているときに、特定のカテゴリーに属する文書だけ を参照するオプションを選択すると、そのカテゴリーの文書だけが表示されま す。サブカテゴリーの名前も検索結果に表示されるので、ユーザーは異なるカテ ゴリーに切り替え、文書のサブセットを一度に表示することができます。

#### 関連タスク

245 ページの『WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション』 WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにコレクションをマイグレーシ ョンするには、WebSphere Portal にコレクションを準備し、マイグレーション・ ウィザードを使用して準備したコレクションをマイグレーションします。

## カテゴリー化タイプの選択

カテゴリー化タイプを選択するときに、コレクションの中で文書をカテゴリーに関 連付けるのに使用する方法を指定します。

#### 始める前に

カテゴリー化タイプを変更するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメン バーであるか、変更するコレクションのコレクション管理者である必要がありま す。

#### このタスクについて

カテゴリー化タイプは、コレクションが作成されるときに指定されます。必要であ れば、コレクションの文書をカテゴリー化する方法を変更できます。コレクション のために特別に構成するルール・ベースのカテゴリーを使用するか、IBM WebSphere Portal システムの中にあるモデル・ベースのカテゴリーを使用するか、 あるいはカテゴリーを使用しないこともできます。

重要: データをクロールし、コレクションの索引を作成したあとでカテゴリー化タ イプを変更すると、索引の整合性がなくなります。検索結果の正確性を確保 するには、コレクション内のすべての文書を再クロールし、文書の構文解析 が済んでから索引を再編成します。

### 手順

カテゴリー化タイプを選択するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「構文解析」ページを選択し、「カテゴリー化タイプの 選択」をクリックします。
- 2. 「カテゴリー化タイプの選択」ページで、次のオプションの 1 つを選択しま
  - なし このオプションは、このコレクションの中の文書をカテゴリー化しない 場合に選択します。

#### ルール・ベース

このオプションは、このコレクションのために特別に構成したカテゴリ 一規則を含む分類構造を使用する場合に選択します。

- エンタープライズ・サーチ用に作成したコレクションを構成する場合 は、このオプションを選択して、文書のカテゴリー化のためのカテゴ リー名と規則を指定します。
- WebSphere Portal から移行したコレクションを構成する場合は、この オプションを選択して、インポートしたルール・ベースのカテゴリー を使用するか変更します。

### モデル・ベース

このオプションは、WebSphere Portal システムにあるモデル・ベースの カテゴリーに文書を関連付ける場合に選択します。このオプションを使 用するには、エンタープライズ・サーチ索引サーバーに WebSphere Portal がインストールされている必要があります。また、WebSphere Portal 内のカテゴリー化ツールを使用して、カテゴリーを管理する必要 があります。

3. 「**OK**」をクリックします。

## カテゴリーの構成

1 つのコレクションのカテゴリーはいくつも作成することができ、各カテゴリーに はいくつもの規則を含めることができます。規則によって、カテゴリーと自動的に 関連付けられる文書が決まります。

### 始める前に

カテゴリーを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであ るか、そのカテゴリーが所属するコレクションのコレクション管理者である必要が あります。

ルール・ベースのカテゴリーを使用するオプションが、カテゴリー化タイプとして 選択される必要があります。

文書をカテゴリーに関連付ける規則をどのように指定するかについての例は、カテ ゴリーを作成または編集しているときに、「ヘルプ」をクリックしてください。

#### このタスクについて

検索アプリケーションでカテゴリーのサポートが使用可能であれば、ユーザーは、 カテゴリー名を指定することによって、コレクションのサブセットを検索できま す。ユーザーはまた、検索結果の中でカテゴリーを選択して、そのカテゴリーに属 する文書のみを参照することもできます。

重要: データをクロールし、コレクションの索引を作成したあとでカテゴリーまた はカテゴリー規則を変更すると、索引の整合性がなくなります。検索結果の 正確性を確保するには、コレクション内のすべての文書を再クロールし、文 書を再解析してから、索引を再編成します。

### 手順

カテゴリーを構成するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「構文解析」ページを選択し、「カテゴリー・ツリーの 構成」をクリックします。
- 2. 「カテゴリー・ツリー」ページで、カテゴリーを追加するツリー内の場所を選択 し、「**カテゴリーの作成**」をクリックします。

ルートを選択すると、新規カテゴリーがルート・レベルに作成されます。カテゴ リー名を選択すると、新規カテゴリーは、カテゴリー・ツリーの中の選択された カテゴリーの下にネストされます。

ウィザードが開き、文書を新規カテゴリーに関連付ける規則の指定をガイドしま

- a. 「カテゴリーの作成」ページで、カテゴリーの記述名を入力し、「**次へ**」を クリックします。
- b. 「カテゴリー規則の作成」ページで、「規則の追加」をクリックします。
- c. 「カテゴリー規則の作成」ページで、「規則名」フィールドに規則の固有の 名前を入力します。 この名前はコレクションの中の全カテゴリーで固有でな ければなりません。
- d. 文書をこのカテゴリーに関連付けるために使用する規則を指定して、「OK」 をクリックします。
  - 文書がカテゴリーに所属するかどうかを決めるときにエンタープライズ・ サーチが文書の URI を使用するようにする場合は、「URI パターン」を クリックして、URI パターンを指定します。

指定したテキストが URI に存在すれば、文書はそのカテゴリーに関連付 けられます。

例: file:///c:/program+files/finance

文書がカテゴリーに所属するかどうかを決めるときにエンタープライズ・ サーチが文書内の語を分析するようにする場合は、「文書コンテンツ」を クリックして、文書の言語を選択し、文書コンテンツの中に出現しなけれ ばならない語、または出現してはならない語を指定します。規則の指定 は、照会と同じ書式で行います(照会演算子 +、-、" " のみが許可されま

指定した語の包含または除外に適合する文書がそのカテゴリーに関連付け られます。

例: +finance -accounting +"fiscal year"

e. 「完了」をクリックします。

新規カテゴリーが、このコレクションに所属する他のカテゴリーと一緒に、 「カテゴリー・ツリー」ページにリストされます。

#### 関連概念

243 ページの『WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチへのマイグレー ション』

エンタープライズ・サーチでは、IBM WebSphere Portal からエンタープライ ズ・サーチに分類構造およびコレクションをマイグレーションするときに使用す るマイグレーション・ウィザードが用意されています。

#### 関連タスク

243 ページの『WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造のマイグレーシ ョン』

WebSphere Portal 分類管理ポートレットを使用すれば、エンタープライズ・サー チ・コレクションで使用するモデル・ベースの分類構造を選択することができま す。すでにエンタープライズ・サーチにマイグレーション済みのコレクション は、新たな分類マイグレーションを選択してもその影響を受けることはありませ h.

#### 関連資料

105 ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』 エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

## XML 検索フィールドの作業

ユーザーが XML 文書の特定部分を検索できるようにしたい場合、XML エレメン トを検索フィールドにマップします。

XML エレメントを検索フィールドにマップするには、エンタープライズ・サーチ管 理コンソールを使用します。Linux

## XML 検索フィールド

XML 検索フィールドは、ユーザーによる XML 文書の特定部分の照会を可能にし ます。

XML 文書は、半構造化テキストと構造化されていないテキストの両方を含むため、 ますます一般的になってきています。XML の構造はカプセル化されていて、テキス トを囲む XML エレメントによって明示的に定義されたコンテキストを使用しま す。例えば、作成者の名前が次のように表されます。

<author>John Smith</author>

このコンテキストでは、テキスト John Smith によって、XML 文書の作成者が示さ れます。

エンタープライズ・サーチは、XML エレメントの内側にあるテキストを検索フィー ルド名と関連付ける、つまりマップすることができます。コレクションの構文解析 オプションを構成するときに、どの XML エレメントがどの検索フィールド名にマ ップされるのかを指定します。XML エレメントを検索フィールドにマップすると、 ユーザーはマップ・フィールド名を照会で指定することで、それらのエレメントを 検索できます。特定フィールドを検索する照会を使用すると、全文書コンテンツを 検索するフリー・テキスト照会よりも精度の高い検索結果が得られます。

例えば、コレクション中に XML 文書が含まれていて、title エレメントと author エレメントを索引内で検索フィールドとしてマークされるように指定すると、ユー ザーがこれらの特定エレメントを照会できるようになります。author:Smith の検索 では、 author エレメントが Smith である XML 文書を検索します。

## XML エレメントを検索フィールドにマップ

XML エレメントを検索フィールドにマップするときには、ユーザーが照会にフィー ルド名を指定することで検索可能な XML エレメントを指定します。

#### 始める前に

XML エレメントを検索フィールドにマップするには、エンタープライズ・サーチ管 理者役割のメンバーであるか、その XML 文書が所属するコレクションのコレクシ ョン管理者である必要があります。

#### このタスクについて

XML フィールド・マッピングを作成した場合、または、既存の XML フィール ド・マッピングでフィールドの追加、変更、削除を行った場合、それらの変更内容 が有効になるのは、パーサーを停止して再始動した後です。パーサーの再始動後、 新規マッピングおよび変更されたマッピングは、構文解析されるデータに適用され ます。新規マッピングおよび変更されたマッピングは、すでに構文解析され索引付 けされたデータには影響しません。

このタスクでは、以下の XML 文書をサンプルとして使用することで、従業員 (personnel) レコードをマップし、ユーザーが特定のエレメントを直接照会できるよ うにする方法を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<personnel>
   <personnelrecord>
       <phone>5555</phone>
        <email>joe@us.ibm.com</email>
        <jobroles>Manager, architect
             <jobrole>Managing Search Development Group</jobrole>
             <jobrole>Architecting Search Technology</jobrole>
       <location>New York</location>
        <section id="expertise">
```

<text>Linguistics</text> </section> </personnelrecord> </personnel>

#### 手順

この例の XML エレメントを検索フィールドにマップするには、次のようにしま

- 1. コレクションを編集、「構文解析」ページを選択、そして「フィールドへの XML エレメントのマッピング」をクリックします。
- 2. 「XML フィールドのマッピング」ページで、「XML マッピングの作成」をク リックします。「XML フィールド・マッピングの作成」ページが開きます。
- 3. 「XML ルート・エレメント名」フィールドに、ルート・エレメント名 personnel を入力します。

ここで指定する名前が、検索したい XML 文書内のルート・エレメントと完全に 一致するようにしてください。エンタープライズ・サーチは、XML 文書の構文 解析および索引付けを行う際、ルート・エレメント名に従って、どのマッピング を使用するのかを選択します。

4. 「**XML マッピング名**」フィールドに、この **XML** フィールド・マッピング規則 セットの名前を入力します。

XML マッピング規則セットを作成した後、この名前が「XML フィールド・マ ッピング」ページに表示されるので、マッピング規則の追加、削除、または変更 を行う対象としてこの名前を選択できます。

- 5. XML エレメント jobrole を、jobrole という名前の検索フィールドにマップし ます。
  - a. 「フィールド名」フィールドに jobrole と入力します。
  - b. 「XML エレメント名」フィールドに jobrole と入力します。
  - c. 「jobrole」フィールドをユーザーが照会できるようにし、検索結果に業務を 表示できるようにするには、「フィールド名による検索」および「検索結 果」チェック・ボックスを選択します。
- 6. XML エレメント jobroles を、同じ検索フィールドにマップします。
  - a. 「フィールドの追加」をクリックして、フィールド・マッピング規則のリス トにブランク行を追加します。
  - b. 「フィールド名」フィールドに jobroles と入力します。
  - c. 「XML エレメント名」フィールドに jobrole と入力します。

ヒント: XML エレメント名は、検索フィールド名と一致する必要はなく、複 数の XML エレメントを同じ検索フィールドにマップできます。

- d. 「jobrole」フィールドをユーザーが照会できるようにし、検索結果に業務を 表示できるようにするには、「**フィールド名による検索**」および「**検索結** 果」チェック・ボックスを選択します。
- 7. 属性 expertise を持つ XML エレメント section を、expertise という名前の 検索フィールドにマップします。

- a. 「フィールドの追加」をクリックして、フィールド・マッピング規則のリス トにブランク行を追加します。
- b. 「フィールド名」フィールドに expertise と入力します。
- c. 「フィールド名」フィールドに section と入力します。
- d. 「XML 属性名」フィールドに id と入力します。
- e. 「XML 属性値」フィールドに expertise と入力します。
- f. 「expertise」フィールドをユーザーが照会できるようにし、検索結果に専門 的知識を表示できるようにするには、「フィールド名による検索」および 「検索結果」チェック・ボックスを選択します。
- 8. 「**OK**」をクリックします。

#### 例:

検索 (search) 製品を業務とする部門の全員を検出するには、次のような照会を指定 します。

jobrole:search

言語 (linguistics) を専門にする部門の全員を検出するには、次のような照会を指定し ます。

expertise:linguistics

## HTML 検索フィールドの作業

ユーザーが HTML 文書の特定メタデータ部分を検索できるようにする場合、 HTML メタデータ・エレメントを索引の検索フィールドにマップします。

HTML メタデータ・エレメントを検索フィールドにマップするには、エンタープラ イズ・サーチ管理コンソールを使用します。

## HTML 検索フィールド

HTML 検索フィールドにより、ユーザーは HTML 文書の属性を照会できます。

HTML 文書のメタデータ・エレメントは、文書に関する情報を提供するというこ と、そのフォーマット方法、および Web 上のアクセス許可の方法の点において、 文書の属性と類似しています。以下に例を示します。

<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=utf-8" /> ] <meta name="copyright" content="(C) Copyright IBM Corporation 2005" /> <meta name="content.owner" content="(C) Copyright IBM Corporation 2005" /> <meta name="security" content="public" />
<meta name="abstract" content="This topic describes an IBM product." /> <meta name="format" content="XHTML" />

エンタープライズ・サーチは、HTML メタデータ・エレメントの名前を検索フィー ルド名に関連付ける、すなわちマップすることができます。コレクションの構文解 析オプションを設定するときに、どの HTML メタデータ・エレメントをどの検索 フィールド名にマップするのかを指定します。 HTML メタデータ・エレメントを 検索フィールドにマップすると、ユーザーは照会に検索フィールド名を指定するこ

とで、それらのエレメントを含む文書を検索できます。特定フィールドを検索する 照会を使用すると、全文書コンテンツを検索するフリー・テキスト照会よりも精度 の高い検索結果が得られます。

例えば、コレクションに HTML 文書が含まれていて、copyright メタデータ・エレ メントと abstract メタデータ・エレメントを検索フィールドとして索引付けすると 指定すると、ユーザーはこれらの特定エレメントを照会できるようになります。

「copyright:IBM」で検索すると、 copyright メタデータに IBM という語のある HTML 文書を検出できます。

## 検索フィールドへの HTML メタデータ・エレメントのマッピング

HTML メタデータ・エレメントを検索フィールドにマップするときには、ユーザー が照会にフィールド名を指定することで検索可能な HTML エレメントを指定しま す。

### 始める前に

HTML メタデータ・エレメントを検索フィールドにマップするには、エンタープラ イズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、その HTML 文書が所属するコレク ションのコレクション管理者である必要があります。

#### このタスクについて

HTML フィールド・マッピングを作成したり、既存の HTML フィールド・マッピ ングでフィールドの追加、変更、削除を行った場合、それらの変更内容が有効にな るのは、パーサーを停止して再始動した後です。変更は、パーサーを再始動した後 で構文解析されたデータにのみ適用されます。すでに構文解析され、索引付けられ ている文書を更新するには、目的の文書を再度クロールして構文解析してから、索 引を再編成する必要があります。

#### 手順

検索フィールドに HTML メタデータ・エレメントをマップするには、次のように します。

- 1. コレクションを編集して「構文解析」ページを選択し、「**HTML メタデータを フィールドにマップ**」をクリックします。
- 2. 「HTML フィールド・マッピング」ページで、「フィールドの追加」をクリッ クして、フィールド・マッピング規則のリストにブランク行を追加します。
- 3. 「フィールド名」フィールドに、マップしようとする HTML メタデータ・エレ メントと関連付けたい名前を入力します。ユーザーは、このコレクション内の HTML 文書を照会するときに、このフィールド名を指定できます。
- 4. 「HTML メタデータ・エレメント名」フィールドに、マップしようとする HTML メタデータ・エレメントの名前を入力します。
- 5. ユーザーがこのフィールドを照会し、検索結果にそれを表示できるようにするた めに、「**フィールド検索**」チェック・ボックスと「検索結果」チェック・ボック スを選択します。
- 6. このフィールドのデータ・タイプが、 DECIMAL, DOUBLE, INTEGER, SHORT, TIME, \$\pm\text{timestamp}\$ or,

かつ、このフィールドの検索時にユーザーがパラメトリック照会を指定できるようにしたい場合は、「**パラメトリック検索**」チェック・ボックスを選択します。

7. 「**OK**」をクリックします。

#### 例:

これで、ユーザーは、マップ・フィールド名を照会して、特定のメタデータをもつ HTML 文書を検索できるようになりました。例えば、description という名前の HTML メタデータ・エレメントを、abstract という名前の検索フィールドにマップしてある場合、ユーザーは、以下のような照会を入力すると、Thinkpad コンピューターに関する文書を検索できます。

abstract:thinkpad

## カスタム・テキスト処理

カスタム・テキスト処理アルゴリズムをエンタープライズ・サーチ・コレクションと統合することにより、検索結果の品質と精度を高めることができます。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition は、IBM Unstructured Information Management Architecture (UIMA) をサポートしています。これは、テキスト分析機能の作成、ディスカバー、合成、デプロイを行うためのフレームワークです。アプリケーション開発者は、コンテンツが検索される分析アルゴリズムを作成し、テストしてから、エンタープライズ・サーチにアーカイブを使用するのに必要なすべてのリソースが含まれている処理エンジン・アーカイブ (.pear ファイル)を作成します。カスタム・テキスト分析アルゴリズムを使ってコレクションを検索できるようにするために、アーカイブ (分析エンジンが含まれています)をエンタープライズ・サーチ・システムに追加する必要があります。

テキスト分析エンジン内の分析論理コンポーネントをアノテーター といいます。各アノテーターは、特定の言語分析タスクを実行します。テキスト処理エンジンは、任意の数のアノテーターが含まれているものであっても、また、それぞれに固有のカスタム・アノテーターが含まれている幾つかの分析エンジンの複合であっても構いません。

アノテーターによって作成された情報を、分析結果といいます。分析結果は、検索したい情報に相当するもので、共通分析構造と呼ばれるデータ構造に書き込まれます。

コレクションについてテキスト処理オプションを構成する際には、以下の操作を行ってください。

- コレクション内の文書に注釈を付けるのに使用するテキスト分析エンジンを選択します。
- コレクションに分かりやすいマークアップをもつ XML 文書が含まれており、このマークアップをカスタム・テキスト分析で使用したい場合は、 XML マッピング・ファイルをコレクションと関連付けて、XML マッピングの出力を共通分析構造にマップすることができます。

例えば、共通分析構造内で、<addressee> エレメントおよび <customer> エレメントの内容を Person 注釈にマップできます。こうすると、これらの注釈にカスタ

ユーザーが照会で元の XML エレメントを指定できるようにしたい場合、XML マッピングを定義する必要はありません。その代わりに、構文解析オプションを 構成し、コレクションについてネイティブ XML 検索を使用可能に設定できま す。

• エンタープライズ・サーチ索引に共通分析構造にあるデータ構造をマップしま す。これにより、注釈が付けられた文書をセマンティック検索で検索することが できるようになります。

例えば、アノテーターによって検出されるエンティティーと関係に応じて、ユー ザーは、同じ文で発生する概念や、キーワードと概念 (例えば、用語 Alex と電 話番号)を検索できます。

• 共通分析構造にあるデータ構造を、 Java Database Connectivity (JDBC) 対応であ るデータベース表にマップします。データを IBM DB2 Universal Database (DB2 UDB) または Oracle の表にマップできます。このタイプのマッピングによって、 分析の結果をデータ・マイニングのようなデータベース・アプリケーションで使 用することができるようになります。また、SOL 照会を使用して、エンタープラ イズ・サーチの外部にあるデータを検索することができるようになります。

#### 関連概念

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』 「テキスト分析機能ガイド」の『Unstructured Information Management Architecture (UIMA)

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム分析の組み込みのワークフロー』 「テキスト分析機能ガイド」の『テキスト分析アルゴリズム』 「テキスト分析機能ガイド」の『セマンティック検索アプリケーション』 「テキスト分析機能ガイド」の『セマンティック検索照会』

## システムへのテキスト分析エンジンの追加

カスタム・テキスト分析エンジンを作成する場合は、システムにそれを追加してか らでないと、エンタープライズ・サーチ用に使用できません。コレクションは、エ ンジンを使用して、文書の分析と注釈付けを行い、検索結果の精度を高めることが できます。

### 始める前に

システムにテキスト分析エンジンを追加するには、エンタープライズ・サーチ管理 者役割のメンバーである必要があります。

### このタスクについて

アプリケーション開発者は、テキスト分析用の UIMA フレームワークに従う処理エ ンジン・アーカイブ (.pear) を作成できます。アーカイブには、エンタープライズ・ サーチ・コレクションを検索するのに必要なリソースのすべてが含まれます。カス

ı

Ι 1 1 Ι 1 

1

1

タム・テキスト分析アルゴリズムを使ってコレクションを検索できるようにするた めに、アーカイブ (分析エンジンが含まれています) をエンタープライズ・サーチ・ システムに追加する必要があります。

テキスト分析エンジンをシステムに追加後、その表示名を変更して、XML ソースを 表示するオプションを選択できます。(XML ソースは、どの情報がこのエンジンで 作成されたのかを示します。)

テキスト分析エンジンが既にこのコレクションと関連付けられている場合、テキス ト分析エンジンをシステムから除去することはできません。

### 手順

カスタム・テキスト分析エンジンをエンタープライズ・サーチ・システムに追加す るには、次のようにします。

- 1. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- 2. **▽** 「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
- 3. 「構文解析」ページで、「**テキスト分析エンジンの構成**」をクリックします。
- 4. 「テキスト分析エンジン」ページで、**テキスト分析エンジンの追加**」をクリック します。
- 5. 「テキスト分析エンジンの追加」ページで、新規エンジンの記述名を入力しま す。 システムは、この表示名を使用して、管理コンソール全体でテキスト分析 エンジンを識別します。
- 6. .pear ファイルのロケーションを指定します。 ファイルが 8 MB より小さい場 合、そのファイルをシステム上に置くことができます。ファイルが 8 MB より 大きい場合、そのファイルは索引サーバーに置かなければなりません。
- 7. 「**OK**」をクリックします。 テキスト分析エンジンが「テキスト分析エンジン」 ページにリストされます。

### 関連概念

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム分析の組み込みのワークフロー』 「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』

「テキスト分析機能ガイド」の『Unstructured Information Management Architecture (UIMA) J

「テキスト分析機能ガイド」の『分析および検索における XML マークアップの 使用方法』

#### 関連タスク

「テキスト分析機能ガイド」の『UIMA タイプへの XML マッピング構成ファ イルの作成』

## テキスト分析エンジンとコレクションとの関連付け

カスタム・テキスト分析エンジンがエンタープライズ・サーチ・システムと関連付 けられている場合、そのうちの 1 つを、このコレクションで使用するよう選択でき ます。そうすると、ユーザーは、コレクションを検索するときに意味的照会を指定 し、検索結果の品質と精度を高めることができます。

#### 始める前に

テキスト分析エンジンをコレクションと関連付けるには、エンタープライズ・サー チ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である 必要があります。

#### このタスクについて

テキスト分析エンジンがすでにこのコレクションと関連付けられている場合、別の エンジンを関連付けるときに、以下のアクションが発生します。

- 「カスタム分析なし」を選択した場合、コレクションについて以前に定義したす べてのテキスト分析マッピングはリセットされます。コレクションはシステム・ デフォルト値を使用し始めます。
- 別のカスタム・テキスト分析エンジンを選択した場合、コレクションについて以 前に定義したすべてのテキスト分析マッピングは保存されます。例えば、engine 1 から engine\_2 に変更した場合、engine\_2 は、engine\_1 について構成された XML マッピング・ファイルを継承します。

### 手順

テキスト分析エンジンをコレクションと関連付けるには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「構文解析」ページを選択、そして「テキスト処理オプシ ョンの構成」をクリックします。
- 2. 「テキスト分析エンジンの選択」をクリックします。 エンタープライズ・サー チ・システムにカスタム・テキスト分析エンジンが追加されていない場合、また はコレクションがデフォルトの分析アルゴリズムを使用している場合、エンジン 名は **Default** です。
- 3. 「コレクションのテキスト分析エンジンの選択」ページで、このコレクションで 使用したいエンジンの名前を選択します。 選択可能なテキスト分析エンジンが ない場合、または「カスタム分析なし」を選択した場合、パーサーは、文書に注 釈を付け、索引の準備をするときに、デフォルトのテキスト分析規則を適用しま す。
- 4. 「**OK**」をクリックします。

#### 関連概念

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム分析の組み込みのワークフロー』 「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』 「テキスト分析機能ガイド」の『Unstructured Information Management Architecture (UIMA)』

## 共通分析構造への XML エレメントのマッピング

コレクションに分かりやすいマークアップをもつ XML 文書が含まれており、この マークアップを使用して、ユーザーがエンタープライズ・サーチ索引を、またはセ マンティック検索で JDBC 表を検索できるようにしたい場合、XML エレメントを 共通分析構造にマップすることができます。

#### 始める前に

XML エレメントを共通分析構造にマップするには、エンタープライズ・サーチ管理 者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要が あります。

カスタム・テキスト分析プロセスが XML 文書内の特定のエレメントにアクセスで きるようにしたり、セマンティック検索で使用するために共通の Type にいくつか の XML エレメントをマップするために、カスタム XML マッピング・ファイルを 作成できます。XML マッピング・ファイルは、テキスト分析のための UIMA フレ ームワークに従うものでなければなりません。

カスタム・テキスト分析エンジンを使用するコレクションに XML マッピング・フ ァイルを追加すると、ソース文書内の XML エレメントを共通分析構造内の注釈に マップすることができます。こうすると、これらの注釈をカスタム・テキスト分析 エンジンで使用することができます。それにより、(共通分析構造内の)分析結果を 索引にマップすることができ、ユーザーは、セマンティック検索を使用してコレク ションを検索するときに注釈を照会することができます。

例えば、共通分析構造内で、addressee エレメントおよび customer エレメントの内 容を Person 注釈にマップできます。こうすると、これらの注釈にカスタム・アノテ ーターからアクセスできるようになり、その他の情報を検出できます (例えば、 Person の性別を検出できます)。Person 注釈をエンタープライズ・サーチ索引にマッ プすることもできます。こうすると、ユーザーは、元の XML エレメントを知らな くても、Person を検索することができます。

ユーザーが照会で元の XML エレメントを指定できるようにしたい場合、XML マ ッピングを定義する必要はありません。その代わりに、構文解析オプションを構成 し、コレクションについてネイティブ XML 検索を使用可能に設定できます。

#### 手順

XML エレメントを共通分析構造にマップするには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「構文解析」ページを選択、そして「テキスト処理オプシ ョンの構成」をクリックします。
- 2. 「XML エレメントを共通分析構造にマップ」領域で、「マッピングの追加」を クリックします。
- 3. 「XML エレメントを共通分析構造にマップ」ページで、XML マッピング・フ ァイルの記述表示名を入力します。
- 4. ファイルのロケーションを指定します。 XML マッピング・ファイルが 8 MB より小さい場合、そのファイルのパスを入力するか、またはブラウズすることが できます。XML マッピング・ファイルが 8 MB より大きい場合、そのファイル が索引サーバー上にあることを確認し、そのファイルの完全修飾パスを指定しま す。
- 5. 「OK」をクリックします。 新規 XML マッピング・ファイルは、「テキスト処 理オプション」ページの XML マッピング・ファイルのリストに追加されます。

#### 関連概念

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム分析の組み込みのワークフロー』 「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』

「テキスト分析機能ガイド」の『Unstructured Information Management Architecture (UIMA)

「テキスト分析機能ガイド」の『分析および検索における XML マークアップの 使用方法』

#### 関連タスク

「テキスト分析機能ガイド」の『UIMA タイプへの XML マッピング構成ファ イルの作成』

## 索引への共通分析構造のマッピング

ユーザーがセマンティック検索でコレクションを照会するとき、必要とする共通分 析構造を指定できます。

#### 始める前に

共通分析構造を索引にマップするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメ ンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

### このタスクについて

共通分析構造をエンタープライズ・サーチ索引にマップすることにより、ユーザー が意味的に的確な照会を指定して、検索結果の品質を高めることができるようにし ます。

例えば、アノテーターによって検出されるエンティティーと関係に応じて、ユーザ 一は、同じ文で発生する概念(例えば、特定の人物と任意の競争者名)、あるいは キーワードと概念(例えば、用語 Alex と電話番号) を検索できます。

#### 手順

共通分析構造を索引にマップするには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「構文解析」ページを選択、そして「テキスト処理オプシ ョンの構成」をクリックします。
- 2. 「1 つの共通分析構造を索引にマップ」領域で、「共通分析構造の選択」をクリ ックします。
- 3. 「コレクションの共通分析構造の選択」ページで、エンタープライズ・サーチ索 引で使用したいマッピングを選択します。
  - 共通分析構造にあるデータ構造をエンタープライズ・サーチ索引にマッピング するためのデフォルトのシステム規則を使用するには、「デフォルト」を選択 します。
  - 特定の共通分析構造を索引にマップするには、共通分析構造ファイルのロケー ションを指定します。ファイルが 8 MB より小さい場合、そのファイルをシ ステム上に置くことができます。ファイルが 8 MB より大きい場合、そのフ ァイルは索引サーバーに置かなければなりません。
- 4. 「OK」をクリックします。 指定した共通分析構造は、「テキスト処理オプショ ン」ページに表示されます。

### 関連概念

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム分析の組み込みのワークフロー』

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』 「テキスト分析機能ガイド」の『Unstructured Information Management Architecture (UIMA) [

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム分析結果の索引付けの方法』 関連タスク

「テキスト分析機能ガイド」の『索引作成構成ファイルの作成』

# JDBC 表への共通分析構造のマッピング

データベース・アプリケーションで使用するために、JDBC 表にマップしたい共通 分析構造を指定できます。

#### 始める前に

Ι

ı

Ι

Ι

1

1

1

Т

1 Ι

ı

Ī

共通分析構造を Java Database Connectivity (JDBC) にマップするには、エンタープ ライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション 管理者である必要があります。

# このタスクについて

共通分析構造を JDBC 表にマップすることにより、データがデータベース・アプリ ケーションで使用できるようになります。例えば、ユーザーは、エンタープライ ズ・サーチの外部の SOL 照会を指定して、共通分析構造によって追加された注釈 を検索できます。また、データ・マイニング・アプリケーションの情報を使用する など、一層のテキスト処理の情報を使用できます。

#### 手順

共通分析構造を JDBC 表にマップするには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「構文解析」ページを選択、そして「テキスト処理オプシ ョンの構成」をクリックします。
- 2. 「JDBC 表への共通分析構造のマッピング」領域で、「マッピングの追加」をク リックします。
- 3. 「JDBC 表への共通分析構造のマッピング」ページで、JDBC 表に情報をマップ するのに使用したい共通分析構造の記述表示名を入力します。
- 4. 共通分析構造ファイルのロケーションを指定します。 ファイルが 8 MB より小 さい場合、そのファイルをシステム上に置くことができます。ファイルが 8 MB より大きい場合、そのファイルは索引サーバーに置かなければなりません。
- 5. 「OK」をクリックします。 新規ファイルは、「テキスト処理オプション」ペー ジのファイルのリストに追加されます。ファイルをシステムに追加した日時も表 示されます。

# 関連概念

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム分析の組み込みのワークフロー』 「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム・テキスト分析の組み込み』 「テキスト分析機能ガイド」の『Unstructured Information Management Architecture (UIMA) [

「テキスト分析機能ガイド」の『分析結果のデータベースへのマッピングの方 法』

# 関連タスク

「テキスト分析機能ガイド」の『XML マッピング構成ファイルの作成』

# パーサー・サービス用スレッドの構成

十分なメモリー・リソースがある場合、パーサーが文書の構文解析に使用できるス レッドの数を増やすことができます。

# 始める前に

コレクションが多数ある場合などに、パーサー・スレッド数を増やすことができま す。ただし、追加スレッドをサポートするのに十分なメモリーがシステムにあるこ とを確認してください。スレッドが 1 つのパーサーは 200 MB のメモリーを必要 とします。スレッドを 1 つ増やすごとに 50 MB のメモリーが追加で必要になりま

パーサー用に開始されるスレッドの数を構成するには、エンタープライズ・サーチ 管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必 要があります。

### 手順

パーサー・スレッドの数を構成するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「構文解析」ページを選択、そして「構文解析オプション の構成」をクリックします。
- 2. パーサー開始時に開始されるパーサー・スレッドの最大数を指定し、「OK」を クリックします。
- 3. パーサーを再始動します。

# 」複合語の拡張分析の使用可能化

パーサーが複合語に対して拡張分析を使用することを使用可能化することにより、 検索の品質を高めることができます。拡張分析を使用すると、複合語は分解され、 各パーツを 1 つの語であるように扱うことができるようになります。

### 始める前に

複合語の構文解析に関するオプションを指定するには、エンタープライズ・サーチ 管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必 要があります。

### このタスクについて

言語によっては、複数の語からなる単語を空白を入れずに 1 つの語にまとめるもの があります (複合 語)。複合語の拡張分析と分解は、ドイツ語のような言語の検索で 有用であり、韓国語のような言語の検索では特に重要です。

複合語の拡張分析を使用可能にしておくと、ユーザーは、ワイルドカード文字を使 用して複数の照会用語の組み合わせを表す必要なく、語句の検索を行うことができ ます。例えば、Organ (臓器) を検索すると、Organspender (臓器ドナー) が含まれ ている文書が戻されますが、Organisation (組織) が含まれている文書は戻されませ ん。ワイルドカード照会 Organ\* では Organ の後にどのようなストリングが続いて いてもすべて戻されますが、この検索はそれとは異なり、複合語を構成する言語的 に可能なサブワード全体を突き合わせます。

同義語やランキング調整ワードなどのユーザー定義の語も、照会で個々の語として 使用される複合パーツに当てはまります。

#### 手順

ı

Ι

Ι

1 

ı Ι 複合語の拡張分析を使用可能化するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「構文解析」を選択し、「構文解析オプションの構成」 をクリックします。
- 2. 「複合語の拡張分析を使用可能にする」チェック・ボックスを選択し、「OK」 をクリックします。

### 関連概念

「テキスト分析機能ガイド」の『セマンティック検索の言語サポート』 「テキスト分析機能ガイド」の『エンタープライズ・サーチに組み込まれている テキスト分析』

# ネイティブ XML 検索のサポートの使用可能化

コレクションに XML 文書が含まれている場合、ユーザーがコレクションのネイテ ィブ XML検索を使用可能にすることにより文書を検索するときに XML マークア ップを使用できるようにすることができます。

# 始める前に

XML 文書をネイティブ XML 検索で 検索するオプションを使用可能にするには、 エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコ レクション管理者である必要があります。

### このタスクについて

XPath または XML フラグメントなど、ネイティブ XML 検索は、照会内で文書の XML マークアップを活用して検索結果の精度を高めることができます。例えば、ユ ーザーは、特定の XML エレメントまたは属性で照会用語が発生するよう指定でき ます。

例えば、XML 形式のコンピューター小売業者からの送り状に、<company> エレメ ントと <computertype> エレメントが組み込まれている <order> 項目が含まれてい ることがあります。IBM ノートブックの注文が含まれている送り状を取得するため に、IBM とノートブックのキーワード検索により、Dell ノートブック・コンピュー ターおよび IBM デスクトップ・モデルが含まれている文書が取り出されます。 XML 検索を使用すると、<company> エレメントに IBM が出現すること、 <computertype> エレメントに notebook が出現すること、さらに、両方のエレメン

トが同じ <order> エレメントの下にあることを指定できます。この方法で、IBM ノ ートブックを明確に論じている送り状を取得します。

# 手順

ユーザーがネイティブ XML 検索でコレクションを検索できるようにするには、次 のようにします。

- 1. コレクションを編集、「構文解析」ページを選択、そして「構文解析オプション の構成」をクリックします。
- 2. 「XML 文書の検索でネイティブ XML 検索を可能にする」を選択します。
- 3. 「**OK**」をクリックします。

### 関連概念

「テキスト分析機能ガイド」の『セマンティック検索の言語サポート』 「テキスト分析機能ガイド」の『エンタープライズ・サーチに組み込まれている テキスト分析』

「テキスト分析機能ガイド」の『セマンティック検索アプリケーション』 「テキスト分析機能ガイド」の『セマンティック検索照会』

# 中国語、日本語、韓国語の文書の言語分析

中国語、日本語、韓国語で書かれた文書の検索性を高めるには、言語分析オプショ ンを指定します。

中国語、日本語、韓国語の文書の場合、パーサーで字句解析に N-gram セグメンテ ーション方式を使用することを指定できます。 また、中国語および日本語の文書で は、パーサーが空白から改行文字を除去するように設定できます。

# N-gram セグメンテーション

コレクションの作成時に、ワードの区切り文字として空白を使用しない言語で書か れた文書の構文解析に使用する字句解析のタイプを選択します。

Unicode ベースの空白文字セグメンテーションでは、ワードとワードの間の区切り 文字としてブランク・スペースを使用します。N-gram セグメンテーションは、任意 の数の文字が並ぶ連続を単一ワードとみなします。 ワードの区切り文字としてブラ ンクを使用しない、中国語、日本語、韓国語のような言語では、N-gram セグメンテ ーションを使用すれば、Unicode ベースの空白文字セグメンテーションよりも質の よい検索結果を戻すことができます。

コレクションの作成時に文書の構文解析に使用するセグメンテーション方式を選択 します。 コレクション作成後は、構文解析オプションを表示して設定を確認するこ とはできますが、変更することはできません。

# 非 ASCII 文字範囲からの改行文字の除去

中国語や日本語など、ワード境界を定めるのに空自文字が使用されない言語では、 改行の原因となる特定の空白文字を除去するようパーサーを構成できます。

# 始める前に

この操作を完了するには、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインする必 要があります。

### このタスクについて

このオプションがコレクションについて使用可能になっており、文書が中国語また は日本語で作成されている場合、パーサーは、2 つの文字を分離する空白文字のシ ーケンスを除去します。その文字は、非 ASCII ユニコード文字範囲からのものでな ければなりません。以下の文字が除去されます。

• タブ (0x09)

Ι

Т

1

- LF または改行 (0x0A)
- CR または復帰 (0x0D)

変更を有効にするために、パーサーを停止し、再開します。すでに構文解析済み で、索引に入れられている文書に変更を適用するには、目的の文書をもう一度クロ ールして構文解析してから、索引を再編成する必要があります。

#### 手順

空白文字から改行文字を除去するには、次のようにします。

- 1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。 こ のユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定さ れたものです。
- 2. テキスト・エディターを使用して以下のファイルを編集します。ここで、 collection ID は、コレクションの作成時にそのコレクションについて指定され た ID です (または、システムによって割り当てられたもの)。 collection ID.parserdriver/collection.properties
- 3. removeCjNewlineChars プロパティーの値を、false から true に変更します。

# コレクション・パーサーと Stellent セッションに関連付けられた文書タイ

クロール・スペース内の文書が正確にかつ効率的に構文解析されるように、どのタ イプの文書をコレクション・パーサーで構文解析し、どの文書を Stellent 文書フィ ルター処理セッションで構文解析するかを指定する構成ファイルを作成できます。

エンタープライズ・サーチ・コレクションでは、ほとんどの文書フォーマットが標 準装備の HTML パーサーまたは XML パーサーで処理されます。 一定タイプの文 書 (ポストスクリプト文書など) が、通常、構文解析されず 、他に Stellent 解析機 能で処理される文書タイプ (Microsoft Word、Microsoft Excel、 Microsoft PowerPoint、Lotus Freelance、Lotus 123、PDF、RT、および Ichitaro 文書タイプな ど)があります。

メタデータは誤りを招きやすいため、プレーン・テキストおよび HTML 文書が Stellent セッションに間違って送信されて、それから標準装備のパーサーの 1 つに 戻される可能性があり、パフォーマンスに影響を与えかねない状態になります。 こ の状況を避けるために、構成ファイルを作成して種々のタイプの文書をどこでどの ように構文解析するかを制御することができます。

文書タイプをコレクション・パーサーと Stellent セッションに関連付けるには、以 下の作業が必要です。

- 1. コレクション・パーサー用の文書タイプを構成する。このステップでは、文書タ イプをコレクションが使用するパーサーにマップする構成ファイルを作成しま す。コレクションごとに、こうした構成ファイルを 1 つ作成することができま
- 2. Stellent セッション用の文書タイプを構成する。このステップでは、文書タイプ をコレクションが使用する Stellent 文書フィルターにマップする構成ファイルを 作成します。コレクションごとに、こうした構成ファイルを 1 つ作成すること ができます。
- 3. パーサーの停止と再始動。変更を有効にするには、エンタープライズ・サーチ管 理コンソールを使用して、文書タイプを構成したコレクションをモニターしてか ら、パーサーを停止して再始動します。

# 文書タイプとコレクション・パーサーとの関連付け

特定の文書タイプをコレクション・パーサーと関連付けるには、構成ファイルを作 成します。エンタープライズ・サーチ管理コンソールでは、このタスクのサポート はありません。

#### 始める前に

この操作を完了するには、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインする必 要があります。

### このタスクについて

構成ファイルが存在しない場合、コレクション・パーサーはデフォルトのパーサ ー・サービス規則を使用します。構成ファイルが存在する場合、ファイル内の規則 は次のものを指定します。

- ファイル拡張子またはコンテンツ・タイプに応じて、Stellent セッションに送信し たい文書。
- メタデータが不完全であるためにタイプが不明な文書の構文解析方法。

ファイルのフォーマットは、一連の行で、各行が以下の規則の 1 つです。

### **EXTENSION** extension parser

指定の拡張子で終わる URL をもつすべての文書が、指定のパーサーによっ て処理されます。拡張子にピリオドを含めないでください。比較は大/小文 字の区別はありせん。

### **CONTENTTYPE** type/subtype parser

指定のタイプ/サブタイプに一致するコンテンツ・タイプをもつすべての文 書が、指定のパーサーによって処理されます。文書のコンテンツ・タイプ t/s を指定した場合、一致は、t が type に等しく、かつ、s が subtype に 等しいか、またはサブタイプがワイルドカード文字 (アスタリスク\*)であ る場合に発生します。

### **UNKNOWN** parser

不明な拡張子とコンテンツ・タイプ (すなわち、クローラーにより使用可能 にされていない)をもつすべての文書が、指定のパーサーによって処理され ます。

### **DEFAULT** parser

他のどの規則の対象にもならないすべての文書が、指定のパーサーによって 処理されます。

いかなる場合でも、parser は、html、xml、stellent、または none を指定する必要 があります。ここで、none は、そのタイプの文書が構文解析されないことを意味し ます。

1 つの文書に複数の規則が一致する場合は、規則の出現順は関係なく、より明確な 特定の規則が優先されます。

- EXTENSION 規則は、CONTENTTYPE 規則よりも明確です。
- サブタイプが含まれている CONTENTTYPE 規則は、ワイルドカード文字をもつ 規則よりも明確です。例えば、コンテンツ・タイプ application/postscript の 規則は、application/\* の規則よりも優先されます。
- 同じ拡張子またはコンテンツ・タイプに規則が 2 つあってはなりません。規則が 2 つある場合、どちらの規則が優先されるかはインプリメンテーション次第で す。

#### 手順

文書タイプをコレクション・パーサーと関連付けるには、次のようにします。

- 1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。 こ のユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定さ れたものです。
- 2. 以下のように、構成ファイルを作成します。ここで、collection\_ID は、構成し たいコレクションを示します。

ES NODE ROOT/master config/collection ID.parserdriver/parserTypes.cfg

- 3. テキスト・エディターを使用して構成ファイルを編集し、パーサー・サービス規 則を指定したら、そのファイルを保管して終了します。
- 4. 変更を有効にするために、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して コレクションのパーサーをモニターし、パーサーを停止して、再始動します。

### 例

この例では、組み込み HTML パーサーは、拡張子 txt、htm、または html をもつ か、text/で始まるコンテンツ・タイプをもつ、あるいは不明な拡張子とコンテン ツ・タイプをもつ、すべての文書を処理します。組み込み XML パーサーは、拡張 子 xml をもつか、またはコンテンツ・タイプ text/xml をもつ、すべての文書を処 理します。 application/ で始まるコンテンツ・タイプをもつ文書を含め、他の文 書はすべて、Stellent セッションに送信されます。

EXTENSION doc stellent EXTENSION txt html EXTENSION htm html EXTENSION html html EXTENSION xml xml

EXTENSION ps none CONTENTTYPE text/xml xml CONTENTTYPE text/\* html CONTENTTYPE application/\* stellent UNKNOWN html DEFAULT stellent

# デフォルトのコレクション・パーサー・サービス規則

ファイル・タイプとコンテンツ・タイプをコレクションのパーサーにマッピングす る構成ファイルを作成しない場合、文書の構文解析にはデフォルトの規則が使用さ れます。

コレクション・パーサーで使用されるデフォルトの規則は以下のようになります。

```
EXTENSION pdf stellent
EXTENSION ppt stellent
EXTENSION prz stellent
EXTENSION lwp stellent
EXTENSION doc stellent
EXTENSION rtf stellent
EXTENSION xls stellent
EXTENSION 123 stellent
EXTENSION vsd stellent
EXTENSION vdx stellent
EXTENSION jxw stellent
EXTENSION jsw stellent
EXTENSION jtw stellent
EXTENSION jaw stellent
EXTENSION juw stellent
EXTENSION jbw stellent
EXTENSION jvw stellent
EXTENSION jfw stellent
EXTENSION jtt stellent
EXTENSION jtd stellent
EXTENSION jttc stellent
EXTENSION jtdc stellent
EXTENSION jtdx stellent
EXTENSION ps none
EXTENSION xml xml
EXTENSION txt text
EXTENSION htm html
EXTENSION html html
EXTENSION shtml html
EXTENSION xhtml html
EXTENSION asp html
CONTENTTYPE application/postscript none
CONTENTTYPE application/* stellent
CONTENTTYPE text/rtf stellent
CONTENTTYPE text/richtext stellent
CONTENTTYPE text/xml xml
CONTENTTYPE text/html html
CONTENTTYPE text/plain text
UNKNOWN html
DEFAULT html
```

# 文書タイプと Stellent セッションとの関連付け

Stellent 文書フィルターで構文解析する文書のタイプを指定するために、構成ファイ ルを作成します。エンタープライズ・サーチ管理コンソールでは、このタスクのサ ポートはありません。

#### 始める前に

この操作を完了するには、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインする必 要があります。

# このタスクについて

構成ファイルは、次のものを指定します。

- Stellent セッションによって構文解析されるファイル・タイプ。ファイル・タイプ は、Stellent ライブラリーが認識するファイル・タイプの 1 つに一致します。
- コレクション・パーサーに送り返して、組み込みパーサーの 1 つで処理するファ イル・タイプ。(このアクションが必要なのは、紛らわしいメタデータのために、 コレクション・パーサーが誤って文書を Stellent セッションに送信する場合があ るからです。)
- エンタープライズ・サーチでサポートされていないためにリジェクトされるファ イル・タイプ。

構成ファイルが指定されたが、存在しない場合、パーサーは開始できません。 stellent.properties ファイル内の OutsideInSupportedTypes プロパティーに構成ファ イルが指定されていない場合、Stellent セッションのデフォルトの構文解析規則が使 用されます。

構成ファイルには、文書タイプと、それらの取り扱い方法がリストされています。 ファイルのフォーマットは、一連の行で、各行が以下の規則の 1 つです。

accept DEFAULT accept ALL doctype accept type doctype native DEFAULT native type doctype reject *type* 

ここで、それぞれ次のことを表します。

### doctype

doctype 照会トークンに使用される値です。文書を文書タイプで検索できま す。例えば、ユーザーは、PDF 文書を検索するために \$doctype::pdf を指 定できます。

Stellent ライブラリー内の FI 値の 1 つです。規則が適用された場合、 doctype は doctype トークンに使用される値です。

# **DEFAULT**

規則のタイプに応じて、受け入れられたタイプまたはネイティブ・タイプの リストにデフォルト・リストが含まれることを意味します。このオプション を選択すると、デフォルトの構成を置き換える代わりに、展開することがで きます。

明示的にリストされないすべてのタイプが指定の doctype トークンを使用し A11 て受け入れられることを意味します。

構成ファイル内の規則は、以下のように処理されます。

• accept DEFAULT が指定された場合のデフォルト・リストを含め、type について accept 規則がある場合、その規則は受け入れられます。

- また、type についてreject 規則がある場合、その規則は受け入れられません。
- さらに、accept ALL が指定されている場合、その規則は受け入れられます。
- 上記以外の場合、その規則は受け入れられません。

文書タイプが受け入れられる場合、適用された規則に指定されている doctype 値が 使用されます。この値は、構文解析されたコンテンツに加えて、コレクション・パ ーサーに戻されます。文書タイプが受け入れられない場合に起こる動作は、以下の 通りです。

- type のネイティブ規則 (native DEFAULT が指定されている場合のデフォルトの 構文解析規則を含む)がある場合、文書は、この規則で指定された doctype トー クンの値に加えて組み込みパーサーに戻されます。 doctype の値は、txt、htm、 または xml のいずれかでなければなりません。それらは、それぞれ、プレーン・ テキスト、HTML、または XML を示します。
- 上記以外の場合、文書はリジェクトされ、構文解析されません。

#### 手順

文書タイプを Stellent セッションと関連付けるには、次のようにします。

- 1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。 こ のユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定さ れたものです。
- 2. ES NODE ROOT/master config/collection ID.stellent/stellent.properties 7 ァイルを編集します。ここで、collection ID は、構成したいコレクションを示
- 3. OutsideInSupportedTypes プロパティーに、作成している構成ファイルの絶対パ スを指定します。

例えば、1 つのコレクションについて以下の構成ファイルを作成し、それを他の コレクション固有ファイルと一緒に保管できます。

ES NODE ROOT/master config/collection ID.stellent/stellenttypes.cfg

また、以下の構成ファイルを作成すると、同じ設定をすべてのコレクションで使 用し、このファイルを他のシステム・レベルのファイルと一緒に保管することも できます。(この方法の場合、ステップ2 に指定されているとおり、各コレクシ ョンの stellent.properties ファイルに、必ず、このパスを指定してくださ

ES\_INSTALL\_ROOT/default\_config/stellent/stellenttypes.cfg

- 4. テキスト・エディターを使用して構成ファイルを作成し、Stellent 構文解析規則 を指定したら、そのファイルを保管して終了します。
- 5. 変更を有効にするために、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して コレクションのパーサーをモニターし、パーサーを停止して、再始動します。

#### 例

以下の構成ファイルでは、Stellent セッションは、デフォルトのリストのほかに、 Microsoft Visio フォーマットを受け入れます。

```
accept DEFAULT
accept FI VISIO3 visio
accept FI VISIO4 visio
accept FI_VISI05 visio
accept FI_VISIO6 visio
```

以下の構成ファイルでは、Postscript 文書がサポートされるため、ps という文書タ イプで検索が可能です。X ピックスマップ・フォーマット (XPM) が組み込みテキ スト・パーサーに戻され、PNG イメージ・フォーマットはリジェクトされます。他 のファイル・タイプはすべて受け入れられ、other という文書タイプで検索が可能 になります。

```
accept DEFAULT
accept FI POSTSCRIPT ps
native FI XPIXMAP txt
accept ALL other
reject FI PNG
```

# Stellent セッション用デフォルト構文解析規則

ファイル・タイプを Stellent セッション文書フィルターにマッピングする構成ファ イルを作成しない場合、文書の構文解析にはデフォルトの規則が使用されます。

Stellent セッションで使用されるデフォルトの規則は以下のようになります。

```
ACCEPT FI WORD4
                              doc
ACCEPT FI WORD5
                              doc
ACCEPT FI_RTF
                              rt.f
ACCEPT FI WINWORD1
                              doc
ACCEPT FI WINWORD1COMPLEX
                              doc
ACCEPT FI WINWORD2
                              doc
ACCEPT FI WORD6
                              doc
ACCEPT FI WINWORD6
                              doc
ACCEPT FI ICHITARO3
                              jxw
ACCEPT FI ICHITARO4
                              jsw
ACCEPT FI_WINWORD1J
                              doc
ACCEPT FI_WINWORD5J
                              doc
ACCEPT FI RTFJ
                              rtf
ACCEPT FI_WINWORD7
ACCEPT FI_WORDPRO
                              doc
                              1wp
ACCEPT FI WINWORD97
                              doc
ACCEPT FI ICHITARO8
                              jtd
ACCEPT FI WORDPRO97
                              1wp
ACCEPT FI WINWORD2000
                              doc
ACCEPT FI WINWORD2002
                              doc
ACCEPT FI_WINWORD2003
                              doc
ACCEPT FI_123R1
                              123
ACCEPT FI_123R2
ACCEPT FI_123R3
ACCEPT FI_EXCEL
                              123
                              123
                              xls
ACCEPT FI EXCEL3
                              x1s
ACCEPT FI EXCEL4
                              xls
ACCEPT FI 123R4
                              123
ACCEPT FI EXCEL5
                              xls
ACCEPT FI_123R6
                              123
ACCEPT FI_EXCEL97
                              xls
ACCEPT FI_123R9
                              123
ACCEPT FI EXCEL2000
                              xls
ACCEPT FI EXCEL2002
                              xls
ACCEPT FI EXCEL2003
                              xls
ACCEPT FI FREELANCE
                              prz
ACCEPT FI POWERPOINT4
                              ppt
ACCEPT FI POWERPOINT3
                              ppt
ACCEPT FI POWERPOINT7
                              ppt
```

```
ACCEPT FI FREELANCE3
                              nr7
ACCEPT FI POWERPOINTMAC3
                             ppt
ACCEPT FI_POWERPOINTMAC4
                             ppt
ACCEPT FI PDF
                              pdf
ACCEPT FI EXTPOWERPOINT4
                             ppt
ACCEPT FI EXTPOWERPOINTMAC4 ppt
ACCEPT FI POWERPOINTMACB3
                             ppt
ACCEPT FI POWERPOINTMACB4
                             ppt
ACCEPT FI_POWERPOINT97
                             ppt
ACCEPT FI_PDFMACBIN
                             pdf
ACCEPT FI POWERPOINT9597
                             ppt
ACCEPT FI POWERPOINT2000
                             ppt
ACCEPT FI_POWERPOINT2
                             ppt
NATIVE FI HTML
                              htm
NATIVE FI HTML LATIN2
NATIVE FI_HTML_JAPANESESJIS htm
NATIVE FI_HTML_JAPANESEEUC
                             htm
NATIVE FI_HTML_CHINESEBIG5
                             htm
NATIVE FI_HTML_CHINESEEUC
                             htm
NATIVE FI HTML CHINESEGB
                             htm
NATIVE FI HTML KOREANHANGUL htm
NATIVE FI HTML CYRILLIC1251 htm
NATIVE FI HTML CYRILLICKOI8 htm
NATIVE FI CYRILLIC1251
NATIVE FI_CYRILLICKOI8
NATIVE FI_W2KHTML
                             htm
NATIVE FI_XL2KHTML
                             htm
NATIVE FI_PP2KHTML
NATIVE FI_XML
                             htm
                             xml
NATIVE FI WML
                              xm1
NATIVE FI HTML JAPANESEJIS
                             htm
NATIVE FI WML CHINESEBIG5
                             xm1
NATIVE FI WML CHINESEEUC
                             xm1
NATIVE FI WML CHINESEGB
                              xm1
NATIVE FI_WML_CYRILLIC1251
                             xm1
NATIVE FI_WML_CYRILLICK018
                             xml
NATIVE FI_WML_JAPANESEJIS
NATIVE FI_WML_JAPANESESJIS
                              xm1
                             xm1
NATIVE FI WML JAPANESEEUC
                             xm1
NATIVE FI WML KOREANHANGUL
                             xm1
NATIVE FI WML LATIN2
                              xm1
NATIVE FI HTMLUNICODE
NATIVE FI XML DOCTYPE HTML
                             htm
NATIVE FI_XHTML
                             htm
NATIVE FI_ASCII
                             txt
NATIVE FI ANSI
                             txt
NATIVE FI UNICODE
                              txt
NATIVE FI ASCII8
                             txt
NATIVE FI ANSI8
                             txt
NATIVE FI MAC
                             txt
NATIVE FI MAC8
                              txt
NATIVE FI_SHIFTJIS
                             txt
NATIVE FI CHINESEGB
                             t.x.t.
NATIVE FI_HANGEUL
                             txt
NATIVE FI_CHINESEBIG5
                              txt
NATIVE FI LATIN2
                              txt
NATIVE FI JAPANESE EUC
                              txt
NATIVE FI_HEBREW_OLDCODE
                              txt
NATIVE FI HEBREW PC8
                              txt
NATIVE FI HEBREW E0
                              txt
NATIVE FI HEBREW WINDOWS
                              txt
NATIVE FI_ARABIC_710
                              txt
NATIVE FI_ARABIC_720
                              t.x.t.
NATIVE FI ARABIC WINDOWS
                              txt
NATIVE FI 7BITTEXT
                              txt
NATIVE FI JAPANESE JIS
```

# エンタープライズ・サーチ索引の管理

ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、エンタープライズ・サーチでは、各コレクションに索引を作成し、定期的にその内容をリフレッシュ、再編成して保守します。

クローラーが収集したデータを検索可能にするためには、索引を作成する必要があります。コレクションを最初に作成すると、エンタープライズ・サーチによって、当初クロールされたすべてのデータの索引が作成されます。クローラーが新規または変更されたデータ・ソースをクロールすると、エンタープライズ・サーチはその新規のコンテンツで索引をリフレッシュします。そして、リフレッシュされたコンテンツは、最終的にベースとなる索引にマージされる必要があります。このマージ・プロセスを再編成と言います。索引がリフレッシュまたは再編成されると、その新規のコンテンツが検索サーバーにコピーされ、検索可能にされます。

クローラーは、データ収集を連続的に、または定期的なスケジュールに基づいて行います。索引を頻繁にリフレッシュすれば、ユーザーが最新のデータを検索できるようになります。継続的にリフレッシュされている索引は、最終的に再編成する必要があります。リフレッシュされた索引が大きくなるにつれて、システム・リソースの消費が増大します。したがって、最適なパフォーマンスを維持するには、定期的に索引を再編成する必要があります。

再編成する頻度は、以下のような条件によって異なります。

- システム・リソース (ファイル・システム・スペース、プロセッサーの速度、およびメモリー)
- クロールおよび再クロールの必要がある文書数
- クロール対象のデータ・タイプ
- カテゴリー規則の変更回数 (変更は、索引を再編成しないと有効になりません)
- クローラーをスケジュールされていた時間に実行するのではなく強制始動した回数
- 外部クローラーが URI を除去または追加した回数 (外部クローラーはデータ・リスナー API によってエンタープライズ・サーチと交信します)

コレクションの文書が数百万あり、ほとんどが Web 文書で作成されている場合、索引の再編成を 1 日に 1 回、リフレッシュを 1、2 時間おきに行うのがその目安となります。

現行の、検索可能な索引を保守するには、次の作業を行います。

- 索引のリフレッシュおよび再編成のスケジュールを指定する
- 索引スケジュールを変更する
- 索引スケジュールを使用可能/使用不可に設定する
- 索引の並行作成を構成する

索引のユーザーのビューに影響するオプションを指定するには、次の作業を行います。

- 照会でのワイルドカード文字のサポートを構成する
- ユーザーが検索できる文書の範囲を制限する有効範囲を構成する
- 検索結果で同じソースからの文書を縮小表示する
- 索引から URI を除去する

# 関連タスク

273ページの『コレクションの索引アクティビティーのモニター』 作成中の索引の進行を知る必要がある場合、 索引スケジュールを使用可能/使用 不可にする必要がある場合、または、 索引付けアクティビティーの開始/停止を 行なう必要がある場合に、コレクションの索引をモニターします。

274ページの『エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター』 索引キュー内のすべての索引作成の状況の表示、作成中の索引の停止、または キューからの索引の削除を行うことができます。

# 索引作成のスケジューリング

索引を再編成するスケジュールと、索引を新しいコンテンツでリフレッシュするス ケジュールを指定できます。

#### 始める前に

索引作成をスケジュールするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバ ーであるか、コレクションのコレクション管理者である必要があります。

#### このタスクについて

ユーザーが検索するソースで常に最新情報にアクセスできるようにするため、索引 の再編成とリフレッシュが定期的に行われるようにスケジュールしてください。索 引が再編成されるときには、索引全体が再作成されます。索引作成プロセスは、ク ローラーが収集し、パーサーが分析したすべてのデータを読み込みます。索引がリ フレッシュされるときには、索引が最後に再編成されて以降にクロールされた情報 が検索可能にされます。

索引作成をスケジュールするオプションは、デフォルトで選択されます。このオプ ションが選択されていると、スケジューラー・プロセスは、エンタープライズ・サ ーチ・システムが開始されるたびに索引の再編成とリフレッシュを実行するよう作 業をスケジュールします。必要であればいつでも「**システム始動時に有効化**」チェ ック・ボックスをクリアして、スケジュール済みの索引作成が実行されないように できます。例えば、問題をトラブルシューティングするときなどに、スケジュール を無効にしたいことがあります。

#### 手順

索引作成をスケジュールするには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「索引」ページを選択し、「索引作成のスケジュール」 をクリックします。
- 2. 索引が新しいコンテンツでリフレッシュされる頻度を指定するには、「索引のリ **フレッシュ・スケジュールの指定**」領域の「索引作成のスケジュール」ページで 以下のオプションを指定します。

- a. 「開始日」領域の、「年」、「月」、「日」、「時間」「分」フィールド で、索引が最初にリフレッシュされる日時を指定します。
- b. 「更新間隔」領域の、「日」、「時間」、および「分」フィールドで、索引 がリフレッシュされる頻度を指定します。

通常、索引は、1時間または2時間ごとのように、頻繁にリフレッシュする べきです。ソース・コンテンツの変更頻度に応じて、間隔の長短を調整して ください。例えば、毎時間 (0 日と 1 時間)、あるいは 12 時間ごと (0 日と 12 時間) などと指定します。

- 3. 索引が完全に再作成される頻度を指定するには、「索引の再編成スケジュールの 指定」領域の以下のオプションを指定します。
  - a. 「開始日」領域の、「年」、「月」、「日」、「時間」「分」フィールド で、索引が最初に再編成される日時を指定します。
  - b. 「更新間隔」領域の、「日」、「時間」、および「分」フィールドで、索引 が再編成される頻度を指定します。

通常、索引は、24 時間ごとのように、定期的に再編成するべきです。ソー ス・コンテンツの変更頻度に応じて、間隔の長短を調整してください。例え ば、12 時間ごと (0 日と 12 時間)、あるいは 2.5 日間ごと (2 日と 12 時 間)などと指定します。

4. 「**OK**」をクリックします。

# 索引スケジュールの変更

索引の再編成またはリフレッシュのスケジュールを変更することができます。

# 始める前に

索引スケジュールを変更するには、操作者がエンタープライズ・サーチ管理者の役 割のメンバーか、またはそのコレクションのコレクション管理者である必要があり ます。

#### 手順

索引スケジュールを変更するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「索引」ページを選択し、「月」、「日」、「年」、お よび「時」フィールドで該当する値を変更します。 索引が新しいコンテンツで リフレッシュされる頻度と、索引が再編成される頻度を指定します。
- 2. 「適用」をクリックします。

# 索引スケジュールの使用可能および使用不可設定

索引のリフレッシュおよび再編成のスケジュールを使用可能または使用不可に設定 できます。

### 始める前に

索引スケジュールを使用可能または使用不可にするには、操作者がエンタープライ ズ・サーチ管理者の役割のメンバーか、またはそのコレクションのコレクション管 理者である必要があります。

#### このタスクについて

スケジュール済みの索引作成を実行しないようにする必要がある場合、索引スケジ ュールを使用不可にすることができます。例えば、問題が発生した場合に、トラブ ルシューティングを行うために、スケジュールされた日時に索引作成が行われない ようにそのスケジュールを使用不可にすることが考えられます。

スケジュールの使用可能および使用不可設定は、コレクションの編集時、およびコ レクションのモニター時に行うことができます。

### 手順

- 1. コレクションの編集で索引スケジュールを使用可能または使用不可にするには、 次のステップに従います。
  - a. 変更するコレクションを編集します。
  - b. 「索引」ページで、「**システム始動時に有効化**」チェック・ボックスを選 択、または選択解除すると、索引のリフレッシュのスケジュールが使用可能 または使用不可になります。
  - c. 索引の再編成のスケジュールを使用可能または使用不可にする場合も、同様 に「**システム始動時に有効化**」チェック・ボックスを選択、または選択解除 します。
  - d. 「適用」をクリックします。
- 2. コレクションのモニターで索引スケジュールを使用可能または使用不可にするに は、次のステップに従います。
  - a. 変更するコレクションをモニターします。
  - b. 「索引」ページで、索引がスケジュール済みの場合にスケジュールされた日 時に索引が作成されないようにするには、「 🔞 スケジュールを使用不可に する」をクリックします。 これで、索引は、スケジュールを使用可能にする か、「」 開始」をクリックして索引作成プロセスを開始するまで作成されな くなります。
  - c. 索引がスケジュール済みであるが、索引作成のスケジュールが使用不可にさ れている場合、「🔘 スケジュールを使用可能にする」をクリックします。

索引は、索引スケジュールで指定した日時に作成されるようにキューに入れ られます。

# 索引の並行作成の構成

索引作成要求の同時処理が可能なコレクションの数を指定することによって、索引 作成リソースの使用を制御します。十分なシステム・リソースがある場合、コレク ションの索引の再編成とリフレッシュが同時に実行されるように設定することによ り、検索の質を高めることができます。

### 始める前に

システムの索引作成オプションを指定するには、エンタープライズ・サーチ管理者 役割のメンバーである必要があります。

#### このタスクについて

エンタープライズ・サーチは、複数のコレクションでリソースを共有することによ って複数の索引を同時に作成でき、それによって、複数のコレクションの索引作成 要求が並行して処理されることが可能になります。プロセスを共用すると、大規模 な索引の再編成で、キューで作成を待っている他の索引のアベイラビリティーが妨 害されません。

索引作成が要求またはスケジュールされると、索引キューに入れられて処理される 順番を待ちます。各コレクションには独自の索引があるので、さまざまなコレクシ ョンからの複数の索引作成要求が同時に索引キューにある場合があります。システ ムの索引オプションを構成するとき、いくつのコレクションが索引作成用リソース を共用して要求を同時に処理させることができるのかを指定します。

また、コレクションの索引をリフレッシュする要求が、そのコレクションの索引が 再編成されるのと同時に処理されるかどうかも指定できます。このオプションを使 用可能に設定すると、実行に時間のかかる索引再編成が処理されている間に、検索 サーバーは最新文書でリフレッシュされます (索引リフレッシュから)。ただし、索 引作成は、リソース集約的なプロセスです。索引作成中には、大量のシステム・メ モリーとディスク・スペースが消費されます。ディスク・スペースまたはメモリー が不十分な場合にこのオプションを使用可能に設定すると、システムの全体的パフ ォーマンスが低下することがあります。

#### 手順

Ι

1

1

1

1

Ι

システムの索引作成オプションを指定するには、次のようにします。

- 1. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- 2. 「 編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
- 3. 「索引」ページで、「索引作成オプションの構成」をクリックします。
- 4. 「システム・レベルの索引付けオプション」ページで、システム・リソースを共 用し、同時に索引作成要求を処理することが可能なコレクションの数を入力しま す。

索引作成用リソースを共用するコレクションの数は、エンタープライズ・サー チ・システム内のコレクション数より大きくすることはできません。例えば、コ レクションが 5 個ある場合、5 以下の数を入力する必要があります。

- 5. 個々のコレクションの索引作成を同時に複数サポートできる十分なシステム・リ ソースがある場合、索引のリフレッシュと再編成が同時に実行されるようにする オプションを選択できます。
- 6. 「**OK**」をクリックします。

# 索引の検索可能ビューに影響するオプション

文書の索引作成が終わった後、ユーザーが文書を検索したり検索結果内の文書を表 示する方法を制御するオプションを指定できます。

索引に関するユーザーのビューを制御するオプションを指定するために、以下の作 業を実行できます。

- 照会用語内でのワイルドカード文字のサポートを構成する。ワイルドカード照会 のサポートを索引に構築するか、照会処理の間に照会用語を展開するオプション を指定できます。
- ユーザーが検索できる文書の範囲を制限する有効範囲を構成する。ユーザーがコ レクションを検索するとき、ユーザーは索引全体ではなく、有効範囲にある文書 のみを検索します。
- 検索結果で同じソースからの文書を縮小表示する。索引の URI あるいは URI パ ターンと一致する文書をグループ化して、検索結果に先頭の結果文書のみを表示 することができます (ユーザーは、結果文書を縮小表示するオプションを指定で きます)。
- 索引から URI を除去する。一時的に、ユーザーが索引の特定文書を検索できな いようにする必要がある場合があります。

# 文書の検索に対する索引付きオプション

クロールされたデータまたは外部ソースを検索するオプションを構成するとき、ま たは、XML および HTML メタデータ・エレメントを検索フィールドにマップする ときに、文書がどのように検索でき、検索結果に表示されるのかを指定します。

フィールドを含んでいるクローラー・オプションを編集するとき、フィールドが検 索可能かどうか、どのように検索できるのか、検索結果に戻されるかどうかを、以 下のオプションを指定することによって制御できます。

- フリー・テキスト検索
- フィールド検索
- パラメトリック検索
- 検索結果
- 文書コンテンツ

外部ソースに関するオプションを編集するときには、フィールドを文書コンテン ツ・フィールドであるとマーク付けするオプションは選択できません。

パーサーを構成し、XML エレメントおよび HTML メタデータ・エレメントを索引 中のフィールドにマップすることを指定する場合、それらのフィールドがフィール ド検索、パラメトリック検索、または検索結果で使用可能かどうかを指定します。

指定するオプションは、文書と共に索引に保管されます。それらのオプションを使 用して、検索結果を照会できるユーザーおよび検索結果を表示できるユーザーを制 限することができます。

# フリー・テキスト検索

エンタープライズ・サーチ索引は、さまざまなデータ・ソースからのコンテンツで 構成されるフルテキスト索引です。単純な照会を自然言語で指定することによっ て、コンテンツを検索できます。検索プロセスは、フィールドおよび文書コンテン ツを検索し、照会に関連する文書を検出します。

# 例:

フリー・テキスト検索は、次の例に示すように単純な照会です。

#### bicycle chain

文書中に含まれるべき語、含まれてはならない語を示したい場合、特殊な表記を入 れればそのような指定が可能です。例えば、正符号 (+) を単語の前に置くと、文書 にその語と一致する語がなければならないことを指定します。また、負符号 (-) を 単語の前に置くと、その語を含む文書を検索結果から除外します。複数の語を引用 符(")で囲むと、その句全体に正確に一致するものを対象として検索が行われま す。

### 例:

次のフリー・テキスト照会では、検索一致となるのは文書に「science fiction」に 完全一致する句が含まれ、「robot」の語を含まない場合に限られます。

+"science fiction" -robot

# フィールド検索

フィールド検索を使用すると、照会対象を文書の特定のフィールドおよびメタデー 夕に制限することができます。例えば、文書のタイトルに特定の語がなければなら ないといった指定をすることができます。

エンタープライズ・サーチでフィールド検索を指定するには、照会にフィールド名 とそのフィールドになければならない語句とを指定します。

### 例:

次の照会では、タイトル・フィールドに「ibm」という語と「enterprise search」 という句を含む文書を検索します。

title:ibm title:"enterprise search"

フィールドをフィールド名で検索するには、クローラーの構成時にそのフィールド をフィールド検索使用可能に設定する必要があります。

# パラメトリック検索

パラメトリック検索は、フィールド検索の一種で、数値フィールド、日付フィール ド、およびメタデータに対して比較、評価を行う照会を指定できます。例えば、一 定サイズの文書、または一定の日付以降に書かれた文書などを検索することができ ます。また、属性値が指定した値より大きい、小さい、または等しいなどの条件に 当てはまる文書を検索することもできます。

#### 例 1:

次の照会では、価格がちょうど 50 ドル (ないし price フィールドに指標付けられ ている任意の通貨単位)の品目を検索します。

#price::=50

### 例 2:

次の照会では、ファイル・サイズが 1024 より大きく 2048 以下の文書を検索しま す。

#filesize::>1024<=2048

フィールドをパラメトリック照会で検索するには、クローラーの構成時にそのフィ ールドをパラメトリック検索使用可能に設定する必要があります。

# 検索結果

検索対象にはするが検索結果には表示させたくないフィールドや、照会は行わない が検索結果には表示させたいフィールドがある場合があります。例として、財務デ ータを照会して意味のあるレポートを取得する必要があるが、結果には従業員の給 与と名前を表示する必要がある場合などが考えられます。

# 文書コンテンツ

文書コンテンツ・フィールドであるとマークされたフィールドの内容は、文書をモ デル・ベースのカテゴリー、および文書コンテンツに基づく規則を指定するカテゴ リーと関連付けるのに使用できます。

#### 関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレン ス」の『照会構文』

189ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』 検索アプリケーションは、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクショ ンおよび外部ソースの検索を可能にします。検索アプリケーションはいくつでも 作成できます。 また、1 つの検索アプリケーションで、任意の数のコレクショ ンおよび外部ソースを検索できます。

# 照会内のワイルドカード文字

ユーザーが照会用語にワイルドカード文字を含め、指定のパターンと一致するワー ドを検索できるようにすることができます。

ワイルドカード照会用語は、アスタリスク (\*) が含まれている用語です。ワイルド カード文字が含まれている照会をユーザーが実行依頼した場合、検索結果には、そ の照会用語に一致する索引内のすべての文書のほか、ワイルドカード文字で表され るパターンに一致する索引内のすべての文書が含まれます。例えば、照会用語 sea\* の末尾ワイルドカードは、 search、season、および seals と一致が可能です。

索引に対してワイルドカード文字オプションを構成する場合、ユーザーが照会でワ イルドカード文字を指定できるようにするかどうか、また、その場合、どのように このサポートが提供されるかを選択します。

- 文書のすべての部分に対して、ワイルドカード文字パターンを突き合わせた、ワ ードでの検索を使用可能にできたり、あるいはフィールドに対するパターン・マ ッチングを制限できたりします。
- すべてのフィールドがワイルドカード文字を含む照会をサポートすることができ るようにしたり、あるいは指定したフィールドに対するパターン・マッチングを 制限できたりします。

Ι

- 照会用語の最終文字にワイルドカード文字を制限できたり (末尾ワイルドカード 文字)、あるいはワイルドカード文字を照会用語のいずれの場所にでも出現させる ことができたりします。 (ワイルドカード文字は、フィールド名に出現させるこ とはできません。)
- ワイルドカード文字が出現することを、どこに許可するかによって、どのように 照会用語を展開するかを選択できます (ワイルドカード文字を含む照会用語は、 マッチングする索引の用語のすべてに対して展開されます)。索引は、すべての可 能な用語の展開を保管できたり、あるいは検索プロセスは、照会処理中に用語を 展開できたりします。

ワイルドカード文字設定に行う変更はいずれも、索引が再編成される次回に有効に なります。

# 索引展開

索引内の用語の展開を含めるには、出現するマッチングに対する照会用語のワイル ドカード文字パターンに、ワード内のいくつの先行文字がマッチングするかを指定 します。少なくともこの数の文字をもつ照会用語のみ(\*を除く)、結果を返しま す。例えば、4 を指定すると、照会用語は、マッチングとして出現するために、最 小で 4 文字を指定する必要があります。

4 を指定すると、ワード technology は、照会用語の tech\* および照会用語 techno\* とマッチングしますが、照会用語 te\* とはマッチングしません。

索引が更新または再編成されると、文書内の各用語の考えられるすべての展開に、 元の用語に加えて索引付けされます。この方法は、照会処理中に用語を展開するの に追加の時間は必要でないという利点があります。ただし、この方法の場合、索引 のサイズが大きくなります。つまり、大きい索引に対応できるような十分なシステ ム・リソースが使用可能でなければなりません。

これは、コレクションが相対的に小さい場合、または索引を作成するためのスペー スと時間よりも照会応答時間を重視する場合に、とても役に立つ方法です。例え ば、カタログまたは従業員ディレクトリーを検索するのに、この方法を選択できま す。

このアプローチは、末尾ワイルドカード文字のサポートを使用可能にした場合にの み有効です。照会用語にいずれの場所にも出現するワイルドカード文字のサポート を使用可能にした場合、索引内に用語の展開を含めるオプションを選択することは できません。

# 照会展開

ワイルドカード文字が含まれている照会をユーザーが実行依頼したときに照会を展 開し、パターン・マッチング規則を適用するには、一致を構成する照会用語のバリ エーションの数を指定します。例えば、50 を指定した場合、照会用語の最大 50 の バリエーションを、その照会用語の一致とみなすことができます。

この例を示すと、照会用語 tech\* はワード technical、technique、technology と、さらに、文字 tech で始まる最大 50 個の異なるワードに一致します。

照会展開により、索引のサイズはあまり影響を受けませんが、照会パフォーマンス は低下する可能性があります。検索プロセスは、ワイルドカード文字設定に指定し た限度まで、ワイルドカード照会用語の考えられるすべての展開に対して繰り返す 必要があります。

この方法は、コレクションが相対的に大きく、しかも、索引を作成するためのスペ ースと時間が最小でなければならない場合に、とても役立ちます。例えば、E メー ル・リポジトリー用にこの方法を選択します。その場合、索引は、急速に変化する 文書に応じて増加する必要がありますが、照会応答時間はあまり重要ではありませ  $h_{\circ}$ 

このアプローチは、末尾ワイルドカードのサポートを使用可能にしているか、また は照会用語のいずれの場所にも出現するワイルドカード文字のサポートを使用可能 にしているかどうかにかかわらず有効です。

# 照会でのワイルドカード文字のサポート

ワイルドカード照会用語の展開のセットには、ワイルドカード文字を任意の文字の シーケンスと置換することによって取得できる索引内のすべての用語が含まれま す。そのセットは、次のように判断されます。

- コレクションが、照会用語のいずれの場所でも出現できるワイルドカード文字を サポートする場合、アスタリスクを含むいずれの照会用語も、ワイルドカード用 語と解釈されます。
- そのセットには、最大限、エンタープライズ・サーチ管理者が構成する展開の最 大数が含まれます。索引に、この数を超えて含まれている場合、無視されます。 (検索結果は、ワイルドカード展開が無視されたかどうかを示します。)
- ワイルドカード文字サポートが、あるセットのフィールドに制限される場合、そ のセットには、指定されたフィールドの 1 つに表示される用語のみが含まれま す。用語は、少なくとも、索引内の 1 つの文書の 1 つのフィールドにのみ表示 される必要があります。
- 照会用語が「フィールド用語」である場合、ワイルドカード文字は、フィールド 指定子の後に表示される必要があります (例えば、fieldname:\*sphere)。フィール ド名にコロン (:) を含めることはできません。
- ワイルドカード文字サポートが、あるセットのフィールドに制限される場合、ワ イルドカード照会用語のフィールド名は、エンタープライズ・サーチ管理者コン ソールで指定されたフィールドの 1 つである必要があります。そうでないと、用 語に対する展開を 1 つも検出しません。
- ワイルドカード文字は、プレーン・テキスト用語でのみサポートされ、 XML エ レメント名、属性名、または属性値ではサポートされません。ワイルドカード文 字でのみ構成される用語はサポートされません。

# 照会でのワイルドカード文字のオプションの構成

エンタープライズ・サーチ・コレクションの索引作成オプションを構成するとき に、ユーザーが照会用語にワイルドカード文字を含められるようにしたいかどうか を指定できます。

### 始める前に

ワイルドカード文字のオプションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理 者役割のメンバーであるか、その索引が所属するコレクションのコレクション管理 者である必要があります。

### このタスクについて

ワイルドカード文字のオプションを指定した場合、変更は、索引が再編成される次 回に有効になります。

#### 手順

照会でのワイルドカード文字のサポートを構成するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「索引」ページを選択、そして「ワイルドカード文字のオ **プションの構成**」をクリックします。
- 2. 「ワイルドカード文字のオプションの構成」ページで、「照会でのワイルドカー **ド文字のサポート**」チェック・ボックスを選択します。
- 3. 「フィールドを検索しない照会でのワイルドカード文字のサポート」チェック・ ボックスを使用して、フィールドにないテキストを検索する照会でワイルドカー ド文字がサポートされるかどうかを指定します。 例えば、名前付きフィールド を検索しないフリー・テキスト照会 tech\* は、このチェック・ボックスが選択 されている場合のみ、展開された結果 (「technology」または「technique」など) を戻します。
- 4. ワイルドカード文字をサポートするフィールドの指定:
  - ワイルドカード文字を含む照会をサポートする文書のフィールドすべてを使用 可能にするには、「すべてのフィールド」を選択します。
  - ワイルドカード文字のサポートを幾つかのフィールドに制限するには、「**特定 のフィールド**」を選択して、フィールド名を入力します。展開された結果は、 指定したフィールドに対してのみ戻されます。例えば、照会 author:john\* は、「author」フィールドがワイルドカード文字をサポートするように指定し た場合にのみ、展開された結果を戻します。
- 5. ワイルドカード文字が照会用語の最終位置に出現しなければならないかどうか (末尾ワイルドカード)、またはワイルドカード文字が非限定であり、照会用語の いずれの場所にも出現できるかどうかを指定します。

ワイルドカードの位置とタイプを選択する場合、どのようにワイルドカード文字 のサポートを使用可能にしたいかをもまた指定する必要があります。詳細につい ては、ワイルドカード文字のオプションを構成しているときに、「ヘルプ」をク リックしてください。

6. 「**OK**」をクリックします。

# 有効範囲

ユーザーにコレクションの限定ビューを提供するには、有効範囲を構成します。

有効範囲とは、索引内の関連した URI のグループのことです。有効範囲を構成する ことで、コレクションの中のユーザーが見ることができる文書を制限します。ユー ザーがコレクションを検索するとき、ユーザーは索引全体ではなく、有効範囲内の 文書のみを検索します。この機能を使用するには、検索アプリケーションで有効範 囲の検索をサポートしている必要があります。

有効範囲を作成するとき、ユーザーが検索できる索引中の URI の範囲を指定しま す。ユーザーが検索できる文書を制限することで、検索結果内の文書をユーザーが 探している情報に特定できることになります。

例えば、技術サポート部門の URI を含んだ有効範囲と、人事管理部門の URI を含 む別の有効範囲を作成することができます。検索アプリケーションが有効範囲をサ ポートする場合、技術サポート部門のユーザーは、技術サポート部門有効範囲から 文書を取得し、人事管理部門のユーザーは、人事管理部門有効範囲から文書を取得 します。

有効範囲は必要なだけ作成できますが、多すぎるとパフォーマンスに影響を及ぼす 場合があります。ほとんどの検索要求が、1 つまたは 2 つの有効範囲のみをフィル タリングする必要があるように有効範囲を構成してください。有効範囲には URI 全 体または URI パターンを含めることができるので、同じ文書が複数の有効範囲に属 すことがあります。

有効範囲の構成時、変更を有効にするために、索引の再編成を 2 回行わなければな らない場合があります。コレクションの索引の再編成を一度もしないうちに有効範 囲を構成すると、ユーザーはコレクションを検索できても、検索結果に有効範囲デ ータは表示されません。検索結果が URI の有効範囲を確実に反映するようにするた め、索引をもう一度再編成してください。

有効範囲を構成する前に、少なくとも 1 度は索引を再編成していれば、次の索引の 再編成後に、その変更内容が有効になります。

# 有効範囲の構成

エンタープライズ・サーチ・コレクションの有効範囲を構成するときに、ユーザー が検索を許可される索引内の文書の範囲に合うように URI または URI パターンを 指定します。

# 始める前に

有効範囲を構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである か、その有効範囲が所属するコレクションのコレクション管理者である必要があり ます。

# このタスクについて

検索アプリケーションで有効範囲のサポートが使用可能に設定されている場合、ユ ーザーはコレクションを検索する際に、有効範囲の境界を定義する URI に一致する 文書のみを検索できます。

有効範囲の構成時、変更を有効にするために、索引の再編成を 2 回行わなければな らない場合があります。コレクションの索引の再編成を一度もしないうちに有効範 囲を構成すると、ユーザーはコレクションを検索できても、検索結果に有効範囲デ ータは表示されません。検索結果が URI の有効範囲を確実に反映するようにするた め、索引をもう一度再編成してください。

有効範囲を構成する前に、少なくとも 1 度は索引を再編成していれば、次の索引の 再編成後に、その変更内容が有効になります。

### 手順

有効範囲を構成するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「索引」ページを選択、そして「有効範囲の構成」をクリ ックします。
- 2. 「有効範囲」ページで、「有効範囲の作成」をクリックします。
- 3. 有効範囲の名前と、有効範囲の境界を定義する URI および URI パターンを指 定します。有効範囲から除外したい URI および URI パターンを指定すること もできます。
- 4. 「**OK**」をクリックします。

新規有効範囲が、このコレクションに属している他の有効範囲と共に「有効範 囲」ページにリストされます。

### 関連資料

105 ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』 エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

# 縮小表示した URI

エンタープライズ・サーチは、Web ソースおよび NNTP ソースからの文書のうち URI 接頭部が同じものがグループ化され、検索結果に縮小表示されるように、検索 結果を編成できます。

結果が縮小表示される場合、先頭の結果は、通常、左揃えで表示されます。それよ り下のランキングの結果は、グループ化され、先頭の結果より字下げされて表示さ れます。

URI 接頭部が異なる結果文書を単一のグループとして縮小表示するには、作成する 1 つのグループ名に、それらの接頭部を関連付けます。例えば、財務データを管理 するサーバーが3つある場合、3つのサーバーすべてからの文書を検索結果におい てグループ化し、先頭の結果文書の下に低いランキングの結果を縮小表示できま す。

検索アプリケーションは、URI 接頭部あるいはグループ名を使用して、検索結果で 文書を縮小表示できます。エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーシ ョンでは、先頭の 2 つの検索結果文書が表示されます。同じ URI 接頭部を持つ (あるいは、同じ URI グループに属す) 3 つ以上の結果文書が返された場合、結果 を縮小表示させるオプションを選択できます。

ユーザーは、エンタープライズ・サーチ照会構文 (samegroupas: URI prefix ) を使 用して、指定された URI 接頭部と同じグループ内のすべての文書を検索できます。

# URI 接頭部とグループ名の編成方法

管理コンソールを使用して検索結果の縮小表示規則を構成するときに、縮小表示す る文書の URI 接頭部を指定します。また、オプションで、それらの URI 接頭部を 1 つのグループ名に関連付けることができます。

設定する URI 接頭部の順序は重要です。索引サーバーは、コレクションの中の各 URI の値を計算するときに、URI 接頭部の順序を使用します。それぞれの URI ご とに以下のようになります。

- 1. 索引サーバーは、検索結果の縮小表示規則にある URI 接頭部を順番にスキャン します。
- 2. 索引サーバーは、索引内の文書と接頭部が一致する最初の URI 接頭部を検出す ると、グループ名(あるいは、規則でグループ名を指定していない場合は、URI 接頭部)をその文書の追加の検索語として関連付けます。
- 3. 文書が URI 接頭部と一致しない場合には、次のようにします。
  - Web URI の場合、索引サーバーは、URL のホスト名を URI 接頭部として使 用します。
  - NNTP URI の場合、索引サーバーは、参照ヘッダーの値にある最初のメッセ ージ ID を URI 接頭部として使用します。

検索結果で縮小表示する URI 接頭部のリストに URI 接頭部を追加した後、索引サ ーバーがその URI 接頭部をスキャンして、追加の検索語として索引内の文書に関連 付ける際の望ましい順序にそれを配置してください。

- URI 接頭部を追加しても、それをグループ名に関連付けないときは、個別の URI 接頭部を選択して、リスト内でそれを上下に移動させます。
- URI 接頭部を追加してそれをグループ名に関連付ける場合に、リスト内で URI 接頭部を上下に移動させるときはいつでも、同じグループに属している URI 接 頭部のグループ全体を移動させます。 (グループ内の URI 接頭部の順序は問題で はありません。個々の URI 接頭部を選択すれば、自動的にグループ全体が選択 されます。)

# 検索結果内の URI の縮小表示

同じ URI 接頭部をもつ Web および NNTP ソースからの検索結果文書をグループ 化および縮小表示するオプションが指定できます。異なる URI 接頭部をもつ結果文 書をまとめて縮小表示できるようにするグループ名も作成できます。

### 始める前に

検索結果を縮小表示するオプションを指定するには、エンタープライズ・サーチ管 理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要 があります。

#### このタスクについて

検索結果を縮小表示するために行った変更は、次に索引が再編成されるまで、有効 になりません。

# 手順

検索結果を縮小表示するためのオプションを指定するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「索引」ページを選択、そして「縮小表示した検索結果」 をクリックします。
- 2. 「縮小表示した検索結果」ページで、「URI 接頭部の追加」をクリックしま

3. 「結果を縮小するための URI 接頭部の追加」ページで、検索結果で縮小表示し たい文書の URI接頭部を入力します。 例:

http://finance/ROI/ http://server1.com/finance/

- 4. この URI 接頭部と関連付けたい説明的なグループ名を入力できます。 いくつか のソースからの結果文書を単一グループとして縮小表示するために、各 URI 接 頭部を追加するときに同じグループ名を入力してください。
- 5. 「**OK**」をクリックします。
- 6. 「縮小表示した検索結果」ページで、新しい規則を、索引サーバーにスキャンさ せる順序で並べます。
  - URI 接頭部を追加し、それをグループ名と関連付けていない場合、新しい URI 接頭部は、リストの一番下に示されます。矢印キーを使用して、新しい 接頭部を正しい位置に移動します。
  - 新しい URI 接頭部をグループ名と関連付けた場合、その URI 接頭部は、同 じグループに所属する URI 接頭部のセットの一番下に示されます。矢印キー を使用して、URI 接頭部のグループ全体を正しい位置に移動します。
- 7. URI 接頭部またはグループ名を変更するには、目的の URI 接頭部を選択して、 「編集」をクリックします。
- 8. リストから URI 接頭部を除去するには、目的の URI 接頭部を選択して、🛅 「除去」をクリックします。

# 索引から URI を除去

コレクション内の文書をユーザーが検索できないようにするため、それらの文書の URI を索引から除去することができます。

### 始める前に

索引から URI を除去するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーで あるか、コレクションのコレクション管理者である必要があります。

### このタスクについて

完全修飾 URI を指定すると、その URI はユーザーの検索結果に現れなくなりま す。ただし、ユーザーが同じ照会をサブミットし、その照会の結果文書が検索キャ ッシュに残っている場合には、除去した URI のキャッシュされた結果ページが検索 結果に戻され続けます。索引が次にリフレッシュまたは再編成されるまで、検索キ ャッシュは更新されず、URI は索引から除去されません。

複数の URI を除去するようパターンを指定した場合、索引が次にリフレッシュまた は再編成されるまでは、そのパターンに一致する URI がユーザーの検索結果に戻さ れ続けます。

索引から URI を除去しても、その URI はクロール・スペースから除去されるわけ ではありません。クローラーが次回にその文書をクロールすると、その URI が索引 内に作成され、再び検索に使用可能になります。URIをクロール・スペースから除 去するには、該当する文書を除外するようにクロール規則を更新し、クローラーを いったん停止して、再始動する必要があります。

### 手順

特定の文書の URI を索引から除去するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「索引」ページを選択、そして「索引から URI を除去」 をクリックします。
- 2. 「索引から URI を除去」ページで、索引から除去したい URI (または URI パ ターン)を入力します。

例:

http://domain.org/hr/\* db2://knowledgeManagement/ROI\* cm://enterprise/finance\*

3. 「**OK**」をクリックします。

# 関連資料

105 ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』 エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

# エンタープライズ・サーチの検索サーバー管理

検索サーバーに指定できるオプションとして、検索結果を戻すキャッシュ・スペースを使用する、検索結果に表示する文書サマリーの最大長を制御する、検索品質向上のためにカスタム辞書を関連付ける、照会に特定の用語が使用されたときに事前定義しておいた URI を検索結果に戻す、などがあります。

ユーザーが照会をサブミットすると、検索サーバーは索引を使用して、該当する文書を素早く探し出します。検索サーバーは、構文解析され、トークン化されたデータが保管されているエンタープライズ・サーチ・データ・ストアを使用して、該当する文書のメタデータを取得します。メタデータには、文書の URI、タイトル、説明、日付、データ・タイプなど (さらに多くのデータを格納することもできます) を入れることができます。

コレクションに対して検索サーバーを設定するときに、照会の処理方法に影響する オプションを指定することができます。これには、照会のパフォーマンスを左右す る可能性のあるオプションも含まれます。

#### 検索キャッシュの構成

照会のパフォーマンスを最適化するには、結果の文書をキャッシュに保管するように指定することができます。また、キャッシュに入れる文書用に割り当てるスペース量を設定することができます。

### 文書サマリーの表示最大長の設定

結果文書のほとんどで、ユーザーにとってその文書が取得したいものかどうかを見極められるように文書コンテンツのサマリーを表示します。この要約情報を表示するために、検索結果上で使用するスペースを指定することができます。

# 異なるデフォルト言語の指定

コレクションの文書を検索するためのデフォルト言語は、コレクション作成 時に指定されていますが、必要に応じて別の言語を指定することができま す。

### カスタム辞書の関連付け

アプリケーション開発者によって、同義語、ストップワード、ランキング調整ワードに関するカスタム辞書が作成されている場合、コレクションの検索時にその辞書を指定することができます。

# クイック・リンクの構成

一定のキーワードおよび句に対して戻す URI を事前設定できます。ユーザーが照会に該当するキーワードまたは句を指定すると、事前定義された URI が検索結果と共に戻されます。クイック・リンク URI は、検索サーバーが索引検索によって戻す URI に追加される形で戻されます。

#### 関連概念

177ページの『エンタープライズ・サーチの文書ランキング』 ユーザーがコレクションを検索すると、 検索プロセスは照会に指定された用語および条件に照らして最も関連する結果を戻します。

178ページの『カスタム・ランキング調整ワード辞書』 検索結果の質を向上させるために、カスタム・ランキング調整ワード辞書を作成 して、検索結果における文書のランクを調整することができます。

# 検索キャッシュ

検索サーバーの負荷が比較的高い場合、検索結果をキャッシュに入れることでパフ ォーマンスが向上します。

検索サーバーが検索要求を処理する場合、まず、同じ照会の結果がキャッシュにす でに存在していないかチェックされます。検索サーバーが該当する結果文書を検出 できれば、検索結果をそのまますぐにユーザーに戻すことができます。該当の結果 文書が見つからないと、検索サーバーは索引を検索します。

検索キャッシュが満杯になると、最も古い結果文書および頻度の低い照会の結果文 書が、新たな検索結果用の場所を空けるためにキャッシュから出されます。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、検索キャッシュを使用可能に設定 し、また、キャッシュの容量(結果を同時にキャッシュに入れられる照会数)を指定 することができます。

検索キャッシュの設定を変更した場合は、検索サーバーを再始動して、その変更を 有効にする必要があります。

# 検索キャッシュの構成

コレクションの検索キャッシュを使用可能または使用不可にできます。また、検索 キャッシュのサイズを制御するオプションも指定できます。

### 始める前に

コレクションの検索キャッシュを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者 役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があ ります。

# 手順

検索キャッシュを構成するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「検索」ページを選択し、「検索サーバー・オプション の構成」をクリックします。
- 2. 「検索サーバー・オプション」ページで、「**検索キャッシュを使用**」チェック・ ボックスを選択します。
- 3. 「キャッシュ項目の最大数」フィールドに、検索キャッシュが保持できる検索結 果セットの最大数を入力します。
- 4. 「**OK**」をクリックします。
- 5. 変更を有効にするために、検索サーバーをモニターし、サーバー・プロセスを再 始動します。

# カスタム同義語辞書

検索結果の質を高めるために、ユーザーがコレクションを検索するときに、照会用 語の同義語を検索するようにできます。

同義語辞書を作成し、それをエンタープライズ・サーチ・システムに追加して、コ レクションに関連付けると、ユーザーは、そのコレクションを検索するときに、照 会用語の同義語を含む文書を検索できます。このように照会を拡張することで、ユ ーザーは、正確に照会用語と一致する文書だけでなく、興味のある文書をすべて検 出できる可能性が高くなります。同義語辞書を作成するときに、どのワードとどの ワードが互いに同義語であるかを定義するので、ユーザーがあらゆるバリエーショ ンを考慮して照会用語を指定しなくても、関係のある文書を見つけられるようにな ります。

例えば、ユーザーの組織で、部門や設備などを頭字語や省略語を使用して参照して いる場合もありますし、ユーザーのコレクション内の文書に、業界固有の用語が含 まれている場合もあります。同義語辞書を作成すれば、頭字語 (例えば ACL など) を含む照会で、その頭字語を拡張したもの (例えば、ACLs、アクセス制御リスト (access control lists)、アクセス制御 (access controls) など) を扱う文書を返すことが できます。

エンタープライズ・サーチ照会言語では、照会用語の前にチルド演算子を付加して 同義語を指定することをサポートしています。例えば、~WAS という照会では、 WebSphere Application Server を扱う文書を返すことができます。また、アプリケー ション開発者は、照会のプロパティーによって同義語サポートを使用可能にでき、 これには特別な構文は必要ありません。

同義語辞書には、ワードのさまざまな変形を含み、以下のような特性があります。

- ワードは、言語に固有なものではなく、異なる言語で使用されることがある。コ レクションごとに 1 つだけ同義語辞書があります。
- ワードは、語尾変化をしない。あらゆるすべての語尾変化は、同義語リストに追 加する必要があります。例えば、ワードの単数形と複数形の語尾変化の場合もあ ります (ACL と ACLs など)。

同義語辞書に追加する用語のほとんどは、厳密な意味で同等です。つまり、用語 A が用語 B の同義語である場合、すなわち B は A の同義語です。A が 照会で使用 されるたびに、B が使用され、その反対もまた真です。

ただし、ある用語の異なる用途に対応する用語を追加することもでき、これにはそ の用語の汎用的変形、あるいはより特定的な変形も含みます。例えば、1 つの同義 語グループは building と house を含み、もう 1 つのグループは bank、shore、 と credit union を含みます。

用語と用語の関係が厳密でないほど、検索結果は大きくなり、検索結果によっては 照会に関係ないものになる場合があります。検索および索引 API では、ユーザーが 検索要求をサブミットしたときに、適切な同義語を選択できるようにする方法や、 ユーザーに照会用語がどのような同義語に拡張されたかを示す方法もあります。

同義語辞書を作成するには、そのコレクションの主題についてのエキスパートが XML フォーマットで同義語リストを作成する (あるいは、アプリケーション開発者

と一緒に作業して XML ファイルを作成する) 必要があります。 WebSphere II OmniFind Edition で提供されるツールを使用して、その XML ファイルをバイナリ ー (.dic ファイル) に変換する必要があります。

エンタープライズ・サーチ管理者は、このバイナリー・ファイルをシステムにアッ プロードし、表示名を割り当てます。コレクション管理者は、コレクションに検索 サーバー・オプションを設定するときに、コレクション内の文書の検索に使用する 同義語辞書を選択できます。

制約事項: カスタム同義語辞書をシステムに追加後は、それを編集することができ ません。コレクションに使用可能な同義語を修正するには、以下のよう にします。

- 1. ソース XML ファイルを更新します。
- 2. XML ソースを新規ディクショナリー・ファイルに変換します。
- 3. 古い同義語辞書を使用するコレクションからその辞書を削除します。
- 4. 古い同義語辞書をシステムから削除します。
- 5. 新しい同義語辞書をシステムに追加します。
- 6. 新しい同義語辞書を使用するコレクションにその辞書を関連付けま す。

# 関連概念

「テキスト分析機能ガイド」の『検索アプリケーションの同義語サポート』

#### 関連タスク

「テキスト分析機能ガイド」の『同義語に使用できる XML ファイルの作成』 「テキスト分析機能ガイド」の『同義語辞書の作成』

# システムへの同義語辞書の追加

コレクション内で文書を検索するためにカスタム同義語辞書を作成する場合、辞書 をエンタープライズ・サーチ・システムと関連付ける必要があります。コレクショ ンの検索に使用したい同義語辞書を、後で選択できます。

### 始める前に

エンタープライズ・サーチ照会で使用するためにカスタム同義語辞書を追加するに は、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

#### 手順

同義語をエンタープライズ・サーチ・システムと関連付けるには、次のようにしま す。

- 1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- 2. 「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
- 3. 「検索」ページで、「同義語辞書の構成」をクリックします。
- 4. 「同義語辞書の構成」ページで、「同義語辞書の追加」をクリックします。
- 5. 「同義語辞書の追加」ページで、同義語辞書の固有の表示名を入力し、オプショ ンで、説明を入力します。

- 6. .dic ファイルのロケーションを指定します。 ファイルが 8 MB より小さい場 合、そのファイルをシステム上に置くことができます。ファイルが 8 MB より 大きい場合、そのファイルは索引サーバーに置かなければなりません。
- 7. 「OK」をクリックします。 カスタム同義語辞書が、エンタープライズ・サー チ・システムに追加され、コレクションの検索に使用できるようになります。

# 同義語辞書とコレクションとの関連付け

同義語辞書がエンタープライズ・サーチ・システムと関連付けられている場合、そ のうちの 1 つを選択して、コレクションの検索時に使用できます。照会用語が辞書 内の用語に一致した場合、その用語の同義語が含まれている結果文書も、検索結果 に入れて戻されます。

#### 始める前に

コレクションの同義語辞書を選択するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割 のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要がありま す。

### 手順

同義語辞書をコレクションと関連付けるには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「検索」ページを選択し、「検索サーバー・オプション の構成」をクリックします。
- 2. 「検索サーバー・オプション」ページの「同義語辞書名」フィールドで、ユーザ 一がこのコレクションを照会するときに使用したい同義語辞書を選択します。

使用できる同義語辞書のリストに、エンタープライズ・サーチ・システムに追加 されたすべての同義語辞書が含まれます。

3. 「**OK**」をクリックします。

# 」カスタムのストップワード辞書

Ι

1

1

1

Ι

検索結果の質を高めるために、照会処理中に一定の語が自動的に照会用語から除去 されるよう指定できます。

ストップワード辞書には、頻繁に使用されるために照会用語としては実用的でな い、エンタープライズ特有の語句が含まれます。これらの語を照会から除外するこ とによって、わずかに関連するだけのおびただしい数の結果文書をユーザーが受け 取るのを防止できます (照会内の他の用語に一致する文書のみが戻されます)。照会 処理中に、検索サーバーが照会からストップワードを除去します。除去される語に は、カスタム辞書中のストップワードと、エンタープライズ・サーチに事前定義さ れたストップワード (一般的な前置詞や冠詞など) があります。

WebSphere II OmniFind Edition は、デフォルトで、言語特有のストップワード認識 を実行します。このプロセスによって、頻繁に使用される一般的な語 (例えば、a や the) が照会から除去されます。カスタムのストップワード辞書を定義する必要 があるのは、エンタープライズ特有またはドメイン特有のストップワードのみにつ いてです。

ストップワード辞書を作成するには、そのコレクションの主題についてのエキスパ ートが XML フォーマットでストップワード・リストを作成する (あるいは、アプ リケーション開発者と一緒に作業して XML ファイルを作成する) 必要がありま す。 WebSphere II OmniFind Edition で提供されるツールを使用して、 XML ファ イルをバイナリー (.dic) ファイルに変換する必要があります。 エンタープライズ・サーチ管理者は、このバイナリー・ファイルをシステムにアッ プロードし、表示名を割り当てます。コレクション管理者は、コレクションに検索 サーバー・オプションを設定するときに、コレクション内の文書の検索に使用する

> ストップワード辞書を選択できます。 制約事項: カスタムのストップワード辞書をシステムに追加した後は、それを編集 することができません。照会処理に使用可能なストップワードを訂正す

> > 1. ソース XML ファイルを更新します。

るには、以下の手順を実行する必要があります。

- 2. XML ソースを新規ディクショナリー・ファイルに変換します。
- 3. 古いストップワード辞書を使用するコレクションからその辞書を削除 します。
- 4. 古いストップワード辞書をシステムから削除します。
- 5. 新しいストップワード辞書をシステムに追加します。
- 6. 新しいストップワード辞書を使用するコレクションにその辞書を関連 付けます。

### 関連概念

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタムのストップワード辞書』

# 関連タスク

「テキスト分析機能ガイド」の『ストップワードに使用できる XML ファイルの 作成』

「テキスト分析機能ガイド」の『ストップワード辞書の作成』

# システムへのストップワード辞書の追加

照会から語を除去するためのカスタムのストップワード辞書を作成する場合、それ らの辞書をエンタープライズ・サーチ・システムと関連付ける必要があります。ど のストップワード辞書をコレクションの検索に使用するのかは、後で選択できま す。

# 始める前に

カスタムのストップワード辞書をシステムに追加するには、エンタープライズ・サ ーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

# 手順

カスタムのストップワード辞書をエンタープライズ・サーチ・システムと関連付け るには、次のようにします。

- 1. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- 2. 「 編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。

- 3. 「検索」ページで、「**ストップワード辞書の構成**」をクリックします。
- 4. 「ストップワード辞書の構成」ページで、「ストップワード辞書の追加」をクリ ックします。
- 5. 「ストップワード辞書の追加」ページで、辞書の固有の表示名を入力します。
- 6. .dic ファイルのロケーションを指定します。 ファイルが 8 MB より小さい場 合、そのファイルをシステム上に置くことができます。ファイルが 8 MB より 大きい場合、そのファイルは索引サーバーに置かなければなりません。
- 7. 「**OK**」をクリックします。 カスタムのストップワード辞書が、エンタープライ ズ・サーチ・システムに追加され、コレクションの検索に使用できるようになり ます。

### ストップワード辞書とコレクションとの関連付け

ストップワード辞書がエンタープライズ・サーチ・システムと関連付けられている 場合、そのうちの 1 つをコレクションの検索時に使用するよう選択できます。照会 用語に一致する語が辞書内にある場合、その語は処理される前に照会から除去され ます。

#### 始める前に

コレクションに対してストップワード辞書を選択するには、エンタープライズ・サ ーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者であ る必要があります。

#### 手順

ストップワード辞書をコレクションと関連付けるには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「検索」ページを選択し、「検索サーバー・オプション の構成」をクリックします。
- 2. 「検索サーバー・オプション」ページの「ストップワード辞書名」フィールド に、ユーザーがこのコレクションを照会するときに使用するようにしたいストッ プワード辞書の名前を入力します。

使用できるストップワード辞書のリストに、エンタープライズ・サーチ・システ ムに追加されたすべてのストップワード辞書が含まれます。

3. 「**OK**」をクリックします。

### 動的要約

Ι

1

1

1

1

Ι

Ι

動的要約は、結果文書中のどの語句がユーザーの検索対象概念を最もよく表してい るかを判別する技法です。

エンタープライズ・サーチで、動的要約は、文書中のさまざまな検索語を多く含む 文を捕捉しようとする機能です。検索結果には、いくつかの文、または各文の一部 分が選択されて表示されます。対象となる検索語は、検索結果の中で、 HTML レ ンダリングによって強調表示されます。

コレクションの検索サーバー・オプションを構成するときに、検索結果内での文書 サマリーの最大表示長を指定できます。サマリーには強調表示文字が含まれるの

で、検索アプリケーションに戻されるバッファーは指定の最大値より大きくなる場 合があります。 ただし、表示長が指定の最大値を超えることはありませんが、(ソ ース文書から抽出されるサマリー・データに従って) サマリーはより短くなる可能 性があります。

### 管理コンソールの文書サマリーのカスタマイズ

エンタープライズ・サーチ管理コンソールで検索サーバーのオプションを指定する ことによって、文書サマリーに表示される情報量をカスタマイズすることができま

#### 始める前に

コレクションのサマリー表示長を制御するには、エンタープライズ・サーチ管理者 役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があ ります。

#### このタスクについて

文書サマリーの最大表示長に指定する値は、各サマリーに入れることのできるセン テンスの数に指定する値と連動して機能します。文書サマリーが最も短くなる値が 優先されます。

例えば、センテンス数を 4 に限定すると指定した場合、表示長では 4 つのセンテ ンスに含まれる文字総数より多い文字が許可されていても、文書サマリーに含まれ るセンテンスの数は 4 になります。別の例として、センテンス数が 10 に制限さ れ、表示長が500文字に制限されているという組み合わせを想定すると、結果のセ ンテンス数は 10 より少なくなることもあります。

#### 手順

文書サマリーの表示長を構成するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「検索」ページを選択し、「検索サーバー・オプション の構成」をクリックします。
- 2. 「検索サーバー・オプション」ページで、文書サマリーの最大表示長を指定しま す。 ユーザーが検索結果を表示するときの文書サマリーは、ここで指定する値 を超えなくなります。
- 3. 各文書が含むことのできるセンテンスの数を指定します (サマリーは 10 個まで のセンテンスを含むことができます)。
- 4. 「**OK**」をクリックします。
- 5. 変更を有効にするために、検索サーバーをモニターし、サーバー・プロセスを再 始動します。

### プロパティーの編集による文書サマリーのカスタマイズ

エンタープライズ・サーチ照会の各結果文書にサマリーが含まれています。プロパ ティー・ファイルの編集によって、各サマリーに含まれる情報をカスタマイズする ことができます。

#### このタスクについて

1

ES NODE ROOT/master config/collection ID.runtime.node1/runtime-generic.properties 7 ァイル内の以下のプロパティーの値を変更することにより、検索結果の説明をカス タマイズできます。

#### MinWordsPerSentence

説明文に含めることができるワードの最小数。デフォルト値は 4 です。

#### MaxWordsPerSentence

説明文に含めることができるワードの最大数。デフォルト値は 20 です。

#### NumberOfReturnedSentences

文書の説明を構成する文の数。デフォルト値は 5 です。

#### MaxSentencesPerDocument

説明を作成するプロセスで候補と見なされる文書内の文の最大数。デフォル ト値は 1000 です。

#### 手順

検索結果内の文書サマリーをカスタマイズするには、次のようにします。

- 1. 検索サーバーに、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。 こ のユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定さ れたものです。
- 2. テキスト・エディターを使用して以下のファイルを編集します。ここで、 coll ID は、コレクションの作成時にそのコレクションについて指定された ID です (または、システムによって割り当てられたもの)。

ES NODE ROOT/master config/coll ID.runtime.node1/runtime-generic.properties

- **ヒント:** コレクション名とその ID との間でのマッピングを確認するためには、 ES\_NODE\_ROOT/master\_config/collections.iniファイルを参照してくださ 170
- 3. カスタマイズしたいプロパティーを変更してから、ファイルを保管して終了しま
- 4. 検索サーバーを停止して再始動して、変更を適用します。

## クイック・リンクに関する作業

クイック・リンクは、ユーザーが特定の語句を含む照会をサブミットしたときに検 索結果に戻される文書を指しています。

コレクションのクイック・リンクを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理 コンソールを使用します。

### クイック・リンク

クイック・リンクによって、照会用語に関連すると事前指定された文書へのリンク をユーザーに提供できます。

クイック・リンクは、照会に特定の語句が含まれる場合に、エンタープライズ・サ ーチが自動的に検索結果に入れるようにする URI です。通常、クイック・リンク URI は結果リストの先頭に表示され、照会に適合するとあらかじめ設定した文書を ユーザーが確実に参照できるようになっています。

クイック・リンクは、他の検索結果に追加する形で戻されます。検索プロセスで は、照会用語に一致する文書がないか索引を検索し、それらの文書の URI をクイッ ク・リンクの URI に追加して戻します。

クイック・リンクを構成する場合、その URI を示すタイトルと要約を指定して、ユ ーザーがその文書の内容を把握し、それがそのユーザーが取得したい対象の文書か どうかをすぐに判断できるようにすることができます。

例えば、URI「http://www.ibm.com/education/us/」ならば、「米国 IBM 教育関係サイ ト」というタイトルをつけ、要約として「米国内の教育関係者、専門家、および学 生向けソリューション、製品、およびリソースの紹介」などと設定します。

エンタープライズ・サーチ・コレクションでクイック・リンクを使用するには、ク イック・リンクを表示するオプションが検索アプリケーションで使用可能になって いなければなりません。検索アプリケーションによっては、ユーザーがコレクショ ンの検索時にクイック・リンクを戻す機能を使用可能/使用不可に設定できる場合も あります。

### クイック・リンクの構成

エンタープライズ・サーチ・コレクションのクイック・リンクを作成するため、文 書の URI を、検索結果に含ませたものをトリガーするキーワードと関連付けます。

#### 始める前に

クイック・リンクを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバ ーであるか、そのクイック・リンクが所属するコレクションのコレクション管理者 である必要があります。

#### このタスクについて

クイック・リンクのキーワードおよび URI の指定方法の例を参照するには、クイッ ク・リンクを作成または編集しているときに「ヘルプ」をクリックしてください。

変更を有効にするのに、検索サーバーを再始動する必要はありません。

#### 手順

クイック・リンクを構成するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「検索」ページを選択、そして「**クイック・リンクの構** 成」をクリックします。
- 2. 「クイック・リンク」ページで、「**クイック・リンクの作成**」をクリックしま す。
- このクイック・リンクが検索結果に戻されるようにするためのキーワードと句、 この照会に関連すると事前判定した文書の URI、このクイック・リンクのその他 のオプションを指定します。

1 行につき、1 つまたは複数のキーワードを指定するか、 1 つの句 (2 つ以上 の語を引用符で囲んだもの)を指定します。キーワードはスペースで区切ります (コンマを使用してキーワードを区切ることはできません)。 Enter キーを押すと 改行されます。

4. 「**OK**」をクリックします。

「クイック・リンク」ページに、このコレクションに属している他のクイック・ リンクと共に新しいクイック・リンクがリストされます。

#### 関連資料

105ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』 エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

### エンタープライズ・サーチの文書ランキング

ユーザーがコレクションを検索すると、検索プロセスは照会に指定された用語および条件に照らして最も関連する結果を戻します。

検索サーバーは、最も関連性の高い検索結果を生成するために、豊富な照会構文を サポートし、テキスト・ベースのスコアリングや静的ランキングなどの幾つかの技 法を使用します。次のように、検索結果での文書の重要度を操作するオプションを 構成することによって、ランキングのデフォルト動作を拡張することができます。

- カスタムのランキング調整ワード辞書を作成して、指定されたランキング調整ワードが含まれている文書が検索結果内でどのようにランク付けされるのかを操作できます。
- 指定された URI パターンに一致する文書のスコアを操作できます。
- ランキング調整クラスにマップされたフィールドが含まれている文書のスコアを 操作できます。

#### 関連概念

183ページの『ランキング調整クラスに基づいた文書ランキング』フィールドをランキング調整クラスにマッピングすることにより、検索結果における文書のランクを調整することができます。

181 ページの『URI パターンに基づいた文書ランキング』

URI パターンにランキング調整要因を割り当てることによって、文書の重要度を 増減できます。

178ページの『カスタム・ランキング調整ワード辞書』

検索結果の質を向上させるために、カスタム・ランキング調整ワード辞書を作成 して、 検索結果における文書のランクを調整することができます。

### テキスト・ベースのスコアリング

エンタープライズ・サーチでは、照会中の用語に一致した各文書について、動的に スコアを計算します。

照会に一致する各文書のテキストのスコアを計算する場合、エンタープライズ・サーチでは次のようなさまざまな要素を計算に入れます。

- コレクション全体で各照会用語が出現する度数。一般的に、多くの文書に出現する照会用語は、より少ない文書にしか出現しない照会用語に比べて、文書のスコアを高くする程度は小さくなります。
- 照会用語と一致する文書内で各照会用語が出現する回数。一般的に、特定文書の中でその照会用語が多く出現するほどスコアは高くなります。
- 照会用語と一致する各文書内で照会用語が出現する近さ。一般的に、特定の文書中で照会用語が互いに近い場所に出現する場合、それらと同じ照会用語が互いに離れている場所に出現する場合よりも高いスコアがその文書に与えられます。

• 照会用語と一致する各文書内で照会用語が出現するコンテキスト。例えば、文書 のタイトルに照会用語が出現する場合、それと同じ照会用語が文書のプレーン・ テキスト中に出現する場合よりも高いスコアがその文書に与えられます。

各文書の長さ、および語彙の多さもスコアを決定する際の要因となります。

### 静的ランキング

文書のタイプによっては、検索結果における文書の重要度を高くする静的ランキン グ要素を関連付けることができます。

コレクションを作成するときに、コレクション内の文書に静的ランキング要素を関 連付けるかどうかを指定します。 Web コンテンツの場合、他の文書から特定の文 書に対するリンク数、およびそれらのリンク元によって、検索結果におけるその文 書の重要度を高くすることができます。

日付フィールドまたは日付メタデータを含む文書の場合、文書の日付を使用して適 合度を高くするように設定することができます。例えば、NNTP ニュースグループ ではより最近の記事を古い記事よりも適合度を高くする設定ができます。データ・ ソースに複数の目付値がある場合は、そのデータ・ソース内の文書の適合度を判定 する上で、どの日付を最も重視するかを選択することができます。

静的ランキングをコレクションに使用する場合、異なるランキング・タイプを使用 するデータ・ソースを同一のコレクションに混在させないように注意してくださ い。例えば、ある文書に対して静的ランキング要素としてリンク数を使用したい場 合、コレクション内の文書が Web 文書だけになっていることを確認してくださ い。異なるランキング・モデルのソースが同じコレクションにまとめられている と、検索品質が低くなることがあります。

また、静的ランキングを適用できるフィールドと値がその文書に含まれていること を確認してください。例えば、コレクションの文書のランキング要素として文書日 付を使用する指定をした場合に文書に日付フィールドまたは日付属性がないと、検 索品質は低下することがあります。

#### 関連タスク

245 ページの『WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション』 WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにコレクションをマイグレーシ ョンするには、WebSphere Portal にコレクションを準備し、マイグレーション・ ウィザードを使用して準備したコレクションをマイグレーションします。

### 」カスタム・ランキング調整ワード辞書

検索結果の質を向上させるために、カスタム・ランキング調整ワード辞書を作成し て、検索結果における文書のランクを調整することができます。

照会でランキング調整ワード辞書にある用語が指定されると、その用語が含まれて いる文書の重要度が、辞書の用語に構成されているランキング調整要因に応じて高 くなったり、低くなったりします。

ランキング調整要因の範囲は -10 から 10 までです。照会処理時に、検索サーバー は、正の数のランキング調整要因の用語が含まれている文書の重要度を高くし、負 の数のランキング調整要因の用語が含まれている文書の重要度を低くします。

例えば、ランキング調整要因が高い照会用語が含まれている文書は、ランキング調 整要因が適用されない場合に比べて、高くランクされます。(ランキング調整されて いる照会用語のみが検索結果における文書のランクに影響します。ランキング調整 要因は、文書のスコアに影響する唯一の係数です。)

辞書を作成する場合、同じランキング調整要因を複数の用語に割り当てることがで きます。辞書には、単一の用語または複数の用語を含めることができます (複数の 用語は句として一致します)。

ランキング調整値によって重み付けされた用語が OR 演算子を使用する照会 (例え ば this | that) で指定された場合、その照会用語に対して重み付けされた平均が 計算されます。計算結果の集約スコアが OR 照会オペランドのすべてのオカレンス に使用されます (個々の OR 照会オペランドについて、個々のスコアが計算される ことはありません)。

ランキング調整ワード辞書に基づくランキング調整は、フィールド照会用語ではサ ポートされません。照会用語の解析時に、フィールド名ではなく照会テキストのみ が、文書スコアの計算に使用されます。 (フィールド内の照会用語にランキング調 整要因を適用するためは、フィールド名をランキング調整クラスにマップすること ができます。)

ランキング調整ワード辞書を作成するには、そのコレクションの主題についてのエ キスパートが XML フォーマットでランキング調整ワード・リストを作成する (あ るいは、アプリケーション開発者と一緒に作業して XML ファイルを作成する) 必 要があります。 WebSphere II OmniFind Edition で提供されるツールを使用して、 XML ファイルをバイナリー (.dic) ファイルに変換する必要があります。

エンタープライズ・サーチ管理者は、このバイナリー・ファイルをシステムにアッ プロードし、表示名を割り当てます。コレクション管理者は、コレクションの検索 サーバー・オプションを構成するときに、コレクション内の文書の検索に使用する ランキング調整ワード辞書を選択します。

制約事項: カスタム・ランキング調整ワード辞書は、システムに追加した後で編集 することはできません。照会処理に使用可能なランキング調整ワードを 変更するには、以下を行う必要があります。

- 1. ソース XML ファイルを更新します。
- 2. XML ソースを新規ディクショナリー・ファイルに変換します。
- 3. ランキング調整ワード辞書を使用するコレクションから古い辞書を削 除します。
- 4. システムからランキング調整ワード辞書を削除します。
- 5. 新規のランキング調整ワード辞書をシステムに追加します。
- 6. 新規ランキング調整ワード辞書を、その辞書を使用するコレクション に関連付けます。

#### 関連概念

1

Ι

1

1

Ι

ı

Т

1

Ι

Ι

177ページの『エンタープライズ・サーチの文書ランキング』 ユーザーがコレクションを検索すると、 検索プロセスは照会に指定された用語 および条件に照らして最も関連する結果を戻します。

「テキスト分析機能ガイド」の『カスタム・ランキング調整ワード辞書』

#### 関連タスク

「テキスト分析機能ガイド」の『ランキング調整ワードに使用できる XML ファ イルの作成』

「テキスト分析機能ガイド」の『ランキング調整ワード辞書の作成』

### ランキング調整ワード辞書のシステムへの追加

カスタム・ランキング調整ワード辞書を作成する場合、辞書をエンタープライズ・ サーチ・システムに関連付ける必要があります。そうすることにより、コレクショ ンの検索に使用したいランキング調整ワード辞書を後で選択することができます。

#### 始める前に

カスタム・ランキング調整ワード辞書をシステムに追加するには、エンタープライ ズ・サーチ管理者役割の担当者である必要があります。

#### 手順

カスタム・ランキング調整ワードをエンタープライズ・サーチ・システムに関連付 けるには、次のようにします。

- 1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- 2. 「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
- 3. 「検索」ページで、「**ランキング調整ワード辞書の構成**」をクリックします。
- 4. 「ランキング調整ワード辞書の構成」ページで、「ランキング調整ワード辞書の 追加」をクリックします。
- 5. 「ランキング調整ワード辞書の追加」ページで、辞書の固有の表示名を入力し、 オプションで、説明を入力します。
- 6. .dic ファイルのロケーションを指定します。 ファイルが 8 MB より小さい場 合、そのファイルをシステム上に置くことができます。ファイルが 8 MB より 大きい場合、そのファイルは索引サーバーに置かなければなりません。
- 「OK」をクリックします。 カスタム・ランキング調整ワード辞書が、エンター プライズ・サーチ・システムに追加され、コレクションの検索に使用できるよう になります。

## ランキング調整ワード辞書とコレクションとの関連付け

ランキング調整ワード辞書がエンタープライズ・サーチ・システムと関連付けられ ている場合、そのうちの 1 つを選択して、コレクションの検索時に使用できます。 照会用語が辞書内の用語に一致した場合、その用語が含まれている文書の重要度 が、辞書の用語に割り当てられているランキング調整要因に応じて高くなったり、 低くなったりします。

#### 始める前に

コレクションのランキング調整ワード辞書を選択するには、エンタープライズ・サ ーチ管理者役割の担当者であるか、そのコレクションのコレクション管理者である 必要があります。 手順 ランキング調整ワード辞書をコレクションと関連付けるには、次のようにします。 1. コレクションを編集して「検索」ページを選択し、「検索サーバー・オプション 1 の構成」をクリックします。 2. 「検索サーバー・オプション」ページの「ランキング調整ワード辞書名」フィー 1

ルドで、ユーザーがこのコレクションを照会するときに使用するランキング調整 ワード辞書の名前を入力します。

使用できる辞書のリストに、エンタープライズ・サーチ・システムに追加された すべてのランキング調整ワード辞書が含まれます。

3. 「**OK**」をクリックします。

### LURI パターンに基づいた文書ランキング

Ι

1 

ı

1

Ι

URI パターンにランキング調整要因を割り当てることによって、文書の重要度を増 減できます。

すべての文書には、索引に追加されるときにデフォルトの静的ランキング・スコア が割り当てられます。デフォルトのスコアは、コレクションに対して静的ランキン グが使用可能化されたかどうかによって変わり、使用可能化された場合には静的ラ ンキング・タイプ (文書日付、または、Web 文書の場合はリンクする他の文書の数) によって変わります。

URI パターンにランキング調整要因を割り当てることによって、文書の相対的重要 度を操作できます。ランキング調整要因は、デフォルトの静的ランキング・スコア および他の要因と共に、文書の最終的な静的スコアを決定するのに使用されます。

構成する URI パターンの順序は重要です。索引サーバーは、コレクション内の各文 書の値を計算する際、URI パターンをリストされている順に評価します。それぞれ の URI ごとに以下のようになります。

- 1. 索引サーバーは、URI パターンを順番にスキャンします。
- 2. 索引サーバーは、索引内に一致する文書がある最初の URI を検出すると、その URI パターンに構成されたランキング調整要因をその文書に適用します。
- 3. どの URI パターンにも一致しない文書には、デフォルトの静的ランキング・ス コアが使用されます。

URI パターンにランキング調整要因を構成する場合は、その後に、索引サーバーに スキャンさせたい順序でその URI パターンを配置する必要があります。

#### 関連概念

177ページの『エンタープライズ・サーチの文書ランキング』 ユーザーがコレクションを検索すると、 検索プロセスは照会に指定された用語 および条件に照らして最も関連する結果を戻します。

### URI パターンに一致する文書のスコアの操作

デフォルトの静的ランキング・スコアにランキング調整要因を適用することによって、URI パターンに一致する文書の重要度を増減することができます。

#### 始める前に

URI パターンに一致する文書の重要度を操作するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

#### このタスクについて

構成するランキング調整要因は、デフォルトの静的ランキング・スコアと共に使用されて、指定された URI パターンに一致するすべての文書について新しい静的スコアが計算されます。

ランキング調整要因は、静的スコアのみを調整するものであり、文書の最終的なランクを決定する計算に影響する 1 つの要素にすぎません。例えば、多数からリンクされる文書 (この場合は初期スコアが高くなります) がある場合、リンクがまったくない文書は常にそれよりも低くランク付けされます。

#### 手順

URI パターンに一致する文書のスコアを操作するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集して「索引」ページを選択し、「**URI パターン・マッチン グによるスコアの操作**」をクリックします。
- 2. 「URI パターン・マッチングによるスコアの操作」ページで、「URI パターン の追加」をクリックします。
- 3. 検索結果内での重要度を増減したい文書の URI パターンを指定します。 以下に 例を示します。

http://domain.org/hr/\*
db2://\*ROI\*
\*/afs/\*

- 4. ランキング調整要因に -10 と 10 の間の値を入力します。 このランキング調整 要因に基づいて、指定した URI パターンに一致するすべての文書の最終的な静的スコアが計算されます。
- 5. 「**OK**」をクリックします。
- 6. 「URI パターン・マッチングによるスコアの操作」ページで、新しい URI パターンを、索引サーバーにスキャンさせたい順序で配置します。

索引サーバーは、URI がリストされている順序で、静的ランキング・スコアを計算します。最良の結果を得るには、より特定度の高い URI を先にリストします。以下の例で、 /forms サブディレクトリーは http://www.ibm.com/hr/\* URI パターンに一致します。/forms サブディレクトリー内の文書のスコアが確実に正しく計算されるようにするには、 /forms サブディレクトリーの URI パターンを先にリストします。

http://www.ibm.com/hr/forms/\* 8
http://www.ibm.com/hr/\* -2

- 7. URI パターンまたはランキング調整要因を変更するには、目的の URI パターン を選択して、「 / 編集」をクリックします。
- 8. リストから URI パターンを除去するには、目的の URI パターンを選択して、 「 🗻 除去」をクリックします。
- 9. 以前に索引作成された文書にランキング調整要因を適用するには、索引を再編成 します。

#### 関連概念

177ページの『エンタープライズ・サーチの文書ランキング』 ユーザーがコレクションを検索すると、 検索プロセスは照会に指定された用語 および条件に照らして最も関連する結果を戻します。

#### 関連資料

105ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』 エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

### 」ランキング調整クラスに基づいた文書ランキング

フィールドをランキング調整クラスにマッピングすることにより、検索結果におけ る文書のランクを調整することができます。

文書の構文解析時に、パーサーは、トークンが属しているフィールドに応じて ラン キング調整クラス を文書トークンに割り当てます。これらのランキング調整クラス は、索引に組み込まれ、照会の評価時に、結果文書のランクに影響するスコアの計 算に使用されます。

スコアの計算方法に影響を与えるには、ランキング調整クラスのランキング調整要 因を構成します。照会用語が、ランキング調整クラスにマップされているフィール ドのトークンに一致すると、トークンのこのオカレンスに課せられている係数が文 書の合計スコアに影響します。スコアは、ランキング調整クラスに構成されている ランキング調整要因を適用して計算されます。

例えば、タイトル・フィールドのスコアのランキングを上げると、照会用語がタイ トルにある場合、オカレンスによって文書スコアが上昇するため、検索結果におけ る文書のランクが上昇します。

文書ランキングを調整するには、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用 して、ランキング調整クラスのランキング調整要因を指定し、フィールドをランキ ング調整クラスにマップします。エンタープライズ・サーチ用に 16 のランキング 調整クラスが事前構成されています。そのうちの8つのランキング調整クラスはコ ンテンツ・フィールドで使用するように設計されており、それ以外の 8 つのランキ ング調整クラスはメタデータ・フィールド用に設計されています。デフォルトのラ ンキング調整クラスに関連付けられているスコアを編集したり、ランキング調整ク ラスに別のフィールドや追加フィールドを関連付けたりすることができます。

フィールドのマッピングを変更する場合には、以前に索引付けされていた文書に変 更が適用されるように、文書を再度クロールおよび構文解析する必要があります。

ランキング調整クラスに指定されている係数を変更する場合には、検索サーバーを モニターし、変更が有効になるように、検索サーバー処理を停止して再始動してく ださい。

#### 重複文書の検出

フィールドをランキング調整クラスにマップする際には、重複文書の検出にフィー ルドが使用されるかどうかを指定する必要があります。

- フィールドが重複文書の検出に使用される場合、フィールドはコンテンツ・フィ ールドであるとみなされ、コンテンツ・フィールド用に設計されているランキン グ調整クラスのみが選択対象となります。
- フィールドが重複文書の検出に使用されない場合、フィールドはメタデータ・フ ィールドであるとみなされ、メタデータ・フィールド用に設計されているランキ ング調整クラスのみが選択対象となります。この場合、指定されているフィール ド以外すべての点において同じである 2 つの文書は、互いに重複しているとみな されます。

#### 高い再呼び出し値と低い再呼び出し値

照会を評価する際に、検索プロセスは、戻される結果文書数を見積もります。しき い値によって、照会が低い再呼び出し値であるか、または高い再呼び出し値である かが決定されます。

#### 低い再呼び出し

結果文書の見積もり数が下限しきい値を下回る場合、照会は低い再呼び出し 照会であるとみなされます。

#### 高い再呼び出し

結果文書の見積もり数が上限しきい値を上回る場合、照会は高い再呼び出し 照会であるとみなされます。

文書の見積もり数が 2 つのしきい値の間である場合、照会の再呼び出し値 混合 は2つのしきい値の混合になります。

各ランキング調整クラスは、照会処理時に、低い再呼び出し照会および高い再呼び 出し照会に関連付けられます。低いランキング調整要因は低い再呼び出し照会の相 対重要度に影響し、高いランキング調整要因は高い再呼び出し照会の相対重要度に 影響します。 2 つのランキング調整要因の混合は、混合の再呼び出し値を持つ照会 の相対重要度に影響します。

ランキング調整要因の値は、文書内の照会用語の各オカレンスの相対重要度を制御 します。文書内の照会用語の各オカレンスは、対応するランキング調整要因に応じ てカウントされます。

コレクションにランキング調整クラスを構成する場合は、デフォルトのランキング 調整要因を編集できます。例えば、タイトル・フィールドにある照会用語が、通常 のテキストにある照会用語に比べて 5 倍にカウントされるようにランキング調整要 因を指定することができます。

#### 関連概念

Ι Ι Ι 1 1 Ι Ι 

177ページの『エンタープライズ・サーチの文書ランキング』 ユーザーがコレクションを検索すると、 検索プロセスは照会に指定された用語 および条件に照らして最も関連する結果を戻します。

### ランキング調整クラスへのフィールドのマッピング

フィールド名をランキング調整クラスにマッピングすることにより、フィールドの 相対重要度に影響を与えることができます。

#### 始める前に

フィールドをランキング調整クラスにマップするには、エンタープライズ・サーチ 管理者役割の担当者であるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要 があります。

#### このタスクについて

システムはランキング調整要因を使用して、ランキング調整クラスにマップされて いるフィールド内に照会用語が含まれている文書のランキングを調整します。

エンタープライズ・サーチでは、いくつかのフィールド名が予約されているので、 それ以外の定義特性を持たないフィールドおよびテキスト (例えば、タイトル・フ ィールドでないフィールドや強調されない通常のテキストなど)のスコアを計算で きます。予約フィールド以外のフィールドを予約フィールドが使用するランキング 調整クラスにマップすることはできますが、予約フィールドを編集したり削除する ことはできません。

#### 手順

フィールドをランキング調整クラスにマップするには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集し、「構文解析」ページを選択して、「フィールドをランキ ング調整クラスにマップ」をクリックします。
- 2. 「フィールドをランキング調整クラスにマップ」ページで、「フィールドの追 加」をクリックします。
- 3. 「フィールドをランキング調整クラスに追加」ページで、ランキング調整クラス にマップしたいフィールドの名前を入力します。

クロールされたソースや外部ソースにあるフィールド名、XML エレメントによ りマップされるフィールド名、 HTML メタデータ・エレメントによりマップさ れるフィールド名、事前定義されているフィールド名を指定できます。

- 4. フィールドが重複文書の検出に使用されるかどうかを指定します。 チェック・ ボックスを選択すると、選択可能なランキング調整クラスのリストに、コンテン ツ・フィールドに適用されるクラスが表示されます。チェック・ボックスをクリ アすると、選択可能なランキング調整クラスのリストに、メタデータ・フィール ドに適用されるクラスが表示されます。
- 5. ランキング調整クラスを選択して、「OK」をクリックします。

追加したフィールドが「フィールドをランキング調整クラスにマップ」ページに 表示されます。オプションを選択して、ランキング調整クラスを編集し、このフ ィールドが含まれている文書のスコアの決定に使用されるさまざまなランキング 調整要因を構成します。

- 6. フィールドが重複文書の検出に使用されるかどうかを変更する場合、またはフィ ールドを別のランキング調整クラスにマップする場合は、「 ✓ 編集」をクリッ クします。 (エンタープライズ・サーチによって予約されているフィールドは編 集できません。)
- 7. ランキング調整クラスからフィールドを除去する場合は、「 🛅 除去」をクリッ クします。 (エンタープライズ・サーチによって予約されているフィールドは除 去できません。)
- 8. 以前に索引付けされている文書に変更を適用するには、文書を再度クロールし、 構文解析し、索引付けする必要があります。

#### 関連概念

177ページの『エンタープライズ・サーチの文書ランキング』 ユーザーがコレクションを検索すると、 検索プロセスは照会に指定された用語 および条件に照らして最も関連する結果を戻します。

### ランキング調整クラスのランキング調整要因の構成

ランキング調整クラスに対して構成するランキング調整要因は、結果文書内の特定 のフィールドの存在が照会にどのように関連するかについてのユーザーの見積もり を表します。ランキング調整クラスに最も高いランキング調整要因が指定されてい る場合、そのランキング調整クラスにマップされているフィールドが含まれている 結果文書の重要度が高くなります。

#### 始める前に

ランキング調整クラスのランキング調整要因を構成するには、エンタープライズ・ サーチ管理者役割の担当者であるか、そのコレクションのコレクション管理者であ る必要があります。

#### このタスクについて

システムは、ランキング調整クラスに構成されているランキング調整要因、デフォ ルトの静的ランキング・スコア、およびその他の係数を使用して、ランキング調整 クラスにマップされているフィールドが含まれている結果文書の新規スコアを計算 します。

#### 手順

ランキング調整クラスのランキング調整要因を構成するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集し、「構文解析」ページを選択して、「フィールドをランキ ング調整クラスにマップ」をクリックします。
- 2. 「フィールドをランキング調整クラスにマップ」ページで、「ランキング調整ク **ラスの編集**」をクリックします。
- 3. 「ランキング調整クラス」ページで、変更したいランキング調整クラスを指定 し、「 / 編集」をクリックします。

- 4. 「ランキング調整クラスの編集」ページで、ランキング調整要因の最大値と最小 値に新規の値を指定します。両方の係数に同じ値を指定することもできます。
- 5. 「**OK**」をクリックします。
- 6. 変更を有効にするために、検索サーバーをモニターして、検索処理の停止および 再始動のアイコンを選択します。 ユーザーが照会を実行依頼すると、このラン キング調整クラスにマップされているフィールドが含まれている結果文書の相対 重要度が、新規ランキング調整要因によって判別されます。

#### 関連概念

Ι

ı

Т

1

Ι

177ページの『エンタープライズ・サーチの文書ランキング』 ユーザーがコレクションを検索すると、 検索プロセスは照会に指定された用語 および条件に照らして最も関連する結果を戻します。

### ランキング調整クラスのデフォルト値

エンタープライズ・サーチでは、検索結果における文書のランク付けに影響を与え る 16 のランキング調整クラスが用意されています。

エンタープライズ・サーチでは、他の定義特性を持たないフィールドおよびテキス トのスコアを計算するために、以下のフィールドが予約されています。

es special field.regular text es\_special\_field.default\_field

予約フィールド以外のフィールドを予約フィールドが使用するランキング調整クラ スにマップすることはできますが、予約フィールドを編集したり削除することはで きません。

予約フィールド以外のすべてのフィールドについては、システムが文書のランク計 算に使用するランキング調整要因を編集することができます。任意の数のフィール ドを任意のランキング調整クラス (予約フィールドによって使用されるランキング 調整クラスも含む)にマップすることができます。

以下の表に、ランキング調整クラス名、低い再呼び出し値を持つ照会用のデフォル ト・ランキング調整要因、高い再呼び出し値を持つ照会用のデフォルト・ランキン グ調整要因、デフォルト構成でランキング調整クラスにマップされている事前定義 フィールド名を示します。

デフォルトのランキング調整要因は、コレクション作成時にコレクションに対して 選択された静的ランキング・メソッドによって異なります。オプションには、静的 でないランキング、文書に対するリンク数によって決まるランク (Web ソースの場 合)、文書日付によって決まるランクがあります。

#### 表 3. ランキング調整クラスのデフォルト値

 	デフォルト時の低いランキング調整要因および高 いランキング調整要因									
I	ランキング調整ク	静的でないラン								
1	ラス名	キング	文書リンク	文書日付	事前定義フィールド・マッピング					
1	Content class A	低: 4	低: 6	低: 4	es_special_field.regular_text					
Ι		高: 2	高: 1	高: 2						

デフォルト時の低いランキング調整要因および高
ハニンナンガ細軟而国

ランキング調整ク	静的でないう			
ラス名	キング	文書リンク	文書日付	事前定義フィールド・マッピング
Content class B	低: 5	低: 7	低: 5	es_special_field.html_emphasized_text
	高: 4	高: 3	高: 4	次の HTML エレメントを含む:
				b、big、caption、dfn、em、h4、h5、h6、stron
Content class C	低: 7	 低: 9	低: 7	es_special_field.html_headers
Content class C	高: 4	高: 3	高: 4	es_special_field.fittiff_fieaders
	177.	174. 5	1-4.	次の HTML エレメントを含む : h1、h2、h3
Content class D	低: 2	低: 1	低: 2	title
	高: 5	高: 5	高: 5	
Content class E	低: 1	低: 5	低: 1	es_special_field.anchor
	高: 1	高: 10	高: 1	
Content class F	低: 1	低: 1	低: 1	es_special_field.anchor_same_dir
	高: 1	高: 1	高: 1	
Content class G	低: 1	低: 1	低: 1	es_special_field.anchor_same_host
	高: 1	高: 1	高: 1	
Content class H	低: 1	低: 1	低: 1	
	高: 1	高: 1	高: 1	
Metadata class A	低: 1	低: 1	低: 1	es_special_field.default_field
	高: 1	高: 1	高: 1	
Metadata class B	低: 1	低: 1	低: 1	
	高: 1	高: 1	高: 1	
Metadata class C	低: 1	低: 1	低: 1	
	高: 1	高: 1	高: 1	
Metadata class D	低: 1	低: 1	低: 1	
	高: 1	高: 1	高: 1	
Metadata class E	低: 1	低: 5	低: 1	keywords
	高: 1	高: 1	高: 1	
Metadata class F	低: 1	低: 3	低: 1	es_special_field.urlhost
	高: 1	高: 1	高: 1	
Metadata class G	低: 1	低: 1	低: 1	es_special_field.urlpath
	高: 1	高: 1	高: 1	
Metadata class H	低: 1	低: 1	低: 1	description
	高: 1	高: 1	高: 1	

#### 関連概念

177ページの『エンタープライズ・サーチの文書ランキング』 ユーザーがコレクションを検索すると、 検索プロセスは照会に指定された用語 および条件に照らして最も関連する結果を戻します。

### エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション

検索アプリケーションは、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションおよび外部ソースの検索を可能にします。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。また、1 つの検索アプリケーションで、任意の数のコレクションおよび外部ソースを検索できます。

### サンプル検索アプリケーション

サンプル検索アプリケーションによって、エンタープライズ・サーチで使用可能な多くの検索、取り出し機能を実際に試すことができます。サンプル・アプリケーションは、企業の目標を反映する、対話式のカスタム検索アプリケーションを作成するために、IBM 検索および索引 API (SIAPI) の使用方法を示す実施例でもあります。

デフォルトの構成ファイルのプロパティーを変更しないかぎり、サンプル検索アプリケーションを使用して、エンタープライズ・サーチ・システム内のすべてのアクティブなコレクションおよび外部ソースを検索することができます。 新しいコレクションおよび外部ソースをユーザーに使用可能にする前に、サンプル検索アプリケーションを使用してそれらをテストできます。

サンプル検索アプリケーションは、自動的にすべてのコレクションおよび外部ソースと関連付けられます。実稼働環境では、エンタープライズ・サーチ管理者が、さまざまなコレクションをどの検索アプリケーションで検索できるかを制御します。

### カスタム検索アプリケーション

作成する検索アプリケーションは、IBM WebSphere Application Server 環境で独立型 Web アプリケーションとして実行することも、IBM WebSphere Portal 環境でポートレットとして起動することもできます。検索および索引 API を使用することによって、サンプル検索アプリケーションのように、両方の環境でシームレスに機能する検索アプリケーションを設計できます。

#### 関連概念

154ページの『文書の検索に対する索引付きオプション』 クロールされたデータまたは外部ソースを検索するオプションを構成するとき、

または、XML および HTML メタデータ・エレメントを検索フィールドにマップするときに、文書がどのように検索でき、検索結果に表示されるのかを指定します。

220ページの『検索アプリケーション ID を使用したセキュリティー』 コレクション・レベルのセキュリティーを提供するために、 各コレクションおよび外部ソースを検索できる検索アプリケーションを指定します。

221ページの『文書レベル・セキュリティー』

コレクションが作成されたときに、そのコレクションに対するセキュリティーを使用可能にすると、 文書レベルのセキュリティー制御を構成することができます。文書レベルのセキュリティーによって、コレクションを検索するユーザーは、 見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。

235ページの『ポータル検索エンジンでの文書レベル・セキュリティー』 IBM WebSphere ポータル検索エンジンを使用して、ユーザーがエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するときに文書レベルのセキュリティーを施行することができます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『検索および索引 API の概要』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『照会構文』

### コレクションとの検索アプリケーションの関連付け

新規の検索アプリケーションを使用するには、その検索アプリケーションを、それ が検索できるコレクションに関連付けておく必要があります。

#### 始める前に

検索アプリケーションを、それが検索できるコレクションに関連付けるには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

#### 手順

検索アプリケーションを 1 つ以上のコレクションに関連付けるには、次のようにします。

- 1. 管理コンソールのツールバーで「**セキュリティー**」をクリックします。
- 2. 「検索アプリケーション」ページで、「**検索アプリケーションの構成**」をクリックします。
- 3. 「検索アプリケーションの構成」ページで、「**検索アプリケーションの追加**」を クリックします。
- 4. 検索アプリケーションの名前を入力します。
- 5. アプリケーションが検索できるコレクションを選択します。
  - システムに追加するすべてのコレクションを検索アプリケーションがアクセス するようにするには、「すべてのコレクションと外部ソース」をクリックします。
  - 指定するコレクションのみを検索アプリケーションがアクセスするようにする には、「特定のコレクションと外部ソース」をクリックします。

このオプションを選択すると、コレクション名および外部ソース名のリストが表示されます。アプリケーションが検索できるコレクションごとに、それの「**選択**」チェック・ボックスを選択します。

6. 「**OK**」をクリックします。

### サンプル検索アプリケーションの機能

エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションを使用して、カスタム 検索アプリケーションに構築できる検索機能のほとんどを実際に試してみることが できます。 サンプル検索アプリケーションを使用して、一度に 1 つ、一度に複数、あるいは一 度にすべてのコレクションおよび外部ソースの検索を行うことができます。アプリ ケーション・プロパティーのデフォルトが変更されていない限り、このアプリケー ションを使用して、エンタープライズ・サーチ・システム内のすべてのコレクショ ンおよび外部ソースを検索できます。

#### 昭会機能

これらの機能を使用して、次のことができます。

- 単純なフリー・テキストの照会を指定する。
- 検索結果の精度を上げるために、より複雑な照会を指定する。例えば、文書内の 特定のフィールドを検索したり、特定の語句を包含または除外する照会構文を使 用して文書を検索できます。
- 検索する対象のコレクションおよび外部ソースを指定する。
- 特定のソース・タイプまたはすべてのソース・タイプを検索する。
- 特定のタイプの文書を検索する。例えば、Microsoft Word 文書のみを検索した り、PDF 形式の文書のみを検索できます。
- 使用する照会用語の言語を指定する。検索対象にする文書の言語も指定できま
- コレクションの特定のサブセットを検索する。例えば、検索アプリケーション は、事前に定義された文書の範囲 (有効範囲) にビューを制限できます。あるい は、指定されたカテゴリーに属する文書のみを検索する照会をサブミットできま す。
- 照会を拡張して、照会用語の同義語を含める。同義語辞書がコレクションに関連 付けられている場合、照会用語の同義語を含む文書が検索結果に戻されます。

#### 検索結果機能

これらの機能を使用して、次のことができます。

- 照会用語に一致する検索結果を表示する。
- 各ページに表示する結果文書数を制御し、結果セットの間で前方または後方を参 照する。
- 結果文書についての詳細を表示、または非表示にする。例えば、文書の要旨を表 示したり、あるいは、各結果文書内のフィールドの名前などの詳細を表示できま
- 同じソースからの文書を縮小表示する。例えば、1 つのソースが 100 件の文書を 返す場合、結果セットの中では、もっとも関連する 2 文書がグループ化されて表 示されます。残りの 98 文書は、同じソースからもっと多くの文書を表示するオ プションを選択すると表示されます。
- 関連性で文書をソートしたり、文書の日付の昇順にあるいは降順に文書をソート
- 照会ストリングの中にミススペルの可能性のある語があれば、スペルの修正候補 のプロンプトを出す。
- 結果の文書が属するカテゴリーについての情報を表示し (コレクションがカテゴ リーを使用する場合)、特定のカテゴリーに属する文書のみを参照する。
- 照会用語を追加で指定し、検索結果内でさらに検索を行う。

#### 文書検索機能

これらの機能を使用して、次のことができます。

• 文書 URI をクリックして、文書を取得する。クライアント・アプリケーション が使用可能な場合、ネイティブ・ビューアーで結果文書を表示することもできま す。例えば、Notes Client アプリケーションがインストールされている場合、そ のアプリケーションを使用して Lotus Notes データベースからの文書を表示でき ます。

文書レベルのセキュリティーがクローラーに対して構成されている場合、セキュ ア・コンテンツへのアクセスを認可されているユーザーのみが文書を取得できま す。

クイック・リンクをクリックして、文書を取得する。クイック・リンクは、キー ワードを URI に関連付けます。指定されたキーワードが照会の中に含まれてい れば、関連した URI (これは、これらのキーワードに高い関連があると事前に決 められている)が検索結果の先頭に表示されます。

### サンプル検索アプリケーションのプロパティー

config.properties ファイルをサンプル検索アプリケーションについて編集することに よって、環境に合わせたオプションを指定し、アプリケーションの外観を変更し、 ユーザーが検索アプリケーションを開始した後に使用できるオプションを制御でき ます。

#### 環境パラメーター

検索アプリケーションの操作を制御するオプションを指定できます。

#### applicationName

有効な検索アプリケーションの名前を指定します。デフォルト値は Default です。

別のアプリケーションをデフォルト・アプリケーションとして使用する場 合、このデフォルト値を変更してください。

ヒント: アプリケーション名が Default の場合、このサンプル検索アプリケ ーションを使用して、すべてのコレクションおよび外部ソースを 1 回の照会で検索できます。

#### hostname

ご使用の WebSphere Application Server インスタンスをサポートするように 構成された Web サーバーの、完全修飾ホスト名を指定します。デフォルト 値は localhost です。

検索アプリケーションが正しく機能するようにするため、デフォルト値を、 WebSphere Application Server が使用すると構成されている完全修飾ホスト 名に変更してください。例えば、コンピューターのホスト名が MyMachine で、Web サーバーがそのホスト名として www.ibm.com を使用するように 構成されている場合、www.ibm.com を指定します。

port ご使用の WebSphere Application Server インスタンスをサポートするように ı I Ι ı ı 1 I 1 1 

構成された Web サーバーのポート番号を指定します。デフォルト値は 80 です。Web サーバー・インスタンスのポートを変更した場合にのみ、デフ ォルト値を変更してください。

#### timeout

検索サーバーからの応答をどれだけ待機すれば検索要求がタイムアウトにな るのかを秒数で指定します。この数値は整数でなければなりません (60.5 や sixty ではなく、60)。タイムアウト値を指定しない場合、デフォルト値は 30 秒です。

#### username

ユーザーによって検索要求が実行依頼されたときにエンタープライズ・サー チがユーザー認証を実行し、WebSphere Application Server でユーザーを認 証することができるようにするユーザー名を指定します。このフィールド は、WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可 能に設定した場合にのみ使用されます。

#### password

指定されたユーザー名のパスワードを指定します。

検索結果内にリストされた文書を取得するのに使用するクラスを指定しま filter す。デフォルトのクラスは、

com.ibm.es.api.filters.SetDocumentURIFilterFetch です。代わりにカス タムのクラスを使用して文書を取得する場合のみ、この値を変更してくださ

#### logging.level

ログに出力する詳細の量を以下のように指定します。

**OFF** どのメッセージもログに記録されません。

INFO 通知メッセージがログに記録されます。

FINE エラー・メッセージがログに記録されます。

ALL すべてのメッセージがログに記録されます。

#### ソース・タイプ用アイコン

結果文書が属しているデータ・ソースのタイプを表すイメージをカスタマイズでき ます。ソース・タイプ用の以下のアイコンが config.properties ファイルに事前定義 されていて、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時 にサポートされたクローラーおよび外部ソースを示します。

#### documentSource.vbr.icon

文書が Content Edition クローラーによってクロールされたことを示すイメ ージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceVBR.gif です。



#### documentSource.db2.icon

文書が DB2 クローラーによってクロールされたことを示すイメージ・ファ イルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceDB2.gif です。

1				
1				
1				
1				
Ī				

# documentSource.cm.icon

文書が DB2 Content Manager クローラーによってクロールされたことを示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceCM.gif です。

### documentSource.dominodoc.icon

文書が Domino Document Manager クローラーによってクロールされたことを示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceDominoDoc.gif です。

# documentSource.exchange.icon

文書が Exchange Server クローラーによってクロールされたことを示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceExchange.gif です。

## documentSource.nntp.icon

文書が NNTP クローラーによってクロールされたことを示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceNNTP.gif です。

### documentSource.notes.icon

文書が Lotus Notes クローラーによってクロールされたことを示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceNotes.gif です。

### documentSource.quickplace.icon

文書が QuickPlace クローラーによってクロールされたことを示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceWorkplace.gif です。

## documentSource.unixfs.icon

文書が UNIX ファイル・システム・クローラーによってクロールされたことを示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceUnixFS.gif です。

### documentSource.web.icon

文書が Web クローラーによってクロールされたことを示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceWeb.gif です。

# documentSource.wps.icon

文書が WebSphere Portal クローラーによってクロールされたことを示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceWPS.gif です。

### documentSource.winfs.icon

文書が Windows ファイル・システム・クローラーによってクロールされた

ことを示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのア イコンは /images/sourceWindowsFS.gif です。

# documentSource.ldap.icon

1

I

1

I

1

1

文書が LDAP サーバー用に作成された外部ソースに属していることを示す イメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/sourceLDAP.gif です。

# documentSource.jdbc.icon

文書が Java Database Connectivity (JDBC) データベース表用に作成された 外部ソースに属していることを示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定 します。デフォルトのアイコンは /images/sourceJDBC.gif です。

#### クライアント・ビューアー用アイコン

結果文書は Web ブラウザーで表示できます。結果文書タイプ固有のクライアン ト・アプリケーションが使用可能な場合、クライアント・ビューアーでも文書を表 示できます。文書を表示するのに使用されるクライアント・ビューアーのタイプを 表すイメージをカスタマイズできます。以下の例では、文書を Lotus Notes クライ アント・アプリケーションで表示できることを示すために Lotus Notes アイコンが 使用されています。

client.notes.icon=/images/notes.gif

検索結果には、アイコンとクライアント・アプリケーションへのリンクが、以下の ように表示されます。



# <u>クライアン</u>ト・ビューアー

#### 文書フィールド

フィールドがあるデータ・ソースのタイプに対して、どのフィールドが結果文書に 表示されるのかを制御できます。

fields.URI prefix=スペースで区切ったフィールド名リスト

URI 接頭部にあるコロン文字 (:) の前に円記号 (¥) を付けて、コロン文字 をエスケープする必要があります。フィールド名リストを次の行に継続する 場合、前の行が円記号 (¥) で終わるようにしてください。以下に例を示しま

fields.db2\frac{1}{2}://=databasename tablename

fields.domino¥://=servername databasename databasetitle filename extension ¥ createddate modifieddate

fields.cm\forall://=servername itemtypename createddate modifieddate mimetype fields.file\fi!//=directory filename extension modifieddate filesize title

#### フィールド用アイコン

フィールドがあるデータ・ソースのタイプおよび文書に対して、フィールドを表す イメージをカスタマイズできます。フィールド用の以下のアイコンが config.properties ファイルに事前定義されています。

I				
l				
ı				
I				
I				
I				
I				
I				
l				
I				
ı				
'				
I				
l				
I				
I				
1				
I				
I				
ı				

-25	_	m.		-	
В	_	8			
ш	1	-	3		
ш	f#	а	н	н	
-81	111		п		

#### field.icon.databasetitle

文書タイトルが入っているフィールドであることを示すイメージ・ファイル のパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/notesdb.gif で

#### field.icon.databasename

文書が属しているデータベースの名前が入っているフィールドであることを 示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコン は /images/db2.gif です。

# field.icon.tablename

文書が属している表の名前が入っているフィールドであることを示すイメー ジ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/table.gif です。



### field.icon.directory

文書が属しているディレクトリーの名前が入っているフィールドであること を示すイメージ・ファイルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコ ンは /images/closedFolder.gif です。

#### デフォルトのフィールド用アイコン

検索結果に表示されるフィールド用にアイコンが何も構成されていない場合に使用 するイメージを指定できます。以下のデフォルトのフィールド用アイコンが config.properties ファイルに事前定義されています。



### field.defaultIcon

検索結果内のフィールド用のデフォルトのアイコンであるイメージ・ファイ ルのパスと名前を指定します。デフォルトのアイコンは /images/database.gif です。

#### 日付フィールド

どのフィールドが日付フィールドであるかを指定できます。ここで指定するフィー ルド名は、検索結果内で日付データのようにフォーマットされます。日付のフォー マットは、Web ブラウザーでのロケール設定に一致します。

date.fields=スペースで区切ったフィールド名リスト

フィールド名リストを次の行に継続する場合、前の行が円記号 (¥) で終わる ようにしてください。

例:

date.fields=modifieddate createddate

### 文書タイトル

文書タイトルのテキストをより分かりやすいデータで置換することにより、文書の 代替タイトルを指定できます(つまり、タイトルを簡潔化(clean)できます。例え ば、「Slide 1」のような内容を表していないラベルが含まれた一連の文書タイトル がある場合、タイトルをそのまま表示する代わりに、検索結果で「Slide 1」を抑制

Ι 1 Ι ı I

するよう指定できます (結果文書を識別できるように、より意味のあるフィールド (ファイル名など) を代わりに使用することが考えられます)。

また、文書タイトルから無意味な語を除去することにより、文書の代替タイトルを 指定できます (つまり、タイトルを切り捨て (truncate) できます)。例えば、多数の 結果文書が「Microsoft Word -」で始まっている場合、繰り返されるこのテキストを 抑制することによって、検索結果を読みやすくできます。

titles.clean=コンマで区切ったタイトル・リスト

titles.truncatePrefix=コンマで区切った接頭部リスト

コンマで区切られたこれらのリストには、コンマを除き、スペースおよびそ の他の文字を入れることができます。リストを次の行に継続する場合、前の 行が円記号 (¥) で終わるようにしてください。

以下に例を示します。

titles.clean=Slide 1, Layout 1, IBM Software Group Presentation Template, ¥ untitled, Untitled Document, PowerPoint Presentation, ¥ (no title for this page)

titles.truncatePrefix=Microsoft Word -, Microsoft Powerpoint -

#### ユーザー・プリファレンスのデフォルト値

検索アプリケーションの「プリファレンス」ページのデフォルト値を指定できま す。ユーザーがプリファレンスを変更した場合、そのユーザーの現行セッションで のみ新しい値が有効になります。以下のプリファレンスが config.properties ファイ ルに事前定義されています。

#### preferences.resultsRange=10

検索結果の各ページに 10 個の結果文書をリストできることを指定します。

#### preferences.siteCollapsing=Yes

エンタープライズ・サーチ管理コンソールにおけるサイト縮小表示規則が構 成されている場合に、URI 接頭部規則に一致する URI は検索結果で縮小表 示されることを指定します。

#### preferences.spellCorrections=Yes

ミススペルの可能性がある語を含んでいる照会をユーザーが実行した場合に スペル修正候補が表示されることを指定します。

#### preferences.extendedHighlighting=No

文書サマリーのフィールドに加えて、追加のフィールド(文書タイトルなど) で、照会用語が強調表示されないことを指定します。

#### デフォルトのコレクションおよび外部ソース

「プリファレンス」ページと「拡張検索」ページで事前選択されるコレクションお よび外部ソースを指定できます。ユーザーはこのデフォルトのセットを編集して、 デフォルトで使用可能にされているより少ないコレクションおよび外部ソースを検 索対象にできます。コレクションおよび外部ソースのセットをここで制限すると、 ユーザーはプリファレンスまたは拡張検索オプションを変更する際に、検索アプリ ケーションに使用可能になっているコレクションまたは外部ソースのうち任意のも のを選択できます。

#### preferences.defaultCollections=\*

**preferences.defaultCollections=**スペースで区切ったコレクション *ID* リスト

すべてのコレクションおよび外部ソースを検索対象として使用可能にするには、アスタリスク(\*)を指定します(コレクションおよび外部ソースは、エンタープライズ・サーチ管理コンソールで、検索アプリケーションと関連付けられていなければなりません)。これは、config.propertiesファイルでのデフォルト設定です。

プリファレンスまたは拡張検索オプションを変更していないユーザーが何を 検索対象とするのかを制限するには、デフォルトでユーザーが検索するよう にしたいコレクションおよび外部ソースのコレクション ID を指定します。

以下に例を示します。

preferences.defaultCollections=\*
preferences.defaultCollections=coll id1 coll id2

### 検索結果の追加情報

検索結果で提供される情報量をカスタマイズすることができ、また、ユーザーが検索結果をフィルターできるかどうかを制御できます。config.properties ファイル中のデフォルト設定は、次のとおりです。

#### refreshButton.show=false

「リフレッシュ」ボタンが表示されるかどうかと、検索アプリケーションをリフレッシュすることができるかどうかを制御します。このオプションをtrue に設定すると、ユーザーは検索に使用可能なコレクションおよび外部ソースのリストをリフレッシュできます (例えば、検索アプリケーションがエンタープライズ・サーチ管理コンソールで追加のコレクションまたは外部ソースと関連付けられた場合)。

「リフレッシュ」ボタンが表示されるようにする場合として、

config.properties ファイルに加えた変更をテストする場合などが考えられます。変更を保管した後、「リフレッシュ」をクリックすると、その変更が検索アプリケーションにどのように影響するのかを確認できます。「リフレッシュ」ボタンがない場合、WebSphere Application Server で

ESSearchApplication エンタープライズ・アプリケーションを再始動しないと、変更は有効になりません。

検索に使用可能なコレクションまたは外部ソースがない場合 (例えば、誤ったホスト名が指定されている場合や、検索サーバーが開始されていない場合、ESSearchServer エンタープライズ・アプリケーションが WebSphere Application Server において開始されなかった場合)、問題のトラブルシューティングを支援するため、「リフレッシュ」ボタンは自動的に表示されます。

#### extraMessages.show=false

検索結果の下部にある、警告メッセージと通知メッセージが表示される領域の表示を制御します。エラー・メッセージは、常にページの上部に表示されます。追加のメッセージを表示するには、このオプションを true に設定してください。

#### builtQueryString.show=false

1

1

ı 結果文書リストの前にある領域での、完全に展開された照会構文の表示を制 御します。処理された実際の照会が表示されるようにするには、このオプシ ョンを true に設定してください。

#### refineResults.show=true

ユーザーが追加の照会用語を指定して検索結果を絞り込むことができるかど うかを制御します。このオプションを true に設定すると、「結果内の検 索」というラベルが付いた照会ボックスが、検索結果ページの下部に表示さ れます。

### filter.showOnTwoLines=true

ソース・タイプによる結果のフィルター処理とファイル・タイプによる結果 のフィルター処理に関するオプションが検索結果に 1 行または 2 行で表示 されるかどうかを制御します (ユーザーは、検索結果の表示中に、ソース・ タイプの選択とファイル・タイプの選択を行って、選択したフィルターに一 致する結果文書のみを表示できます)。

検索結果の表示に使用できるスペース量を最大化するには、このプロパティ ーを false に設定します。使用可能なフィルターが 1 行を超える場合は特 に、このプロパティーを true に設定して各フィルターが別の行に表示され るようにすると、フィルターの読みやすさが増します。

#### カスタム・バナーおよびロゴ

検索アプリケーションの上部にあるバナー領域に表示されるイメージをカスタマイ ズできます。例えば、WebSphere II OmniFind Edition のデフォルトのイメージを、 ご使用のエンタープライズ・ブランドを反映するイメージで置き換えることができ ます。バナーが表示されないようにするには、以下の一方または両方の行をコメン ト行にしてください。banner.icon プロパティーは、バナー領域の左側に表示される グラフィックを示します。banner2.icon プロパティーは、バナー領域の右側に表示さ れるグラフィックを示します。

banner.icon=/images/WS II OFEdition.gif banner2.icon=/images/WS\_II\_mosaic.gif

#### カスタム背景イメージ

検索アプリケーションのページ背景に表示されるイメージをカスタマイズできま す。例えば、WebSphere II OmniFind Edition のデフォルトのイメージを、ご使用の エンタープライズ・ブランドを反映するイメージで置き換えることができます。背 景イメージがページに表示されないようにするには、以下の行の 1 つ以上をコメン ト行にしてください。

search.backgroundImage=/images/IIOF search.gif preferences.backgroundImage=/images/IIOF\_options.gif advanced.backgroundImage=/images/IIOF advanced.gif browse.backgroundImage=/images/IIOF tree.gif myProfile.backgroundImage=/images/IIOF profile.gif logoff.backgroundImage=/images/IIOF logout.gif

#### リンク

config.properties ファイルの Links 領域にあるプロパティーは、検索アプリケーショ ン・ページの名前が、ツールバーおよびタブ付きページに表示される代わりに、各

ページにリンクとして表示されるようにします。リンクの表示は、検索アプリケーションをポートレットとして実行し、ポータル・ページで検索アプリケーションの表示に使用されるスペース量を最小化する場合に役立ちます。

ツールバーおよびタブ付きページでオプションを選択することによって検索アプリケーションをナビゲートするほうが望ましい場合は、これらの行をコメント化してください。

#### 検索タブ

config.properties ファイルの Search tabs 領域にあるプロパティーは、検索アプリケーションの「検索」ビュー内のタブ付きページ (「検索」、「拡張検索」、および「カテゴリー・ツリー」) に使用される Java Server Page (JSP) の名前を指定します。Java プログラミングおよび JSP に精通している場合以外は、これらのページを編集しないでください。

この領域のカスタマイズ例には、以下のものがあります。

- 検索アプリケーションを、タブ付きページに別の外観を提供するカスタム JSP に 誘導する。
- カテゴリー・ツリーに関するエントリーをコメント化する。例えば、コレクションに対してカテゴリーを構成しない場合、検索アプリケーションで「カテゴリー・ツリー」ページを表示する必要はありません。
- タブ付きページに関するエントリーを config.properties ファイルの Toolbars 領域 にコピーし、これらの行をコメント化する。例えば、ツールバーのみが表示され ればよく、タブ付きページは全く表示する必要がない場合があります。

#### ツールバー

config.properties ファイルの Toolbars 領域にあるプロパティーは、検索アプリケーションのツールバーに使用される Java Server Page (JSP) の名前を指定します。 Java プログラミングおよび JSP に精通している場合以外は、これらのページを編集しないでください。

この領域のカスタマイズ例には、以下のものがあります。

- 検索アプリケーションを、ツールバーに別の外観を提供するカスタム JSP に誘導する。
- 表示されないようにする項目について、ツールバーに関するエントリーをコメント化する。例えば、「製品情報」ページへのリンクをツールバーに組み込む必要がない場合があります。
- 「拡張検索」ページを表示する機能を config.properties ファイルの Search tabs 領域から移動し、このオプションをツールバーでのみ使用可能にする。

#### 分かりやすい文書タイプのラベル

実際の文書タイプ名を、より正確で分かりやすい語にマップすることによって、文書タイプ・フィルターの読みやすさを向上させることができます。検索アプリケーションで使用可能な文書タイプは、検索および索引 API (SIAPI) の AvailableDocumentTypes クラスで定義されています。利便性のため、使用可能な文書タイプは、config.properties ファイルの最後にもリストされています。

documentType.ラベル=スペースで区切った文書タイプのリスト

検索結果で文書タイプ・フィルター行に表示される名前と、ユーザーがそのフィルターを選択したときに表示される実際の文書タイプのリストを指定します。

例えば、ラベル html を指定し、さまざまな Web 文書のファイル拡張子および MIME タイプをその名前にマップします。ユーザーが検索結果をフィルターに掛けるために html をクリックすると、指定された拡張子および MIME タイプの文書のみが表示されます。

文書タイプの以下のマッピングが config.properties ファイルに事前定義されています。

documentType.html=shtml text/html html xhtml htm
documentType.doc=doc application/msword
documentType.ppt=application/mspowerpoint ppt
documentType.xls=xls application/x-excel application/msexcel ¥
application/x-msexcel application/excel application/vnd.ms-excel
documentType.xml=xml text/xml
documentType.txt=txt text/plain
documentType.pdf=pdf application/pdf

#### カスタム・フィルター

ı

ı

ı

I

検索結果の表示をフィルター操作するためのカスタム照会を指定できます。

#### filterCustom.ラベル =照会用語

検索結果でカスタム・フィルター行に表示される名前と、ユーザーがそのフィルターを選択したときに検索結果を絞り込むための照会を指定します (ユーザーは、検索結果の表示中に、カスタム・フィルターを選択して、事前定義済み照会に一致する結果文書のみを表示できます)。

以下の例では、人的資源 (hr) データベースに属している文書のみが表示されるよう、検索結果がフィルターに掛けられます。

filterCustom.HR\_database\_only=databasename::hr

ユーザーが検索結果をフィルターに掛けるために **HR\_database\_only** をクリックすると、照会 databasename::hr が処理されます。検索結果が表示されるとき、hr データベースからの文書のみがリストされます。

config.properties ファイルには、例として幾つかのカスタム・フィルターがコメント化されて含まれています。

## サンプル検索アプリケーション・プロパティーの編集

エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションは、システムにあるすべてのアクティブなコレクションおよび外部ソースを検索できます。プロパティー・ファイルを編集して、ご使用の Web サーバー環境に合うようにオプションを指定したり、デフォルト・アプリケーションとして別の検索アプリケーションを使用したり、検索アプリケーションの開始時に表示されるオプションを制御したりできます。

#### このタスクについて

インストール・プログラムは、エンタープライズ・サーチ用の検索サーバー上の IBM WebSphere Application Server に、エンタープライズ・サーチのサンプル検索 アプリケーションをデプロイします。この検索アプリケーションを構成するには、 そのアプリケーションと一緒にデプロイされるプロパティー・ファイル config.properties を編集します。

変更を有効にするには、WebSphere Application Server 内の ESSearchApplication エ ンタープライズ・アプリケーションを停止し、再始動する必要があります。

#### 手順

サンプル検索アプリケーションのプロパティーを編集するには、次のようにしま

1. 標準のテキスト・エディターで、config.properties ファイルを編集します。

config.properties ファイルは、以下の場所にインストールされています。ここ で、ES INSTALL ROOT は、検索サーバー上の WebSphere II OmniFind Edition イ ンストール・ディレクトリーです。

- ES INSTALL ROOT/installedApps/ESSearchApplication.ear/ ESSearchApplication.war/WEB-INF/config.properties
- 2. ご使用の Web サーバー環境に関する情報および検索プリファレンスを指定する プロパティーを編集し、ファイルを保管してクローズします。 (ファイル中のポ ンド記号(#)は、コメント行を示します。)
- 3. ESSearchApplication アプリケーションを停止し、再始動します。
  - a. 検索サーバー上で、WebSphere Application Server 管理コンソールを開始しま す。

管理コンソールは、以下の方法でオープンできます。

- Windows の「スタート」メニューを使用して、該当するプログラムを選択 します。
- WebSphere Application Server バージョン 5 の場合、Web ブラウザーをオ ープンし、 http://hostname:port/admin にアクセスします。ここで、 hostname は検索サーバーのホスト名であり、port は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソー ルのポートは 9090 です。
- WebSphere Application Server バージョン 6 の場合、Web ブラウザーをオ ープンし、 http://hostname:port/ibm/console にアクセスします。ここで、 hostname は検索サーバーのホスト名であり、port は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソー ルのポートは 9060 です。
- b. ユーザー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出たら、WebSphere Application Server ユーザー・レジストリーに登録されているユーザー名とパ スワードを入力します。 ユーザー・レジストリーとしてローカル・オペレー ティング・システムを使用している場合は、エンタープライズ・サーチ管理 者 ID とパスワードを指定できます。
- c. 管理コンソールにログインしたら、「**アプリケーション**」をクリックし、さ らに「**エンタープライズ・アプリケーション**」をクリックします。

### サンプル検索アプリケーションへのアクセス

Web ブラウザーで URL を指定することにより、サンプル検索アプリケーションに アクセスします。

#### 始める前に

サンプル検索アプリケーションは、ご使用の Web サーバー環境に合わせて構成す る必要があります。

#### このタスクについて

サンプル検索アプリケーションは、エンタープライズ・サーチ用の検索サーバーに インストールされています。このアプリケーションをそのまま使用してコレクショ ンおよび外部ソースをテストし、テストが終わった後で、それらをユーザーに対し て使用可能にすることができます。また、このアプリケーションをモデルとして使 用して、独自の検索アプリケーションを作成することもできます。

#### 手順

Ι

Ι

サンプル検索アプリケーションを開始するには、次のようにします。

1. Web ブラウザーで検索アプリケーションの URL を入力します。 以下に例を示 します。

http://SearchServer.com/ESSearchApplication/

SearchServer.com は、検索サーバーのホスト名です。

Web サーバーがポート 80 を使用するように構成されていない場合は、正しい ポート番号を指定することも必要です。例えば、次のように指定します。

http://SearchServer.com:9080/ESSearchApplication/

2. WebSphere Application Server でセキュリティーが使用可能になっている場合 は、有効なユーザー ID とパスワードを使ってアプリケーションにログインしま

検索アプリケーションで使用可能なコレクションのいずれかでセキュリティーが 使用可能に設定されている場合や、照会処理中にユーザー信用証明情報を検証す るよう構成されたクローラーがセキュア・コレクションに含まれている場合は、 ユーザー・プロファイルを構成できます。「マイ・プロファイル」ページで、セ キュア・ドメインにアクセスするための信用証明情報を指定してください。そう すると、ログインするよう指示されることなく、それらのドメインを検索できま

3. 「検索」ページで、検索したいコレクションおよび外部ソースを選択し、照会を 実行依頼します。

### サンプル検索アプリケーションに対するセキュリティーの使用可能化

WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能に設定し、 サンプル検索アプリケーションを使用してセキュア・コレクションを検索しようと する場合は、サンプル検索アプリケーションおよび WebSphere Application Server で構成設定を変更する必要があります。

#### 始める前に

- エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。
- WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能に設定す る必要があります。 WebSphere II OmniFind Edition をマルチサーバー構成とし てインストールした場合は、各検索サーバーでグローバル・セキュリティーを使 用可能に設定します。グローバル・セキュリティーを使用可能に設定する方法に ついては、WebSphere Application Server 資料を参照してください。
- WebSphere Application Server 内のユーザー・レジストリーに対して Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を選択する場合、エンタープライズ・サーチ管 理者 ID とパスワードを LDAP レジストリーに追加する必要があります (この ID とパスワードは、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定さ れたものです)。

例えば、エンタープライズ・サーチ管理者 ID が adminUser の場合、LDAP レジ ストリーのユーザー項目は uid=adminUser,ou=Employees,o=IBM,c=US です。手順 については、LDAP サーバーの資料を参照してください。

#### 手順

エンタープライズ・サーチのサンプル・アプリケーションに対してセキュリティー を使用可能にするには、次のようにします。

- 1. 管理コンソールで検索アプリケーションのプロパティーを更新します。
  - a. エンタープライズ・サーチ管理コンソールに、エンタープライズ・サーチ管 理者特権をもつユーザーとしてログインします。
  - b. ツールバーで「**セキュリティー**」をクリックします。
  - 「検索アプリケーション」ページで、「検索アプリケーションの構成」をク リックします。
  - d. 「検索アプリケーションの追加」をクリックし、「検索アプリケーション 名」フィールドに、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定 されたエンタープライズ・サーチ管理者 ID を入力します。
  - e. 「すべてのコレクションと外部ソース」が選択されていることを確認し、 「OK」をクリックします。
- 2. 次のようにして、config.properties ファイルを編集します。
  - a. UNIX を使用している場合は、コンソール・ウィンドウを開きます。 Microsoft Windows を使用している場合は、コマンド・プロンプト・ウィンド ウを開きます。
  - b. サンプル検索アプリケーションの WEB-INF ディレクトリーに移動します。 以下の例は、読みやすいように2行に示してありますが、コマンドは、1行 に指定してください。

#### **UNIX:**

cd \$ES\_INSTALL\_ROOT/installedApps/ESSearchApplication.ear/ ESSearchApplication.war/WEB-INF

#### Windows:

 $\begin{array}{ll} cd \ \&ES\_INSTALL\_ROOT \& installed Apps \& ESS earch Application.ear \& ESS earch Application.war \& WEB-INF \\ \end{array}$ 

- c. テキスト・エディターを使用して config.properties ファイルを編集します。
- d. username プロパティーを有効な WebSphere Application Server ユーザーの名前に変更します。
- e. password プロパティーを、指定されたユーザー ID のパスワードに変更します。
- f. ファイルを保管して、終了します。
- 3. WebSphere Application Server で ESSearchApplication アプリケーションを再始動します。
  - a. 検索サーバー上で、WebSphere Application Server 管理コンソールを開始します。

管理コンソールは、以下の方法でオープンできます。

- Windows の「スタート」メニューを使用して、該当するプログラムを選択します。
- WebSphere Application Server バージョン 5 の場合、Web ブラウザーをオープンし、http://hostname:port/admin にアクセスします。ここで、hostname は検索サーバーのホスト名であり、port は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソールのポートは 9090 です。
- WebSphere Application Server バージョン 6 の場合、Web ブラウザーをオープンし、 http://hostname:port/ibm/console にアクセスします。ここで、 hostname は検索サーバーのホスト名であり、port は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソールのポートは 9060 です。
- b. ユーザー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出たら、WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にしたときに指定した管理者 ID とパスワードを入力します。
- c. 管理コンソールにログインしたら、「**アプリケーション**」をクリックし、さらに「**エンタープライズ・アプリケーション**」をクリックします。
- d. ESSearchApplication のチェック・ボックスを選択して、「**停止**」をクリックします。
- e. アプリケーションが停止したら、ESSearchApplication のチェック・ボックス をもう一度選択して、「**開始**」をクリックします。

# エンタープライズ・サーチ外部ソース

1

1

1

ı

1

ı

外部ソース とは、そのデータ・ソース内の文書のクロール、構文解析、索引作成を 必要とせずにエンタープライズ検索アプリケーションでの検索が可能なデータ・ソ ースです。

以下のタイプのデータ・ソースを外部ソースとして検索できます。

- Java Database Connectivity (JDBC) データベース表 (IBM DB2 Universal Database (DB2 UDB) および Oracle データベースのみ)。JDBC データベース内の各表ごと に、個別の外部ソースが作成されます。
- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバー。各 LDAP サーバーごと に、1 つの外部ソースが作成されます。

外部ソースに関する情報を構成した後、その外部ソースを少なくとも 1 つの検索アプリケーションと関連付ける必要があります。そうすると、ユーザーは、データのクロール、構文解析、および索引作成によってエンタープライズ・サーチ用に作成されたコレクションを照会するのと同時に、その外部ソースを検索できるようになります。

#### 関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『検索および索引 API フェデレーター』

# システムへの外部ソースの追加

外部ソースをエンタープライズ・サーチ・システムに追加するときには、追加する ソースのタイプを指定します。ウィザードのガイドに従って、データ・ソースに関 する情報、および、データ・ソースがどのように検索できるのかについての情報を 指定します。

#### 始める前に

システムに外部ソースを追加するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

#### 制約事項

Oracle データベースを外部ソースとして検索するには、エンタープライズ・サーチ 用の検索サーバーに Oracle クライアント・プログラムがインストールされていなけ ればなりません。

#### このタスクについて

外部ソースに関する情報をシステムに追加するときに、ユーザーがエンタープライズ検索アプリケーションでそのソースを照会できるようにします。Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーおよび Java Database Connectivity (JDBC) データベース表を、検索対象として使用可能にできます。

のかに関するオプションを指定します。 ます。 手順 2. 「外部ソースの追加」をクリックします。 スのいずれかを選択します。 にしてください。 DB2: レガシー JDBC ドライバー DB2: ユニバーサル JDBC ドライバー ロケーション: ロケーション: ます。 部ソース」ビューにリストされます。 関連概念

LDAP サーバーを構成するときには、ウィザードのガイドに従って、そのサーバー にシステムが接続するための情報を指定し、そのサーバーがどのように検索される

JDBC サーバーを構成するときには、ウィザードのガイドに従って、そのサーバー にシステムが接続するための情報を指定し、検索に使用可能にする表を選択し、そ れらの表に含まれるデータがどのように検索されるのかに関するオプションを指定 します。システムに追加する各表ごとに、個別に検索可能な外部ソースが作成され

外部ソースをシステムに追加するには、次のようにします。

- 1. 「外部ソース」をクリックして「外部ソース」ビューを開きます。
- 3. 追加する外部ソースのタイプとして、LDAP サーバーまたは JDBC データベー
- 4. 外部ソースの構成を始めるため、「次へ」をクリックします。

作成するソースのタイプに対応するウィザードが開きます。ウィザードのプロン プトに従って、外部ソースを構成してください。ウィザードのどのページでも、 「ヘルプ」をクリックすると、指定可能なオプションの説明が表示されます。

DB2 Universal Database (DB2 UDB) および Oracle データベースの接続情報を構 成する際、以下に示すデフォルトの JDBC ドライバー名とロケーションを参考

> ドライバー名: COM.ibm.db2.jdbc.app.DB2Driver ロケーション: db2 install root/java/db2java.zip

ドライバー名: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver db2 install root/java/db2jcc.jar db2 install root/java/db2jcc license cu.jar

**Oracle** ドライバー名: oracle.jdbc.driver.OracleDriver oracle home/jdbc/lib/classes12.zip oracle home/jdbc/lib/nls charset12.zip

外部ソース検索に関するオプションの指定が終わったら、「完了」をクリックし

新しい外部ソースが、システムに以前に追加された他の外部ソースと共に、「外

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレン ス」の『検索および索引 API フェデレーター』

# 小部ソースと検索アプリケーションの関連付け

外部ソースは、少なくとも 1 つの検索アプリケーションを関連付けないと検索でき ません。

### 始める前に

検索アプリケーションを、検索できる外部ソースと関連付けるには、エンタープラ イズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

#### 手順

1 

Ι

Т

1

Ι

Ι

Ι

Ι

ı

検索アプリケーションを 1 つ以上の外部ソースに関連付けるには、次のようにしま

- 1. 管理コンソールのツールバーで「セキュリティー」をクリックします。
- 2. 「検索アプリケーション」ページで、「検索アプリケーションの構成」をクリッ クします。
- 3. 「検索アプリケーションの構成」ページで、「検索アプリケーションの追加」を クリックします。
- 4. 検索アプリケーションの名前を入力します。
- 5. そのアプリケーションが検索できる外部ソースを次のように選択します。
  - システムに追加するすべての外部ソースを検索アプリケーションがアクセスす るようにするには、「すべてのコレクションと外部ソース」をクリックしま す。
  - 指定する外部ソースのみを検索アプリケーションがアクセスするようにするに は、「特定のコレクションと外部ソース」をクリックします。

このオプションを選択すると、コレクション名および外部ソース名のリストが 表示されます。アプリケーションが検索できる外部ソースの「選択」チェッ ク・ボックスを選択します。

6. 「**OK**」をクリックします。

#### 関連概念

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレン ス」の『検索および索引 API フェデレーター』

# エンタープライズ・サーチ・セキュリティー

エンタープライズ・サーチのセキュリティー機構によって、無許可でソースが検索 されないようにし、管理機能の使用を特定のユーザーに制限することができます。

エンタープライズ・サーチによって、ユーザーは広い範囲のデータ・ソースを検索できます。コンテンツに対するアクセス許可を持つユーザーのみがアクセスすることを確認し、また許可されたユーザーのみが管理コンソールにアクセスできることを確実にするために、エンタープライズ・サーチは複数のレベルにおいてセキュリティーの調整および実行を行います。

## Web サーバー

セキュリティーの第 1 レベルは Web サーバーです。WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にすると、ユーザーに管理役割を割り当てたり、システムを管理しようとするユーザーを認証することができます。ユーザーが管理コンソールにログインすると、そのユーザーが管理することを許可された機能とコレクションのみが使用可能になります。

また、検索アプリケーションは WebSphere Application Server の認証サポートを使用して、検索アプリケーションでコレクションを検索するユーザーを認証できます。

#### コレクション・レベルのセキュリティー

コレクションを作成するときに、コレクション・レベルのセキュリティーを 使用可能にできます。コレクションの作成後にこの設定を変更することはで きません。コレクション・レベルのセキュリティーを使用可能にしていない 場合は、あとで文書レベルのセキュリティー制御を指定することはできませ ん。

コレクション・レベルのセキュリティーが使用可能な場合に、グローバル分析処理で以下の特別な規則を適用します。

- 文書ごとにセキュリティー制御が評価されるように、重複 (または重複に近い) のコンテンツの文書は、そのコンテンツが正規表現で関連付けられて索引が付けられるのではなく、別個に索引付けされます。
- ・ グローバル分析のアンカー・テキスト処理フェーズは、通常、ある文書 (ソース文書) に現れるテキストを、そのテキストが必ずしも現れるとは 限らない別の文書 (ターゲット文書) に関連付けます。これにより、ソース文書に現れるテキストを指定した照会で、ターゲット文書が検索される ようになります。このタイプのアンカー・テキスト処理は、ユーザーがソース文書は表示できないがターゲット文書の表示は許可されている場合 に、セキュリティーのリスクが生じます。コレクション・セキュリティーが使用可能である場合、禁止文書へのリンクのアンカー・テキストは索引 から除外されます。文書固有のコンテンツまたはメタデータが照会に一致している場合のみ、文書が検索結果に戻されます。

コレクション・セキュリティーを使用可能にすることと、検索の質とでトレードオフが生じます。コレクション・セキュリティーを使用可能にすると、

文書ごとに索引付けされる情報量が減ります。これの副次作用は、照会によ っては結果の数が少なくなることです。

コレクション・レベルのセキュリティーは、アプリケーション ID を通して 検索アプリケーションでも使用できます。コレクションを検索するためにエ ンタープライズ・サーチ管理者は、検索アプリケーションを、それが検索で きる特定のコレクションに関連付ける必要があります。そして、標準アクセ ス制御機構を使用して、ユーザーに対し、検索アプリケーションへのアクセ スを許可したり拒否したりできます。

#### 文書レベル・セキュリティー

コレクションのクローラーを構成するときに、文書レベルのセキュリティー を使用可能にできます。このオプションを選択すると、クローラーは、クロ ールする各文書にセキュリティー・トークンを関連付けることができます。 セキュリティー・トークンは文書と一緒に索引の中に保管されます。一部の クローラーでは、照会処理中に、ユーザーの信用証明情報を現行のアクセス 制御データで (ネイティブ・データ・ソースで構成されたのと同様に) 検証 するように指定できます。

検索アプリケーションではセキュリティー・トークンとユーザーの信用証明 情報を使用して、アクセス制御を施行することができます。ユーザーが、ア クセス許可を持つ文書のみを検索して取得するために、検索アプリケーショ ンが、検索サーバーに渡す照会にログイン・ユーザーの信用証明情報を組み 込むことができます。

コレクションに対するセキュリティーは、索引付けされたコンテンツを保護するた めにエンタープライズ・サーチが使用できる認証とアクセス制御機構を越えて拡張 されます。転送中に、悪意のある、あるいは無許可のユーザーにデータをアクセス させないための安全機能も存在します。例えば、検索サーバーは、Secure Sockets Layer (SSL), Secure Shell (SSH), および Secure Hypertext Transfer Protocol (HTTPS) といったプロトコルを使用して、索引サーバーおよび検索アプリケーショ ンと通信します。

暗号化によってさらにセキュリティーが強化されます。例えば、エンタープライ ズ・サーチ管理者のパスワードが製品のインストール時に指定されますが、これ は、暗号化されたフォーマットで保管されます。ユーザーがユーザー・プロファイ ルで指定するパスワードも、暗号化されたフォーマットで保管されます。

セキュリティーを向上させるには、サーバー・ハードウェアが適切に隔離されてお り、無許可の侵入から保護されている必要があります。ファイアウォールをインス トールすると、使用しているネットワークの別の部分を通した侵入から、エンター プライズ・サーチ・サーバーを保護できます。また、エンタープライズ・サーチ・ サーバーに、余計なポートが開いていないことも確認してください。システムが、 エンタープライズ・サーチのアクティビティーとアプリケーション用に明示的に割 り当てられたポートでのみ要求を listen するように、システムを構成してくださ 65

# 管理役割

エンタープライズ・サーチは管理コンソールのさまざまな機能へのアクセスを制御 するために、役割の概念を使用します。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition (WebSphere II OmniFind Edition) のインストール中に、インストーラーは、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードを構成します。管理コンソールに最初にアクセスするときは、このユーザーとしてログインしなければなりません。 WebSphere Application Server 内のグローバル・セキュリティーを使用可能に設定していない場合、このユーザー ID がエンタープライズ・サーチ管理コンソールのアクセスに使用できる唯一のユーザー ID です。

WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にしていれば、追加のユーザーをエンタープライズ・サーチ管理ユーザーとして登録できます。 ユーザーを役割に割り当てることによって、アクセスを特定のコレクションに制限し、それぞれの管理ユーザーが実行できる機能を制御できます。エンタープライズ・サーチ内の管理役割に割り当てるユーザー ID は、WebSphere Application Server ユーザー登録の中になければなりません。

管理ユーザーがログインするときに、エンタープライズ・サーチはユーザー ID を認証します。ユーザーが管理できるコレクションと機能のみが、コンソールの中で選択可能になっています。

次の管理役割にユーザーを登録できます。

#### エンタープライズ・サーチ管理者

これらのユーザーは、コレクションを作成し、エンタープライズ・サーチ・システムのすべての側面を管理する権限を持ちます。 WebSphere II OmniFind Edition をインストールする際に、最初のエンタープライズ・サーチ管理ユーザーのユーザー ID とパスワードを指定します。最初にログインした後に、このユーザーは、他のユーザーをエンタープライズ・サーチ管理者の役割に割り当てることができます。

#### コレクション管理者

これらのユーザーは、特定のコレクションまたはすべてのコレクションの操作を、編集、モニター、および制御できます。これらのユーザーは、コレクションを作成することはできません。エンタープライズ・サーチ管理者がコレクション管理者を認可した場合のみ、コレクション管理者は、システム・レベルのアクティビティーをモニターおよび操作することができます。

#### オペレーター

これらのユーザーは、特定のコレクションまたはすべてのコレクションの動きをモニターし、制御することができます。これらのユーザーは、コレクション・アクティビティーの開始と停止はできますが、コレクションの作成や編集はできません。エンタープライズ・サーチ管理者がオペレーターを認可した場合のみ、オペレーターは、システム・レベルのアクティビティーをモニターおよび操作することができます。

#### モニター担当者

これらのユーザーは、特定のコレクションまたはすべてのコレクションをモニターすることができます。操作の制御 (サーバーの開始や停止など)、コレクションの作成、またはコレクションの編集はできません。エンタープライズ・サーチ管理者がモニター担当者を認可した場合のみ、モニター担当者は、システム・レベルのアクティビティーを監視することができます (しかし、操作はできません)。

| |

#### 関連タスク

19ページの『管理コンソールへのログイン』

エンタープライズ・サーチ・システムを管理するには、Web ブラウザーで URL を 指定した後で、管理コンソールにログインします。

251ページの『エンタープライズ・サーチ・サーバーの開始』

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、システム・プロセスを 開始し、 その後、コレクションのクロール、構文解析、索引付け、検索を行う サーバーを開始する必要があります。

# 管理ユーザーの構成

管理役割を構成することで、コレクションへのアクセスを制限でき、各管理ユーザ 一が実行できる機能を制御できます。

#### 始める前に

管理役割にユーザーを割り当てる前に、WebSphere Application Server でセキュリテ ィーが使用可能にされていることを確認してください。また、WebSphere Application Server ユーザー・レジストリー内にユーザー ID が存在することを確認 してください。

管理ユーザーを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーで ある必要があります。

#### 手順

ユーザーを管理役割に割り当てるには、次のようにします。

- 1. 「**セキュリティー**」をクリックして「セキュリティー」ビューを開きます。
- 2. 「管理役割」ページで、「**ユーザーの追加**」をクリックします。
- 3. 登録したいユーザーのユーザー ID を入力し、適当な管理役割を選択します。
- 4. このユーザーをエンタープライズ・サーチ管理者として登録しない場合は、この ユーザーが「システム」ツールバーからページにアクセスできるかどうかを指定 します。

例えば、一部のオペレーターまたはコレクション管理者に、システム・レベルの ログ・ファイルのモニターを許可したい場合があります。

5. このユーザーをエンタープライズ・サーチ管理者として登録しない場合は、この ユーザーが管理できるコレクションおよび外部ソースを選択します。

個々のコレクションおよび外部ソースのチェック・ボックスを選択するか、ある いはこのユーザーがすべてのコレクションおよび外部ソースを管理できるように します。

## 認証とアクセス制御

無許可のユーザーからコンテンツを保護し、管理機能へのアクセスを制御するため に、エンタープライズ・サーチは、ユーザー認証とアクセス制御をサポートしま す。

### 認証

認証は、ユーザーが誰であるか、つまり、ユーザーが宣言するものをシステムが検 証するプロセスです。アクセスは一般にリソースを要求するユーザーの ID を基に しているため、認証は、セキュリティーを実効あるものにするために不可欠です。

管理コンソールにアクセスしようとするユーザーを認証するため、エンタープライ ズ・サーチは、 WebSphere Application Server で提供される認証サポートを利用し ます。

エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するユーザーを認証するために、 検索アプリケーションは WebSphere Application Server 内のセキュリティーを利用 し、ユーザーの信用証明情報の認証のための優先メソッドをインプリメントできま す。通常、ユーザーの信用証明情報は、ユーザーがログインするとき、または検索 アプリケーションにアクセスするときに検索アプリケーションに渡されるユーザー ID とパスワードから成ります。

ユーザー認証は、ユーザーのエンタープライズで使用可能なリソースおよびプロト コルに応じて、他の方法でインプリメントされることも可能です。例えば、ユーザ ーの識別をスマート・カードで行うようにしたり、ディジタル証明書と Public Key Infrastructure で行ったり、あるいは、ユーザーがログインするときにチケットを割 り当ててユーザーの認証状態をトラッキングするようにしたりできます。

## アクセス制御

アクセス制御とは、ユーザーが身元を明らかにし、それが認証されたあとで、ユー ザーが行えることを制限することです。アクセス制御リスト (ACL) は、リソースへ のアクセスを制限するための最も一般的な方法です。ACL はユーザー識別 (ユーザ ー名、グループ名、ユーザー役割など)のリストです。各ユーザー識別は、ユーザ 一の権限と特権を定義する許可のセットに関連付けられています。

例えば、アクセス制御によって、ファイル・サーバー上のファイルへのアクセスを 許可したり拒否したりできます。また、アクセスを許可されたユーザーが、ファイ ル・サーバー上のファイルの読み取り、作成、編集、または削除ができるかどうか を制御できます。

エンタープライズ・サーチの中で、すべてのアクセス制御は、ユーザーが索引の中 のデータを読み取る権限があるかどうかによって異なります。検索アプリケーショ ンの中でどのようにアクセス制御を有効にするかに応じて、また、エンタープライ ズ・サーチを管理するときにコレクションとクローラーに指定した規則に応じて、 次のことができます。

- すべてのユーザーがコレクションの中のすべての文書を検索できる。
- すべてのユーザーが、特定のクローラーによってクロールされたすべての文書を 検索できる。また、他のクローラーによってクロールされた文書へのアクセスは 制限される。
- 特定のユーザーが、特定の文書を検索できる。例えば、 Lotus Notes クローラー でクロールするデータベースを指定するときに、数人のユーザーが特定のビュー およびフォルダー内の文書を検索できるというオプションを指定し、他のユーザ ーがこれらの文書を検索できないようにします。

# WebSphere Application Server 内でのエンタープライズ・アプリケーションのセキュリティーの使用不可化

ユーザー認証を必要とする WebSphere II OmniFind Edition アクティビティーを制御するために、WebSphere Application Server 内の個々のエンタープライズ・アプリケーションについてグローバル・セキュリティーを使用不可にすることができます。

#### このタスクについて

WebSphere II OmniFind Edition インストール・プログラムは、次の 3 つのエンタープライズ・アプリケーションを WebSphere Application Server にデプロイします。

- ESAdmin アプリケーション。エンタープライズ・サーチ管理コンソールのインターフェースが含まれています。
- ESSearchApplication アプリケーション。サンプル検索アプリケーションのインターフェースが含まれています。
- ESSearchServer アプリケーション。WebSphere II OmniFind Edition SIAPI インプリメンテーションのすべての遠隔通信を提供し、SIAPI インターフェースが検索サーバーと通信できるようにします。

デフォルトで、3 つのエンタープライズ・アプリケーションはすべて、WebSphere Application Server グローバル・セキュリティーをサポートします。これらのアプリケーションは、グローバル・セキュリティーが使用可能であることを検出すると、受信したすべての要求の認証を始めます。

組織によっては、特定の WebSphere II OmniFind Edition エンタープライズ・アプリケーションについてセキュリティーを使用可能または使用不可にしたい場合があります。例えば、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにアクセスするすべてのユーザーを認証したいが、WebSphere II OmniFind Edition SIAPI インターフェースまたはサンプル検索アプリケーションを使用するユーザーは認証したくない場合があります。

#### 手順

特定のエンタープライズ・アプリケーションについてセキュリティーを使用不可に するには、次のようにします。

1. 検索サーバー上で、WebSphere Application Server 管理コンソールを開始します。

管理コンソールは、以下の方法でオープンできます。

- Windows の「**スタート**」メニューを使用して、該当するプログラムを選択します。
- WebSphere Application Server バージョン 5 の場合、Web ブラウザーをオープンし、http://hostname:port/admin にアクセスします。ここで、hostname は検索サーバーのホスト名であり、port は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソールのポートは 9090 です。

- WebSphere Application Server バージョン 6 の場合、Web ブラウザーをオー プンし、 http://hostname:port/ibm/console にアクセスします。ここで、 hostname は検索サーバーのホスト名であり、port は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソールのポートは 9060 です。
- 2. ユーザー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出たら、WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にしたときに指定 した管理者 ID とパスワードを入力します。
- 3. 管理コンソールにログインしたら、「アプリケーション」をクリックし、さら に「**エンタープライズ・アプリケーション**」をクリックします。
- 4. セキュリティーを使用不可にしたいエンタープライズ・アプリケーションの名 前の横にあるチェック・ボックスを選択します。
- 5. スクロールダウンして、「ユーザー/グループへのセキュリティー役割のマッ **プ**| リンクをクリックします。
- 6. AllAuthenticated 役割を見つけて、「全利用者?」欄の下のチェック・ボックス を選択します。
- 7. 「**OK**」をクリックします。
- 8. 「保管」リンクをクリックして、変更を保管します。
- 9. WebSphere Network Deployment を使用している場合は、「ノードとの変更の同 **期化**」チェック・ボックスを選択します。
- 10. 「保管」をクリックします。
- 11. もう一度「アプリケーション」をクリックしてから、「エンタープライズ・ア **プリケーション**」をクリックします。
- 12. 今変更したアプリケーションのチェック・ボックスを選択して、「停止」をク リックします。
- 13. アプリケーションが停止したら、そのアプリケーションのチェック・ボックス をもう一度選択して、「開始」をクリックします。

# コレクション・レベルのセキュリティー

コレクション・レベルのセキュリティーを提供するために、コンテンツの索引付け のオプションと、検索アプリケーションが特定のコレクションを検索できるように するオプションを構成します。

コレクションを作成するときに、コレクション・セキュリティーを使用可能にする オプションを選択できます。このオプションを選択すれば、あとで文書レベルのセ キュリティー制御を構成することができます。コレクション・セキュリティーが使 用可能である場合、エンタープライズ・サーチのグローバル分析処理により、重複 文書や文書内のアンカー・テキストを索引付けする別の規則も適用できます。

検索アプリケーションを作成したあと、検索アプリケーション ID によって、検索 アプリケーションが検索できるコレクションと、検索アプリケーションにアクセス できるユーザーを指定できます。

## 重複文書分析

コレクション・セキュリティーを使用可能にすると、グローバル分析プロセスは、 コレクションの中の重複文書の識別は行いません。

グローバル分析の間、索引付けプロセスは、互いに重複している、またはほとんど 重複している文書を識別します。そして、これらの文書をすべて、コンテンツの 1 つの正規表現に関連付けます。重複文書を識別することで、検索結果に、同じ (あ るいはほとんど同じ) コンテンツの複数の文書が入ることがなくなります。

コレクションを作成するときにコレクション・セキュリティーを使用可能にする と、重複文書は識別されず、それらの文書は共通の正規表現に関連付けられませ ん。代わりに、各文書は、別個に索引付けされます。これによって、ユーザーは、 ユーザーの信用証明情報とマッチするセキュリティー・トークンの文書のみを検索 することになります。例えば、2 つの文書のコンテンツがほとんど同じかもしれま せんが、異なるアクセス制御リストを使用して、セキュリティーを施行します。

重複文書分析を使用不可にすればコレクションの中の文書のセキュリティーは強化 されますが、検索結果の中に同じ文書の複数のコピーが返されると、検索の質は低 下するかもしれません。

## アンカー・テキスト分析

コレクション・セキュリティーを使用可能にすると、グローバル分析プロセスは、 Web クローラーでクロールされる文書の中のアンカー・テキストの索引作成に、特 別な規則を適用します。コレクション・セキュリティーを使用可能にしない場合 は、個別の Web クローラーを構成するときに禁止文書へのリンクのアンカー・テ キストの索引を作成するかどうか指定することができます。

アンカー・テキストは、リンクの接続先のページを説明した、ハイパーテキスト・ リンク内の情報です。例えば、次のリンクで、テキスト「Query Syntax」は、Web サイトの syntax.htm ページに接続するリンクの中の、アンカー・テキストです。

<a href="../doc/syntax.htm">Query Syntax</a>

一般に、Web クローラーは文書の中のリンクをたどって、追加の文書をクロール し、これらのリンクされたページを索引の中に組み込みます。グローバル分析の 間、索引は、アンカー・テキストが組み込まれる文書 (ソース文書) だけでなく、タ ーゲット文書にもアンカー・テキストを関連付ける処理をします。上記の例では、 アンカー・テキスト「Ouery Syntax」は、ターゲット・ページ syntax.htm とアンカ ー構成を含むページに関連付けられます。

コレクションを作成するときにコレクション・セキュリティーを使用可能にする と、アンカー・テキスト処理は使用不可になります。実際にそのテキストが文書ま たは文書のメタデータに出現しない限り、そのアンカー・テキストはもはや文書に 索引付けされません。このセキュリティー制御により、禁止文書へのアンカー・テ キストがユーザーのアクセスできる文書に関連付けられることはないため、ユーザ ーがアクセスできない文書の情報を見ることはありません。

コレクション・セキュリティーを使用可能にすることで、ユーザーが、ユーザーの 信用証明情報とマッチするセキュリティー・トークンの文書のみを検索できるよう にし、Web 文書のセキュリティーを向上させることができます。しかし、アンカ

ー・テキストを処理しないことで、照会に関連する可能性のある文書が、一部検索 結果に含まれなくなるという可能性があります。

コレクション・セキュリティーを使用可能にしない場合は、個別の Web クローラ ーを構成するときに禁止文書へのリンクのアンカー・テキストの索引付けをするか どうか選択することができます。アンカー・テキストの索引付けを指定すると、分 析と索引付けのプロセスは、Web クローラーによって検索されたすべてのページの アンカー・テキストの索引付けを処理します。アンカー・テキストの索引付けをし ないと指定すると、禁止文書へのリンクのアンカー・テキストは、この索引から削 除されます。

## 禁止文書へのリンク内のアンカー・テキストの索引作成

Web クローラーでのクロールが禁止されている文書へのリンクが文書に含まれてい る場合、それらのリンク用のアンカー・テキストを索引に保存するかどうかを、 Web クローラーの構成時に指定できます。

#### 始める前に

アンカー・テキストの索引作成のためのオプションを構成するには、エンタープラ イズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、構成したい Web Crawler のコレクシ ョン管理者でなければなりません。

#### このタスクについて

robots.txt ファイルまたは Web 文書のメタデータ内のディレクティブにより、Web Crawler が Web サイトで文書にアクセスできないようにすることができます。Web Crawler がクロールを許可されている文書に禁止文書へのリンクが組み込まれている 場合、それらのリンクのアンカー・テキストをどのように取り扱うかを指定できま す。

Web クローラーを構成するときに、禁止文書へのアンカー・テキストの索引を作成 するかどうかを指定することができます。最も厳しいセキュリティーを実現するた めには、禁止文書へのリンク内のアンカー・テキストに索引を付けないよう指定し てください。アンカー・テキストの索引を作成しないことで、照会に関連する可能 性のある文書が、一部検索結果に含まれなくなるという可能性があります。

#### 手順

禁止文書へのリンク内のアンカー・テキストの索引作成を使用可能または使用不可 に設定するには、以下のようにします。

- 1. コレクションを編集します。「クロール」ページを選択し、構成したい Web ク ローラーを見つけて、 **▽「クローラーのプロパティー**」をクリックします。
- 2. 「拡張 Web クローラー・プロパティーの編集」をクリックします。
- このクローラーがクロールするすべての文書でアンカー・テキストに索引を付け るには、「禁止文書へのリンク内のアンカー・テキストの索引作成」チェック・ ボックスを選択します。 ユーザーは、それらのページをポイントするリンクの アンカー・テキストに入っているテキストを検索すると、Web Crawler がクロー ルを許可されていないページを知ることができます。

禁止文書へのアンカー・テキストを索引から除外するには、このチェック・ボッ クスを外します。ユーザーは、Web Crawler がクロールを許可されていないペー ジを知ることはできません。アンカー・テキストは、禁止文書と共に、索引から 除外されます。

- 4. 「**OK**」をクリックし、「Web Crawler のプロパティー」ページで、もう一度、 「OK」をクリックします。
- 5. 変更を有効にするために、クローラーを停止し、再開します。

以前に索引作成された文書の変更を適用するには、文書を再クロールして、索引を もう一度作成できるようにする必要があります。以前のクロールで禁止文書に関す る情報が索引に追加されている場合、その情報は索引から除去されます。

## 検索アプリケーション ID を使用したセキュリティー

コレクション・レベルのセキュリティーを提供するために、各コレクションおよび 外部ソースを検索できる検索アプリケーションを指定します。

すべての検索アプリケーションは、アプリケーション ID をエンタープライズ・サ ーチ API に渡す必要があります。エンタープライズ・サーチ管理者と検索アプリケ ーションは、この ID を使用して、コレクションおよび外部ソースのセキュリティ ーを施行できます。

検索アプリケーションがコレクションまたは外部ソースにアクセスして検索を開始 する前に、エンタープライズ・サーチ管理者は、検索アプリケーションを、それが 検索できる特定のコレクションおよびソースに関連付ける必要があります。検索ア プリケーションには、エンタープライズ・サーチ・システム内のすべてのコレクシ ョンおよび外部ソースを検索させることも、あるいは指定したコレクションおよび 外部ソースのみを検索させることもできます。

アクセス制御を施行するには、セキュリティー・トークン(例えば、ユーザー ID、 グループ ID、またはユーザー役割など)を検索アプリケーションに関連付けて、そ れらのユーザーのみがアプリケーションにアクセスできるようにします。例えば、 ユーザーの検索アプリケーションを起動する URL にアクセスを制限することがで きます。

検索アプリケーション ID の詳細と、ユーザーのカスタム検索アプリケーションに セキュリティー制御を組み込む方法については、エンタープライズ・サーチの Search and Index API (検索および索引 API) の説明を参照してください。

#### 関連概念

189 ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』 検索アプリケーションは、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクショ ンおよび外部ソースの検索を可能にします。検索アプリケーションはいくつでも 作成できます。 また、1 つの検索アプリケーションで、任意の数のコレクショ ンおよび外部ソースを検索できます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレン ス」の『検索および索引 API の概要』

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレン ス」の『検索および索引 API のセキュリティー』

## 文書レベル・セキュリティー

コレクションが作成されたときに、そのコレクションに対するセキュリティーを使用可能にすると、文書レベルのセキュリティー制御を構成することができます。文書レベルのセキュリティーによって、コレクションを検索するユーザーは、見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。

コレクションの文書へのアクセスを制御するために、クローラーが索引用のセキュリティーを収集します。データ・ソースのうちのいくつかのタイプでは、照会をサブミットするときに、ユーザーの現行の信用証明情報も検証することができます。ユーザーの現行の信用証明情報を検証するには、カスタム検索アプリケーションにユーザー・プロファイルのサポートを組み込んで作成します。 ユーザー・プロファイルを保管することで、ユーザーが信用証明情報の入力を何度も求められることなく文書にアクセスできるようにします。

#### 関連概念

189 ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』 検索アプリケーションは、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクションおよび外部ソースの検索を可能にします。検索アプリケーションはいくつでも作成できます。 また、1 つの検索アプリケーションで、任意の数のコレクションおよび外部ソースを検索できます。

235ページの『ポータル検索エンジンでの文書レベル・セキュリティー』 IBM WebSphere ポータル検索エンジンを使用して、ユーザーがエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するときに文書レベルのセキュリティーを施行することができます。

「エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよび API リファレンス」の『検索および索引 API のセキュリティー』

# 保管されたセキュリティー・トークンによる検証

コレクションが作成されたときに、そのコレクションに対するセキュリティーを使用可能にした場合、索引にセキュリティー・データを保管することで、文書レベルのセキュリティー制御を構成することができます。

デフォルトで、それぞれの文書は共用文書であるとみなされます。つまり、すべてのユーザーが検索できることを意味します。ほとんどの文書タイプで、1 つ以上のセキュリティー・トークンを文書に関連付けて、その文書付きトークンを索引に保管することで、文書レベルのセキュリティーを実現することができます。クローラーを構成するときに、そのクローラーがクロールした文書にアクセスできるユーザーを制限するために、セキュリティー・トークンを使用することを指定します。

データ・ソース・タイプにフィールドが含まれている場合、アクセス制御を行うために、そのフィールドの中の 1 つの値を使用することを指定できます。データ・ソースにフィールドがない場合、特定のフィールドの値をセキュリティー目的で使用しない場合、あるいは、指定したフィールドに、アクセス制御の実施を可能にする値が含まれない場合は、クローラーに、文書に関連付けるためのセキュリティー・トークンを定義できます。

各コレクションの管理者は、クローラーが文書に関連付けるセキュリティー・トークンを決定します。例えば、セキュリティー・トークンは、ユーザー ID、グループ

ID、ユーザー役割、または管理者が決定した、データ・ソースに有効なその他の値 を示すこともあります。データ・ソース管理者がネイティブのアクセス制御リスト を更新した場合、その更新済みセキュリティー制御は、次に索引が更新されるか、 あるいは再編成されるまで有効になりません。

セキュリティー・トークンは、文書が、構文解析、分析、および索引付けのステー ジに移動するときに文書に付随します。検索アプリケーションでセキュリティーを 使用可能にしている場合、セキュリティー・トークンを使用して文書へのアクセス を制御できます。コレクションを検索するユーザーは、ユーザーの信用証明情報に よって表示が許可される文書のみを検索できます。ユーザーの信用証明情報がセキ ュリティーの規則をパスしないと、ユーザーはセキュリティー・トークンによって 保護される文書を検索できません。

規則を Java クラスでエンコードすることにより、セキュリティー・トークンの値の 判別にカスタム・ビジネス・ルールを適用することができます。クローラー・プロ パティーを構成するときに、文書をクロールする際にクローラーに使用させたいプ ラグインの名前を指定します。プラグインが追加するセキュリティー・トークン は、索引に保管され、文書へのアクセス制御に使用されます。

## 照会処理中の現行の信用証明情報の検証

コレクションの作成時にそのコレクションのセキュリティーを使用可能にした場 合、特定のタイプのドメインで、ユーザーが照会をサブミットしたときにユーザー の現行の信用証明情報を検証することができます。

次のタイプのクローラーを構成するときに、ユーザーの信用証明情報をネイティブ のリポジトリーが管理する現行のアクセス制御と比較して検証するオプションを選 択できます。

- Content Edition クローラー (Documentum、FileNet Panagon Content Services、お よび Portal Document Manager リポジトリー・タイプのみ)
- Domino Document Manager クローラー
- Lotus Notes クローラー
- QuickPlace クローラー
- WebSphere Portal クローラー
- Windows ファイル・システム クローラー

照会の応答を返す前に、検索サーバーはネイティブ・リポジトリーとやりとりをし て、ユーザーの現行のアクセス権を検証してから、ユーザーがアクセス権を持って いない文書はすべて検索結果に表示しないように除去します。

この文書レベルのセキュリティー実施方法により、ユーザーの信用証明情報が、索 引に保管されているセキュリティー・データではなく、現行のセキュリティー・デ ータと比較されるので、高水準のセキュリティーが提供されます。また、この方法 により、複雑さに関係なくネイティブ・リポジトリーのセキュリティー機構のアク セス制御が確実に行われます。文書のフィルター操作がリアルタイムに行われるた め、検索結果は、検索基準に一致したそれぞれの文書ごとの最新のアクセス制御設 定を反映します。

この方法のもう一つの利点は、索引のサイズに影響を与えない(セキュリティー・ トークンの索引付けに追加スペースを必要としない)ということです。ただし、検 証にネイティブ・リポジトリーとの接続が必要なので、この方法は照会のパフォー マンスに影響を与える可能性があります。

最も厳しいセキュリティーを確保し、照会パフォーマンスへの影響を最小にするに は、セキュリティー・トークンを索引に保管するオプションと現行アクセス制御を 検証するオプションを組み合わせてください。ユーザーが照会をサブミットしたと き、2 段階の検証が行われます。

- まず最初に、検索サーバーが索引付きセキュリティー・データを使用して、文書 がクロールされたサーバーとデータベースへのアクセス権をユーザーが持ってい るかどうかを即時に判断します (索引は速さにおいて最適化されて、サブセカン ドの応答時間を実現します)。
- 次に、検索サーバーは、ユーザーがアクセスを許可されているサーバー上のドメ インにある文書のみを含む一時的なリストを作成します。検索サーバーは、その リストを使用してネイティブ・リポジトリーに接続し、ユーザーがその要求文書 の参照を許可されているかどうかを判断します。

あるユーザーにサーバーおよびドメインへのアクセス権がある場合、そのユーザ ーには文書へのアクセス権がある可能性が高いです。しかし、この最後のフィル ター操作段階により、ユーザーの現行アクセス権設定に合った文書のみが検索結 果に戻されるようになります。

#### 関連概念

225 ページの『Windows ファイル・システム文書に対する文書レベルのセキュ リティーの施行』

Windows ファイル・システム・クローラーでクロールされた文書をユーザーが 検索するときに現行の信用証明情報を検証するようにするには、クローラー・サ ーバーおよびMicrosoft Windows サーバーの両方でドメイン・アカウント情報を 構成する必要があります。

228 ページの『Lotus Domino 文書に対する文書レベルのセキュリティーの施 行』

クロールされる Lotus Notes サーバーが、Notes リモート・プロシージャー・コ ール (NRPC) プロトコルを使用する場合、文書レベルのアクセス制御を施行する ように、クローラー・サーバーを構成する必要があります。

## 関連タスク

228ページの『ユーザーの信用証明情報を検証するための Lotus Domino トラス テッド・サーバーの構成』

Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) プロトコルを使用する Lotus Notes クローラーによってクロールされたドキュメントのためにセキュリティー を施行するには、クロールされる Domino サーバーを、Lotus Domino トラステ ッド・サーバーとして構成する必要があります。

## ユーザー・プロファイルおよび ID 管理

エンタープライズ・サーチのためのユーザー・プロファイルを作成することによっ て、ユーザーは、セキュア・ドメインの検索を可能にする信用証明情報を保管する ことができます。

照会がサブミットされたときにユーザーの信用証明情報の検証が必要なドメインを検索する場合、ユーザーは、ドメインへのログインで使用する信用証明情報を検索アプリケーションに提供しなければなりません。 WebSphere Information Integrator OmniFind Edition *ID* 管理 の機能により、ユーザーは、ユーザー・プロファイル内のドメイン (いくつでも可) のために信用証明情報を保管することができます。信用証明情報は暗号化されて、エンタープライズ・サーチ・システム内に安全に保管されます。

ユーザーは、ユーザー・プロファイルを作成して、検索アプリケーションの使用中に自分の信用証明情報を登録することができます。エンタープライズ・サーチのサンプル検索アプリケーションでは、この機能を「個人用プロファイル」オプションで提供しています(ご使用のカスタム検索アプリケーションで、この機能を異なる方法でインプリメントしている可能性もあります)。

ユーザー・プロファイルには、検索するドメインにログインするためにユーザーが 指定しなければならないさまざまな信用証明情報が保管されます。ユーザーは、以 下の条件がすべて当てはまる場合に、ユーザー・プロファイルを作成することがで きます。

- WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーが使用可能になっていること。
- WebSphere II OmniFind Edition エンタープライズ・サーチ管理コンソールで ID 管理が使用可能になっていること。
- 検索アプリケーションが検索できるコレクションの少なくとも 1 つで、セキュリティーが使用可能になっていること。
- ・ 照会がサブミットされたときにユーザーの現行の信用証明情報の検証を行うことでアクセス制御を施行するクローラーによってクロールされた文書が、少なくとも 1 つのセキュア・コレクションに含まれていること。
- 次のクローラー・タイプのうち少なくとも 1 つに対して文書レベルのセキュリティーが構成された場合、照会処理中に現行の信用証明情報を検証するためのオプションが選択されていること。
  - Content Edition (特定のタイプのリポジトリー用)
  - Domino Document Manager
  - Lotus Notes
  - QuickPlace
  - WebSphere Portal
  - Windows ファイル・システム

プロファイルには、照会処理中にユーザーの信用証明情報を検証する必要がある検索アプリケーションで使用可能なすべてのドメインがリストされます。ユーザーは、どのドメインに対して信用証明情報を保管するかを選択できます。ドメインの信用証明情報を指定しないと、そのドメイン内のデータ・ソースからの文書は検索結果から除外されます。

WebSphere II OmniFind Edition ID 管理を使用しない場合、現行の信用証明情報の検証を必要とするドメインをユーザーが照会するときに、検索アプリケーションがユーザーのセキュリティー・コンテキスト (USC) ストリングを供給する必要があります。

## ID 管理の構成

WebSphere II OmniFind Edition ID 管理を使用して、ユーザー・プロファイルを保管することができます。このプロファイルにより、ユーザーは、照会処理中にユーザーの信用証明情報を検証する必要があるドメインを検索できます。

#### 始める前に

ı

Ι

1

ı

1

ı

1

1

Ι

Ι

1

ID 管理オプションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

#### このタスクについて

クローラーについて文書レベルのセキュリティー・オプションを構成する際に、照会処理中にユーザーの信用証明情報を検証するように指定した場合、ユーザーはその検証が必要なドメインを検索するときに、自分の信用証明情報を提供する必要があります。 WebSphere II OmniFind Edition ID 管理を使用すると、ユーザーは、ユーザー・プロファイルを作成して、セキュア・ドメインへのログインで使用する信用証明情報を登録することができます。信用証明情報は、 WebSphere II OmniFind Edition で管理されているセキュア・データベース内で暗号化されています。

ユーザーがセキュア・ドメインを検索するとき、検索サーバーが、保管された信用 証明情報を使用してそのユーザーを認証します。信用証明情報が無効であった場合、そのソース・ドメインの文書は検索結果から除外されます。

#### 手順

- ID 管理を構成するには、次のようにします。
- 1. 「セキュリティー」をクリックして「セキュリティー」ビューを開きます。
- 2. 「検索アプリケーション」ページで、「ID 管理の構成」をクリックします。
- 3. 「ID 管理の構成」ページで、ユーザー・プロファイル内のユーザーの信用証明 情報を管理するために WebSphere II OmniFind Edition を使用可能にするチェッ ク・ボックスを選択します。
- 4. 「**OK**」をクリックします。

# Windows ファイル・システム文書に対する文書レベルのセキュリ ティーの施行

Windows ファイル・システム・クローラーでクロールされた文書をユーザーが検索 するときに現行の信用証明情報を検証するようにするには、クローラー・サーバー およびMicrosoft Windows サーバーの両方でドメイン・アカウント情報を構成する必要があります。

Windows ファイル・システム クローラーを構成するとき、ローカル・コンピューター上のサブディレクトリーまたはリモート・コンピューター上のサブディレクトリーのどちらをクロールするかを指定します。コレクションでセキュリティーが使用可能になっている場合、クロールされたサブディレクトリー内の文書へのアクセスを制御するためのオプションも指定できます。

ユーザーが照会をサブミットしたときにそのユーザーの現行の信用証明情報を検証 することでアクセス制御を施行することを選択した場合、ドメイン・アカウントが

正しく構成されていることを確認してください。ローカル・コンピューター上でク ロールされたファイルのドメイン・アカウントをセットアップするための要件は、 リモート Windows サーバー上でクロールされたファイルのための要件とは異なり ます。

### ローカル・アクセス制御データでの検証

現行のユーザー信用証明情報を検証するために、システムはローカル・ユーザー・ アカウント情報とドメイン・アカウント情報の両方を使用します (コンピューター が Windows ドメインに属している場合)。照会処理中に信用証明情報を検証するに は、検索対象の文書のセキュリティー情報に両方のユーザー名をリストしておく必 要があります。

### ローカル・アカウント

ローカル・アカウントの場合、ユーザー名は次のフォーマットです。

COMPUTER NAME\USERNAME

ログインするには、ユーザーはユーザー名のみを指定します。しかし、正し く指定された Windows ユーザー権限割り当てではフルネームが使用されま す。例えば、ローカル・アカウントのユーザー名が abcuser である場合、ア カウントのフルネームとしては WINSERVER1\abcuser などが考えられま す。

ユーザーが検索アプリケーションを使用して、ローカル・システム上のセキ ュア文書の検索用プロファイルを構成するときは、Windows にログインす る際に使用するユーザー名 (例えば、abcuser) を指定しなければなりませ h.

#### ドメイン・アカウント

ドメイン・アカウントの場合、ユーザー名は次のフォーマットです。

DOMAIN NAME\USERNAME

ログインするために、ユーザーはこの情報を次のフォーマットで指定しま

USERNAME@DOMAIN NAME

例えば、ファイルのユーザー権限割り当てを構成して、ドメイン WIN1\abcuser を選択する場合、アカウントは abcuser@win1.company.com と して表示されます。

ユーザーが検索アプリケーションを使用して、セキュア・ドメイン内の文書 を検索できるようにするプロファイルを構成するときは、Windows にログ インする際に使用するユーザー名 (例えば、abcuser@win1.company.com) を 指定しなければなりません。

ローカル・コンピューター上で現行の信用証明情報の検証を施行するためには、ク ローラー・サーバーによって使用されるユーザー・アカウントに次の Windows ユ ーザー権限が必要です。 (ユーザー権限を割り当てるには、Windows 管理ツールを 使用します。「管理ツール」 → 「ローカル・セキュリティー・ポリシー」 → 「ロ ーカル・ポリシー」 → 「ローカル・ユーザー権限の割り当て」。)

Т

Ι

- クローラー・サーバーを実行するユーザー ID には、「オペレーティング・シス テムの一部として動作 (Act as part of the operating system)」の権限が必要で す。 (この権限は、 WebSphere Information Integrator OmniFind Edition がインス トールされるときに、クローラー・サーバー上のエンタープライズ・サーチ管理 ユーザー用に構成されます。)
- ユーザーには、「**ローカルでログオン**」のユーザー権限が必要です。

## リモート・ドメイン・アクセス制御データでの検証

Windows オペレーティング・システムでは、\\servername で始まるディレクトリ ーがリモート・ディレクトリーと見なされます。例えば、次のとおりです。

\\software\utilities\IBM

リモート・ディレクトリーにアクセスするには、ユーザーは、ユーザー名を次のフ ォーマットで指定します。

#### USERNAME@DOMAIN NAME

ユーザーが検索アプリケーションを使用して、リモート・システム上のセキュア文 書を検索できるようにするプロファイルを構成するときは、リモート Windows シ ステムにアクセスする際に使用するユーザー名 (例えば、

abcuser@win1.company.com) を指定しなければなりません。

リモート・コンピューター上で現行の信用証明情報の検証を施行するためには、ユ ーザー・アカウントに次の Windows ユーザー権限が必要です。 (ユーザー権限を割 り当てるには、Windows 管理ツールを使用します。「**管理ツール**」 → 「ドメイ ン・セキュリティー・ポリシー」。)

- 検索対象のクローラー・サーバーおよび Windows サーバーは、同じドメインの メンバーでなければなりません。
- クローラー・サーバーを実行するユーザー ID には、「オペレーティング・シス テムの一部として動作 (Act as part of the operating system)」の権限が必要で す。 (この権限は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition がインス トールされるときに、クローラー・サーバー上のエンタープライズ・サーチ管理 ユーザー用に構成されます。)
- ユーザーには、「**バッチ・ジョブとしてログオン**」のユーザー権限が必要です。

#### 関連概念

222ページの『照会処理中の現行の信用証明情報の検証』

コレクションの作成時にそのコレクションのセキュリティーを使用可能にした場 合、 特定のタイプのドメインで、ユーザーが照会をサブミットしたときにユー ザーの現行の信用証明情報を検証することができます。

101 ページの『Windows ファイル・システム・クローラー』

Microsoft Windows ファイル・システムに格納された文書をエンタープライズ・ サーチ・コレクションに入れる場合は、 Windows ファイル・システム・クロー ラーを構成する必要があります。

## Lotus Domino 文書に対する文書レベルのセキュリティーの施行

クロールされる Lotus Notes サーバーが、Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) プロトコルを使用する場合、文書レベルのアクセス制御を施行するように、クローラー・サーバーを構成する必要があります。

NRPC プロトコルを使用する Lotus Notes サーバー上でクロールされた文書で文書レベル・セキュリティーを施行するには、クローラー・サーバーに Domino サーバーをインストールする必要があります。この Domino サーバーは、ご使用のDomino ドメインのメンバーでなければなりません。 Domino サーバーをインストールおよび構成するには、 Lotus Domino 資料の中の指示に従ってください。

セキュア・コレクションを検索するユーザーが、検索条件に合った Lotus Notes 文書の参照を許可されているかどうかを検索サーバーで検査できるように、以下のタスクも実行する必要があります。ユーザーが参照を許可されていない文書があると、検索結果がユーザーに戻される前に、その文書が検索結果から除去されます。

- 『ユーザーの信用証明情報を検証するための Lotus Domino トラステッド・サーバーの構成』.
- セキュリティーを使用するために、 WebSphere Application Server でグローバル・セキュリティーを使用可能にし、検索アプリケーションを構成します。このステップにより、ユーザーが検索アプリケーションを使用する際に、信用証明情報を指定するように指示するプロンプトが出されます。その後、検索サーバーはこれらの信用証明情報を使用して、Lotus Notes 文書に対する各ユーザーのアクセス権を検査することができます。

#### 関連概念

222 ページの『照会処理中の現行の信用証明情報の検証』 コレクションの作成時にそのコレクションのセキュリティーを使用可能にした場合、 特定のタイプのドメインで、ユーザーが照会をサブミットしたときにユーザーの現行の信用証明情報を検証することができます。

65 ページの『Notes クローラー』

IBM Lotus Notes データベースをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入れる場合は、Lotus Notes クローラーを構成する必要があります。

# ユーザーの信用証明情報を検証するための Lotus Domino トラステッド・サーバーの構成

Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) プロトコルを使用する Lotus Notes クローラーによってクロールされたドキュメントのためにセキュリティーを施行するには、クロールされる Domino サーバーを、Lotus Domino トラステッド・サーバーとして構成する必要があります。

#### 始める前に

リモート・データベースを検索する際に文書レベルのセキュリティーを施行したい 場合にのみ、この手順を実行する必要があります。クローラー・サーバーのローカル・データベースを検索するには、この手順は必要ありません。

トラステッド・サーバーを構成するためには、クローラーに Domino サーバーをインストールしなければなりません。この Domino サーバーは、ご使用の Domino ドメインのメンバーでなければなりません。

I

#### このタスクについて

ı

1

1

1

ı

Ι

| |

Lotus Notes クローラーに対して文書レベルのセキュリティー・オプションを構成するときは、ユーザーが照会をサブミットしたときにそのユーザーの信用証明情報を検証することでアクセス制御を施行したいかどうかを指定します。このタイプのセキュリティーを施行したい場合は、クロールされる Domino サーバーを Lotus Domino トラステッド・サーバーにしなければなりません。

ユーザーの現行の信用証明情報を検証する必要のあるドメインをユーザーが検索するとき、トラステッド・サーバーが Domino サーバー ID を使用してコンテキストを現行のユーザー ID に切り替えることができます。 Domino データベースは、現行のユーザーがそのデータベースをオープンしたかのようにオープンされ、そのユーザーに関するすべてのデータベース・アクセス制御リスト情報が施行されます。

この方法でコンテキストを切り替える機能は、一般的には、ローカル Domino サーバーの data ディレクトリーに保管されているデータベースでのみ使用可能です。 Lotus Domino バージョン 6.5.1 から、この機能はトラステッド・サーバーによって提供されています。トラステッド・サーバーを構成するには、機密の操作 (例えば、データベースがリモート・コンピューターからアクセスされたときに別のユーザーとして動作するなど)を行う際にどの Domino サーバーを信用すべきかを、Domino 管理者が指定します。

#### 手順

トラステッド・サーバーを構成するには、Lotus Notes クローラーによってクロール されるすべての Domino サーバー上で次のステップを実行します。

- 1. Domino サーバーで、Domino ドメイン管理者 ID ファイルを使用して、Lotus Domino Administrator クライアントを開きます。
- 2. 「ファイル」 → 「サーバーのオープン」を選択します。
- 3. トラステッド・サーバー機能を使用可能にしたい Domino サーバーの名前を入力します。
- 4. 「構成」タブを選択します。
- 5. 「**サーバー**」オブジェクトを展開し、「**現行サーバー**」文書を選択して、「**サーバーの編集**」をクリックします。
- 6. 「**セキュリティー**」タブを選択し、文書の最後までスクロールし、「**トラステッド・サーバー**」項目を見つけて、下矢印ボタンをクリックします。
- 7. 次のオプションのいずれかを指定します。

#### LocalDomainServers

Domino ドメイン内のすべてのサーバーをトラステッド・サーバーと見なす場合は、このオプションを選択します。

#### server\_name

トラステッド・サーバーとしてクロールおよび検索可能な Domino サーバーの名前を指定します。

クロールしたい Domino サーバーが別の Domino ドメインにある場合、サーバー名を指定するか、あるいは **Other Domain Servers** グループを選択する必要があります。 WebSphere II OmniFind Edition Domino サーバー ID ファイルを他の Domino ドメインとクロス認証するためには、さ

らに Domino 用の手順を実行する必要があります。これらの手順につい て詳しくは、Domino サーバーの資料を参照してください。

- 8. 「保管してクローズ」をクリックして、変更内容を保管します。
- 9. トラステッド・サーバーとして作動するようにしたリモート Domino サーバーを 停止および再始動します。

#### 関連概念

222ページの『照会処理中の現行の信用証明情報の検証』 コレクションの作成時にそのコレクションのセキュリティーを使用可能にした場 合、 特定のタイプのドメインで、ユーザーが照会をサブミットしたときにユー ザーの現行の信用証明情報を検証することができます。

65 ページの『Notes クローラー』

IBM Lotus Notes データベースをエンタープライズ・サーチ・コレクションに入 れる場合は、Lotus Notes クローラーを構成する必要があります。

## 文書レベル・セキュリティーを使用不可にする

アクセス制御が索引内の文書と関連付けられているかどうかに関係なく、ユーザー がコレクションを検索できるようにすることができます。現行の信用証明情報の検 証をサポートするクローラーでは、照会処理中に現行のアクセス制御を検証するこ となく、ユーザーにコレクションを検索させることができます。

#### 始める前に

文書レベルのセキュリティー・オプションを構成するには、エンタープライズ・サ ーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者であ る必要があります。

#### 制約事項

文書レベルのセキュリティー・オプションを指定できるのは、コレクションが作成 されたときにセキュリティーがコレクションに対して使用可能にされている場合だ けです。

#### このタスクについて

クローラーを構成する際に、クロール対象の文書にセキュリティー・トークンを関 連付けることができます。検索アプリケーションは、索引に格納されているこれら のトークンを使用して、ユーザーがコレクションを検索する際にアクセス制御を施 行できます。クローラーの中には、ユーザーが照会をサブミットしたときに、ネイ ティブ・リポジトリー内の、文書に関連付けられた現行のアクセス制御を検証する ように指定できるものもあります。

これらのセキュリティー制限を除去するために、照会を使って渡されるセキュリテ ィー・トークンを検索サーバーが無視するように指定できます。信用証明情報を現 行のアクセス制御と比較することなく、ユーザーが文書を照会できるようにするこ ともできます。

新規コレクションをテストする場合や、検索アプリケーションの問題をトラブルシ ューティングする必要がある場合に、文書レベルのセキュリティーを一時的に使用 不可にしたいことがあります。

#### 手順

文書レベルのアクセス制御を使用不可にするには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集します。「一般」ページを選択して、「文書レベルのセキュ リティーの構成」をクリックします。
- 2. クローラーが文書と関連付けたセキュリティー・トークンを、ユーザーがコレク ションを照会するときに使用したくない場合、「 文書レベルのセキュリティ 一」ページで、「索引内の文書レベルのアクセス制御を無視する」チェック・ボ ックスを選択します。

クローラーは文書にセキュリティー・トークンを追加し続けますが、検索サーバ ーはトークンを無視し、ユーザーが以前に保護された文書を検索できるようにし ます。

3. ユーザーが照会をサブミットしたときに、ネイティブ・リポジトリー内の、文書 に関連付けられた現行のアクセス制御を検証したくない場合、「照会処理中に現 行の信用証明情報の検証を行わない (Do not validate current credentials during query processing)」チェック・ボックスを選択します。 このチェック・ボック スは、この機能をサポートするクローラーによってクロールされた文書に対して のみ選択可能です。

このチェック・ボックスを選択しても、その他の文書レベルのセキュリティー・ オプションは有効なままです。例えば、クローラーの構成時にアクセス制御を索 引内に保管するオプションを指定した場合、「索引内の文書レベルのアクセス制 御を無視する」チェック・ボックスも同様に選択しないと、それらのセキュリテ ィー制御が引き続き適用されます。

4. 「**OK**」をクリックします。

# エンタープライズ・サーチの WebSphere Portal との統合

WebSphere Portal および WebSphere Portal 検索センターにエンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイすることにより、 IBM WebSphere Portal の検索機能を拡張することができます。

## 統合の設定ポイント

エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal に統合するには、次のようにいくつかの方法があります。

## WebSphere Portal

WebSphere Portal には、ユーザーがアプリケーション、コンテンツ、プロセス、および人物と相互通信を行う単一のアクセス・ポイントがあります。この WebSphere Portal フレームワークにより、ポートレットと呼ばれる新規のアプリケーションを、ポータル内の他のアプリケーションに影響を与えることなく統合し、デプロイすることができます。

エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal にデプロイすれば、 WebSphere Portal インターフェースからエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索することができます。 WebSphere Portal の構成設定により、エンタープライズ・サーチ・ポートレットのルック・アンド・フィールは WebSphere Portal 環境の他のポートレットと同じ状態に保たれます。

#### ポータル検索エンジン

WebSphere ポータル検索エンジンは、Web サイトをクロールします。管理ポートレットを使用すれば、管理者は索引付けされたコレクションを作成することができ、さらに検索ポートレットにより、作成されたコレクションをユーザーが検索できるようになります。

WebSphere Portal バージョン 5.0.2 またはそれ以降のバージョンを使用している場合、ポータル検索エンジン・コレクション用の構成情報および分類をエンタープライズ・サーチにマイグレーションすることができます。

WebSphere Portal バージョン 5.1 またはそれ以降のバージョンを使用している場合、ポータル検索エンジン文書検索ポートレットを使用して、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索することができます。構成プロパティーを利用すれば、管理者が必要に応じて 2 つの検索機能を簡単に切り替えられるようにすることができます。

## WebSphere Portal 検索センター

WebSphere Portal 検索センターは、WebSphere Portal で検索が可能になっているすべてのソースを検索するときに中心となる起点です。この検索センターおよびユニバーサル検索ポートレットを使用すれば、 WebSphere Portal コンテンツ、および管理者が検索センターに登録したその他すべてのコレクションを検索することができます。

検索センターにはページ式のインターフェースがあります。利用できるすべてのコレクションの検索は、1 つの共通ページから行うこともできますし、

個別のコレクションを検索するページを選択して行うこともできます。例え ば、ポータル検索エンジン索引のページ、 Portal Document Management ラ イブラリーのページなどがあります。

エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索センターから検索できるよ うにするため、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition (WebSphere II OmniFind Edition) では、アダプターおよび登録ポートレット が提供されています。アダプターによってエンタープライズ・サーチ用のタ ブが検索センター・インターフェースに追加され、登録ポートレットによっ てエンタープライズ・サーチ・ポートレットが検索センターに登録されま す。

アダプターおよび登録ポートレットをインストールしないと、検索センター を使用してエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索できるようには なりません。

#### WebSphere Portal クローラー

WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に、エンタープライズ・ アプリケーション ESPACServer.ear が検索サーバーにインストールされま す。このエンタープライズ・アプリケーションを WebSphere Portal にデプ ロイした後、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、

WebSphere Portal クローラーを構成し、WebSphere Portal サイトをエンター プライズ・サーチ・コレクションに追加することができます。

## 統合による利点

エンタープライズ・サーチによって、より広いデータ・ソース・タイプの検索がサ ポートされ、WebSphere Portal 検索環境が拡張されます。エンタープライズ・サー チ・ポートレットを使用することにより、 Web サイトに加え、WebSphere II OmniFind Edition でサポートされる他のすべてのデータ・タイプも検索することが できます。

また、エンタープライズ・サーチには、スケーラビリティーの面でも利点がありま す。ポータル検索エンジンは、シングル・サーバーで十分に検索負荷をサポートで きる中小規模の企業に便利です。これに対し、エンタープライズ・サーチでは、大 規模な企業レベル能力をサポートするため、4 つのサーバー (データのクロールに 1 基、データの構文解析と索引作成に 1 基、および検索処理サポートに 2 基) に 負荷を分散します。

#### ポートレットのデプロイメント概要

エンタープライズ・サーチに使用できるポートレットは、使用する WebSphere Portal のバージョンによって異なります。

#### WebSphere Portal バージョン 5.0.2

エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイし、これをエンタープ ライズ・サーチ・コレクションの検索に使用することができます。このポー トレットは、ポータル検索エンジン・ポートレットと共存できます。

WebSphere Portal バージョン 5.1 以降

- エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイし、これをエンター プライズ・サーチ・コレクションの検索に使用することができます。この ポートレットは、ポータル検索エンジン・ポートレットと共存できます。
- エンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイ後、文書検索ポート レットをポータル検索エンジンに構成すれば、エンタープライズ・サー チ・コレクションを検索できるようになります。
- エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal 検索セン ターに登録すると、検索センターを使用してエンタープライズ・サーチ・ コレクションを検索できるようになります。この場合、エンタープライ ズ・サーチ・コレクションだけを検索するページを選択することもできま すし、エンタープライズ・サーチ・コレクションおよび検索センターで利 用できる他のすべてのコレクションを検索する照会を入力することもでき ます。

#### 関連概念

243 ページの『WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチへのマイグレー

エンタープライズ・サーチでは、IBM WebSphere Portal からエンタープライ ズ・サーチに分類構造およびコレクションをマイグレーションするときに使用す るマイグレーション・ウィザードが用意されています。

#### 関連タスク

99 ページの『WebSphere Portal クローラー用エンタープライズ・アプリケーシ ョンのデプロイ』

WebSphere Portal クローラーを作成する前に、エンタープライズ・アプリケーシ ョン ESPACServer.ear を WebSphere Portal にデプロイする必要があります。

# ポータル検索エンジンでの文書レベル・セキュリティー

IBM WebSphere ポータル検索エンジンを使用して、ユーザーがエンタープライズ・ サーチ・コレクションを検索するときに文書レベルのセキュリティーを施行するこ とができます。

エンタープライズ・サーチ・クローラーが、クロール対象の文書にグループ ID セ キュリティー・トークンを関連付けている場合で、ポータル検索エンジンの文書検 索ポートレットを、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するように構 成する場合、ポータル検索エンジンは、ログインしたユーザーのグループ ID を取 り出し、そのグループ ID のセキュリティー・トークンを照会と共にエンタープラ イズ・サーチに渡すことができます。セキュリティー・トークンにより、ユーザー に表示を許可された文書だけが検索結果に戻されるようになります。

クローラーが、ユーザー ID またはユーザー役割など、別のタイプのセキュリティ ー・トークンを文書に関連付けており、かつ、エンタープライズ・サーチ・コレク ションを検索するときに文書レベルのセキュリティーを施行したい場合は、カスタ ムの検索ポートレットを作成する必要があります。ポータル検索エンジンは、グル ープ ID のセキュリティー・トークンしか取り出しません。

#### 関連概念

189 ページの『エンタープライズ・サーチの検索アプリケーション』 検索アプリケーションは、エンタープライズ・サーチ・システム内のコレクショ ンおよび外部ソースの検索を可能にします。検索アプリケーションはいくつでも 作成できます。 また、1 つの検索アプリケーションで、任意の数のコレクショ ンおよび外部ソースを検索できます。

221ページの『文書レベル・セキュリティー』

コレクションが作成されたときに、そのコレクションに対するセキュリティーを使用可能にすると、 文書レベルのセキュリティー制御を構成することができます。文書レベルのセキュリティーによって、コレクションを検索するユーザーは、 見ることが許される文書にしかアクセスできないようになります。

# レ検索ポートレットのデプロイ

Ι

検索ポートレット ESSearchPortlet.war によって、エンタープライズ・サーチ・コレクションは WebSphere ポータル検索エンジンで検索できるようになります。

#### 始める前に

WebSphere Portal にエンタープライズ・サーチ用の検索ポートレットをデプロイしてからでないと、ポートレットを使用するようポータル検索エンジンを構成することはできません。

#### このタスクについて

検索ポートレットをデプロイした後も、引き続きポータル検索エンジンを使用して、WebSphere Portal 内の索引付けされたデータを検索できます。ユーザーがエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索できるようにするには、WebSphere Portal 管理者がポータル検索エンジン構成のプロパティーを編集します。これら2つの検索機能を切り替え、ニーズに合った最適な検索ソリューションを選択して使用できます。

ESSearchPortlet.war ファイルは、 WebSphere II OmniFind Edition がインストールされるときに、検索サーバー上の ES\_INSTALL\_ROOT/bin ディレクトリーにインストールされます。デフォルトのインストール・パスは、次のとおりです。

- UNIX システム: /opt/IBM/es/bin/ESSearchPortlet.war
- Windowsシステム: C:\Program Files\IBM\es\bin\ESSearchPortlet.war

#### 手順

検索ポートレットを WebSphere Portal にデプロイするには、次のようにします。

- 1. ポートレットをインストールします。
  - a. WebSphere Portal サーバー管理者 ID を使用して WebSphere Portal サーバー にログインします。
  - b. ツールバーから「管理」を選択します。
  - c. 左側のナビゲーション領域で「**ポートレット**」を選択し、「**ポートレット**」 メニューから「**インストール**」を選択します。
  - d. 「**ブラウズ**」をクリックし、ご使用のシステムから ESSearchPortlet.war ファイルを選択し、「**次へ**」をクリックします。

1 

- e. 次のページで、「**インストール**」をクリックします。 ポートレットがインス トールされると、「APIN0005I:ポートレットは正常にインストールされまし た」というメッセージが表示されます。
- 2. ポートレットのパラメーターを変更します。
  - a. 左側のナビゲーション領域で「ポートレットの管理」を選択し、「IBM Enterprise Search」を選択します。
  - b. 選択ボックスの右に新しいアイコンが表示されたら、「パラメーターの変 更」を選択します。
  - c. ポートレット・パラメーターのリストで、以下のパラメーターを変更しま す。
    - この値を、WebSphere II OmniFind Edition 検索サーバー用の Web port サーバーのポート番号に設定します。デフォルト値は80です。

#### applicationName

この値を、エンタープライズ・サーチ用の有効な検索アプリケーショ ンの名前に設定します (エンタープライズ・サーチ管理コンソールの 「検索アプリケーション」ページに、選択可能な検索アプリケーショ ンの名前がリストされます)。デフォルト値は、検索サーバー上に常 に構成されている Default です。

#### hostname

この値を、WebSphere II OmniFind Edition 検索サーバーの完全修飾 ホスト名に設定します。

- d. 「保管」をクリックして変更内容を保管し、次に「キャンセル」をクリック して「パラメーターの変更」ページを終了します。
- 3. ポートレットのポータル・ページを作成します。
  - a. 左側のナビゲーション領域で「ポータル・ユーザー・インターフェース」を 選択し、「ページの管理」を選択します。
  - b. 「**マイ・ポータル**」リンクを選択します。
  - c. 「新規ページ」をクリックし、ページのタイトルを指定し、「**OK**」をクリッ クします。 ページが作成されると、「APPRO010I: ページ・タイトル は正常 に作成されました」というメッセージが表示されます。
  - d. 「OK」をクリックします。 作成したページが、使用可能なページのリスト に表示されます。
- 4. ページに検索ポートレットを追加します。
  - a. 作成したページに対して「編集」アイコン (鉛筆) を選択します。
  - b. 「**ポートレットの追加**」をクリックします。
  - c. 「検索対象」テキスト・ボックスに、Enterprise を入力し、「検索」をクリ ックします。
  - d. 「IBM Enterprise Search」の横のチェック・ボックスを選択し、「OK」を クリックします。
  - e. 「完了」をクリックします。 このステップは、検索ポートレットのインスト ールと WebSphere ポータル・ページへのポートレットの追加が正常に実行さ れたことを示します。
- 5. ポートレットにアクセスします。

a. ページ上部のナビゲーション・バーで「**マイ・ポータル**」を選択します。 b. システムにポートレットを追加したときに指定したページ・タイトルに一致 するページを選択します。 このポートレット・ページに初めてアクセスする場合、このポートレット用 の Java Server Page (JSP ファイル) をシステムはコンパイルする必要がある ので、ページの表示には少し時間がかかります。 **Ⅳ WebSphere Portal 検索ブラウズ・ポートレットのエンタープライズ・サ** ーチのための構成 WebSphere Portal には、ネイティブな WebSphere Portal コレクションの検索とブラ ウズに使用できるポートレットがあります。このポートレットを、エンタープライ ズ・サーチ・コレクションを検索するように構成することができます。 手順 エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するように検索ブラウズ・ポート レットを構成するには、次のようにします。 1. WebSphere Portal サーバー・インスタンスを停止します。 2. 以下のファイルを WebSphere II OmniFind Edition ES\_INSTALL\_ROOT/lib ディ レクトリーから、WebSphere Portal サーバー上の /WebSphere/PortalServer/shared/app ディレクトリーにコピーします。 esapi.iar siapi.jar 3. WebSphere Portal サーバー・インスタンスを開始し、WebSphere Portal 管理者 ID を使用して WebSphere Portal サーバーにログインします。 4. ポートレットをコピーします。 a. 右上隅の「管理」をクリックし、「ポートレットの管理」オブジェクトを展 開して「**ポートレット**」をクリックします。 b. search という語を検索します。 c. 検索ブラウズ・ポートレットに対して「ポートレットのコピー」をクリック し、このポートレットの固有の名前を入力し、「OK」をクリックします。 5. ポートレットを構成します。 a. 指定したポートレット名の横の「ポートレットの構成」アイコンをクリック します。 b. 右矢印をクリックして、パラメーターの 2 ページ目に進みます。 c. 「新規パラメーター」に ApplicationInfoId を入力し、有効な WebSphere II OmniFind Edition 検索アプリケーションの名前を「新しい値」フィールドに 入力し、この新規パラメーターを追加するため「**追加**」をクリックします。 エンタープライズ・サーチ管理コンソールの「検索アプリケーション」ペー ジに、選択可能な検索アプリケーションの名前がリストされます。デフォル ト値は、検索サーバー上に常に構成されている Default です。 d. 以下のパラメーターを削除します。

ApplicationInfoId\_EXAMPLE
QueryFactoryImp
BrowseFactoryImp
SearchFactoryImp
IndexName
EJB\_Example
IIOP\_URL\_Example
SOAP\_URL\_Example
EJB
SOAP\_URL
IIOP\_URL

e. 以下のパラメーターを追加し、下記の値を指定します。 各パラメーターの名前と値を追加するため、「**追加**」をクリックします。パラメーター名は大/小文字を区別します。

IMPLEMENT = ES
ApplicationInfoId = 検索アプリケーション名 (例: Default)
SearchFactoryImp = com.ibm.es.api.search.RemoteSearchFactory
BrowseFactoryImp = com.ibm.es.api.browse.RemoteBrowseFactory
hostname = 検索サーバーのホスト名 (例: omnifind.ibm.com)

- 6. 検索ブラウズ・ポートレットの新規コピーをポータル・ページに割り当てます。 詳しくは、WebSphere Portal 管理の資料を参照してください。
- 7. ポートレットにアクセスします。
  - a. ポータル・ページ上部のナビゲーション・バーで「**マイ・ポータル**」を選択 します。
  - b. ステップ 4(238ページ) でポートレットをコピーしたときに指定した名前に 一致するページを選択します。

# 検索センターを使用するためのエンタープライズ・サーチ・アダプターのインストール

port = 検索サーバーのポート番号 (例: 80)

エンタープライズ・サーチ・コレクションの検索に WebSphere Portal 検索センターを使用するには、エンタープライズ・サーチ用のアダプターをインストールする必要があります。

#### このタスクについて

1

1

ı

ı

I

ı

アダプター ESSearchAdapter.ear は、エンタープライズ・サーチのページを検索センター・インターフェースに追加します。このアプリケーションと登録ポートレットをインストールすると、それ以降は、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索センターに追加することができ、それらのコレクションをユニバーサル検索ポートレットで検索できます。

ESSearchAdapter.ear ファイルは、 WebSphere II OmniFind Edition がインストール されるときに、検索サーバー上の ES\_INSTALL\_ROOT/bin ディレクトリーにインストールされます。デフォルトのインストール・パスは、次のとおりです。

- UNIX システム: /opt/IBM/es/bin/ESSearchAdapter.ear
- Windows システム: C:\Program Files\IBM\es\bin\ESSearchAdapter.ear

#### 手順

エンタープライズ・サーチ用のアダプターを検索センターにインストールするには、次のようにします。

- 1. WebSphere Portal サーバー・インスタンスを停止します。
- 2. WebSphere Application Server server1 サーバー・インスタンスがまだ開始されていない場合は、開始します。
- 3. 以下のファイルを WebSphere II OmniFind Edition ES\_INSTALL\_ROOT/lib ディレクトリーから、WebSphere Portal サーバー上の /WebSphere/PortalServer/shared/app ディレクトリーにコピーします。

esapi.jar siapi.jar

siapi.jar ファイルを上書きするかどうかを確認するプロンプトが出されたら、「はい」を指定します。

4. WebSphere Portal サーバー上で、WebSphere Application Server 管理コンソール を開始します。ログインを指示するプロンプトが出されたら、ログインします。

管理コンソールは、以下の方法でオープンできます。

- Windows の「**スタート**」メニューを使用して、該当するプログラムを選択します。
- WebSphere Application Server バージョン 5 の場合、Web ブラウザーをオープンし、http://hostname:port/admin にアクセスします。ここで、hostname は検索サーバーのホスト名であり、port は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソールのポートは 9090 です。
- WebSphere Application Server バージョン 6 の場合、Web ブラウザーをオープンし、http://hostname:port/ibm/console にアクセスします。ここで、hostname は検索サーバーのホスト名であり、port は WebSphere Application Server 管理コンソールのポート番号です。通常、管理コンソールのポートは 9060 です。
- 5. 「**アプリケーション**」をクリックして、「新規**アプリケーションのインストール**」をクリックします。
- 6. 「**ブラウズ**」をクリックし、システムから ESSearchAdapter.ear を選択し、「**次** へ」を 2 回クリックします。 ポリシー・ファイルに関する警告が出された場合は、「継続」をクリックします。
- 7. 「アプリケーション・サーバーへのモジュールのマップ」ページが表示されるまで「**次へ**」をクリックし、以下の選択を行ない、「**適用**」をクリックします。
  - 「クラスターおよびサーバー」フィールドで、WebSphere:cell=cell\_name、node=node\_name、server=server1 を選択します。
  - ESSearchAdapterEJB モジュールの横のチェック・ボックスを選択します。
- 8. 「サマリー」ページが表示されるまで「**次へ**」をクリックし、「**完了**」をクリックします。
- 9. 「**マスター構成に保管**」リンクをクリックして、「**保管**」ボタンをクリックし、WebSphere Application Server 構成に変更を保管します。
- 10. WebSphere Portal サーバーを再始動します。

# 検索センターを使用するためのエンタープライズ・サーチ登録ポートレットのインストール

WebSphere Portal 検索センターを使用してエンタープライズ・サーチ・コレクションを検索するには、エンタープライズ・サーチ用の登録ポートレットをインストールする必要があります。

#### このタスクについて

Ι

1

ı

I

Ι

1

Ι

登録ポートレット ESSearchAdapterPortlet.war は、エンタープライズ・サーチ・ポートレットを検索センターに登録します。このポートレット (およびエンタープライズ・サーチ用のアダプター・アプリケーション) をインストールすると、それ以降は、エンタープライズ・サーチ・コレクションを検索センターに追加することができ、それらのコレクションをユニバーサル・サーチ・ポートレットで検索できます。

ESSearchAdapterPortlet.war ファイルは、WebSphere II OmniFind Edition がインストールされるときに、検索サーバー上の ES\_INSTALL\_ROOT/bin ディレクトリーにインストールされます。デフォルトのインストール・パスは、次のとおりです。

- UNIX システム: /opt/IBM/es/bin/ESSearchAdapterPortlet.war
- Windows システム: C:\Program Files\IBM\es\bin\ESSearchAdapterPortlet.war

#### 手順

エンタープライズ・サーチ用の登録ポートレットをインストールするには、次のようにします。

- 1. WebSphere Portal 管理者 ID を使用して WebSphere Portal サーバーにログインします。
- 2. ツールバーから「管理」を選択します。
- 3. 左側のナビゲーション領域で「**ポートレット**」を選択し、「**ポートレット**」メニューから「**インストール**」を選択します。
- 4. 「**ブラウズ**」をクリックし、ご使用のシステムから ESSearchAdapterPortlet.war ファイルを選択し、「**次へ**」をクリックします。
- 5. 次のページで、「**インストール**」をクリックします。 ポートレットがインストールされると、「APIN00051: ポートレットは正常にインストールされました」というメッセージが表示されます。
- 6. このポートレット (IBM WebSphere II OmniFind Edition registration portlet for enterprise search という名前が付けられています) をポータル・ページに割り当てます。詳しくは、WebSphere Portal 管理の資料を参照してください。

## WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチへのマイグレーション

エンタープライズ・サーチでは、IBM WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチに分類構造およびコレクションをマイグレーションするときに使用するマイグレーション・ウィザードが用意されています。

分類構造およびコレクションをマイグレーションする場合、エンタープライズ・サーチ索引サーバーでマイグレーション・ウィザードを実行します。分類構造をマイグレーションすると、その分類をエンタープライズ・サーチ・コレクションで使用することができます。また、エンタープライズ・サーチを使用して、 WebSphere Portal からマイグレーションしたコレクションを管理、検索することもできます。

エンタープライズ・サーチでは、分類構造はカテゴリー・ツリーと言います。ルール・ベースの分類構造をマイグレーションした場合、それをカテゴリー・ツリーとしてエンタープライズ・サーチ管理コンソールで管理することができます。モデル・ベースの分類構造をエンタープライズ・サーチで使用するには、索引サーバーに WebSphere Portal がインストールされていなければなりません。

分類構造およびコレクションをマイグレーションしたい場合は、必ずモデル・ベースの分類構造ファイルを先にマイグレーションしてからコレクションをマイグレーションしてください。このようにしないと、モデル・ベースのカテゴリー化が WebSphere Portal からマイグレーションするコレクションについて適切に機能しなくなります。

#### 関連概念

233 ページの『エンタープライズ・サーチの WebSphere Portal との統合』 WebSphere Portal および WebSphere Portal 検索センターにエンタープライズ・サーチ・ポートレットをデプロイすることにより、 IBM WebSphere Portal の検索機能を拡張することができます。

#### 関連タスク

122ページの『カテゴリーの構成』

1 つのコレクションのカテゴリーはいくつも作成することができ、 各カテゴリーにはいくつもの規則を含めることができます。規則によって、カテゴリーと自動的に関連付けられる 文書が決まります。

## WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造のマイグレーション

WebSphere Portal 分類管理ポートレットを使用すれば、エンタープライズ・サーチ・コレクションで使用するモデル・ベースの分類構造を選択することができます。すでにエンタープライズ・サーチにマイグレーション済みのコレクションは、新たな分類マイグレーションを選択してもその影響を受けることはありません。

#### 始める前に

初めてマイグレーション・ウィザードを実行する前には、エンタープライズ・サー チ・システムを停止します。これで、構成ファイルへの変更が可能になります。最 初にマイグレーション・ウィザードを実行するとき、WebSphere Application Server および WebSphere Portal がインストールされているパスを指定します。 2 回目か らは、マイグレーション・ウィザードを実行するときは、エンタープライズ・サー チ・システムをアクティブにすることができます。

#### このタスクについて

モデル・ベースの分類構造をマイグレーションする場合、WebSphere Portal の分類 構造を選択し、エクスポートする必要があります。それから、エンタープライズ・ サーチのマイグレーション・ウィザードを使ってその分類構造をエンタープライ ズ・サーチにマイグレーションします。

#### 手順

モデル・ベースの分類構造を WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにマ イグレーションするには、次のようにします。

1. 現行のモデル・ベースの分類構造を WebSphere Portal 分類管理ポートレットか らエクスポートします。 分類構造は、次の XML ファイルで構成されていま す。

synonyms.xml

titles.xml

treenodes.xml

- 2. これらのファイルをエンタープライズ・サーチ索引サーバーにコピーします。
- 3. エンタープライズ・サーチ索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者 としてログインします。 このユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです。
- 4. エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリーに移動します。

UNIX: cd \$ES INSTALL ROOT/bin

Windows: cd %ES INSTALL ROOT%¥bin

5. マイグレーション・ウィザードを初めて開始する場合は、次のコマンドを入力 して、エンタープライズ・サーチ・システムを停止します。

esadmin stop

6. 次のコマンドを入力してマイグレーション・ウィザードを開始し、「**次へ**」を クリックします。

UNIX: ./eswpsmigrate.sh Windows: eswpsmigrate.bat

初めてマイグレーション・ウィザードを実行するのではなく、エンタープライ ズ・サーチ・システムがアクティブになっている場合、マイグレーション・ウ ィザードの実行中にエンタープライズ・サーチ・コレクションを作成しないで ください。

7. 「WebSphere Portal からのモデル・ベース分類構造ファイルのインポート」を 選択し、「**次へ**」をクリックします。

- 8. マイグレーション・ウィザードを初めて使用する場合は、WebSphere Application Server および WebSphere Portal がインストールされているパスを それぞれ指定します。「**次へ**」をクリックします。
- 9. モデル・ベースの分類構造ファイルのあるディレクトリーを参照して探し、モ デル・ベースの分類構造を使用するためにマイグレーションする必要のある XML ファイル (synonyms.xml、 titles.xml、および treenodes.xml) を選択して、 「**次へ**」をクリックします。
- 10. これがマイグレーション・ウィザードを実行する第 1 回目であった場合は、マ イグレーションの終了後、次のコマンドを入力して、エンタープライズ・サー チ・システムを再始動してください。

#### esadmin start

エラーが発生した場合、マイグレーション・ウィザードがインストールされている ディレクトリーにある MigrationWizard.log ファイルを参照してください。

#### 関連概念

ı

Ī

I

120ページの『モデル・ベースのカテゴリー』

IBM WebSphere Portal システムで、モデル・ベースのカテゴリーを使用してい る場合、エンタープライズ・サーチ・コレクションでもそれらのカテゴリーを継 続して使用することができます。

#### 関連タスク

122ページの『カテゴリーの構成』

1 つのコレクションのカテゴリーはいくつも作成することができ、 各カテゴリ ーにはいくつもの規則を含めることができます。規則によって、カテゴリーと自 動的に関連付けられる 文書が決まります。

## WebSphere Portal からのコレクションのマイグレーション

WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにコレクションをマイグレーショ ンするには、WebSphere Portal にコレクションを準備し、マイグレーション・ウィ ザードを使用して準備したコレクションをマイグレーションします。

#### 始める前に

モデル・ベースの分類構造およびコレクションをマイグレーションする場合、この 手順を使用して、コレクションをマイグレーションします。このようにしないと、 モデル・ベースのカテゴリー化が WebSphere Portal からマイグレーションするコレ クションについて適切に機能しなくなります。

#### 手順

コレクションを WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにマイグレーショ ンするには、次のようにします。

1. WebSphere ポータル検索エンジンで、マイグレーションするコレクションのす べてのクローラー・プロセスを停止し、保留中のすべての文書を承認または拒 否します。 (エンタープライズ・サーチでは、保留中の文書という概念はサポ ートしません。)

- 2. マイグレーションする各コレクションについて、ポータル検索エンジン・ポー トレットを使用してその設定を XML ファイルにエクスポートします。
- 3. エンタープライズ・サーチ索引サーバーが別のサーバーにインストールされて いる場合は、エクスポートした XML ファイルを索引サーバーにコピーしま す。
- 4. エンタープライズ・サーチ索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者 としてログインします。 このユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されたものです。
- 5. エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリーに移動します。

UNIX: cd \$ES INSTALL ROOT/bin Windows: cd %ES\_INSTALL\_ROOT%\big|

6. 次のコマンドを入力してマイグレーション・ウィザードを開始し、「 **次へ**」を クリックします。

UNIX: ./eswpsmigrate.sh Windows: eswpsmigrate.bat

- 7. 「WebSphere Portal の ポータル検索エンジン から検索設定をマイグレーショ **ンする**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。
- 8. エクスポートされたポータル検索エンジン構成ファイルがあるディレクトリー を参照し、マイグレーションしたいファイルを選択して「次へ」をクリックし ます。 選択された構成ファイルが分析、検証されます。
- 9. コレクションごとに次の情報を入力し、「次へ」をクリックすると、コレクシ ョンのエンタープライズ・サーチへのマイグレーションが開始されます。
  - エンタープライズ・サーチで使用するコレクションの名前。
  - コレクションで文書の重要度を判断するための基準。この静的ランキング要 素は、なし、文書日付基準、他の Web 文書からの Web 文書へのリンク基 準のいずれかにすることができます。
  - このコレクションに使用するカテゴリーのタイプ。カテゴリーなし、ルー ル・ベースのカテゴリー、またはモデル・ベースのカテゴリーのいずれかを 選択できます。

ルール・ベースのカテゴリーを選択した場合、 WebSphere Portal コレクショ ンの分類構造と規則がエンタープライズ・サーチにマイグレーションされま す。

モデル・ベースのカテゴリーを選択できるのは、あらかじめモデル・ベース の分類構造を WebSphere Portal からエンタープライズ・サーチにマイグレー ションしてある場合に限られます。

マイグレーション時にエラーが発生した場合、マイグレーション・ウィザード がインストールされているディレクトリーにある MigrationWizard.log ファイル を参照してください。

マイグレーションされたコレクションに追加設定を構成するには、エンタープ ライズ・サーチ管理コンソールを使用することができます。

要件: マイグレーションしたコレクションの Web クローラー・プロパティーを 構成するときに、クローラーに関するコメントを受信する E メール・ア ドレスとユーザー・エージェント名を指定する必要があります (Web ク ローラー・プロパティーの構成中に不明な点があったら、「ヘルプ」を クリックしてください)。

- 10. エンタープライズ・サーチ管理コンソールから、マイグレーション済みコレク ションに対してクロール、構文解析、および索引作成プロセスを開始します。
- 11. マイグレーション済みコレクションがエンタープライズ・サーチで検索できる とわかったら、ポータル検索エンジンにある元のコレクションを削除します。
- 12. オプション: WebSphere Portal 管理者が、WebSphere Portal のポータルからマ イグレーションしたコレクションをユーザーが検索できるようにしたい場合 は、以下のステップを実行します。
  - a. エンタープライズ・サーチ・ポートレットを WebSphere Portal システムに デプロイします。

WebSphere Portal サーバー・クラスターでは、この作業は WebSphere Application Server Deployment Manager がインストールされているサーバー に対して行う必要があります。 WebSphere Portal サーバー・クラスターの 他のサーバーには、この Deployment Manager によってエンタープライズ・ サーチ・ポートレットが配布されます。

h. エンタープライズ・サーチ・ポートレットを該当するポータル・ページに追 加します。

WebSphere Portal では、検索ポートレットのアクセス制御が、特定ページお よびポートレットに対するアクセス可能度によってモデル化されています。 コレクション設定はマイグレーションされますが、ポートレットは WebSphere Portal サーバー管理者によって手動で配置する必要があります。

#### 関連概念

29 ページの『エンタープライズ・サーチ・コレクション』

エンタープライズ・サーチ・コレクションには、ユーザーが 1 回の照会で検索 できる全ソースが格納されています。フェデレーションによって、ユーザーは複 数の コレクションを 1 回の照会で検索することができます。

117 ページの『ルール・ベースのカテゴリー』

エンタープライズ・サーチ・コレクションで文書をカテゴリーに関連付ける場 合、規則を構成して どの文書を関連付けるか制御することができます。

120ページの『カテゴリー・ツリー』

カテゴリー・ツリーを使用すると、コレクション内のルール・ベースのすべての カテゴリーを表示できます。 カテゴリー・ツリーを使って、カテゴリーの作 成、カテゴリーの削除、およびカテゴリーに文書を関連付けるときの 規則を編 集することもできます。

178ページの『静的ランキング』

文書のタイプによっては、 検索結果における文書の重要度を高くする静的ラン キング要素を関連付けることができます。

## マイグレーションされたコレクションの設定

IBM WebSphere Portal からコレクションをマイグレーションすると、マイグレーシ ョン・ウィザードにより、コレクションおよびクローラーのデフォルト設定が作成 されます。

ポータル検索エンジン・コレクションとエンタープライズ・サーチ・コレクション に同じ設定がある場合、ウィザードでは、コレクションのエンタープライズ・サー チへのマイグレーション時にポータル検索エンジンの設定を使用します。エンター プライズ・サーチだけにある設定については、コレクションのマイグレーション時 に指定した設定、または、エンタープライズ・サーチのコレクションに対するデフ ォルト設定がウィザードによって使用されます。

#### ポータル検索エンジンとエンタープライズ・サーチの両方にある設定

マイグレーション・ウィザードは、マイグレーション対象の各コレクションについ て、以下の設定をマイグレーションします。

- ポータル検索エンジン・コレクション内のポータル検索エンジン・サイト
- コレクション言語
- 分類構造 (カテゴリー・ツリー)、およびエンタープライズ・サーチ・コレクショ ンでルール・ベースのカテゴリーを使用する場合はルール・ベース・カテゴリー の規則

コレクション内の各ポータル検索エンジン・サイトは、エンタープライズ・サーチ Web クローラーに統合されます。マイグレーション・ウィザードは、以下のクロー ラー設定をマイグレーションします。

- 開始 URL
- 並行クロール・プロセスの数
- クロールの深さ
- ・ 文書検索のタイムアウト値 (秒)
- デフォルトの文字セット
- クロール対象への組み入れ規則および対象からの除外規則

#### エンタープライズ・サーチだけにある設定

コレクションをマイグレーションする場合、そのコレクションに関する情報を指定 します。マイグレーション・ウィザードでは、それらの設定をマイグレーション し、コレクションに対するエンタープライズ・サーチのデフォルト設定を使用し て、マイグレーションした各コレクションを構成します。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、このコレクションおよび Web クローラー構成を変更することができます。括弧内に示された値は、マイグレ ーションされたデータに対するデフォルト設定です。

- コレクション名
- 文書の静的ランキング計画
- 使用されるカテゴリー化のタイプ: ルール・ベース、カテゴリー化なし、など

- 検索キャッシュを使用するかどうか、および検索キャッシュが保持できる照会お よび検索結果数 (使用する、5,000)
- 検索応答時間をモニターし、限度を超えたらアラートを発行するかどうか (モニ ターする、限度 5 秒)
- アクセス制御を使用するかどうか (しない)
- 索引のリフレッシュ・スケジュール
- 索引の再編成スケジュール
- ログの詳細レベル (すべてのメッセージ)

また、マイグレーション・ウィザードでは、各 Web クローラーに対して以下の設 定を作成します。

- クローラー名
- クローラーの説明
- 最大ページ長
- 文書セキュリティー設定
- データ・ソース・タイプで該当する場合、クロールする必要がある文書の MIME タイプ

新規にマイグレーションされた Web クローラーを開始する前に、クローラー・プ ロパティーとクロール・スペース設定を全部よく検討し、必要な値がすべて指定さ れていることを確認してください(必要フィールドは、赤いアスタリスクでマーク されています)。特に、クローラーに関するコメントを受信する E メール・アドレ スとクローラーのユーザー・エージェント名を指定していることを確認してくださ い。 Web クローラー・プロパティーの構成中に不明な点があったら、「ヘルプ」 をクリックしてください。

## マイグレーション・ウィザードのログ・ファイル

マイグレーション・ウィザードでは、すべてのメッセージを、マイグレーション・ ウィザードがインストールされているディレクトリーにある WpsMigratorLog.log フ ァイルに書き込みます。

マイグレーション済みの各コレクションについて、WpsMigratorLog.log ログ・ファ イルには、WebSphere ポータル検索エンジンから読み込まれたすべての設定値、お よびそれらの設定値がエンタープライズ・サーチ・コレクションにインポートされ た場所が格納されています。

## エンタープライズ・サーチ・サーバーの開始と停止

コレクションを作成後、データのクロール、構文解析、索引作成を行うためのサーバーを開始する必要があります。コレクションに変更を加えた後も、サーバーを停止して再始動してください。

ほとんどのエンタープライズ・サーチ・サーバーは、連続して、または指定された スケジュールに従って稼働できます。例えば、索引の再編成またはリフレッシュの スケジュールを指定できます。データ解析用および索引の検索用のサーバーを開始 した後、構成設定を変更する (カテゴリーの変更や検索キャッシュのサイズ増加な ど)場合以外、通常、それらのサーバーを停止し再始動する必要はありません。

コレクションの内容を変更した場合、あるいは、エンタープライズのソースからクローラーがデータを収集する方法の規則を変更した場合は、それらの変更が有効になるように、通常、クローラーを停止し、再始動する必要があります。クロール規則を変更していなければ、クローラーは、連続して実行されるか (Web およびNNTP クローラーの場合)、指定されたスケジュールに従って実行されます。

## エンタープライズ・サーチ・サーバーの開始

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、システム・プロセスを開始し、その後、コレクションのクロール、構文解析、索引付け、検索を行うサーバーを開始する必要があります。

#### 始める前に

クロールしたいデータ・ソースを構成し、そのデータがどのように構文解析、索引付け、検索されるのかに関するオプションを指定します。例えば、ユーザーが検索結果にカテゴリー詳細を表示できるようにしたい場合は、パーサーを開始する前にカテゴリーを構成します。

エンタープライズ・サーチ・サーバーを開始するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者、またはそのコレクションを管理する権限をもつオペレーターである必要があります。

エンタープライズ・サーチ・サーバーの開始は、正しい順序で行う必要があります。例えば、クローラーを開始してデータのクロールを行った後でないと、文書の構文解析および索引付けはできません。

#### 手順

エンタープライズ・サーチ・サーバーを開始するには、次のようにします。

- 1. エンタープライズ・サーチ管理コンソールまたは検索アプリケーションを使用するには、次のようにします。
  - a. IBM HTTP Server がまだ稼働していない場合は、開始します。

- 2. エンタープライズ・サーチの共通通信層 (CCL) が稼働していない場合は、シス テムを始動します。
  - a. 索引サーバーで、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定さ れたエンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID でログインします。

#### UNIX システム

次のコマンドを入力します。

startccl.sh -bg

#### Windows システム

「スタート」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」 を選択して、IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始動します。

- 3. エンタープライズ・サーチ・システムが稼働していない場合は、システムを始動 します。
  - a. 索引サーバーで、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定さ れたエンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID でログインします。
  - b. 次のコマンドを入力します。

#### esadmin start

- 4. エンタープライズ・サーチ管理コンソールを始動して、エンタープライズ・サー チ管理者としてログインします。管理役割を使用した場合、開始したいコレクシ ョンに対する権限をもつコレクション管理者またはオペレーターとしてログイン できます。
- 「コレクション」ビューで、管理したいコレクションを指して、 **ー**」をクリックします。
- 6. 「クロール」ページで、開始したい各クローラーごとに、▶ 「開始」をクリッ クします。
  - Web クローラーまたは NNTP クローラーを開始すると、クローラーは即時に データのクロールを始めます。これらのタイプのクローラーは、連続して稼働 し、Web サイトおよび NNTP ニュースグループの文書のクロールと再クロー ルを行ないます。
  - 他のクローラー・タイプのいずれかを開始すると、クローラー・セッションが 開始します。クローラーは、スケジュールされた日時にクロールを開始しま す。クローラーをスケジュールしていない場合、またはクローラーを早く開始 したい場合は、クローラーをモニターして、クロールしたい各データ・ソース の開始アイコンをクリックします。

クローラーが開始した後は、それを続けて実行させておくことができます。ク ローラーをスケジュールしていれば、スケジュール日時に再び実行されます。

7. データのクロールが終わったら、「構文解析」ページを開き、▶ 「開始」をク リックしてパーサーを開始します。

パーサーは続けて実行させておくことができます。通常、データの構文解析方法 (カテゴリーまたは XML フィールド・マッピングの更新) を変更しない限り (例 えば、カテゴリーまたは XML フィールド・マッピングの更新)、パーサーを停 止する必要はありません。

8. オプション: 索引付けがスケジュールされた日時に開始するのを待たずに、索引 付けプロセスを強制始動するには、索引」ページを開き、「再編成」領域で 🕟 「開始」をクリックします。

索引付けプロセスは続けて実行させておくことができます。索引は、スケジュー ル日時にリフレッシュおよび再編成されます。

9. 「検索」ページで、▶ 「開始」をクリックします。

検索サーバーは続けて実行させておくことができます。通常、検索キャッシュま たは文書サマリーの設定を変更しない限り、検索サーバーを停止する必要はあり ません。

#### 関連概念

15ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションおよび外部ソースの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、シ ステム・アクティビティーおよびログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構 成、検索アプリケーションのコレクションおよび外部ソースへの関連付け、セキ ュリティー施行情報の指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使 用します。

212 ページの『管理役割』

エンタープライズ・サーチは管理コンソールのさまざまな機能へのアクセスを制 御するために、 役割の概念を使用します。

#### 関連タスク

19ページの『管理コンソールへのログイン』

エンタープライズ・サーチ・システムを管理するには、Web ブラウザーで URL を 指定した後で、管理コンソールにログインします。

#### 関連資料

297ページの『エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッ ション ID』

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッショ ンの開始および停止、 あるいはシステムの始動および停止を行うことができま す。

## エンタープライズ・サーチ・サーバーの停止

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの構成に変更を加えた場合や、問題の トラブルシューティングが必要な場合などには、エンタープライズ・サーチ・サー バーを停止して再始動する必要があります。

#### 始める前に

エンタープライズ・サーチ・サーバーを停止するには、エンタープライズ・サーチ 管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者、または そのコレクションを管理する権限をもつオペレーターである必要があります。

#### このタスクについて

エンタープライズ・サーチ・サーバーは、他のサーバーとは無関係に停止すること ができます。例えば、クローラーの構成を変更し、それを組み込むためにクローラ ーを停止して再始動する場合、パーサーを停止して再始動する必要はありません。

個々のサーバーを停止する代わりにエンタープライズ・サーチ・システムを停止し たい場合、エンタープライズ・サーチ管理者 ID で索引サーバーにログインできま す (この ID は WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定されたもの です)。次に、以下のコマンドを入力します。

esadmin stop

#### 手順

エンタープライズ・サーチ・サーバーを停止するには、次のようにします。

- 1. 「コレクション」ビューで、管理したいコレクションを指して、**△** 「**モニタ** ー」をクリックします。
- 2. 「クロール」ページで、管理したいクローラーを見つけ、停止または休止しま す。

クロール・スペースまたはクローラーのプロパティーを変更する場合は、変更を 組み込むために、クローラーを停止して再始動してください。クロール・スペー スを変更し、すでにコレクションに文書に変更を適用したい場合は、文書を再ク ロールすることも必要です。

- ヒント: プロセスがバックグラウンドでまだ実行されているにもかかわらず、要 求された操作がタイムアウトになったというメッセージが表示される場 合があります。タスクが完了したかどうかを判断するには、管理コンソ ールで「**リフレッシュ**」をクリックします (Web ブラウザーの「**リフレ ッシュ**」はクリックしないでください)。プロセスは、クローラーの状況 アイコンが停止したことを示したら完了です。
- 3. 「構文解析」ページで、■ 「停止」をクリックして、パーサーを停止します。

データを構文解析するための規則を変更する場合は、変更を組み込むために、パ ーサーを停止して再始動してください。変更は、新たにクロールされた文書にの み適用されます。すでに索引に入っている文書に変更を適用したい場合は、フ ル・クロールを開始して、すべての文書を再クロールする必要があります。これ により、すべての文書が構文解析され、再度、索引付けられます。

4. 「索引」ページで、■ 「停止」をクリックして、リフレッシュまたは再編成中 の索引を停止します。

また、索引キューをモニター中にも、索引作成を停止できます。これを行うに は、ツールバーで「システム」を選択し、「索引」ページを開いて、作成を停止 したい索引について■「停止」をクリックします。

5. 「検索」ページで、■ 「停止」をクリックして、検索サーバーを停止します。 通常、検索サーバーを停止して再始動する必要があるのは、検索キャッシュまた は文書サマリーの設定を変更した場合だけです。

#### 関連概念

15ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションおよび外部ソースの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、シ ステム・アクティビティーおよびログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構 成、検索アプリケーションのコレクションおよび外部ソースへの関連付け、セキ ュリティー施行情報の指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使 用します。

#### 関連資料

297 ページの『エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッ ション ID』

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッショ ンの開始および停止、 あるいはシステムの始動および停止を行うことができま す。

## エンタープライズ・サーチ・アクティビティーのモニター

システム・アクティビティーおよびコレクション・アクティビティーをモニターすると、さまざまなプロセスの状況の表示、問題発生の可能性の監視、または、パフォーマンス改善のための構成設定の調整を行うことができます。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用すれば、システムをモニターし、必要に応じて操作を調整することができます。主要アクティビティー (クロール、構文解析、索引作成、検索) については、詳細な統計データを参照することができます。統計データには、平均応答時間や、クロールまたは索引作成セッションでいくつの文書がクロールまたは索引作成されたかなどの進行状況データがあります。

ほとんどのアクティビティーは、アイコンをクリックするだけで、開始および停止することができます。この開始/停止操作により、アクティビティーを一時停止して、構成の変更または問題のトラブルシューティングを行い、アクティビティーを進められる状況になった時点で処理を再開することができます。

#### 関連概念

15ページの『エンタープライズ・サーチ管理の概要』

コレクションおよび外部ソースの作成と管理、コンポーネントの開始と停止、システム・アクティビティーおよびログ・ファイルのモニター、管理ユーザーの構成、検索アプリケーションのコレクションおよび外部ソースへの関連付け、セキュリティー施行情報の指定には、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用します。

#### 関連タスク

251 ページの『エンタープライズ・サーチ・サーバーの開始』

ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、システム・プロセスを 開始し、 その後、コレクションのクロール、構文解析、索引付け、検索を行う サーバーを開始する必要があります。

253 ページの『エンタープライズ・サーチ・サーバーの停止』

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの構成に変更を加えた場合や、 問題のトラブルシューティングが必要な場合などには、エンタープライズ・サーチ・サーバーを 停止して再始動する必要があります。

#### 関連資料

297ページの『エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッション ID』

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッションの開始および停止、 あるいはシステムの始動および停止を行うことができます。

## 単一コレクション内の文書数の見積もり

エンタープライズ・サーチ・コレクションを作成または編集するときは、保持して おきたいコレクションの文書数の見積もりを用意します。リソース・マネージャー は、この数値を使用して、コレクションに必要なメモリーとディスク・リソースを 見積もりますが、コレクションのサイズを制限することはありません。

#### 始める前に

コレクションの見積もりサイズを変更するには、エンタープライズ・サーチ管理者 役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があ ります。

#### このタスクについて

コレクションが大きくなって、見積もったサイズに達しても、システムは索引への 文書追加を停止しません。リソース・マネージャーは、メモリーおよびディスク・ リソースの所要量見積もりが、システムで現在使用可能になっている量より多くな ると、警告を出します。この警告によって、将来のリソース不足を防止することが できます。

コレクションについてアラートを構成し、索引内の文書の数が限度を超えたときオ プションを通知できるようにした場合、デフォルトの限度は、コレクション内の見 積もり文書数に指定した値と一致します。モニターは、指定されたアラートしきい 値パーセントと一緒にこの数値を使用し、コレクションについて構成された最大文 書数に近づいてくると、E メールを送信します。

#### 手順

コレクションの可能なサイズを見積もるには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「一般」ページを選択、そして「一般オプションの構成」 をクリックします。
- 2. 「見積もり文書数」フィールドに、コレクションの成長が見込まれる大きさを表 す数値を入力します。 デフォルト値は 1.000,000 文書です。

## システム・リソースの可用性のチェック

コレクションまたはクローラーを作成してから文書のクロールを開始するまでにシ ステム・リソースをチェックすると、使用可能なシステム・リソースが、現在の構 成設定に基づき、WebSphere II OmniFind Edition を全能力で実行するのに十分であ るかどうかを確認できます。

#### 始める前に

システム・リソースをチェックするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割の メンバーである必要があります。

#### このタスクについて

コレクションまたはクローラーを作成するときに、システムは、リソースの可用性 を自動的にチェックします。オプションを選択して、いつでもシステム・リソース の可用性をチェックすることもできます。

システムは、コレクションおよびクローラーのプロパティーを構成する際に使用すると見積もったスペースを、使用可能なシステム・スペースと比較して、リソースの可用性を通知するメッセージを表示します。メッセージは、リソースが十分でないサーバー、コレクションの見積もりサイズに必要なスペースの量、使用可能なフリー・スペースの量を示します。

リソースが十分でない場合は、以下の修正処置のいずれかを試みてください。

- メッセージ・テキストに示されているファイル・システムのサイズを増やす。
- コレクションの一般オプションを編集して、見積もり文書数にもっと小さい数値を指定する。
- クローラー・プロパティーを編集して、クロールする文書の最大数、最大ページ・サイズ、スレッドの最大数にもっと小さい数値を指定する。
- Web クローラーについて、クローラー・プロパティーを編集して、アクティブ・ホストの最大数、新規文書の最大数、一時ストレージ内の文書の最大数にもっと小さい数値を指定する。
- システムの索引プロパティーを編集して、並行実行を許可される索引作成の回数を減らす。
- 複数のコレクション内で、いつでも同時にアクティブなプロセスの数が多すぎないようにする。例えば、複数のコレクションからのクローラーとパーサーが同時に実行すると、リソースが影響を受ける可能性があります。
- システムからクローラーを削除する。
- システムからコレクションを削除する。

リソースが少ない可能性について警告が検出されなかった場合は、クロールされて 索引作成されるデータに対応できるだけの十分なリソースが存在すると考えられま す。

#### 手順

エンタープライズ・サーチ・システムの現在構成に大して十分なリソースが使用可能であるかどうかを判断するには、次のようにします。

- 1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- 2. 「一般」ページで、「システム・リソースのチェック」をクリックします。

## コレクションのモニター

コレクション内の各コンポーネントの状態に関する一般情報を表示するか、または、個々のコンポーネントおよび URI に関する詳細情報を表示するオプションを選択することができます。

#### 始める前に

すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、コレクションをモニターできます。コンポーネントの開始または停止を行うか、スケジュールを使用可能/使用不

可にするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコ レクションのコレクション管理者である必要があります。

#### 手順

コレクションをモニターするには、次のようにします。

- 1. 「コレクション」ビューで、 モニター対象にしたいコレクションを見つけて、 □ 「モニター」をクリックします。 各コレクション・コンポーネントの現在の 状況が表示されます。
  - ヒント: コレクションを編集中であり、すでに「一般」ページが表示されている 場合は、

    「**モニター**」をクリックすれば、目的のコレクションをモ ニターするためのビューに移動できます。
- 2. URI に関する詳細情報を表示したい場合は、 🔊 「URI 詳細」をクリックしま す。

例えば、特定の URI が索引中にあるかどうかや、その URI が含まれる索引が 検索サーバーにコピーされたかどうかを見ることができます。

3. 個々のコンポーネントをモニターし、そのコンポーネントのアクティビティーに 関する詳細な統計を表示するには、「状況」アイコンをクリックします。

#### 関連概念

29 ページの『エンタープライズ・サーチ・コレクション』 エンタープライズ・サーチ・コレクションには、ユーザーが 1 回の照会で検索 できる全ソースが格納されています。フェデレーションによって、ユーザーは複 数の コレクションを 1 回の照会で検索することができます。

## URI についての詳細表示

URI に関する詳細情報を見ることができます。この URI で表される文書がどのよ うにクロール、索引付け、検索されるのかについての現在情報および履歴情報を知 ることができます。

#### 始める前に

URI レポートを表示する要求、またはレポートを E メール・アドレスへ送信する 要求をサブミットする前に、情報の発信元になるコンポーネントがアクティブであ ることを確認してください。例えば、文書がどのようにクロール、索引付け、検索 されるのかについての詳細情報を表示する場合には、Web クローラー、索引サーバ 一、検索サーバーが稼働中であることを確認してください。除去された文書をトラ ッキングするには、文書トラッキングのロギング・オプションが構成されているこ とを確認してください。

#### このタスクについて

URI に関する情報の収集は、時間のかかるプロセスです。情報を要求した後、情報 が表示されるのを待つというオプションを選択できます。より効率的なオプション は、指定した E メール・アドレスにレポートを送信するようにするオプションで す。

索引サーバーと検索サーバーは、すべての URI に関する情報 (例えば、ある URI が索引にあるかどうか、それが検索サーバーにコピーされたかどうか)を提供でき ます。文書がどのようにクロールされたかに関する情報を表示するには、 Web ク ローラーによってクロールされた文書の URI を指定する必要があります。

#### 手順

URI に関する詳細を表示するには、次のようにします。

- 1. 「コレクション」ビューで、 モニター対象にしたいコレクションを見つけて、 「モニター」をクリックします。
  - ヒント: コレクションを編集中であり、すでに「一般」ページが表示されている 場合は、**□** 「**モニター**」をクリックすれば、目的のコレクションをモ ニターするためのビューに移動できます。
- 2. **M** 「**URI の詳細**」をクリックします。
- 3. 「URI の詳細」ページで、情報を見たい URI を入力します。
- 4. 見たい情報のタイプに合わせてチェック・ボックスを選択します。

#### クローラー詳細 (Web クローラーにのみ使用可能)

このチェック・ボックスを選択すると、Web クローラーによって文書が どのようにクロールされたかに関する情報と、クロール・スペース内の 現在の状況に関する情報が示されます。

#### 索引の詳細

このチェック・ボックスを選択すると、文書が索引付けされたかどうか と、文書が検索サーバーにコピーされたかどうかが示されます。

#### 検索の詳細

このチェック・ボックスを選択すると、文書がどのように検索できるか に関する情報と、文書が検索に使用可能かどうかが示されます。

#### パーサーによって除去された文書

その文書が構文解析中にエンタープライズ・サーチ・システムから除去 されたのかどうか、またその場合の除去された理由を参照する場合は、 このチェック・ボックスを選択します。

#### 索引から除去された文書

その文書が索引作成中またはアナライズ中にエンタープライズ・サー チ・システムから除去されたのかどうか、またその場合の除去された理 由を参照する場合は、このチェック・ボックスを選択します。

- 5. レポートが表示されるのを待つ場合は、「**レポート表示**」をクリックします。
- 6. 後でレポートを表示できるように E メール・アドレスにレポートを送信するに は、「**レポートの送信**」をクリックします。
  - a. 「詳細 URI レポートの送信」ページで、「通知を受け取る E メール・アド レス」フィールドに、レポートを受け取る E メール・アドレスを入力しま す。

1 1 

b. 「**レポートの送信**」をクリックします。

#### 関連概念

278ページの『文書トラッキング』

文書は、処理の様々な段階でシステムから除去することができます。 文書が除 去された時、および除去の原因となった問題の内容を確認する場合に、 このオ プションを指定できます。

#### 関連タスク

279ページの『除去された文書に関するレポートの表示』 エンタープライズ・サーチ・システムから除去された文書に関する詳細情報を 表示することができます。この情報は、コレクションに対する文書トラッキング を 使用可能にした場合にのみ有効です。

#### 関連資料

105 ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』 エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

## クローラーのモニター

コレクション内の各クローラーの状態に関する一般情報を表示するか、または、ク ローラーのアクティビティーに関する詳細情報を表示するオプションを選択するこ とができます。

#### 始める前に

コレクションのモニター限定の管理役割を使用している場合、クローラー統計を表 示することはできますが、クローラーの動作の変更 (クローラーの開始や停止など) はできません。

#### 手順

クローラーをモニターするには、次のようにします。

- 1. 「コレクション」ビューで、 モニターしたいコレクションを見つけて、 ▶ 「**モニター**」をクリックします。
- 2. 「クロール」ページを開きます。
  - ヒント: コレクションを編集中であり、すでに「クロール」ページが表示されて いる場合は、 「**モニター**」をクリックすれば、クローラーをモニタ ーするためのビューに移動できます。
- 3. クローラーが稼働中または休止されていて、クローラーに関する詳細な状況情報 を表示したい場合、圖 「詳細」をクリックします。 表示される統計のタイプ は、クローラー・タイプによって異なります。

コレクションのプロセス管理を許可する管理役割を持っている場合、クローラ ー・アクティビティーに関する詳細を表示中に、クローラーを開始、停止、休止 することができます。クローラーがスケジュール可能である場合、クロールのス ケジュールを使用可能または使用不可にすることもできます。

4. クローラーが停止または休止されていて、クローラー・セッションを開始したい 場合、▶ 「開始」または「再開」をクリックします。

# 1

1

#### Web クローラーの場合:

クローラーが停止されていた場合、クローラーは再びクロールを開始 し、クロール・スペース全体をクロールします。クローラーが休止され ていた場合、クローラーは、休止されたときのターゲットの先頭からク ロールを再開します。

即時にクローラーにフル・クロールを開始させたい場合、「詳細」アイ コンをクリックして、その後、「再フル・クロールの開始」アイコンを クリックします。クローラーは、最後にクロールしてから変更が行われ なかったページも含めて、クロール・スペース全体のクロールを開始し ます。すべての文書を再クロールしたい場合があります。例えば、文書 の構文解析の規則を変更して、以前に索引作成した文書にその規則を適 用したい場合などです。

#### NNTP クローラーの場合:

クローラーが停止されていた場合、クローラーは再びクロールを開始 し、クロール・スペース全体をクロールします。クローラーが休止され ていた場合、クローラーは、休止されたときのターゲットの先頭からク ロールを再開します。

#### 他のすべてのクローラー・タイプの場合:

クローラーが停止されていた場合、クローラーは、スケジュールされた 日時にクロールを開始します。クローラーがデータ・ソースをクロール する最初の時、クローラーはフル・クロールを実行します。クロールが 繰り返しスケジュールされている場合、クローラーはデータ・ソースに 対するすべての更新(文書の追加、削除、および変更)か、または文書の 追加および変更のみのどちらかをクロールします。クローラー・スケジ ュールでクロールのタイプを構成します。

クローラー・スケジュールがまだ行われていない場合、またはクローラ ーを早く開始したい場合は、「**詳細**」アイコンをクリックしてくださ い。その後、クロール・スペースの詳細領域で、開始したいクロールの タイプのアイコン「フル・クロール」、「すべて更新」、または「新規 および変更文書のみ」をクリックします。クロールしたい各データ・ソ ース (サーバー、データベース、サブフォルダーなど) の該当する開始ア イコンをクリックする必要があります。

5. 稼働中のクローラーを停止したい場合、■ 「停止」または Ⅲ 「休止」をクリ ックします。 クローラーは、再始動または再開されるまで、データのクロール を停止します。

休止されたクローラーを再開する場合、クローラーは、休止されたターゲットの 先頭でクロールを開始します。例えば、DB2 クローラーは、停止されたときに クロール中だった表の先頭行からクロールを再開します。

#### 関連概念

37ページの『エンタープライズ・サーチ・クローラーの管理』 コレクションに入れるデータ・タイプに応じて、さまざまなタイプのクローラー を 構成できます。1 つのコレクションに任意の数のクローラーを入れることが できます。

#### 関連資料

297ページの『エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッ ション ID』

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッショ ンの開始および停止、 あるいはシステムの始動および停止を行うことができま す。

## Web クローラーのアクティビティー詳細の表示

Web クローラーのアクティビティーに関する詳細を表示することによって、全体的 なパフォーマンスを査定し、必要に応じて、Web クローラーのプロパティーおよび クロール・スペース定義を調整できます。

#### 始める前に

すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、クローラーのアクティビティ ーをモニターできます。クローラーの開始または停止を行うには、エンタープライ ズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理 者である必要があります。

#### 手順

Web クローラーのアクティビティーに関する詳細を表示するには、次のようにしま す。

- 1. 「コレクション」ビューで、モニター対象にしたい Web クローラーを所有する コレクションを見つけ、 🕝 「**モニター**」をクリックします。
- 2. 「クロール」ページを開きます。
  - ヒント: コレクションを編集中であり、すでに「クロール」ページが表示されて いる場合は、<a> 「モニター」をクリックすれば、クローラーをモニタ</a> ーするためのビューに移動できます。
- 3. モニターしたい Web クローラーが稼働中であるか休止している場合、 同 「詳 細」をクリックします。
- 4. Web クローラーの詳細ページで、クローラーの現在と過去のアクティビティー に関する詳細な統計を表示するため、以下のオプションを確認または選択しま す。
  - a. 「スレッドの詳細」をクリックすると、アクティブに Web サイトをクロー ルしているスレッドの数と、非アクティブ状態のスレッドの数が示されま
  - b. 「**アクティブ・サイト**」をクリックすると、クローラーがアクティブにクロ ール中の Web サイトに関する情報が示されます。
  - c. 「最近クロールされた URL」をクリックします。 この情報は、クローラー が最近クロールした対象を示します。ビューをリフレッシュしてもリスト中 の項目が変わらない場合、発生しているクロールはありません。
  - d. 「**クローラー履歴**」をクリックすると、クローラーの過去のアクティビティ ーに関するレポートが表示されます。
  - e. 「URL 状況」領域で、情報を表示したい Web サイトの URL を入力し、 「表示」をクリックします。

例えば、このオプションを使用して、ある URL がクロール・スペース内に あるかどうか、それがクロールされたのか、または、単にディスカバーされ ただけなのか、再度クロールされるべきなのはいつかを見たり、Web サイト に対する最新クロール試行に関する情報を見ることができます。

URL に関する詳細が表示された後、「サイト履歴」をクリックすると、その URL でのクローラーのアクティビティーに関する追加の統計情報を見ること ができます。

## Web クローラーのスレッドの詳細

Web クローラーをモニターすることによって、アクティブに Web サイトをクロー ルしているスレッドの数と、非アクティブ状態のスレッドの数を見ることができま す。

コレクションのモニター中に Web クローラーに関する詳細を表示すると、クロー ラー・スレッドの状況を見ることができます。一般的な状態には次のものがありま

待機中 スレッドにはクロールするべき URL がないことを示します。この状態は、 スレッドがクロールを完了し、クローラーがそれ以上のクロールするべき URL を見つける速さが不十分な場合に発生します。例えば、クローラーの プロパティーの設定で、クローラーが同じサイトから別のページを取得でき るまでに待たなければならない時間が長すぎる場合には、URL が供給され る速度が十分ではないことがあります。

#### フェッチ中

スレッドが Web サイトからページをダウンロード中であることを示しま す。

完了 スレッドが、クロールしたページをクローラーの残りに送信中であるが、別 の URL をクロールする準備はまだできていないことを示します。

中断 クローラーが休止していることを示します。

理想的なのは、すべてのスレッドが常にページをフェッチ中であることです。スレ ッドが頻繁に完了状態になる場合は、データベースにスループットの問題があると 考えられます。

スレッドが頻繁に待機状態になる場合は、クローラーのプロパティーの「アクティ ブ・ホストの最大数」フィールドに指定された値を検討してください。この値が小 さい場合、スレッドを継続的にビジーにするにはクロール・スペース内のサイト数 が十分でないか、クロールに適格な URL の数が十分でないことが考えられます。 低アクティビティーを引き起こす条件として、DNS ルックアップ失敗とロボット・ ルックアップ失敗があります。

## Web クローラー・アクティブ・サイト

Web クローラーをモニターして、クローラーがアクティブにクロール中の Web サ イトに関する情報を見ることができます。

コレクションのモニター中に Web クローラーに関する詳細を表示すると、アクテ ィブ・サイトに関する統計を見ることができます。統計には、以下の情報が示され ます。

- 現時点でクロールのためにクローラーが内部データベースからメモリーへ移した URL の数。
- これまでにクローラーがクロールを試行した URL の数。
- サイトが非アクティブにされてクローラーのこの同の反復用のメモリーから除去 されるまでの残り時間。
- これまでにサイトがメモリー内にあった時間。

この情報は、クローラーに対して構成されたクロール規則をクローラーが進んでい くのに従って刻々と変化します。アクティブにされた URL 数が、クローラーのプ ロパティーの「アクティブ・ホストの最大数」フィールドに構成された値と近いの が理想的です。

アクティブにされた URL 数がゼロに近い場合、クローラーは適格 URL を検出し ていません。そのような低いアクティビティーを引き起こす可能性のある条件に は、 DNS ルックアップの失敗、ネットワーク接続性の問題、データベース・エラ ー、クロール・スペース定義の問題があります。例えば、次のようになります。

- 長時間にわたってメモリー内に多数のサイトがあり、クロールされた URL が少 数である場合、ネットワーク接続性の問題がないか調べてください。
- 十分な数のサイトがリストにある場合、クロール・スペース定義の問題、または DNS ルックアップの問題がないか調べてください。
- 妥当な速度でサイトがクロールされているが、多数の URL がクロールされない ままでメモリーからサイトが出ている場合、クローラーのプロパティーを編集 し、「メモリー内 URL の最大残存時間」フィールド内のタイムアウト値を調整 して、サイトをメモリーに保持する時間を長くしてください。

## Web クローラーのクロール速度

Web クローラーをモニターして、クローラーが Web サイトからページをダウンロ ードしている速度に関する情報を見ることができます。

コレクションのモニター中に Web クローラーに関する詳細を表示すると、クロー ラーがデータをクロールする速さ (クロール速度) に関する統計を見ることができま す。また、現行セッションの開始以降にクローラーがクロールした URL の数に関 する統計も見ることができます。

クロール速度は、1 秒当たりにクロールされているページ数です。この数は、Web クローラーに対して構成できるいくつかのプロパティーと関連しています。

- クローラー・スレッドの数
- アクティブ・サイトの数
- クローラーが同じ Web サーバーから別のページを取得できるまでに待たなけれ ばならない時間。

クローラーがクローラー・スレッドごとに 1 つのアクティブ・サイトを持っている 場合で、クローラーが 2 秒間待った後でないと同じ Web サーバーから別のページ を取得できない場合、クローラーは 2 秒当たりに、スレッド当たり 1 ページより

速くクロールすることはできません。例えば、クローラーがデフォルト数 (200) の スレッドを使用する場合、クローラーは 200 スレッドで 1 秒当たり 100 ページを クロールできます。

クローラー・スレッド数の倍のアクティブ・サイトがある場合で、クローラーが 2 秒間待った後でないと同じ Web サーバーから別のページを取得できないとする と、クローラーは 1 秒にスレッド当たり 1 ページの速度に達すると考えられます。しかし、そうすると、ネットワークのダウンロード速度およびデータベース・スループットが速度を限定する要因になってきます。良好なクローラー・パフォーマンスが示されるのは、クロール速度が、クローラー・スレッド数、アクティブ・サイト数、およびクローラー待ち時間と調和している場合です。

Web クローラーのパフォーマンスをモニターするときに検討が必要なもう 1 つの 因子は、現行クローラー・セッションの開始以降にクローラーがクロールした URL の数です。この数を、クローラーが稼働した合計時間で除算した値が、長期間の平 均スループットです。この数値が増加しない場合、クローラーは完了しているか、進行できないかのいずれかです。例えば、ネットワーク接続エラー、データベース・エラー、DNS ルックアップ失敗などがあると、クローラーの進行が妨げられます。

## Web クローラー・レポートの作成

Web クローラーの過去のアクティビティーに関するレポートを表示することによって、全体的なパフォーマンスを査定し、必要に応じて、Web クローラーのプロパティーおよびクロール・スペース定義を調整できます。

#### 始める前に

コレクションのモニター限定の管理役割を使用している場合、クローラー統計を表示することができ、クローラーのアクティビティーに関するレポートを作成することもできますが、クローラーの動作の変更 (クローラーの開始や停止など) はできません。

#### このタスクについて

さまざまなタイプのレポートがあり、Web クローラーのアクティビティーに関する情報が提供されます。レポートのタイプによっては、クローラーの内部データベースから収集できる限りの速度で情報が戻されるものもあります。サイト・レポートおよび HTTP 戻りコード・レポートは、作成に時間を要します。これらのタイプのレポートを作成する場合、結果がエンタープライズ・サーチ管理コンソールに戻されるのを待つ代わりに、レポートを受け取る E メール・アドレスを指定できます。

レポートでの統計の解釈方法については、Web クローラーのモニター中およびレポートの作成中に「**ヘルプ**」をクリックしてください。

#### 手順

Web クローラー・レポートを作成するには、次のようにします。

- 2. 「クロール」ページを開きます。

- ヒント: コレクションを編集中であり、すでに「クロール」ページが表示されて いる場合は、「モニター」をクリックすれば、クローラーをモニタ ーするためのビューに移動できます。
- 3. レポートを作成したい Web クローラーが稼働中であるか休止している場合、 🗈 「詳細」をクリックします。
- 4. Web クローラーの詳細ページで、作成したいレポートのタイプに応じてオプシ ョンを選択します。
  - クローラーと、クローラーがディスカバーまたはクロールするすべてのサイト に関するレポートを作成するには、「クローラー状況サマリー」領域で「クロ **ーラー履歴**」をクリックします。
  - 「URL 状況」領域で、レポートを作成したい特定のサイトの URL を指定 し、「表示」をクリックし、「**サイト履歴**」をクリックします。
- クローラー履歴とサイト履歴の両方のレポートについて、レポートに入れたい統 計のチェック・ボックスを選択し、「レポート表示」をクリックします。

これらのタイプの統計について、クローラーは、内部データベースから情報を取 得できる限りの速度で、レポートを管理コンソールに戻します。

6. クローラー履歴レポートを作成する場合、サイト・レポートを作成するためのオ プションを指定し、「**レポートの実行**」をクリックします。

このレポートは、選択した統計が組み込まれて作成され、指定するファイルに保 存されます (このファイルの名前は絶対名でなければなりません)。レポート作成 後に E メールを受け取ることを指定できます。

7. クローラー履歴レポートを作成する場合、HTTP 戻りコード・レポートを作成す るためのオプションを指定し、「**レポートの実行**」をクリックします。

このレポートには、サイトごとに分布している HTTP 戻りコードの数について の情報が示されます。このレポートは、指定するファイルに保存されます (この ファイルの名前は絶対名でなければなりません)。レポート作成後に E メールを 受け取ることを指定できます。

このレポートを使用すると、4xx 戻りコード (ページが見つからなかったことを 示す)、5xx 戻りコード (サーバー問題を示す)、6xx 戻りコード (接続での問題 を示す) 等を多く戻しているサイトを確認できます。

このレポートは、クローラーがある程度の時間アクティブであった場合に最も利 用価値があります (例えば、数週間にわたってアクティブであったクローラーの 場合など)。このレポートは、消失したサイト、新着サイト、大量の URL が含 まれるサイト (Lotus Notes データベースの重複クロールを表している可能性が あります)、HTTP サーバーによる再帰的ファイル・システムのサービスを受け ているサイトを識別するのに役立ちます。多数の HTTP 戻りコードがあるサイ トが索引に寄与していない場合、それらのサイトをクロール・スペースから除去 することによって、クローラーのパフォーマンスを向上させることができます。

## Web クローラーの HTTP 戻りコード

Web クローラーをモニターするとき、クロールするページからクローラーが受け取 る HTTP 戻りコードに関する情報を見ることができます。

#### 表のサマリー

Web クローラー履歴をモニターするか、または特定の URL の状況をモニターする とき、クローラーに戻された HTTP 戻りコードを見ることができます。この情報を 使用して、クロール・スペースの管理およびクローラー・パフォーマンスの最適化 を行えます。例えば、ある URL に対して多数の HTTP 戻りコードをクローラーが 受け取り、それらの戻りコードが、その場所にあるページがクロールできないこと を示すものである場合、その URL をクロール・スペースから除去することによっ てパフォーマンスを改善できます。

以下の表に、HTTP 戻りコードと、Web クローラーがそれらをどのように解釈する のかを示します。 100 から 505 までの値は標準 HTTP 戻りコードです (詳しく は、http://www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616.html を参照してください)。それ以外 の HTTP 戻りコードは、エンタープライズ・サーチおよび Web クローラー専用の コードです。

表 4. Web クローラーからの HTTP 戻りコード

コード	説明	コード	説明	コード	説明	コード	説明
NULL	未クロール	401	無許可	500	内部サーバー・ エラー	700	構文解析エラー (ヘッダー・エ ンドなし)
100	継続	402	支払要	501	未実装	710	構文解析エラー (ヘッダー)
200	成功	403	禁止	502	不正なゲートウ ェイ	720	構文解析エラー (HTTP コード なし)
201	作成されました	404	検出されません	503	サービス利用不 可	730	構文解析エラー (本文)
202	受け入れられま した	405	許可されないメ ソッド	504	ゲートウェイの タイムアウト	740	robots.txt ファ イルにより除外
203	信頼できない情 報	406	受け入れ不能	505	サポートされな い HTTP バー ジョン	741	ロボットが一時 的に利用不可
204	コンテンツなし	407	プロキシー認証 が必要	611	読み取りエラー	760	クロール・スペ ース定義により 除外
205	コンテンツのリ セット	408	要求タイムアウ ト	612	接続エラー	770	不正なプロトコ ルまたは非標準 システム・ポー ト
206	部分的コンテン ツ	409	競合	613	読み取りタイム アウト	780	ファイル・タイ プ排他により除 外
300	多肢選択	410	もう存在しない	614	SSL ハンドシェ ーク失敗	2004	索引 META タ グなし
301	永久に移動済み	411	長さが必要	615	他の読み取りエ ラー	3020	ソフト・リダイ レクト

表 4. Web クローラーからの HTTP 戻りコード (続き)

コード	説明	コード	説明	コード	説明	コード	説明
302	検出されました	412	前提条件失敗	616	FBA 異常	4044	robots.txt ファ イルにより除外
303	他を参照	413	要求エンティテ ィーが大きすぎ る	617	エンコード・エ ラー		
304	未変更	414	要求 URI が長 すぎる	680	DNS ルックア ップ失敗		
305	プロキシー使用	415	サポートされな いメディア・タ イプ				
306	(未使用)	417	予想失敗				
307	一時的リダイレ クト						

#### 表の注

#### 4xx 戻りコード

400 (不正な要求) コードは、めったにありません。HTTP 戻りコード標準に よると、 4xx コードは、クライアント (クローラー) が失敗したことを示し ます。しかし、サーバーに問題があるか、クローラーがリンクとして受け取 った URL に問題があるのが普通です。例えば、一部の Web サーバーは、 サイト・ルート (例えば、http://xyz.ibm.com/../../sales) からナビゲートしよう とする URL を許容しません。他の Web サーバーでは、このような上方ナ ビゲーションでの問題はなく、クローラーがすでにルートにある場合は親デ ィレクトリー記号 (...) を無視します。

一部のサーバーはサイト・ルートに対する要求をエラーとして扱い、古くな ったリンクが、もう認識または実装されていない操作を要求する可能性があ ります。もうサービスされていないページに対する要求があると、その要求 はもう有効とは見なされないので、アプリケーション・サーバーは例外をス ローし、それが原因となって Web サーバーは HTTP 戻りコード 400 を戻 します。

Web サイトからデータをダウンロードするクローラー・サーバーで予期し 615 ない例外が検出されたことを示します。このタイプの戻りコードが多数ある 場合、クローラーでの問題があると考えられます。

#### 6xx 戻りコード

615 を除く 6xx 戻りコードは、タイムアウトなど、クロールにおいて予想 される問題を示します。以下の戻りコードについては、修正処置が必要な場 合があります。

#### 611, 612, 613

サイトが低速であるか、ネットワーク・パフォーマンスが不十分で あることを示します。

614 クローラーがセキュア (HTTPS) サイトをクロールできないことを 示します。これらのサイトがアクセス可能であるという確信がある 場合、証明書がクローラー・サーバーおよびターゲット Web サー

バー上で正しくセットアップされていることを確認してください。 例えば、認識された認証局 (CA) によって認証済みのサイトの場合、クローラーが使用するトラスト・ストアに新しい CA を追加することができます。

また、クロールしようとしているサイトで自己署名証明書がどのように構成されているかも確認してください。クローラーは、自己署名証明書を受け入れるように構成されています。サイトによっては、ルート URL (例えば、http://sales.ibm.com/) に対して自己署名証明書を作成し、その後、サブドメイン (例えば、

http://internal.sales.ibm.com/) でその証明書の使用を試みます。クローラーは、このような方法で使用される証明書を受け入れられません。クローラーが自己署名証明書を受け入れるのは、サブジェクトのドメイン名 (sales.ibm.com) および証明書の署名者が、要求されているページのドメイン名と一致する場合のみです。

- **616** ログイン・フォームが、再認証後にダウンロードにも出現することを表します。
- **617** エンコード・ストリング (文字セット) が正しくないか、または文書に無効なバイトが含まれているために、文書のバイト・コンテンツからストリングを作成できないことを表します。
- 680 おそらくネットワーク・アクセスの問題のため、クローラーが、クロール・スペース内でホストの IP アドレスを入手できなかったことを示します。このタイプのエラーは、クローラーが、いくつかのURL をクロールできなかったのではなく、サイト全体をクロールできないことを示します。このタイプの戻りコードが多数ある場合、スループットが大幅に減少します。

#### 7xx 戻りコード

7xx コードは、ほとんどの場合、クロール・スペースにおける規則が原因です。

#### 710 - 730

問題があるためにクローラーがダウンロードを完全にできないこと、または、クローラーがサイトで無効な HTML データを検出したことを示します。これらのタイプの戻りコードが多数ある場合、エンタープライズ・サーチのサポート担当者に支援を依頼してください。

#### 740 または 4044

サイトの robots.txt ファイル内の制限によって文書が除外されているため、ファイルのコンテンツを索引付けできないことを示します。

- **740** 除外された文書をポイントするアンカー・リンクを索引に含められることを示します。
- **4044** 除外された文書をポイントする文書内のアンカー・リンクが 索引でも除外されることを示します。
- 741 サイトにはクロールを許可する robots.txt ファイルがあるが、ダウンロードが失敗したことを示します。URL をクロールできない状態

残りの 7xx 戻りコードは、クローラーがしばらく稼働した後で、クロー ル・スペースに変更を加えた場合に発生することがほとんどです。通常、こ れらの戻りコードが発生しても、解決が必要な問題はありません。

**3020** 戻りコード 200 をもつ文書に、別の URL へのユーザー・エージェントを 参照するロケーション・ヘッダーが含まれることを表します。

### パーサーのモニター

パーサーによって分析される文書に関する情報を表示する必要がある場合に、それ らがエンタープライズ・サーチ索引に追加される前にパーサーをモニターします。 オプションを使用して、統計を検討し、パーサーのアクティビティーを管理できま す。

#### 始める前に

管理役割がコレクションのモニターに限定されている場合、パーサーの状況を表示 することはできますが、パーサーを開始したり、停止したりすることはできませ  $h_{\circ}$ 

#### このタスクについて

パーサーの詳細をモニターしているとき、特定の瞬間に合わせて構文解析アクティ ビティーに関する統計を提供するパーサー・アクティビティーのスナップショット が表示されます。統計により、クロールが終了し、現在、構文解析中または構文解 析を待っている文書の数や、構文解析が終了し、索引への格納を待っている文書の 数が示されます。

パーサーがアクティブであれば、メッセージにより、パーサーの状態に関するその 他の情報が提供されます。例えば、次のとおりです。

- パーサーは、アクティブに文書を構文解析しています。
- パーサーはアイドル中です。パーサーは、さらに多くの文書が構文解析可能にな るまでスリープ状態です。エラーが発生すると、パーサーは再始動を待機しま す。使用可能なパーサー・サービスがなくなると、パーサーは再始動します (例 えば、自動再始動は、パーサー・サービスへの接続が確立できない時、またはパ ーサー Java 仮想マシンのすべてが他のコレクションのためビジーである場合に 発生します)。
- パーサーは休止しています (例えば、パーサーは、索引再編成が完了するまで休 止します)。

#### 手順

コレクションのパーサーをモニターするには、次のようにします。

2. 「構文解析」ページを開きます。

ヒント: コレクションを編集中であり、すでに「構文解析」ページが表示されて いる場合は、🔊 「モニター」をクリックすれば、目的のコレクション をモニターするためのビューに移動できます。

3. パーサーが稼働中で、構文解析アクティビティーに関する詳細な状況情報を表示 したい場合は、🗈 「詳細」をクリックします。

コレクションのプロセス管理を許可する管理役割を持っている場合、構文解析ア クティビティーに関する詳細を表示中にパーサーを開始および停止することがで

4. パーサーが停止されていて、それを開始したい場合、┌ 「開始」をクリックし

最初にコレクションを作成するときには、クローラーがデータのクロールを開始 した後で、パーサーを開始してください。そうすれば、パーサーが分析とカテゴ リー化を行うデータが必ずあることになります。構文解析規則を変更しない限 り、パーサーは続けて実行させておくことができます。

5. パーサーが実行中であり、それを停止したい場合は、 ■ 「停止」をクリックし ます。

構文解析規則を変更する場合、パーサーを停止して再始動する必要があります。 例えば、パーサー構成を変更した場合、パーサーを停止して、再始動した後でな いと、変更が有効になりません。

## コレクションの索引アクティビティーのモニター

作成中の索引の進行を知る必要がある場合、索引スケジュールを使用可能/使用不可 にする必要がある場合、または、索引付けアクティビティーの開始/停止を行なう必 要がある場合に、コレクションの索引をモニターします。

#### 始める前に

すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、索引アクティビティーをモニ ターできます。索引作成の開始または停止を行うか、索引スケジュールを使用可能/ 使用不可にするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、 そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

#### 手順

コレクションの索引をモニターするには、次のようにします。

- 1. 「コレクション」ビューで、 モニターしたいコレクションを見つけて、☑ 「モ **ニター**」をクリックします。
- 2. 「索引」ページを開きます。

- ヒント: コレクションを編集中であり、すでに「索引」ページが表示されている 場合は、☑ 「**モニター**」をクリックすれば、目的のコレクションをモ ニターするためのビューに移動できます。
- 3. 索引がスケジュール済みであり、スケジュールされた日時にその索引が作成され ることを望まない場合、M 「**スケジュールを使用不可にする**」をクリックしま す。 その索引は、スケジュールを使用可能にするか、索引作成プロセスを開始 するまで、作成されません。
- 4. 索引がスケジュール済みであるが、索引作成のスケジュールが使用不可にされて いる場合、 「スケジュールを使用可能にする」をクリックします。 索引は、 索引付けスケジュールに指定した日時に、作成のためにキューに入れられます。
- 5. 索引が停止されていて、それを開始したい場合、**□** 「**開始**」をクリックしま す。

いるときに停止した場合、または、索引のスケジュールを使用不可にした場合、 「**開始**」をクリックして索引作成を強制開始できます。

6. 索引作成がアクティブであり、それを停止したい場合、■ 「**停止**」をクリック します。

例えば、索引作成を停止する必要がある場合として、コレクション内で使用され るカテゴリー化のタイプを変更した後に索引の再編成を強制する場合などが考え られます。

7. 索引作成中にエラーが発生する場合、 🕟 「エラー」をクリックします。

「ログ・ファイルのコンテンツ」ページが表示されて、索引作成エラーに関する 追加情報を表示できます。そのページで、個々のエラー・メッセージを選択し て、問題に関する詳細を参照することができます。

#### 関連概念

149 ページの『エンタープライズ・サーチ索引の管理』 ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、エンタープライ ズ・サーチでは、 各コレクションに索引を作成し、定期的にその内容をリフレ ッシュ、再編成して保守します。

## エンタープライズ・サーチの索引キューのモニター

索引キュー内のすべての索引作成の状況の表示、作成中の索引の停止、またはキュ ーからの索引の削除を行うことができます。

#### 始める前に

索引キューを管理するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであ る必要があります。

#### このタスクについて

複数の索引を同時に作成することができますが、一度にキューに入れられるコレク ションは 1 つだけです。システムの索引オプションを構成するとき、いくつの索引 がキューおよび索引作成用リソースを同時に共用できるのかを指定します。

#### 手順

索引キューをモニターするには、次のようにします。

- 1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- 2. 「索引」ページを選択します。

索引キュー内に索引があるコレクションのリストが表示されます。それぞれの索引でとに、作成中の索引のタイプ (リフレッシュまたは再編成)、索引が索引キューに入れられた時刻、索引作成が始まった時刻 (作成が進行中である場合) が表示されます。

3. 個々の索引を管理するには、「状況」アイコンをクリックします。

例えば、ある索引がどの程度まで完了しているかを見たり、索引内の文書数を見たり、索引スケジュールを使用不可にすることができます。

4. 作成されている索引を停止するには、 ■ 「停止」をクリックします。

例えば、カテゴリー規則を変更した場合などに、索引の再編成を強制開始できるように索引のリフレッシュを停止することができます。

索引作成を停止した後に開始するには、スケジュールされている次の開始時刻に 索引が索引キューに入るのを待つか、あるいは、「状況」アイコンをクリックし て索引をモニターし、次に▶ 「開始」をクリックして索引のリフレッシュまた は再編成を行います。

5. 索引キューから索引を削除するには、**⋒** 「**除去**」をクリックします。

#### 関連概念

149ページの『エンタープライズ・サーチ索引の管理』 ユーザーが常に最新の情報にアクセスできるようにするため、エンタープライズ・サーチでは、 各コレクションに索引を作成し、定期的にその内容をリフレッシュ、再編成して保守します。

## 検索サーバーのモニター

ある特定のコレクションについて検索サーバーのアクティビティーに関する詳細な 状況情報を表示するか、または、エンタープライズ・サーチ・システム全体につい て検索サーバーの詳細な状況情報を表示することができます。

#### 始める前に

すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、管理を認可されているコレクションの検索サーバーをモニターできます。エンタープライズ・サーチ・システムのすべての検索サーバーをモニターするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。

検索サーバーの開始または停止を行うには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

#### 手順

1. 単一のコレクションの検索サーバーをモニターするには、次のようにします。

- a. 「コレクション」ビューで、 モニターしたいコレクションを見つけて、**△** 「**モニター**」をクリックします。
- b. 「検索」ページを開きます。
  - ヒント: コレクションを編集中であり、すでに「検索」ページが表示されて いる場合は、🕟 「モニター」をクリックすれば、目的のコレクショ ンをモニターするためのビューに移動できます。
- 2. エンタープライズ・サーチ・システムのすべての検索サーバーをモニターするに は、次のようにします。
  - a. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
  - b. 「検索」ページを選択します。
- 3. 検索サーバーが停止されていて、それを開始したい場合、▶ 「**開始**」をクリッ
- 4. 検索サーバーが実行中であり、それを停止したい場合は、■ 「停止」をクリッ クします。

検索キャッシュを使用可能または使用不可にした、検索キャッシュのサイズを変 更した、またはクイック・リンクを変更した場合は、変更を有効にするために、 検索サーバーを停止して、再始動する必要があります。

5. 検索サーバーが検索要求の処理に費やす時間のサマリーを表示するには、「応答 時間履歴」をクリックします。

このレポートには、ある特定の日に検索要求への応答に検索サーバーが費やした 平均時間がミリ秒で示されます。

平均応答時間は、システムのパフォーマンスの指標であり、サービス品質に対応 します。応答時間の増加は、システムに負荷がかかっていることを示します。例 えば、検索対象のコレクションの数およびコレクション・サイズがシステムの負 担になっていることが考えられます。

6. 最も頻繁にサブミットされている照会のリストを表示するには、「高頻度の照 会」をクリックします。

このレポートでは、最も頻繁にサブミットされた上位 50 の照会におけるキーワ ードと、ある特定の照会をユーザーがサブミットした回数が示されます。

高頻度の照会を検討することによって、クイック・リンクの候補を識別できま す。クイック・リンクを作成すれば、多くのユーザーのために検索品質に良い影 響を与えることができます。関連の高い文書が常に検索結果に戻されることを保 証できます。

また、これらの照会に答えるようなリソースへのエンタープライズ・ポータルか らのリンクを作成するといい場合もあります。例えば、交際費に関する情報をユ ーザーが頻繁に検索している場合に、イントラネット・ホーム・ページに、交際 費手続きを議論するページへのリンクを組み込みます。

7. 最近サブミットされた照会のリストを表示するには、「最新の照会」をクリック します。

このレポートでは、最近サブミットされた 50 個の照会におけるキーワードが示 されます。

最新の照会を検討することによって、組織における現在の傾向と緊急事態を識別 できます。例えば、何らかのトピックに対する関心が急に高まっていることなど が分かります。そのような関心の高まりは、そのトピック用のクイック・リンク の必要性を示していたり、そのトピックを他の方法 (エンタープライズ・ポータ ルでのリンクの提供など)でユーザーが使用できるようにする必要があることを 示している可能性があります。

## データ・リスナーのモニター

データ・リスナーをモニターしてその状況を確認し、クライアント・データ・リス ナー・アプリケーションのアクティビティーに関する詳細を表示します。

#### 始める前に

データ・リスナーをモニターするには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメ ンバーである必要があります。

#### 手順

データ・リスナーをモニターするには、次のようにします。

- 1. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- 2. 「データ・リスナー」ページで、状況アイコンを表示して、データ・リスナーが アクティブであるのか、停止しているのかを確認します。
- 3. データ・リスナーが稼働中で、クライアント・アプリケーションのアクティビテ ィーに関する詳細な状況情報を表示したい場合、 「詳細」をクリックしま す。

「データ・リスナー詳細」ページの状況アイコンは、データ・リスナーが稼働中 か、停止しているかを示します。統計により、処理を待っている要求の数、クラ イアント・アプリケーション要求に対して作動している各スレッドの現在の状 態、指定のスレッド状態についてアクティブなスレッドの数が示されます。

4. データ・リスナーのポート番号を変更する場合は、「」「再始動」をクリックし ます。

データ・リスナーは、エンタープライズ・サーチ・システムが開始されたときに 開始されます。データ・リスナーのポート番号を変更した場合を除き、データ・ リスナーを再始動する必要はありません。

#### 関連タスク

102 ページの『データ・リスナー・アプリケーションのサポートの構成』 外部クローラーを作成するデータ・リスナー API を使用することによって、 エ ンタープライズ・サーチを拡張することができます。カスタム・データ・リスナ ー・アプリケーションは、コレクションへのデータの追加、コレクションからの データの除去、または Web クローラーに対する URL へのアクセスおよび再ア クセスの指示を行えます。

## 文書トラッキング

文書は、処理の様々な段階でシステムから除去することができます。文書が除去さ れた時、および除去の原因となった問題の内容を確認する場合に、このオプション を指定できます。

文書の構文解析を妨げるエラーにパーサーが遭遇した場合、除去された文書に関し て、理由コードの付いたメッセージがログに記録されます。 (このタイプのエラー によって、旧バージョンの文書が索引から除去されることはありません。)

索引作成の段階で、文書が除去されることがあり、この情報もまたログに記録され ます。例えば、URI および URI パターンは、明示的に削除できます。ある文書を クロールし、クロールしたそのクローラーを後で削除してしまうということがあり ます。ソース文書がもはや存在しないか (その文書にはネガティブ HTTP コードが 関連付けられます)、またはその文書に関連付けられた HTTP コードが認識されな いことになります。また、グローバル分析を要求する文書にランク情報が欠如して いると、文書が除去されるということもあります。

クロールされた文書がわかっているが、その文書が索引に表示されない場合、エン タープライズ・サーチ管理コンソールを使用して、システム全体にわたる文書のフ ローをトラックすることができます。いつ、どこで、なぜ、その文書が除去された のかを示す詳細レポートを表示することができます。例えば、そのレポートは、グ ローバル分析中に文書が予期せずに除去されたことを示したり、または管理者によ って URI が索引から除去されたことを示したりすることがあります。

#### 関連タスク

260 ページの『URI についての詳細表示』

URI に関する詳細情報を見ることができます。この URI で表される文書がどの ようにクロール、索引付け、 検索されるのかについての現在情報および履歴情 報を知ることができます。

## 文書トラッキングに対するログ・ファイルの構成

いつ、どこで、およびなぜ、文書がシステムから除去されたかを判別する場合、除 去された文書に関する情報をトラッキングするログ・ファイルを構成することがで きます。

#### 始める前に

コレクション・レベル・メッセージの 除去された文書をトラッキングするためのオ プションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである か、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

#### このタスクについて

ログ・ファイルが消費するディスク・スペースが大きくなりすぎるのを防止するた めに、システムはログ・ファイルを循環させ、現在日付が変わるたびに新しいロ グ・ファイルを開始します。 1 つのログ・ファイルが許容最大サイズに達し、日付 が変わっていない場合、システムは新しいログ・ファイルを作成します。ログ・フ ァイルの最大数に達した場合、新しいログ・ファイルを作成できるように、最も古 いログ・ファイルが廃棄されます。

Ι I ı Т 1 Ι Ι Ι Ι Ι 

1

1

I

#### 手順

文書トラッキングのログ・ファイルを構成するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集、「ログ」ページを選択、そして「文書トラッキングの構 成」をクリックします。
- 2. 「文書トラッキング」ページで、文書トラッキングのチェック・ボックスが選択 されていることを確認します。
- 3. システムから除去された文書に関する情報をログに記録するのに使用するログ・ ファイルの数を指定します。 これらのログ・ファイルは、文書が除去される可 能性のあるすべてのセッションで共用されます。
- 4. 「**OK**」をクリックします。

### 除去された文書に関するレポートの表示

エンタープライズ・サーチ・システムから除去された文書に関する詳細情報を表示 することができます。この情報は、コレクションに対する文書トラッキングを使用 可能にした場合にのみ有効です。

#### 始める前に

除去された文書に関する要求をサブミットする、または E メール・アドレスにレポ ートを送信する前に、情報の発信元になるセッションがアクティブであることを確 認してください。例えば、構文解析中または索引作成中に除去された文書に関して 確認するには、コレクションに対するパーサーまたは索引セッションが開始してい ることを確認してください。

レポートを受信できるようにするには、その前に、メール・サーバーがエンタープ ライズ・サーチに対して確実に構成されているようにしてください。この情報は、 「システム」ビューの「ログ」ページで E メール・オプションを構成するときに指 定します。

#### このタスクについて

削除された文書に関する情報の収集は、時間のかかるプロセスです。情報を表示す る場合に、その情報が表示されるのを待つというオプションを選択できます。より 効率的なオプションは、指定した E メール・アドレスにレポートを送信するように するオプションです。

文書が除去された場合、文書が除去された日時、エラーの重大度レベル、問題が発 生したコンポーネントとセッション、およびエラー・メッセージが、そのレポート によって表示されます。

#### 手順

除去された文書に関する詳細を表示するには、次のようにします。

1. 「コレクション」ビューで、 モニター対象にしたいコレクションを見つけて、 「モニター」をクリックします。

Ι

ヒント: コレクションを編集中であり、すでに「一般」ページが表示されている 場合は、☑ 「**モニター**」をクリックすれば、目的のコレクションをモ ニターするためのビューに移動できます。

- 2. 📵 「URI の詳細」をクリックします。
- 3. 「URI の詳細」ページで、情報を見たい URI を入力します。
- 4. 見たい情報のタイプに合わせてチェック・ボックスを選択します。

#### パーサーによって除去された文書

その文書が構文解析中に除去されたのかどうか、またその場合の除去さ れた理由を参照する場合は、このチェック・ボックスを選択します。

#### 索引から除去された文書

その文書が索引作成中またはアナライズ中に除去されたのかどうか、ま たその場合の除去された理由を参照する場合は、このチェック・ボック スを選択します。

- 5. どのようにレポートを表示するかを指定します。
  - レポートが表示されるのを待つ場合は、「**レポート表**示」をクリックします。
  - 後でレポートを表示できるように E メール・アドレスにレポートを送信する には、「レポートの送信」をクリックします。

「詳細 URI レポートの送信」ページで、「通知を受け取る E メール・アド レス」フィールドに、レポートを受け取る E メール・アドレスを入力して、 「**レポートの送信**」をクリックします。

#### 関連タスク

260ページの『URI についての詳細表示』

URI に関する詳細情報を見ることができます。この URI で表される文書がどの ようにクロール、索引付け、 検索されるのかについての現在情報および履歴情 報を知ることができます。

#### 関連資料

105 ページの『エンタープライズ・サーチ索引における URI フォーマット』 エンタープライズ・サーチ索引内の各文書の Uniform Resource Identifier (URI) は、その文書をコレクションに追加したクローラーのタイプを示します。

# エンタープライズ・サーチのログ・ファイルおよびアラート

コレクションおよびシステムに対してログを記録するときのメッセージのタイプを 選択し、ログ・ファイルの作成と表示のオプション、アラート受信のオプション、 およびメッセージに関する E メール受信のオプションを指定することができます。

通常運用では、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、メッセージを共通のログ・ファイルに書き込みます。このログ・ファイルは、索引サーバーのES\_NODE\_ROOT/logs ディレクトリーにあります。管理コンソールを使用して、この共通ログ・データを表示することができます。

ネットワーク通信障害などの問題が発生すると、当該コンポーネントは、そのコンポーネントがインストールされているサーバーの logs ディレクトリーにログ・メッセージを書き込みます。これらのローカル・ログ・ファイルを表示するには、UNIX システムの tail ユーティリティーなど、当該コンピューターのファイル・ビューアーを使用してください。 このタイプのログ・ファイルの表示に管理コンソールを使用することはできません。

ログ・ファイルの構成時には、ログに記録するメッセージのタイプ (エラー・メッセージ、警告メッセージなど)の選択、古くなったログ・ファイルを廃棄して新規のログ・ファイル用のスペースを確保する場合の廃棄頻度の指定、ログ・ファイルの最大サイズの指定、およびメッセージ言語の選択を行うことができます。また、特定の事象が発生した場合や、特定のメッセージ、あるいは特定のタイプのメッセージがログに記録された場合に、必ず E メールを受信するようにするオプションを指定することもできます。

ログ・ファイルをモニターする場合、開きたいログ・ファイルを選択できます。ログ・ファイルの内容をフィルターに掛けて、特定の重大度レベル (エラー・メッセージのみなど) のメッセージ、または特定のエンタープライズ・サーチ・セッションが生成したメッセージだけを表示するように設定することができます。ログ・ファイルを表示する場合、個別のメッセージの詳細を表示することができます。例えば、メッセージを生成した機能名、その他問題を修正する際に役立つ情報を必要に応じて確認することができます。

#### 関連概念

「メッセージ・リファレンス」の『エンタープライズ・サーチのメッセージ』

# アラート

エンタープライズ・サーチでは、特定のイベントの発生が検出された場合に、メッセージをログ・ファイルに書き込むように構成することができます。

イベントによって起動され、作成されるメッセージ (アラートと呼ばれます) は、特定のリソースでフリー・スペースがなくなりかけているなど、対処が必要と思われる状態の発生を管理者に通知します。エンタープライズ・サーチでアラートを構成

する場合、システムでモニターする条件を指定します。その条件に該当する状態が 発生した場合、システムによって自動的にログ・ファイルにメッセージが書き込ま れます。

特定の状態について、直接管理者に通知されるようにしたい場合は、モニターによ る特定のメッセージがログに記録されたときに E メールを送信するオプションを指 定できます。

アラートは、コレクション・レベルのイベント、およびシステム・レベルで発生し たイベントに対して構成できます。コレクション・レベルでは、システムは、次の ような構成が可能です。

- 各クローラーがクロールする文書数をモニターし、指定された最大文書数に近く なった場合にアラート・メッセージを発行する。
- コレクションの索引に追加される文書数をモニターし、指定された最大文書数に 近くなった場合にアラート・メッセージを発行する。
- 検索要求に対する応答時間が指定した限度を超える場合に通知する。

システム・レベルでは、エンタープライズ・サーチ・サーバーのディスク・スペー スをモニターし、フリー・スペースの量が少なくなった場合にアラート・メッセー ジを発行する構成を設定することができます。

### コレクション・レベル・アラートの構成

アラートを構成することによって、特定のコレクション・レベルのイベントが発生 すると必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることができま す。また、これらのイベントに関するメッセージがログに記録されると、E メール を受信できます。

#### 始める前に

コレクションのアラートを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割の メンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要がありま す。

#### 手順

コレクション・レベルのアラートを構成するには、次のようにします。

- 1. コレクションを編集します。「ログ」ページを選択し、「アラートの構成」をク リックします。
- 2. システムが、それぞれのクローラーがクロールしている文書の数をモニターする ようにしたければ、次のステップを行います。
  - a. 「クローラーがクロールした文書数が最大許容値の一定比率に達した場合」 チェック・ボックスを選択します。
  - b. 「**比**率 (%)」フィールドに、メッセージをログに記録する時点のパーセンテ ージを指定します。 この数値は、クローラーがクロールできる最大文書数に 対するパーセンテージで指定します (クローラー・プロパティーを構成する ときに、「クロールする最大文書数」を指定します)。デフォルト値は 90 % です。

それぞれのクローラーに異なる制限を構成できるので、クローラーごとに別 個のメッセージがログに記録されます。例えば、アラートしきい値の比率は デフォルト値を使用し、 DB2 クローラーのクロール可能文書数を 200 万 (2 000 000) 文書に設定し、 Lotus Notes クローラーのクロール可能文書数を 100 万 (1 000 000) 文書に設定した場合、 DB2 クローラーが 180 万 (1 800 000) 文書をクロールした時点でメッセージがログに記録され、 Lotus Notes クローラーが 90 万 (900 000) 文書をクロールした時点で別のメッセ ージがログに記録されます。

- 3. システムが、索引に追加されている文書の数をモニターするようにしたければ、 次のステップを行います。
  - a. 「コレクション内の文書数が見積もり数の一定比率に達した場合」チェッ ク・ボックスを選択します。
  - b. 「**比率** (%)」フィールドに、メッセージをログに記録する時点のパーセンテ ージを指定します。 この数値は、コレクションが保持すると想定される見積 もり文書数のパーセンテージで指定します。デフォルト値は85%です。

「限度」フィールドに、コレクションの現在の見積もり数が表示されます。 この値を変更するには、コレクションの「一般」ページを開き、一般オプシ ョンを構成するオプションを選択して、「見積もり文書数」フィールドに新 しい値を指定します。

重要: この限度、およびあるコレクションのために構成する文書の見積もり 数は、そのコレクションの拡大をモニターするためにのみ使用されます。そ れらの数値は、索引が拡大できる大きさの絶対的な制限を押しつけるもので はありません。

- 4. システムが、検索要求の応答に必要な時間が限界を超えた場合に通知するように したければ、次のステップを行います。
  - a. 「検索応答時間が限度を超えた場合」チェック・ボックスを選択します。
  - b. 「**限度**」フィールドに、最長の検索応答時間として許容できる秒数を入力し ます。

この数を超えると、システムは、このイベントについてのログ・メッセージ を書き込みます。例えば、デフォルト値のままにした場合、システムは、検 索サーバーの検索要求に応答する時間が平均 5 秒以上かかると、ログ・メッ セージを作成します。

標準的な応答時間は、0.5 秒以内です。平均が1 秒を超える場合、オペレー ティング・システムにパフォーマンスを改善する調整が必要であるか、ある いは、検索サーバーの構成設定に問題があることを示しています。例えば、 検索キャッシュに割り振るスペースの量を増やすことも考えられます。

5. 「**OK**」をクリックします。

これらのイベントについてのメッセージをシステムがログに記録したときに、 E メ ールを受信するようにしたければ、「ログ」ページを開き、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックして、E メール・アドレスを指定しま す。使用可能にしたアラートのメッセージ ID は、E メールが送信されるメッセー ジ ID のリストに自動的に追加されます。

E メールを受信できるようにするには、その前に、ユーザーのメール・サーバーの 情報が構成されていることを確認する必要があります。これを行うには、エンター プライズ・サーチ管理者は、ツールバーの「システム」を選択し、「ログ」ページ を開いて、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」をクリックする必 要があります。

#### 関連タスク

287 ページの『ログ・メッセージについての E メールの受信』 特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら E メールを 受信するというオプションを指定できます。

### システム・レベル・アラートの構成

アラートを構成することによって、特定のシステム・レベルのイベントが発生する と必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることができます。ま た、これらのイベントに関するメッセージがログに記録されると、E メールを受信 できます。

#### 始める前に

システム・レベルのアラートを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者で なければなりません。

#### 手順

システム・レベルのアラートを構成するには、次のようにします。

- 1. 「システム」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- 「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
- 3. 「ログ」ページで、「**アラートの構成**」をクリックします。
- 4. システムが、エンタープライズ・サーチ・サーバーで使用可能なフリー・スペー スの量をモニターするようにしたい場合は、「ファイル・システムの使用可能ス ペース量が全体スペースの一定比率に達した場合」チェック・ボックスを選択し ます。
- 5. 「比率 (%)」フィールドに、システムが、サーバーのフリー・スペースの量が少 なくなったことを通知する時点のパーセンテージを指定します。 この数値は、 ファイル・システムの合計スペースに対するパーセンテージで指定します。デフ ォルト値は80%です。

使用しているエンタープライズ・サーチ・システムが複数のサーバー上にセット アップされている場合、システムは、サーバーごとに別個のログ・メッセージを 作成します。例えば、あるメッセージはクローラー・サーバー上のスペースが少 なくなったことを通知し、また別のメッセージは、索引および検索サーバーのス ペース制約について通知します。

6. 「**OK**」をクリックします。

このイベントについてのメッセージをシステムがログに記録したときに、E メール を受信するようにしたければ、「ログ」ページを開き、「メッセージに対する E メ **ール・オプションの構成**」をクリックして、E メール・アドレスと、メール・サー バーについての情報を指定します。

#### 関連タスク

287 ページの『ログ・メッセージについての E メールの受信』 特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら E メールを 受信するというオプションを指定できます。

### ログ・ファイルの構成

ログに記録したいメッセージのタイプを指定し、ログ・ファイル作成のオプション を指定できます。

#### 始める前に

コレクション・レベルのログ・ファイルを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。システム・レベルのログ・ファイルを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者でなければなりません。

#### このタスクについて

ログ・ファイルが消費するディスク・スペースが大きくなりすぎるのを防止するために、システムはログ・ファイルを循環させ、現在日付が変わるたびに新しいログ・ファイルを開始します。 1 つのログ・ファイルが許容最大サイズに達し、日付が変わっていない場合、システムは新しいログ・ファイルを作成します。ログ・ファイルの最大数に達した場合、新しいログ・ファイルを作成できるように、最も古いログ・ファイルが廃棄されます。

ログに記録されたメッセージについての E メールを受信するには、まず E メールが配信される方法に関する情報を指定します。次に、どのメッセージについて E メールを受信したいのかを指定します。

#### 手順

エンタープライズ・サーチ・ログ・ファイルを構成するには、次のようにします。

- 1. システム・レベルのログ・ファイルの作成と循環についてのオプションを構成したい場合、次のようにします。
  - a. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
  - b. **⊘** 「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
  - c. 「ログ」ページで、「**ログ・ファイル・オプションの構成**」をクリックします。 「システム・レベルのログ・ファイル・オプション」ページが表示されます。
- 2. コレクション・レベルのログ・ファイルの作成と循環についてのオプションを構成したい場合、次のようにします。
  - a. 「コレクション」ビューで、オプションを指定したいコレクションを見つけ、 **▽**「編集」をクリックします。
  - b. 「ログ」ページで、「**ログ・ファイル・オプションの構成**」をクリックします。 「コレクション・レベルのログ・ファイル・オプション」ページが表示されます。

3. 「**ログ対象の情報タイプ**」フィールドで、ログに記録したいメッセージのタイプ を選択します。

#### エラー・メッセージのみ

エラー・メッセージは、望ましくない状態または予期しない動作が発生 したことと、処理が継続できないことを示します。何らかの処置を実行 して問題を解決する必要があります。

#### エラーおよび警告メッセージ

警告メッセージは、起こりうる競合または不整合を示しますが、そのた めに処理が停止するわけではありません。このオプションがデフォルト です。

#### すべてのメッセージ

情報メッセージは、システムまたは現行タスクの一般情報を示し、修正 処置は何も必要ありません。

4. 「**各ログ・ファイルの最大サイズ**」フィールドに、各ログ・ファイルの最大サイ ズを M バイトで入力します。 デフォルト値は 5 MB です。

ログ・ファイルがこのサイズに達すると、ログ・ファイルの許容最大数に達する まで新しいログ・ファイルが作成されます。ログ・ファイルを比較的小さいサイ ズにしておくと、表示して調べるときの効率がよくなります。

5. 「**ログ・ファイルの最大数**」フィールドに、作成したいログ・ファイルの最大数 を入力します。 デフォルト値は 10 です。

古いログ・メッセージも確実に参照できるようにしたい場合は、この数値を大き くしてください。関心があるのは最近のメッセージであり、長期間のアクティビ ティー履歴を保持する必要がない場合は、この値を減らしてください。

- 6. 「**デフォルト・ロケール**」フィールドで、ログ・メッセージに使用したい言語を 選択します。デフォルト値は英語です。
- 7. 「**OK**」をクリックします。

### SMTP サーバー情報の構成

エンタープライズ・サーチのアクティビティーに関する E メールを受信できるよう にするには、その前に、SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サーバーの情報を構 成しておく必要があります。

#### 始める前に

SMTP サーバーの情報を構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメ ンバーである必要があります。

#### このタスクについて

いくつかのエンタープライズ・サーチ管理機能を使用して、E メールを受信できま す。これらの機能のいずれかから E メールを受信するには、その前に、SMTP サー バーの情報を指定する必要があります。

コレクション・レベルのアラートまたはシステム・レベルのアラートを構成する と、これらのメッセージがログに記録されるかどうかに関係なく、E メールを受 信できます。また、モニター対象のイベントに起因するメッセージだけでなく、 他のメッセージがログに記録されたときに E メールを受信することもできます。

- 索引内の URI またはエンタープライズ・サーチ・システムからドロップされた 文書に関して詳しい情報を表示したい場合、レポートを E メールで受け取ること ができます。
- Web クローラーをモニターし、Web クローラーの履歴レポートを作成するよう 指定した場合、レポートの作成後に E メールで通知されます。

#### 手順

SMTP サーバーの情報を構成するには、次のようにします。

- 1. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
- 2. / 「編集」をクリックして、システム編集ビューに移動します。
- 3. 「ログ」ページで、「**メッセージに対する E メール・オプションの構成**」をクリックします。
- 4. 「システム・メッセージに対する E メール・オプション」ページで、「E メール配信に使用する SMTP メール・サーバー」フィールドに、使用したい SMTP サーバーの完全修飾ホスト名または IP アドレスを入力します。

システムは、このサーバーを使用して、指定したアドレスに E メールを送信します。

5. 「E メールの確認頻度」フィールドに、適格メッセージのチェックとそれらに関する E メールの送信をシステムが行う頻度を指定します。

システムは、1 つの特定の E メール・アドレス向けのメッセージはすべて結合して 1 つのメッセージにし、指定した頻度でそのメッセージを送信します。

6. 「**OK**」をクリックします。

### ログ・メッセージについての E メールの受信

特定のメッセージまたはメッセージ・タイプがログに記録されたら E メールを受信するというオプションを指定できます。

#### 始める前に

システム・レベル・メッセージの E メール・オプションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーである必要があります。コレクション・レベル・メッセージの E メール・オプションを構成するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、そのコレクションのコレクション管理者である必要があります。

E メールを受信できるようにするには、最初に、E メールが送達できるように SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サーバーの情報を構成しておく必要がありま す。

#### このタスクについて

アラートの構成では、特定のイベントが発生したらメッセージをログに記録するというオプションを選択できます。それらのオプションを使用可能にした場合、それ

らのメッセージがログに記録されたら自動的に E メールを受信するというオプショ ンを構成できます。また、イベントに起因するメッセージだけでなく、他のメッセ ージがログに記録されたときに E メールを受信するというオプションを指定するこ ともできます。

#### 手順

メッセージについての E メール・オプションを構成するには、次のようにします。

- 1. システム・メッセージに関して E メールを受け取りたい場合は、次のようにし ます。
  - a. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
  - b. **▽ 「編集」**をクリックして、システム編集ビューに移動します。
  - c. 「ログ」ページで、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」を クリックします。
  - d. 「システム・メッセージの E メール・オプション」ページで、「**システム・** レベル・メッセージに関する E メールを送信する」チェック・ボックスを選 択します。
  - e. 「E メール受信用 E メール・アドレス」フィールドに、1 つ以上の E メー ル・アドレスを入力します。 通常、エンタープライズ・サーチ管理者は、シ ステム・メッセージに関する情報を受信する必要があります。

各アドレスはコンマで区切ってください。例えば、次のとおりです。

steinbeck@us.ibm.com, yeats@ireland.ibm.com, dante@it.ibm.com

- f. ログに記録されるすべてのエラー・メッセージについて E メールを受信した い場合は、「全エラー・メッセージに関する E メールを送信する」チェッ ク・ボックスを選択します。
- g. 特定のシステム・レベル・メッセージがログに記録されたときにのみ E メー ルを受信したい場合は、「特定のメッセージに関する E メールを送信する」 領域でそれらのメッセージのメッセージ ID を入力します。 1 行につき 1 つのメッセージ ID を入力してください。例えば、次のとおりです。

FF0C4819E FF000005E

デフォルトでは、いくつかのメッセージ ID がリストされます (これらのメ ッセージの説明については、「ヘルプ」をクリックしてください)。

- h. 「OK」をクリックします。
- 2. コレクションのメッセージに関して E メールを受け取りたい場合は、次のよう にします。
  - a. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
  - b. コレクションのリストで、構成したいコレクションを見つけ、 ☑ 「編集」を クリックします。
  - c. 「ログ」ページで、「メッセージに対する E メール・オプションの構成」を クリックします。
  - d. 「コレクション・メッセージの E メール・オプション」ページで、「**コレク** ション・レベル・メッセージに関する E メールを送信する」チェック・ボッ クスを選択します。

e. 「E メール受信用 E メール・アドレス」フィールドに、1 つ以上の E メー ル・アドレスを入力します。 通常、コレクション管理者は、コレクション・ レベルのメッセージに関する情報を受信する必要があります。

各アドレスはコンマで区切ってください。例えば、次のとおりです。

steinbeck@us.ibm.com, yeats@ireland.ibm.com, dante@it.ibm.com

- f. ログに記録されるすべてのエラー・メッセージについて E メールを受信した い場合は、「全エラー・メッセージに関する E メールを送信する」チェッ ク・ボックスを選択します。
- g. 特定のコレクション・レベル・メッセージがログに記録されたときにのみ E メールを受信したい場合は、「特定のメッセージに関する E メールを送信す **る**」領域でそれらのメッセージのメッセージ ID を入力します。 1 行につき 1 つのメッセージ ID を入力してください。例えば、次のとおりです。

FF0C4819E FFQ00005E

デフォルトでは、いくつかのメッセージ ID がリストされます (これらのメ ッセージの説明については、「ヘルプ」をクリックしてください)。

h. 「OK」をクリックします。

#### 関連概念

「メッセージ・リファレンス」の『エンタープライズ・サーチのメッセージ』

#### 関連タスク

282 ページの『コレクション・レベル・アラートの構成』

アラートを構成することによって、 特定のコレクション・レベルのイベントが 発生すると必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることがで きます。また、これらの イベントに関するメッセージがログに記録されると、E メールを受信できます。

284 ページの『システム・レベル・アラートの構成』

アラートを構成することによって、特定のシステム・レベルのイベントが 発生 すると必ずログ・ファイルにメッセージが書き込まれるようにすることができま す。また、これらの イベントに関するメッセージがログに記録されると、E メ ールを受信できます。

# ログ・ファイルの表示

システムおよびコレクション・コンポーネントが共通ログ・ファイルに書き込むロ グ・メッセージを表示できます。また、フィルターを指定して、特定の重大度レベ ルのメッセージ、および特定のエンタープライズ・サーチ・セッションのメッセー ジのみを表示することもできます。

#### 始める前に

すべてのエンタープライズ・サーチ管理ユーザーは、管理を認可されているコレク ションのログ・ファイルを表示できます。システム・レベルのログ・ファイルを表 示するには、エンタープライズ・サーチ管理者役割のメンバーであるか、または 「システム」ツールバーへのアクセス許可を持っている必要があります。

#### 手順

- 1. 単一のコレクションのログ・ファイルを表示するには、次のようにします。
  - a. 「**コレクション**」をクリックして「コレクション」ビューを開きます。
  - b. コレクションのリストで、表示したいコレクションを指して、**□** 「**モニタ** ー」をクリックして、「ログ」ページを開きます。

**ヒント:** コレクションを編集中であり、すでに「ログ」ページが表示されている場合は、 「モニター」をクリックすれば、コレクションをモニターするためのビューに移動できます。

- 2. システム・レベルのログ・ファイルを表示するには、次のようにします。
  - a. 「**システム**」をクリックして「システム」ビューを開きます。
  - b. 「ログ」ページを選択します。
- 3. 「**ログ・ファイル**」フィールドで、表示したいログ・ファイルを選択します。

各ログ・ファイルの名前には、ログ・ファイルのタイプ (システムまたはコレクション ID など)、作成日、その日の作成順を示す数値が含まれています。例えば、次のとおりです。

log\_file\_type\_2005-05-26\_1.log
log\_file\_type\_2005-05-26\_2.log
log\_file\_type\_2005-05-25\_1.log
log\_file\_type\_2005-05-25\_2.log
log\_file\_type\_2005-05-25\_3.log

- 4. 特定の重大度レベルのメッセージのみを表示するには、「**重大度**」フィールドで 適切なチェック・ボックスを選択します。
- 5. 特定のセッションからのメッセージのみを表示するには、「**セッション**」フィールドで適切なチェック・ボックスを選択します。
- 6. 「ログの表示」をクリックします。

「ログ・ファイルのコンテンツ」ページの各メッセージごとに、メッセージが発行された日時、メッセージ重大度レベル、メッセージを発行したセッションの名前、およびメッセージ ID とエラー・テキストが表示されます。

ボタンをクリックすることで、ログ・ファイルの先頭ページ、最終ページ、直前のページ、または次のページに移動することができます。ページ番号を指定することで、そのページに直接移動することもできます。

7. メッセージについて詳しい情報を表示したい場合は、 **⑤** 「**詳細**」をクリックします。

「ログ・メッセージの詳細」ページに、メッセージを出したエンタープライズ・サーチ・サーバーのホスト名、エラーを引き起こしたファイルの名前、エラーが発生した関数名および行番号、プロセス ID、スレッド ID が表示されます。

290

# エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップとリストア

バックアップ・スクリプトおよびリストア・スクリプトを使用して、エンタープライズ・サーチ・システムをバックアップおよびリストアすることができます。

回復不能エラーによるシステム障害が発生した場合は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を再インストールし、リストア・スクリプトを実行する必要があります。また、これらのスクリプトは、1 つまたは複数の新規サーバーに対して基本的な必須システム・ファイルをリストアする場合に使用することもできます。

これらのスクリプトは、次のファイルをバックアップおよびリストアします。

- ES\_NODE\_ROOT/master\_config ディレクトリーの構成ファイル。
- クローラーのデータベース・ファイル。
- 索引ファイル。エンタープライズ・サーチ索引ファイルが ES\_NODE\_ROOT/data ディレクトリーにない場合は、エンタープライズ・サーチ・スクリプトを使用して索引ファイルをバックアップおよびリストアすることはできません。

バックアップ・スクリプトは、スクリプトの実行時に指定したディレクトリーの下に以下のサブディレクトリーを作成します。 (エンタープライズ・サーチ管理者 ID は、指定したディレクトリーに対して書き込み許可を持っている必要があります。)

#### master\_config

ES\_NODE\_ROOT/master\_config ディレクトリーの構成ファイルが保管されます。

#### database

クローラー・サーバーのデータベース・ファイルが保管されます。

data 索引サーバーの索引ファイルが保管されます。

エンタープライズ・サーチ・システム・ファイルを別のディレクトリーにバックアップする場合、十分なディスク・スペースを確保する必要があります。バックアップ・スクリプトおよびリストア・スクリプトでは、ファイルのチェックは行いません。また、バックアップを開始すると、ほとんどのシステム・セッションは一時的に使用不可になりますが、検索プロセスは継続して実行されます。索引を再編成してからバックアップを開始してください。そうすることにより、最新の索引を使用することができます。

マルチサーバー・インストールの場合、システムのバックアップおよびリストアは、エンタープライズ・サーチ索引サーバーから行ってください。索引サーバーは、データベース・カタログを作成するため、クローラー・サーバーの製品データベース表にアクセスし、バックアップすることができます。

#### 関連資料

297ページの『エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッション ID』

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッショ ンの開始および停止、 あるいはシステムの始動および停止を行うことができま

### エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップ

エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップは、 UNIX の場合は esbackup.sh スクリプトを、 Microsoft Windows の場合は esbackup.bat スクリプト を使用して行います。

#### 制約事項

バックアップ・スクリプトおよびリストア・スクリプトの実行中は、すべてのシス テム・セッションが停止されます。誤ったシステム情報または矛盾するシステム情 報が表示されるのを回避するため、スクリプトの実行中は、エンタープライズ・サ ーチ管理コンソールを使用しないでください。

エンタープライズ・サーチ管理者 ID には、バックアップ・スクリプトを実行する ときに指定するディレクトリーへの書き込み権限が必要です。

#### 手順

エンタープライズ・サーチ・システムをバックアップするには、次のようにしま

- 1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。 こ のユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定さ れたものです。
- 2. 以下のコマンドを入力します。backup directory は、ファイルをバックアップ するディレクトリーです。

UNIX: esbackup.sh -c -d -i backup directory Windows: esbackup.bat -c -d -i backup directory

指定できるオプションは、次のとおりです。

- 構成ファイルをバックアップします。これはデフォルト・オプションで
- クローラー・データ・ストア内のクロールされた文書をバックアップし -d ます (これらの文書はまだ構文解析または索引付けされていません)。
- 索引ファイルをバックアップします。索引ファイルが -i ES\_NODE\_ROOT/data ディレクトリーにない場合は、 esbackup スクリ プトを使用して索引ファイルをバックアップすることはできません。

#### 関連資料

297ページの『エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッ ション ID』

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッショ ンの開始および停止、 あるいはシステムの始動および停止を行うことができま す。

## エンタープライズ・サーチ・システムのリストア

WebSphere II OmniFind Edition を再インストールした後、 esrestore.sh スクリプト (UNIX) または esrestore.bat スクリプト (Microsoft Windows) を使用して、システム 構成ファイルをリストアできます。

#### 制約事項

バックアップ・スクリプトおよびリストア・スクリプトの実行中は、すべてのシス テム・セッションが停止されます。誤ったシステム情報または矛盾するシステム情 報が表示されるのを回避するため、スクリプトの実行中は、エンタープライズ・サ ーチ管理コンソールを使用しないでください。

#### 手順

Ι

Ι

Ι

1

Ι

エンタープライズ・サーチ・システムをリストアするには、次のようにします。

- 1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。 こ のユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定さ れたものです。
- 2. 共通通信層 (CCL) が開始されていない場合、これを開始します。

UNIX: startccl.sh -bg Windows: startccl.bat

Windows システムで CCL をバックグラウンドで開始するには、「**スタート**」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」の順にクリックし、 WebSphere Information Integrator OmniFind Edition サービスを再始動します。

3. コントローラーがまだ停止されていない場合は、次のコマンドによって停止しま す。

esadmin stop

4. 以下のコマンドを入力します。ここで、backup directory は、ファイルをバッ クアップしたディレクトリーです。

UNIX: esrestore.sh -c -d -i backup directory Windows: esrestore.bat -c -d -i backup directory

指定できるオプションは、次のとおりです。

- 構成ファイルをリストアします。これはデフォルト・オプションです。
- クローラー・データ・ストア内のクロール済み文書をリストアします。 -d (これらの文書は、まだ構文解析も索引作成もされていません。)
- 索引ファイルをリストアします。索引ファイルが ES NODE ROOT/data -i ディレクトリーにない場合、esrestore スクリプトを使用して索引ファイ ルをリストアすることはできません。

#### 関連資料

297ページの『エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッ ション ID』

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッショ ンの開始および停止、 あるいはシステムの始動および停止を行うことができま

# エンタープライズ・サーチ・システム・ファイルを新規のサーバーにリスト アする

システム・ファイルをあるエンタープライズ・サーチ・サーバーからバックアップ して、そのシステム・ファイルを現行サーバーではなく、1 基または複数の新規の サーバーにリストアすることもできます。

#### 始める前に

リストア・スクリプトを実行する前に、WebSphere II OmniFind Edition を対象とな る新規のサーバーにインストールしておく必要があります。

#### 制約事項

バックアップ・スクリプトおよびリストア・スクリプトの実行中は、すべてのシス テム・セッションが停止されます。誤ったシステム情報または矛盾するシステム情 報が表示されるのを回避するため、スクリプトの実行中は、エンタープライズ・サ ーチ管理コンソールを使用しないでください。

エンタープライズ・サーチ管理者 ID には、バックアップ・スクリプトを実行する ときに指定するディレクトリーへの書き込み権限が必要です。

#### このタスクについて

ES NODE ROOT/master config/nodes.ini ファイルに格納されているサーバー情報 は、バックアップ・ファイルには含まれていません。

#### 手順

- 1 基または複数の新規のサーバーにエンタープライズ・サーチのシステム・ファイ ルをリストアするには、次のようにします。
- 1. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。 こ のユーザー ID は、WebSphere II OmniFind Edition のインストール時に指定さ れたものです。
- 2. バックアップ・スクリプトを現行 (リストア元) 索引サーバーで実行します。こ こで、 backup directory は、ファイルをバックアップするディレクトリーで す。

UNIX: esbackup.sh backup directory Windows: esbackup.bat backup directory

- 3. FTP プログラムを使用して、backup directory 内のすべてのファイルを新規の 索引サーバーに送信します。
- 4. 新規の索引サーバーでリストア・スクリプトを実行します。

UNIX: esrestore.sh backup directory Windows: esrestore.bat backup directory

### 関連資料

297ページの『エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッ ション ID』

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッショ ンの開始および停止、 あるいはシステムの始動および停止を行うことができま

# 」エンタープライズ・サーチ・コマンド、戻りコード、およびセッシ □ ョン ID

コマンドを使用して、問題の診断、システムの別の部分の状況の判別、セッション の開始および停止、あるいはシステムの始動および停止を行うことができます。

複数のサーバーがインストールされている環境では、システム内のどのサーバーからでもコマンドを実行することができます。しかしながら、索引サーバーからコマンドを実行することをお勧めします。索引サーバー (コントローラー・サーバー)は、システム内にある他のすべてのシステムの情報にアクセスすることができます。

大部分のコマンドは、以下のようなフォーマットです。

 $\begin{array}{lll} {\rm esadmin} & {\it command\_name} & {\it arguments} \\ {\rm esadmin} & {\it session\_ID} & {\it action} & {\it -option} \\ \end{array}$ 

すべてのコマンドについて詳しく知りたい場合は、esadmin help と入力してください。特定のコマンドについて詳しく知りたい場合は、esadmin action help と入力してください。

### エンタープライズ・サーチ esadmin コマンド

次のコマンドを 1 行に入力します。

Ⅰ 表 5. エンタープライズ・サーチ esadmin コマンド

1

Ι

ı

Ι

1	コマンド	説明
 	esadmin crawler_session_id start	クローラー・セッションを開始します。このコマンドでは、クロ ール・アクティビティーは開始されません。
I		コマンドの例:
Ι		esadmin coll.WEB1.esadmin start
ı		メッセージおよび戻りコードの例:
   		FFQC5310I WEBCrawler1 (sid: coll.WEB1.esadmin) is not running. FFQC5314I Result: 0
1	esadmin crawler_session_id startCrawl	クロールを開始します。
I		コマンドの例:
١		esadmin col3.DB21.esadmin startCrawl
ī		メッセージおよび戻りコードの例:
   		FFQC5303I DB2Crawler1 (sid: col3.DB21.esadmin) is already running. PID: 23650 FFQC5314I Result: 0

| 表 5. エンタープライズ・サーチ esadmin コマンド (続き)

I	コマンド	説明
	esadmin crawler_session_id pause	クロールを一時停止します。
-		コマンドの例:
I		esadmin col3.DB21.esadmin pause
1		メッセージおよび戻りコードの例:
   		FFQC5303I DB2Crawler1 (sid: col3.DB21.esadmin) is already running. PID: 23650 FFQC5314I Result: 0
	esadmin crawler_session_id resume	クロールを再開します。
I		コマンドの例:
I		esadmin col3.DB21.esadmin resume
I		メッセージおよび戻りコードの例:
   		FFQC5303I DB2Crawler1 (sid: col3.DB21.esadmin) is already running. PID: 23650 FFQC5314I Result: 0
	esadmin crawler_session_id stopCrawl	クロールを停止します。
I		コマンドの例:
1		esadmin col3.DB21.esadmin stopCrawl
		メッセージおよび戻りコードの例:
   		FFQC5303I DB2Crawler1 (sid: col3.DB21.esadmin) is already running. PID: 23650 FFQC5314I Result: 0
	esadmin crawler_session_id stop	クローラー・セッションを停止します。
I		コマンドの例:
I		esadmin col3.DB21.esadmin stop
I		メッセージおよび戻りコードの例:
   		FFQC5303I DB2Crawler1 (sid: col3.DB21.esadmin) is already running. PID: 23650 FFQC5314I Result: 0

| 表 5. エンタープライズ・サーチ esadmin コマンド (続き)

コマンド	説明
esadmin <i>crawler_session_id</i> getCrawlerStatus	クローラーの状況を取得します。戻される情報は、そのクローラーが Web クローラーであるか、あるいはその他すべてのデータ・ソース用のクローラーであるかによって決まります。
	Web クローラーの場合の例:
	esadmin coll.WEB1.esadmin getCrawlerStatus
	Web クローラーの場合の戻りコードおよびメッセージの例:
	FFQC5303I WebCrawler1 (sid: col1.WEB1.esadmin) is already running. PID: 23650
	Web 以外のクローラーの場合の例:
	esadmin col3.DB21.esadmin getCrawlerStatus
	Web 以外のクローラーの場合の戻りコードおよびメッセージの例:
	FFQC5303I db2crawler (sid: db2col.DB2_96945) is already running. PID: 5936
	戻される状況メッセージについて詳しくは、 303 ページの『状況コマンドの詳細情報』 を参照してください。
esadmin dscrawler_session_id getCrawlSpaceStatus	Web 以外のクローラーのクロール・スペース状況概要を取得します。
esadmin web_crawler_session_id getCrawlStatus	コマンドの例:
-selections value	esadmin col3.DB21.esadmin getCrawlSpaceStatus
	メッセージおよび戻りコードの例:
	FFQC5303I DB2Crawler1 (sid: col3.DB21.esadmin) is already running. PID: 23650
	Web クローラーのクロール・スペース状況概要を取得します。
	コマンドの例:
	esadmin coll.WEB1.esadmin getCrawlStatus
	戻される状況メッセージについて詳しくは、 303 ページの『状況コマンドの詳細情報』 を参照してください。

| 表 5. エンタープライズ・サーチ esadmin コマンド (続き)

コマンド	説明		
esadmin dscrawler_session_id getCrawlSpaceStatusDetail -ts target_server_id esadmin webcrawler_session_id getCrawlDetailsPerSite -url string selections num -threshold num	Web 以外のクローラーのクロール・スペース状況詳細を取得します。ターゲット・サーバーのオプションを指定しないと、すべてのターゲット・サーバーのデータが戻されます。例えば、DB2クローラーが FOUNTAIN および SAMPLE データベースをクロールする場合、ターゲット・サーバー・オプションを指定しないと、FOUNTAIN および SAMPLE データベースのすべての表の状況が戻されます。		
	コマンドの例:		
	esadmin col3.DB21.esadmin getCrawlSpaceStatusDetail -ts FOUNTAIN		
	メッセージおよび戻りコードの例:		
	FFQC5303I DB2Crawler1 (sid: col3.DB21.esadmin) is already running. PID: 23650		
	Web クローラーのクロール・スペース状況詳細を取得します。		
	コマンドの例:		
	esadmin col1.WEB1.esadmin getCrawlDetailsPerSite		
	戻される状況メッセージについて詳しくは、 303 ページの『状況コマンドの詳細情報』 を参照してください。		
esadmin startParser -cid collection_ID	パーサーを開始します。		
	コマンドの例:		
	esadmin startParser -cid col1		
	メッセージおよび戻りコードの例:		
	FFQC5303I Controller (server1) (sid: controller) is already running. PID: 25917 FFQC5314I Result: 0		
esadmin stopParser collection_id	パーサーを停止します。		
	コマンドの例:		
	esadmin stopParser -cid coll		
	メッセージおよび戻りコードの例:		
	FFQC5303I Controller (node1) (sid: controller) is already running. PID: 15292 FFQC5312E Error executing action: [stopParser] FFQC4823E Session Parser Driver - Collection coll (node1) [coll.parserdriver] is not running.		

Ⅰ 表 5. エンタープライズ・サーチ esadmin コマンド (続き)

コマンド	説明
esadmin monitor getCollectionParserMonitorStatus	パーサーの状況を取得します。
-cid collection_ID	コマンドの例:
	esadmin monitor getCollectionParserMonitorStatus -cid coll
	メッセージおよび戻りコードの例:
	FFQC5303I Monitor (node1) (sid: monitor) is already running. PID: 12543
	戻される状況メッセージについて詳しくは、 303 ページの『状況コマンドの詳細情報』 を参照してください。
esadmin startMain -cid collection_id	索引の再編成を開始します。
	コマンドの例:
	esadmin startMain -cid col1
	メッセージおよび戻りコードの例:
	FFQC5303I Controller (node1) (sid: controller) is already running. PID: 25917 FFQC5314I Result: 1117671147056
esadmin startDelta -cid collection_id	索引のリフレッシュを開始します。
	コマンドの例:
	esadmin startDelta -cid col1
	メッセージおよび戻りコードの例:
	FFQC5303I Controller (node1) (sid: controller) is already running. PID: 4548 FFQC5314I Result: 1117670603408
esadmin monitor getCollectionIndexMonitorStatus -cid collection_id -buildType [main   delta] -numrecords lastNrecords	索引のリフレッシュまたは再編成の状況を取得します。 (main 索引は、再編成された索引を参照します。delta 索引は、リフレッシュされた索引を参照します。オプション numrecords を指定すると、最後の N 個の索引作成状況レポートが表示されます。 numrecords を省略した場合は、最後の 20 個の索引作成状況が戻されます。
	コマンドの例:
	esadmin monitor getCollectionIndexMonitorStatus -cid coll -buildType main -numrecords 4
	メッセージおよび戻りコードの例:
	FFQC5303I Monitor (node1) (sid: monitor) is already running. PID: 12649
	戻される状況メッセージについて詳しくは、 303 ページの『状況コマンドの詳細情報』 を参照してください。

コマンド	説明
esadmin startSearch -cid collection_id	検索サーバー・プロセスを開始します。
	コマンドの例:
	esadmin startSearch -cid col1
	メッセージおよび戻りコードの例:
	FFQC5303I Controller (node1) (sid: controller) is already running. PID: 25917 FFQC5314I Result: 0
esadmin stopSearch -cid collection_id	検索サーバー・プロセスを停止します。
	コマンドの例:
	esadmin stopSearch -cid col1
	メッセージおよび戻りコードの例:
	FFQC5303I Controller (node1) (sid: controller) is already running. PID: 15292 FFQC5314I Result: 0
esadmin monitor	検索サーバーの状況を取得します。
getCollectionSearchMonitorStatus -cid collection_id	コマンドの例:
esadmin <i>searchmanager_session_id</i> getStatus -cid <i>collection_id</i>	<pre>esadmin monitor getCollectionSearchMonitorStatus -cid coll</pre>
	メッセージおよび戻りコードの例:
	FFQC5303I Monitor (node1) (sid: monitor) is already running. PID: 12649
	所定の検索サーバー上のコレクションに関する詳細な検索索引: 況情報を戻します。検索サーバーごとに、検索マネージャー・ッションが 1 つあります。特定の検索サーバー上の検索索引をモニターおよび操作するのは、各検索マネージャー・セッショの役目です。
	コマンドの例:
	esadmin searchmanager.node1 getStatus -cid col1
	メッセージおよび戻りコードの例:
	FFQC5303I Search Manager (node1) (sid: searchmanager.node1) is already running. PID: 15711 FFQC5314I Result: PID=18390 CacheHits=3 QueryRate=1 Port=44008 SessionId=col1.runtime.node1 CacheHitRate=0.333 ResponseTime=70 Status=1 SessionName=col1.runtime.node1.1
	戻される状況メッセージについて詳しくは、 303 ページの『∜
	況コマンドの詳細情報』 を参照してください。

#### 状況コマンドの詳細情報

ı

1

1

П

Ι

コマンドの中には、広範囲にわたる情報を戻せるものがあります。このセクション では、クローラー状況およびクロール・スペース状況に関して戻すことができる情 報について説明します。 297 ページの『エンタープライズ・サーチ esadmin コマ ンド』 の表で、各 esadmin コマンドから戻される情報を示しています。このセク ションでは、以下のコマンドから戻される情報について説明します。

- Web クローラー状況
- Web 以外のクローラー状況
- Web クローラーのクロール・スペース状況
- Web 以外のクローラーのクロール・スペース状況
- Web クローラーの詳細なクロール・スペース状況
- Web 以外のクローラーの詳細なクロール・スペース状況
- パーサー状況
- 索引作成状況
- 検索サーバー状況
- 詳細な検索サーバー状況

Web クローラー状況: Web クローラー状況を取得するコマンドを実行すると、 XML 文書フォーマットで情報が戻されます。 Web クローラー状況コマンドによっ て、以下の情報を戻すことができます。

```
FFQC5314I Result: <?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<CrawlerStatus>
<CrawlerRunLevel Value="Running"/>
<CrawlerThreadStateDist Count="4" Total="200">
<CrawlerThreadState State="FETCHING" Count="100"/>
</CrawlerThreadState State="FETCHING" Count=100>
<ActiveBucketList Count="500">
<ActiveBucket URL="http://w3.ibm.com/"</pre>
                 NumActURLs="355"
                 NumProcURLs="350"
                 TimeRem="5" Duration="1195"/>
</ActiveBucketList>
<CrawlRate Value="75"/>
<RecentlyCrawledURLList Count="40">
<RecentlyCrawledURL URL="http://w3.ibm.com/foo.html"/>
<RecentlyCrawledURL URL="http://w3.ibm.com/foo.html"/>
<NumURLsThisSession Value="160000"/>
</CrawlerStatus>
```

以下の表で、Web クローラー状況コマンドによって戻される各 XML エレメントお よびその属性について説明します。

### Ⅰ 表 6. Web クローラー状況情報

エレメント	属性	説明
CrawlerStatus	CrawlerThreadStateDist	クローラー状況。
	ActiveBucketList	
	CrawlRate	
	RecentlyCrawledURLList	
	• NumURLsThisSession	
CrawlerRunLevel Value	<ul> <li>ストリング (英語) 『Not started』: クローラー・セッションが存在します。しかし、文書を処理するための開始メッセージはまだ受け取っていません。</li> </ul>	クローラーが何をしているかという情報。
	<ul><li>『Started』: クローラーは開始しています。</li></ul>	
	<ul> <li>『Running』: クローラーは初期化および開始 処理を終えて、アクティブな状態でクロールし ています。</li> </ul>	
	<ul><li>『Paused』: クローラーは、アクティブ・クロールを中断し、しかし終了はしないように指示されました。</li></ul>	
	<ul><li>『Stopping』: クローラーはストップ信号を受け取り、停止しようとしています。</li></ul>	
	<ul><li>『Error』: クローラーはリカバリー不能な状態 に陥っており、クロールを再開するにはクロー ラーを停止および再開する必要があります。</li></ul>	
CrawlerThreadState State	ストリング (英語)	クローラー・スレッドのアクテ ビティー。このフィールドは、 レッド (1 つまたは複数) が何る しているかということを示しま す。
ActiveBucket	• URL: ストリング (URL 仕様)	指定された Web サイトの現在のアクティビティー。
	URL をクロールしているプロトコル、ホスト、およびポート。	
	• NumActURLs: 整数 (正数)	
	クロール用にバケットが使用可能になった (ア クティブになった) ときの、そのバケット内の URL の数。	
	• NumProcURLs: 整数 (負数以外)	
	<ul><li>それまでに処理された (クロールまたは拒否された) バケットの URL の数。</li><li>TimeRem: 正数</li></ul>	
	バケットがタイムアウトになるまでの残りの秒	
	数。 • Duration: 整数 (負数以外)	
	Zamani Ew (Nami)	
	バケットがアクティブになってからの秒数。	

#### ↓ 表 6. Web クローラー状況情報 (続き)

-	エレメント	属性	説明
I	CrawlRate	值:整数 (負数以外)	クローラーのスループット測定。
		1 秒あたりにクロールされたページ (全バケット を結合したもの)。	
I	RecentlyCrawledURL	URL: ストリング (URL 仕様)	最近クロールされたページ。
 		クロールされたプロトコル、ホスト、ポート、お よびファイルを示すストリング。	
   	NumURLsThisSession	値:整数 (負数以外)	クローラー (プロセス) のこのイ ンスタンスがクロールを開始して からクロールされた URL の数。

Web 以外のクローラー状況: Web 以外のクローラー状況を取得するコマンドを実行すると、XML 文書フォーマットで情報が戻されます。 Web 以外のクローラー状況コマンドによって、以下の情報を戻すことができます。

FFQC5314I Result: <?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>

<GeneralStatus>

<Status>0</Status>

<StatusMessage>Idle</StatusMessage>

<NumberOfServers>1</NumberOfServers>

<NumberOfCompletedServers>1</NumberOfCompletedServers>

<NumberOfTargets>3</NumberOfTargets>

<NumberOfCompletedTargets>3</NumberOfCompletedTargets>

<NumberOfCrawledRecords>115</NumberOfCrawledRecords>

<RunningThreads>0</RunningThreads>

</GeneralStatus>

以下の表で、Web クローラー以外の各エンタープライズ・サーチ・クローラーでの、XML エレメントおよび属性について説明します。この情報は、クローラー状況コマンドで戻されるものです。

| 表 7. クローラー状況コマンドで戻される、NNTP クローラー、DB2 クローラー、および Notes クローラーのエレメン | トおよび属性

エレメントおよび属性の名前	NNTP クローラー	DB2 クローラー	Notes クローラー
Status	状況 (0、1、2、-1)	状況 (0、1、2、-1)	状況 (0、1、2、-1)
StatusMessage	状況: 0 - アイドル、1 - 実行中、2 - 休止、-1 - エ ラー	状況: 0 - アイドル、1 - 実行中、2 - 休止、-1 - エ ラー	状況: 0 - アイドル、1 - 実行中、2 - 休止、-1 - エ ラー
NumberOfServers	クロール・スペース内の NNTP サーバーの数。	クロール・スペース内のデ ータベースの数。	クロール・スペース内のデ ータベースの数。
NumberOfCompletedServers	クロールされた NNTP サ ーバーの数。	クロールされたデータベー スの数。	クロールされたデータベー スの数。
NumberOfTargets	クロール・スペース内の新 規グループの数。	クロール・スペース内のデ ータベースの数。	クロール・スペース内のビ ューおよびフォルダーの 数。
NumberOfCompletedTargets	クロールされた新規グルー プの数。	クロールされた表の数。	クロールされたビューおよ びフォルダーの数。
NumberOfCompletedRecords	クロールされた項目の数。	クロールされたレコードの 数。	クロールされた文書の数。

Ⅰ 表 7. クローラー状況コマンドで戻される、NNTP クローラー、DB2 クローラー、および Notes クローラーのエレメン トおよび属性 (続き)

エレメントおよび属性の名前	NNTP クローラー	DB2 クローラー	Notes クローラー
RunningThreads	クローラー・スレッドの	クローラー・スレッドの	クローラー・スレッドの
	数。	数。	数。

Ⅰ 表 8. クローラー状況コマンドで戻される、Exchange Server クローラー、DB2 Content Manager クローラー、および □ Content Edition クローラーのエレメントおよび属性

	Exchange Server クローラ	DB2 Content Manager ク	Content Edition クローラ
エレメントおよび属性の名前	_	ローラー	_
Status	状況 (0、1、2、-1)	状況 (0、1、2、-1)	状況 (0、1、2、-1)
StatusMessage	状況: 0 - アイドル、1 -	状況: 0 - アイドル、1 -	状況: 0 - アイドル、1 -
	実行中、2 - 休止、-1 - エ	実行中、2 - 休止、-1 - エ	実行中、2 - 休止、-1 - エ
	ラー	ラー	ラー
NumberOfServers	クロール・スペース内の Exchange Server サーバー の数。	クロール・スペース内の Content Manager サーバー の数。	クロール・スペース内のリ ポジトリーの数。
NumberOfCompletedServers	クロールされた Exchange	クロールされた Content	クロールされたリポジトリ
	Server サーバーの数。	Manager サーバーの数。	ーの数。
NumberOfTargets	クロール・スペース内のサ	クロール・スペース内の項	クロール・スペース内のク
	ブフォルダーの数。	目タイプの数。	ラスの数。
NumberOfCompletedTargets	クロールされたサブフォル	クロールされた項目タイプ	クロールされた項目クラス
	ダーの数。	の数。	の数。
NumberOfCompletedRecords	クロールされた文書の数。	クロールされた文書の数。	クロールされた文書の数。
RunningThreads	クローラー・スレッドの	クローラー・スレッドの	クローラー・スレッドの
	数。	数。	数。

I 表 9. クローラー状況コマンドで戻される、QuickPlace クローラー、Domino Document Manager クローラー、UNIX フ ァイル・システム・クローラー、および Windows ファイル・システム・クローラーのエレメントおよび属性

		Domino Document	UNIX および Windows ファイル・システム・クロー
エレメントおよび属性の名前	QuickPlace クローラー	Manager クローラー	ラー
Status	状況 (0、1、2、-1)	状況 (0、1、2、-1)	状況 (0、1、2、-1)
StatusMessage	* · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	状況: 0 - アイドル、1 - 実行中、2 - 休止、-1 - エ ラー	
NumberOfServers	クロール・スペース内のプ レースの数。	クロール・スペース内のラ イブラリーの数。	固定値 1。
NumberOfCompletedServers	クロールされたプレースの 数。	クロールされたライブラリ ーの数。	すべてのサブディレクトリ ーがクロールされた場合、 0 または 1。
NumberOfTargets	クロール・スペース内のプ レース・データベースおよ びルーム・データベースの 数。	クロール・スペース内のキャビネットの数。	クロール・スペース内のサ ブディレクトリーの数。

l 表 9. クローラー状況コマンドで戻される、QuickPlace クローラー、Domino Document Manager クローラー、UNIX フ ァイル・システム・クローラー、および Windows ファイル・システム・クローラーのエレメントおよび属性 (続き)

 			Domino Document	UNIX および Windows ファイル・システム・クロー
I	エレメントおよび属性の名前	QuickPlace クローラー	Manager クローラー	ラー
   	NumberOfCompletedTargets	クロールされたプレース・ データベースおよびルー ム・データベースの数。	クロールされたキャビネッ トの数。	クロールされたサブディレ クトリーの数。
  -	NumberOfCompletedRecords	クロールされた文書の数。	クロールされた文書の数。	クロールされたファイルの 数。
 	RunningThreads	クローラー・スレッドの 数。	クローラー・スレッドの 数。	クローラー・スレッドの 数。

**Web クローラーのクロール・スペース状況:** Web クローラーのクロール・スペース 状況を取得するコマンドを実行すると、XML 文書フォーマットで情報が戻されま す。 Web クロール・スペース状況コマンドによって、以下の情報を戻すことがで きます。

Ⅰ 表 10. Web クローラーのクロール・スペース状況コマンドの選択マスク値

Ι	マスク・ビット	選択
I	1	ロー・データ・ストア内のページの数。
1	2	ディスカバーされたサイトの数。
1	4	DNS のあるサイトの数。
I	8	DNS のないサイトの数。
I	16	ディスカバーされた URL の数。
I	32	保管された固有ページの数。
	64	クロールされた URL の数。
I	128	クロールされていない URL の数。
I	256	期限切れの URL の数。
1	512	HTTP 戻りコードの配布。

すべての値が、現行の内部データベースを使用するすべてのセッションでの累積合 計を表します。

```
<CrawlStatus>
 <NumPagesInRDS Value="5422386"/>
  <NumSitesDiscovered Value="15332"/>
  <NumSitesWithDNS Value="14832"/>
  <NumSitesWithoutDNS Value="500"/>
  <NumURLsDiscovered Value="15222999"/>
  <NumUniquePagesSaved Value="6234789"/>
  <NumURLsCrawled Value="7800422"/>
  <NumURLsUncrawled Value="7422577"/>
 <NumURLsOverdue Value="14000"/>
 <HTTPCodeDist Count="4" Total="1031000"/>
   <HTTPCode Code="200" Count ="1000000"/>
   <HTTPCode Code="301" Count ="1000"/>
    <HTTPCode Code="404" Count ="10000"/>
   <HTTPCode Code="780" Count="20000"/>
 </HTTPCode Code="780" Count="20000">
<?CrawlStatus>
```

戻りデータには、以下のエレメントのいくつかまたはすべてが含まれます (無いこ ともあります)。

Ⅰ 表 11. Web クローラーのクロール・スペース状況コマンドから戻される情報

エレメント	属性	説明
CrawlerStatus	<ul><li>NumPagesInRDS</li><li>NumSitesDiscovered</li></ul>	クロールの累積状態に関して迅速に取得できる情報 (すべてのセッション)。
	NumSitesWithDNS	
	NumSitesWithoutDNS	
	NumURLsDiscovered	
	NumUniquePagesSaved	
	NumURLsCrawled	
	NumURLsUncrawled	
	NumURLsOverdue	
	HTTPCodeDist	
NumPagesInRDS		ロー・データ・ストア (RDS) がどのくらい
	ロー・データ・ストア (RDS) のステージング・エリア内に現在入っているページの数(このクローラーのみ)。	フルになっているか (このクローラーのコントリビューションのみ)。
NumSitesDiscovered	値: 負でない整数	クロールすべきドメインの、クローラーの道
	クロールによってディスカバーされたホスト の数 (または、シード)。	用範囲の指標 (ホスト・カウント)。
NumSitesWithDNS	値: 負でない整数	URL 内で DNS 名によってディスカバーさ
	IP アドレスに関連付けられたホストの数 (バックグラウンドのクローラーによって解 決されたもの)。	れるホストの IP アドレスを、クローラーが どのくらい効率的に取得できるかの指標。
NumSitesWithoutDNS	値: 負でない整数	URL 内で DNS 名によってディスカバーさ
	IP アドレスに関連付けられていないホストの数 (バックグラウンドのクローラーによって解決されたもの)。	れるホストの IP アドレスを、クローラーが どのくらい効率的に取得できるかの指標。
NumURLsDiscovered	値: 負でない整数	クロールすべきドメインの、クローラーの違
	クローラーによって訪問された固有の URL の数。	用範囲の指標 (URL カウント)。
NumUniquePagesSaved	値: 負でない整数	索引のサイズに対する、このクローラーのコントリビューション。
	その他のエンタープライズ・サーチ・コンポーネントによってさらに処理するために RDS に書き込まれた固有のページの数。	
NumURLsCrawled	値: 負でない整数	データを処理するための、クローラーの機能
	クローラーによってクロールされた固有の URL の数。	の指標 (エンドツーエンド)。この数は、RD に書き込まれるページの数によって異なります。それは、クロールされたすべてのページが RDS に書き込まれるわけではないからです。

| 表 11. Web クローラーのクロール・スペース状況コマンドから戻される情報 (続き)

ı	エレメント	<b>禹性</b>	説明
I	NumURLsOverdue	値: 負でない整数	Web スペースをトラバースするための、ク
		再クロールする対象として適格な固有の URL の数。	ローラーの機能の指標。
-			

Web 以外のクローラーのクロール・スペース状況: Web 以外のクローラーのクロール・スペース状況を取得するコマンドを実行すると、XML 文書フォーマットで情報が戻されます。 Web 以外のクロール・スペース状況コマンドによって、以下の情報を戻すことができます。

FFQC5314I Result: <?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>

<ServerStatus>

<Server Name ="FOUNTAIN">

<Status>5</Status>

<StatusMessage>Scheduled</StatusMessage>

<NumberOfTargets>1</NumberOfTargets>

<NumberOfCompletedTargets>1</NumberOfCompletedTargets>

<NumberOfErrors>0</NumberOfErrors>

<StartTime>1118354510512

<EndTime>1118354514386</EndTime>

<ScheduleConfigured>2</ScheduleConfigured>

<ScheduleTime>1118393377000</ScheduleTime>

<TotalTime>3874</TotalTime>

</Server>

</ServerStatus>

以下の表で、Web クローラー以外の各エンタープライズ・サーチ・クローラーでの、XML エレメントおよび属性について説明します。この情報は、クロール・スペース状況コマンドで戻されるものです。 Notes クローラーの場合、集約レベルが 0のとき、Server@Name は サーバー名 + ディレクトリー名 です。集約レベルが 1 のとき、Server@Name は サーバー名 + ディレクトリー名 です。

Ⅰ 表 12. クロール・スペース状況コマンドで戻される、NNTP クローラー、DB2 クローラー、および Notes クローラーⅠ のエレメントおよび属性

エレメントおよび属性の名前	NNTP クローラー	DB2 クローラー	Notes クローラー
Server@Name	ニュース・サーバー名	データベース名	データベース名またはディ レクトリー名
Server/Status	状況: (0、1、2、3、4、-1)  ・ 0: クロールされていない  ・ 1: クロール中  ・ 2: 完了 (スケジュール されていない)  ・ 3: 待機中  ・ 4: 休止されている  ・ -1: エラー	状況 (0、1、2、3、4、5、-1) ・ 0: クロールされていない ・ 1: クロール中 ・ 2: 完了 (スケジュールされていない) ・ 3: 待機中 ・ 4: 休止されている ・ 5: スケジュールされている ・ -1: エラー	<ul> <li>0: クロールされていない</li> <li>1: クロール中</li> <li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li> <li>3: 待機中</li> <li>4: 休止されている</li> </ul>

| 表 12. クロール・スペース状況コマンドで戻される、NNTP クローラー、DB2 クローラー、および Notes クローラー l のエレメントおよび属性 (続き)

エレメントおよび属性の名前	NNTP クローラー	DB2 クローラー	Notes クローラー
Server/StatusMessage	・ 0: クロールされていな い	• 0: クロールされていな い	• 0: クロールされていな い
	• 1: クロール中	• 1: クロール中	• 1: クロール中
	<ul><li>2: 完了 (スケジュール されていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュール されていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュール されていない)</li></ul>
	• 3: 待機中	• 3: 待機中	• 3: 待機中
	• 4: 休止されている	• 4: 休止されている	• 4: 休止されている
	• 5: スケジュールされて いる	• 5: スケジュールされて いる	• 5: スケジュールされて いる
	• -1: エラー	• -1: エラー	• -1: エラー
Server/NumberOfTargets	クロール・スペース内の新 規グループの数。	クロール・スペース内のデ ータベースの数。	クロール・スペース内のヒューおよびフォルダーの 数。
Server/NumberOf CompletedTargets	クロールされた新規グルー プの数。	クロールされた表の数。	クロールされたビューおよ びフォルダーの数。
Server/NumberOfErrors	適用されない。	エラーの数。	エラーの数。
Server/StartTime	適用される場合、開始時 刻。	適用される場合、開始時 刻。	適用される場合、開始時 刻。
Server/EndTime	適用される場合、終了時 刻。	適用される場合、終了時 刻。	適用される場合、終了時 刻。
Server/ScheduleConfigured	適用されない。	0, 1, 2	0, 1, 2
		<ul><li>0: クローラーが、クローラー構成ファイルに従って、スケジューリングされるように構成されていません。</li></ul>	ーラー構成ファイルに欲 って、スケジューリンク
		<ul><li>1: クローラーが、スケ ジューリングされるよう に構成されています。し かし、スケジューリング はそのセッションで使用 不可になっていました。</li></ul>	ジューリングされるよう に構成されています。し かし、スケジューリンク はそのセッションで使用
		<ul><li>2: クローラーが、スケ ジューリングされるよう に構成されています。そ して、スケジューリング はそのセッションで使用 可能になっています。</li></ul>	ジューリングされるよう に構成されています。そ して、スケジューリング
Server/ScheduleTime	適用されない。	適用される場合、スケジュ ール時刻。	適用される場合、スケジュ ール時刻。
Server/TotalTime	適用される場合、合計時 間。	適用される場合、合計時間。	適用される場合、合計時間。

| 表 12. クロール・スペース状況コマンドで戻される、NNTP クローラー、DB2 クローラー、および Notes クローラー のエレメントおよび属性 (続き)

エレメントおよび属性の名前	NNTP クローラー	DB2 クローラー	Notes クローラー
Server/AggregationLevel	適用されない。	0: Notes クローラーは、 常モードで文書をクロー します。 (Notes クローラ ー以外のクローラーでは 常に 0 が戻されます。)	ル • 0: Notes クローラー は、通常モードで文書を

| 表 13. クロール・スペース状況コマンドで戻される、Exchange Server クローラー、DB2 Content Manager クローラー、および Content Edition クローラーのエレメントおよび属性

エレメントおよび属性の名前	Exchange Server クローラ	DB2 Content Manager クローラー	Content Edition クローラ
Server@Name	Exchange Server サーバー名	DB2 Content Manager サーバー	リポジトリー名
Server/Status	状況 (0、1、2、3、4、-1)  • 0: クロールされていない  • 1: クロール中  • 2: 完了 (スケジュールされていない)  • 3: 待機中  • 4: 休止されている	状況 (0、1、2、3、4、5、-1) ・ 0: クロールされていない ・ 1: クロール中 ・ 2: 完了 (スケジュールされていない) ・ 3: 待機中	<ul><li>0: クロールされていない</li><li>1: クロール中</li></ul>
	• -1: エラー	<ul><li>4: 休止されている</li><li>5: スケジュールされている</li><li>-1: エラー</li></ul>	
Server/StatusMessage	<ul><li>1: クロール中</li><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li><li>3: 待機中</li><li>4: 休止されている</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li><li>3: 待機中</li></ul>	<ul><li>1: クロール中</li><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li><li>3: 待機中</li><li>4: 休止されている</li></ul>
Server/NumberOfTargets	クロール・スペース内のサ ブフォルダーの数。	クロール・スペース内の項 目タイプの数。	クロール・スペース内の項 目クラスの数。
Server/NumberOf CompletedTargets	クロールされたサブフォル ダーの数。	クロールされた項目タイプ の数。	クロールされた項目クラス の数。
Server/NumberOfErrors	エラーの数。	エラーの数。	エラーの数。

| 表 13. クロール・スペース状況コマンドで戻される、Exchange Server クローラー、DB2 Content Manager クローラ Ⅰ ー、および Content Edition クローラーのエレメントおよび属性 (続き)

エレメントおよび属性の名前	Exchange Server クローラ	DB2 Content Manager ク ローラー	Content Edition クローラ
Server/StartTime	適用される場合、開始時	適用される場合、開始時	適用される場合、開始時
	刻。	刻。	刻。
Server/EndTime	適用される場合、終了時	適用される場合、終了時	適用される場合、終了時
	刻。	刻。	刻。
Server/ScheduleConfigured	0, 1, 2	0, 1, 2	0, 1, 2
	<ul><li>0: クローラーが、クローラー構成ファイルに従って、スケジューリングされるように構成されていません。</li></ul>	<ul><li>0: クローラーが、クローラー構成ファイルに従って、スケジューリングされるように構成されていません。</li></ul>	• 0: クローラーが、クロ ラー構成ファイルに従って、スケジューリングで れるように構成されていません。
	<ul><li>1: クローラーが、スケジューリングされるように構成されています。しかし、スケジューリングはそのセッションで使用不可になっていました。</li></ul>	<ul><li>1: クローラーが、スケジューリングされるように構成されています。しかし、スケジューリングはそのセッションで使用不可になっていました。</li></ul>	• 1: クローラーが、スケューリングされるように構成されています。したし、スケジューリングにそのセッションで使用で可になっていました。
	<ul><li>2: クローラーが、スケジューリングされるように構成されています。そして、スケジューリングはそのセッションで使用可能になっています。</li></ul>	<ul><li>2: クローラーが、スケジューリングされるように構成されています。そして、スケジューリングはそのセッションで使用可能になっています。</li></ul>	<ul><li>2: クローラーが、スケューリングされるようは構成されています。それで、スケジューリングはそのセッションで使用で能になっています。</li></ul>
Server/ScheduleTime	適用される場合、スケジュ	適用される場合、スケジュ	適用される場合、スケジュ
	ール時刻。	ール時刻。	ール時刻。
Server/TotalTime	適用される場合、合計時	適用される場合、合計時	適用される場合、合計時
	間。	間。	間。
Server/AggregationLevel	0: Notes クローラーは、通	0: Notes クローラーは、通	0: Notes クローラーは、i
	常モードで文書をクロール	常モードで文書をクロール	常モードで文書をクロー)
	します。 (Notes クローラ	します。 (Notes クローラ	します。 (Notes クローラ
	ー以外のクローラーでは、	ー以外のクローラーでは、	ー以外のクローラーでは、
	常に 0 が戻されます。)	常に 0 が戻されます。)	常に 0 が戻されます。)

Ⅰ 表 14. クロール・スペース状況コマンドで戻される、QuickPlace クローラー、Domino Document Manager クローラ | 一、UNIX ファイル・システム・クローラー、および Windows ファイル・システム・クローラーのエレメントおよび I 属性

			UNIX および Windows フ
		Domino Document	ァイル・システム・クロー
エレメントおよび属性の名前	QuickPlace クローラー	Manager クローラー	ラー
Server@Name	プレース・ディレクトリー	ライブラリー・データベー	ローカル・ホストの固定値
		ス	

| 表 14. クロール・スペース状況コマンドで戻される、QuickPlace クローラー、Domino Document Manager クローラ | 一、UNIX ファイル・システム・クローラー、および Windows ファイル・システム・クローラーのエレメントおよび | 属性 (続き)

エレメントおよび属性の名前	QuickPlace クローラー	Domino Document Manager クローラー	UNIX および Windows ファイル・システム・クローラー
Server/Status	状況 (0、1、2、3、4、-1)	状況	状況
	• 0: クロールされていない	(0, 1, 2, 3, 4, 5, -1)	(0, 1, 2, 3, 4, 5, -1)
	<ul><li>1: クロール中</li></ul>	• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない
	<ul><li>2: 完了 (スケジュールさ</li></ul>	<ul><li>1: クロール中</li></ul>	<ul><li>1: クロール中</li></ul>
	れていない)	<ul><li>2: 完了 (スケジュールさ</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールさ</li></ul>
	• 3: 待機中	れていない)	れていない)
	• 4: 休止されている	• 3: 待機中	• 3: 待機中
	• -1: エラー	・ 4: 休止されている	• 4: 休止されている
		• 5: スケジュールされている	• 5: スケジュールされている
		• -1: エラー	• -1: エラー
Server/StatusMessage	• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない
	<ul><li>1: クロール中</li></ul>	<ul><li>1: クロール中</li></ul>	<ul><li>1: クロール中</li></ul>
	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>
	• 3: 待機中	• 3: 待機中	• 3: 待機中
	• 4: 休止されている	<ul><li>4: 休止されている</li></ul>	<ul><li>4: 休止されている</li></ul>
	• 5: スケジュールされてい	• 5: スケジュールされてい	• 5: スケジュールされてい
	る	る	る
	• -1: エラー	• -1: エラー	• -1: エラー
Server/NumberOfTargets	クロール・スペース内のプ レース・データベースおよ びルーム・データベースの 数。	クロール・スペース内のキャビネットの数。	
Server/NumberOf	クロールされたプレース・	クロールされたキャビネッ	クロール・スペース内のサ
CompletedTargets	データベースおよびルー ム・データベースの数。	トの数。	ブディレクトリーの数。
Server/NumberOfErrors	エラーの数。	エラーの数。	エラーの数。
Server/StartTime	適用される場合、開始時 刻。	適用される場合、開始時 刻。	適用される場合、開始時 刻。
Server/EndTime	適用される場合、終了時 刻。	適用される場合、終了時 刻。	適用される場合、終了時 刻。

| 表 14. クロール・スペース状況コマンドで戻される、QuickPlace クローラー、Domino Document Manager クローラー、UNIX ファイル・システム・クローラー、および <math>Windows ファイル・システム・クローラーのエレメントおよび | 属性 (続き)

エレメントおよび属性の名前	QuickPlace クローラー	Domino Document Manager クローラー	UNIX および Windows ファイル・システム・クローラー
Server/ScheduleConfigured	0, 1, 2	0, 1, 2	0, 1, 2
	<ul><li>0: クローラーが、クローラー構成ファイルに従って、スケジューリングされるように構成されていません。</li></ul>	<ul><li>0: クローラーが、クローラー構成ファイルに従って、スケジューリングされるように構成されていません。</li></ul>	<ul><li>0: クローラーが、クローラー構成ファイルに従って、スケジューリングされるように構成されていません。</li></ul>
	<ul><li>1: クローラーが、スケジューリングされるように構成されています。しかし、スケジューリングはそのセッションで使用不可になっていました。</li></ul>	<ul><li>1: クローラーが、スケジューリングされるように構成されています。しかし、スケジューリングはそのセッションで使用不可になっていました。</li></ul>	<ul><li>1: クローラーが、スケシューリングされるように 構成されています。しか し、スケジューリングは そのセッションで使用不 可になっていました。</li></ul>
	<ul><li>2: クローラーが、スケジューリングされるように構成されています。そして、スケジューリングはそのセッションで使用可能になっています。</li></ul>	<ul><li>2: クローラーが、スケジューリングされるように構成されています。そして、スケジューリングはそのセッションで使用可能になっています。</li></ul>	<ul><li>2: クローラーが、スケシューリングされるように構成されています。そして、スケジューリングはそのセッションで使用可能になっています。</li></ul>
Server/ScheduleTime	適用される場合、スケジュ ール時刻。	適用される場合、スケジュ ール時刻。	適用される場合、スケジュ ール時刻。
Server/TotalTime	適用される場合、合計時 間。	適用される場合、合計時 間。	適用される場合、合計時 間。
Server/AggregationLevel	0, 1	0, 1	0, 1
	<ul> <li>0: Notes クローラーは、 通常モードで文書をクロールします。 (Notes クローラー以外のクローラーでは、常に 0 が戻されます。)</li> <li>Notes クローラーは、デ</li> </ul>	<ul> <li>0: Notes クローラーは、 通常モードで文書をクロールします。 (Notes クローラー以外のクローラーでは、常に 0 が戻されます。)</li> <li>Notes クローラーは、デ</li> </ul>	
	ィレクトリー・モードで 文書をクロールします。	ィレクトリー・モードで 文書をクロールします。	ィレクトリー・モードで 文書をクロールします。

Web クローラーの詳細なクロール・スペース状況: Web クローラーの詳細なクロール・スペース状況を取得するコマンドを実行すると、XML 文書フォーマットで情報が戻されます。詳細なクロール・スペース状況コマンドによって、以下の情報を戻すことができます。

Ⅰ 表 15. Web クローラーの詳細なクロール・スペース状況コマンドの選択マスク値

I	マスク・ビット	選択
I	1	ロー・データ・ストア内のページの数。
Ī	2	ディスカバーされたサイトの数。

Ⅰ 表 15. Web クローラーの詳細なクロール・スペース状況コマンドの選択マスク値 (続き)

	マスク・ビット	選択
I	4	DNS のあるサイトの数。
I	8	DNS のないサイトの数。
Ι	16	ディスカバーされた URL の数。
I	32	保管された固有ページの数。
I	64	クロールされた URL の数。
I	128	クロールされていない URL の数。
I	256	期限切れの URL の数。
I	512	HTTP 戻りコードの配布。
- 1		

### 戻り情報の例:

```
<CrawlDetailsPerSite>
  <Site URL=http://w3.ibm.com/">
  <NumURLsDiscovered Value="5422386"/>
  <NumURLsOverdue Value="15332"/>
  <NumURLsCrawled Value="15332"/>
  <NumURLsUncrawled Value="15332"/>
  <NumURLsOverdueBy Threshold="604800" Value="14832"/>
  <NumURLsActivated Value="2200"/>
  <LastActivationTime Value="1076227340"/>
  <LastActivationDuration Value="4300"/>
  <IPAddressList Count="1"/>
    <IPAddress Value="9.205.41.33"/>
  </IPAddressList>
  <RobotsContent>
  robots content. . .
  </RobotsContent>
  <HTTPCodeDist Count="4" Total="1031000"/>
    <HTTPCode Code="200" Count ="1000000"/>
    <HTTPCode Code="301" Count ="1000"/>
    <HTTPCode Code="404" Count ="10000"/>
    <HTTPCode Code="780" Count="20000"/>
 </HTTPCodeDisT>
</CrawlDetailsPerSite>
```

以下の表で、Web クローラーの詳細なクロール・スペース状況として戻される各フ ィールドについて説明します。

表 16. Web クローラーの詳細なクロール・スペース状況コマンドから戻される情報

エレメント	属性	説明
CrawlDetailsPerSite	LastActivationTime:	あるサイトの詳細な状態に関して迅速
	• LastActivationDuration:	に取得できる情報。
	• IPAddressList:	
	• RobotsContent:	
	• HTTPCodeDist:	
Site	URL	サイト・ルート・ページの URL。
NumURLsDiscovered	値	サイトからディスカバーされた URL の数。

Ⅰ 表 16. Web クローラーの詳細なクロール・スペース状況コマンドから戻される情報 (続き)

エレメント	属性	説明
NumURLsOverdue	値	サイトから再クロールする対象として 適格な URL の数。
NumURLsCrawled	値	サイトに応じてクロールされた URL の数。
NumURLsUncrawled	値	サイトに応じてまだクロールされていない URL の数。
NumURLsOverdueBy	しきい値、値:整数 (正数または負数) クロールを検出するためのしきい値 が、指定された時間で (負数 = 現在 までの秒数)、あるいはこの後指定され た時間間隔内で (正数 = 現在からの 秒数)、期限切れになります。	少なくとも数秒前に (しきい値) 再クロールする対象として適格だった、あるいは、この後さらに長い秒数が経って (しきい値) 再クロールする対象として適格になる予定の URL の数。
NumURLsActivated	値	このサイトの最後のスキャン中にメモリー内に入れられ、クローラー・スレッドから使用できるようになった URL の数。
LastActivationTime	値	このサイトの URL が最後にメモリー内に入れられたエポック以降、経過した秒数。
LastActivationDuration	值	このサイトの URL が最後にメモリー に入れられ、クローラー・スレッドが ら使用できるようになっていた秒数。
IPAddressList	IPAddress	このサイトのサーバー・ホスト用の、 認識されているすべての IP アドレ ス。
IPAddress	値	サイトのサーバー・ホスト用の、IPv- ドット表記アドレス。
RobotsContent	テキスト	ロボット・ファイルにテキストが存在 している場合、そのテキスト。
HTTPCodeDist	HTTPCode	このサイトの試行ダウンロードから の、HTTP コードの配布。
HTTPCode	コード:整数 HTTP 戻りコードまたは別の内部コー ド。	このサイトのクロール中に、特定の HTTP 戻りコードが発生した回数。

Web 以外のクローラーの詳細なクロール・スペース状況: Web 以外のクローラーの 詳細なクロール・スペース状況を取得するコマンドを実行すると、XML 文書フォー マットで情報が戻されます。 Web 以外のクローラーの詳細なクロール・スペース 状況コマンドによって、以下の情報を戻すことができます。

FFQC5314I Result: <?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>

<TargetStatus>

<Target Name ="escmgr.crawlerinstances">

<Status>2</Status>

<StatusMessage>Completed</StatusMessage>

<NumberOfRecords></NumberOfRecords>

<NumberOfCrawledRecords>117</NumberOfCrawledRecords> <NumberOfInsertedRecords>21/NumberOfInsertedRecords> <NumberOfUpdatedRecords>45</NumberOfUpdatedRecords> <StartTime>1118354510727 <EndTime>1118354514386</EndTime> <AggregationLevel>0<AggregationLevel> <Target> </TargetStatus>

Ⅰ 表 17. 詳細なクロール・スペース状況コマンドで戻される、NNTP クローラー、DB2 クローラー、および Notes クロ l ーラーのエレメントおよび属性

エレメントおよび属性の名前	NNTP クローラー	DB2 クローラー	Notes クローラー
Target@Name	ニュース・グループ名	テーブル名	ビューまたはフォルダー名
Target@CrawlType	適用されない。	0, 1:	0
		<ul><li>0: アクティブ・クロール (通常)</li></ul>	
		• 1: パッシブ・クロール (DB2 Event Publishing)	
Target/Status	状況: (0、1、2、3、4、-1)	状況: (0、1、2、3、4、-1)	状況: (0、1、2、3、4、-1)
	• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない
	• 1: クロール中	<ul><li>1: クロール中</li></ul>	• 1: クロール中
	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>
	• 3: 待機中	• 3: 待機中	• 3: 待機中
	• 4: 休止されている	<ul><li>4: 休止されている</li></ul>	• 4: 休止されている
	• -1: エラー	・ -1: エラー	• -1: エラー
Target/StatusMessage	• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない	・ 0: クロールされていない
	<ul><li>1: クロール中</li></ul>	<ul><li>1: クロール中</li></ul>	<ul><li>1: クロール中</li></ul>
	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>
	• 3: 待機中	• 3: 待機中	• 3: 待機中
	• 4: 休止されている	<ul><li>4: 休止されている</li></ul>	• 4: 休止されている
	• -1: エラー	・ -1: エラー	・ -1: エラー
Target/NumberOf Records	サーバー上の最後の項目番号。	クロールされたレコードの 数。	クロールされた文書の数。
Target/NumberOf CompletedRecords	クロールされた項目の数。	クロールされたレコードの 数。	クロールされた文書の数。
Target/NumberOf InsertedRecords	新しく通知された項目の 数。	挿入されたレコードの数。	挿入されたレコードの数。
Target/NumberOf UpdatedRecords	適用されない。	更新されたレコードの数。	更新されたレコードの数。
Target/NumberOf DeletedRecords	適用されない。	削除されたレコードの数。	削除されたレコードの数。
Target/StartTime	クローラーが最後に開始さ れた日時。	クローラーが最後に開始さ れた日時。	クローラーが最後に開始さ れた日時。
Target/EndTime	クロールが完了した日時。	クロールが完了した日時。	クロールが完了した日時。
	<u> </u>	<u> </u>	

| 表 17. 詳細なクロール・スペース状況コマンドで戻される、NNTP クローラー、DB2 クローラー、および Notes クロ I ーラーのエレメントおよび属性 (続き)

エレメントおよび属性の名前	NNTP クローラー	DB2 クローラー	Notes クローラー
Target/TotalTime	クローラーがクロールに費 やした時間の合計。	クローラーがクロールに費 やした時間の合計。	クローラーがクロールに費 やした時間の合計。
Target/AggregationLevel	0: Notes クローラーは、通 常モードで文書をクロール します。 (Notes クローラ ー以外のクローラーでは、 常に 0 が戻されます。)	常モードで文書をクロール します。 (Notes クローラ ー以外のクローラーでは、	<ul> <li>0、1:</li> <li>0: Notes クローラーは、通常モードで文書をクロールします。 (Notes クローラー以外のクローラーでは、常に 0 が戻されます。)</li> </ul>
			• Notes クローラーは、ディレクトリー・モードで 文書をクロールします。
Target/LastUpdatedTime	適用されない。	最後に更新された時刻:	適用されない。
		<ul><li>0: アクティブ・クロール (通常)</li></ul>	
		・ 1: パッシブ・クロール	
		(DB2 Event Publishing)	
Target/LastResetTime	適用されない。	最後に統計をリセットした 時間:	適用されない。
		<ul><li>0: アクティブ・クロール (通常)</li></ul>	
		• 1: パッシブ・クロール (DB2 Event Publishing)	

Ⅰ 表 18. 詳細なクロール・スペース状況コマンドで戻される、Exchange Server クローラー、DB2 Content Manager クロ I ーラー、および Content Edition クローラーのエレメントおよび属性

I		Exchange Server クローラ	DB2 Content Manager ク	Content Edition クローラ
I	エレメントおよび属性の名前	_	ローラー	_
I	Target@Name	サブフォルダー名	項目タイプ名	項目クラス名
I	Target@CrawlType	0	0	0
I	Target/Status	状況 (0、1、2、3、4、-1)	状況 (0、1、2、3、4、-1)	状況 (0、1、2、3、4、-1)
I		• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない
I		<ul><li>1: クロール中</li></ul>	• 1: クロール中	<ul><li>1: クロール中</li></ul>
 		<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>
I		• 3: 待機中	• 3: 待機中	• 3: 待機中
I		・ 4: 休止されている	• 4: 休止されている	• 4: 休止されている
I		• -1: エラー	• -1: エラー	• -1: エラー

| 表 18. 詳細なクロール・スペース状況コマンドで戻される、Exchange Server クローラー、DB2 Content Manager クロ Ⅰ ーラー、および Content Edition クローラーのエレメントおよび属性 (続き)

エレメントおよび属性の名前	Exchange Server クローラ	DB2 Content Manager クローラー	Content Edition クローラ
Target/StatusMessage	• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない
	• 1: クロール中	• 1: クロール中	• 1: クロール中
	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>
	• 3: 待機中	• 3: 待機中	• 3: 待機中
	• 4: 休止されている	• 4: 休止されている	• 4: 休止されている
	• -1: エラー	• -1: エラー	• -1: エラー
Target/NumberOf Records	適用されない。	適用されない。	適用されない。
Target/NumberOf CompletedRecords	クロールされた文書の数。	クロールされた文書の数。	クロールされた文書の数。
Target/NumberOf InsertedRecords	挿入されたレコードの数。	挿入されたレコードの数。	挿入されたレコードの数。
Target/NumberOf UpdatedRecords	適用されない。	更新されたレコードの数。	更新されたレコードの数。
Target/NumberOf DeletedRecords	適用されない。	削除されたレコードの数。	削除されたレコードの数。
Target/StartTime	クローラーが最後に開始さ れた日時。	クローラーが最後に開始さ れた日時。	クローラーが最後に開始さ れた日時。
Target/EndTime	クロールが完了した日時。	クロールが完了した日時。	クロールが完了した日時。
Target/TotalTime	クローラーがクロールに費 やした時間の合計。	クローラーがクロールに費 やした時間の合計。	クローラーがクロールに費 やした時間の合計。
Target/AggregationLevel	0: Notes クローラーは、通 常モードで文書をクロール します。 (Notes クローラ ー以外のクローラーでは、 常に 0 が戻されます。)	0: Notes クローラーは、通 常モードで文書をクロール します。 (Notes クローラ ー以外のクローラーでは、 常に 0 が戻されます。)	0: Notes クローラーは、通常モードで文書をクロール します。 (Notes クローラ ー以外のクローラーでは、 常に 0 が戻されます。)
Target/LastUpdatedTime	適用されない。	適用されない。	適用されない。
Target/LastResetTime	適用されない。	適用されない。	適用されない。

| 表 19. 詳細なクロール・スペース状況コマンドで戻される、QuickPlace クローラー、Domino Document Manager クロ | ーラー、UNIX ファイル・システム・クローラー、および Windows ファイル・システム・クローラーのエレメントお | よび属性

l				UNIX および Windows フ
ı			Domino Document	ァイル・システム・クロー
I	エレメントおよび属性の名前	QuickPlace クローラー	Manager クローラー	ラー
I	Target@Name	プレース・データベース名	キャビネット・データベー	サブディレクトリー名
I		またはルーム・データベー	ス名	
l		ス名		
I	Target@CrawlType	0	0	0

| 表 19. 詳細なクロール・スペース状況コマンドで戻される、QuickPlace クローラー、Domino Document Manager クロ | ーラー、UNIX ファイル・システム・クローラー、および Windows ファイル・システム・クローラーのエレメントお I よび属性 (続き)

エレメントおよび属性の名前	QuickPlace クローラー	Domino Document Manager クローラー	UNIX および Windows ファイル・システム・クローラー
Target/Status	状況 (0、1、2、3、4、-1)	状況 (0、1、2、3、4、-1)	状況 (0、1、2、3、4、-1)
	・ 0: クロールされていない	・ 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない
	<ul><li>1: クロール中</li></ul>	<ul><li>1: クロール中</li></ul>	<ul><li>1: クロール中</li></ul>
	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>
	• 3: 待機中	• 3: 待機中	• 3: 待機中
	• 4: 休止されている	<ul><li>4: 休止されている</li></ul>	• 4: 休止されている
	• -1: エラー	• -1: エラー	• -1: エラー
Target/StatusMessage	• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない	• 0: クロールされていない
	<ul><li>1: クロール中</li></ul>	<ul><li>1: クロール中</li></ul>	<ul><li>1: クロール中</li></ul>
	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>	<ul><li>2: 完了 (スケジュールされていない)</li></ul>
	• 3: 待機中	• 3: 待機中	• 3: 待機中
	• 4: 休止されている	<ul><li>4: 休止されている</li></ul>	• 4: 休止されている
	• -1: エラー	• -1: エラー	• -1: エラー
Target/NumberOf Records	適用されない。	適用されない。	適用されない。
Target/NumberOf CompletedRecords	クロールされた文書の数。	クロールされた文書の数。	クロールされたファイルの 数。
Target/NumberOf InsertedRecords	挿入されたレコードの数。	挿入されたレコードの数。	挿入されたレコードの数。
Target/NumberOf UpdatedRecords	クロールされたプレース・ データベースおよびルー ム・データベースの数。	クロールされたキャビネッ トの数。	クロール・スペース内のサ ブディレクトリーの数。
Target/NumberOf DeletedRecords	更新されたレコードの数。	更新されたレコードの数。	更新されたレコードの数。
Target/StartTime	クローラーが最後に開始さ れた日時。	クローラーが最後に開始さ れた日時。	クローラーが最後に開始さ れた日時。
Target/EndTime	クロールが完了した日時。	クロールが完了した日時。	クロールが完了した日時。
Target/TotalTime	クローラーがクロールに費 やした時間の合計。	クローラーがクロールに費 やした時間の合計。	クローラーがクロールに費 やした時間の合計。
Target/AggregationLevel	0: Notes クローラーは、通 常モードで文書をクロール します。 (Notes クローラー 以外のクローラーでは、常 に 0 が戻されます。)	0: Notes クローラーは、通 常モードで文書をクロール します。 (Notes クローラ ー以外のクローラーでは、 常に 0 が戻されます。)	0: Notes クローラーは、通常モードで文書をクロールします。 (Notes クローラー以外のクローラーでは、常に 0 が戻されます。)
Target/LastUpdatedTime	適用されない。	適用されない。	適用されない。

ができます。 FFOC5314I Result: <Monitor Type="Parser"> <ParserStatus> <Status>1<Status> <State>Parsing<State> <SnapShotTimeStamp>1124318637564/SnapShotTimeStamp> <NumberOfDocsToBeIndexed>231974/NumberOfDocsToBeIndexed> <ParseRate>0</ParseRate> <ParseRateMBPerHour>0</parseRateMBPerHour> <NumberOfCpmThreads>3</NumberOfCpmThreads> <ParserServiceSession>parserservice.1/ParserServiceSession> </ParserStatus> </CrawlerStatus> <Name>WEBCrawler1</Name> <Crawlerid>col1.WEB1.esadmin/Crawlerid> <Type>WEB</Type>

<ParserStatus>1</ParserStatus>

<NumberOfDocsToBeParsed>15881/NumberOfDocsToBeParsed>

<NumberOfDocsAlreadyParsed>29/NumberOfDocsAlreadyParsed>

</CrawlerStatus>

<CrawlerStatus>

<Name>Data Listener (server1)

<Crawlerid>datalistener/Crawlerid>

<Type>datalistener</Type>

<ParserStatus>0</ParserStatus>

<NumberOfDocsToBeParsed>0</NumberOfDocsToBeParsed>

<NumberOfDocsAlreadyParsed>0</NumberOfDocsAlreadyParsed>

</CrawlerStatus>

</Monitor>

以下の表で、パーサー状況コマンドによって戻される情報の XML エレメントにつ いて説明します。

パーサー状況: パーサー状況を取得するコマンドを実行すると、XML 文書フォーマ ットで情報が戻されます。パーサー状況コマンドによって、以下の情報を戻すこと

Ⅰ 表 20. パーサー状況コマンドのエレメント

I	エレメント	説明
1	Status	このコレクションのためのパーサー・セッションが実行中である場合は 1、
		パーサー・セッションが停止している場合は 0 です。

| 表 20. パーサー状況コマンドのエレメント (続き)

エレメント	説明
State	起こりうる状態は、Idle (アイドル)、Restart (再始動)、Parsing (構文解析中)、Resuming (再開中)、Stopped (停止されている)、Initializing (初期化中)、Pause (休止)、NoParserServiceIsAvailable (使用可能なパーサー・サースがない)です。
	Idle (アイドル) という状況は、パーサーが、このコレクション内のクローラーからさらに多くの文書が到着するのを待って、N 分間スリープしていることを示します。デフォルトのスリープ時間は 300 秒です。
	Restart (再始動) という状況は、パーサーが、構文解析/トークン化 JVM が再始動されるのを待っていることを示します。構文解析/トークン化 JVM N間のセッションで実行されます。これは、文書が最終的に処理される場所です。
	Parsing (構文解析中) という状況は、パーサーが文書を処理していることをします。
	Pause (休止) という状況は、パーサーが、このコレクション用の索引作成もッションによって休止されたことを示します。 Initializing (初期化中) とい状況は、パーサーが開始され、その状態を初期化していることを示します。
	Resuming (再開) という状況は、パーサーが、このコレクション用の索引作成セッションによって、Pause (休止) 状態から Parsing (構文解析中) 状態と再開されたことを示します。
	NoParserServiceIsAvailable (使用可能なパーサー・サービスがない) というり況は、このコレクション用の文書を処理するために使用可能な構文解析/トークン化 JVM がないことを示します。これは、すべての構文解析/トークンイJVM が、他のコレクションで使用されていることを意味します。
SnapShotTimeStamp	次回パーサーがクローラー・テーブルから文書を読み取る時刻で、1970年 降の秒数。
NumberOfDocsToBeIndexed	このコレクション用のストア内のドキュメントの数。この数には、次回の外 引作成で削除するようマークされている文書も含まれます。
ParseRate	構文解析速度 (1 秒あたりの文書数)。
ParseRateMBPerHour	構文解析速度 (1 時間あたりの MB)。
NumberOfCpmThreads	このコレクション用の文書を処理するために構文解析/トークン化 JVM が用する CPM スレッドの数。
ParserServiceSession	このコレクション用の文書を処理している構文解析/トークン化 JVM の名前。このフィールドは、パーサーが Parsing (構文解析中) 状態になってい場合にのみ使用可能になります。
Name	クローラーの名前。
Туре	クローラーのタイプ (Web、NNTP、DB2、など)。
ParserStatus	• 0: このクローラーからのドキュメントは、まだ構文解析されていません
	• 1: このクローラーからのドキュメントは、現在構文解析されているとこです。
	• 2: このクローラーからのドキュメントは、構文解析されました。
NumberOfDocsToBeParsed	このクローラーからのドキュメントで、構文解析されるのを待っているドキュメントの数。

表 20. パーサー状況コマンドのエレメント (続き)

ı 

l	エレメント	説明
l	NubmerOfDocsAlreadyParsed	このクローラーからのドキュメントで、構文解析されたドキュメントの数。

索引作成状況:索引作成状況を取得するコマンドを実行すると、XML 文書フォーマ ットで情報が戻されます。索引作成状況コマンドによって、以下の情報を戻すこと ができます。

FFQC5314I Result: <Monitor Type="Parser"> <Monitor Type="MainIndexHistory" Count="1"> <IndexStatus Id="1"/> <StartTime>1123101789411<StartTime> <Progress>0</Progress> <CurrentPhase>0</CurrentPhase> <TotalPhase>0</TotalPhase> <IndexCopyProgress>0</IndexCopyProgress> <CurrentServer>0</CurrentServer> <TotalServer>0</TotalServer> <IndexCopyTime>0</IndexCopyTime> <IndexBuildTime>0</IndexBuildTime> <Status>0</Status> <StopTime>1123101789618 <NumberOfDocuments>0</NumberOfDocuments> </IndexStatus> <CurrentIndexWildCardSupport/> <NextIndexWildCardSupport/> <ScheduleStatus> <Status>1</Status> </Monitor>

以下の表で、索引作成状況コマンドによって戻される情報の各 XML エレメントに ついて説明します。

### Ⅰ 表 21. 索引作成状況コマンドのエレメント

I	エレメント	説明
Ι	IndexStatusId	索引状况 ID。
Ι	StartTime	この索引作成が開始された時刻で、1970 年以降の秒数。
Ι	Progress	この索引作成の完了したパーセンテージ。
	CurrentPhase	• 1: 保管再書き込みフェーズ
I		• 2: グローバル分析フェーズ
I		• 3: 索引作成フェーズ
I	TotalPhase	この索引作成のフェーズの数。現在この値は 3 です。
 	IndexCopyProgress	索引コピーの完了したパーセンテージ。索引コピー処理では、作成された 索引を索引作成サーバーから検索サーバーにコピーします。
Ι	CurrentServer	索引コピーで、索引がコピーされる先の検索サーバー。
Ι	TotalServer	索引をコピーする先の検索サーバーの数。
Ι	IndexCopyTime	索引作成のすべてのフェーズの合計時間。
 	Progress	索引作成およびコピーが成功した場合は 0、エラー・メッセージ・コード の場合は 0 以外の数字。
I	StopTime	索引作成 (すべてのフェーズ) および索引コピーの終了時刻。
Ι	TotalTime	開始時刻と終了時刻の間の期間。
Ι	NumberOfDocuments	索引内の文書の数。

Ⅰ 表 21. 索引作成状況コマンドのエレメント (続き)

I	エレメント	説明
  -	CurrentIndexWildCardSupport	次回の索引作成に使用すべきワイルドカード設定。取りうる値は、 None、QueryExpansion、または IndexExpansion です。
 	ScheduleStatus	• 0: このコレクションおよび索引タイプのためのスケジュールが使用可能 になっていない場合。
 		• 1: このコレクションおよび索引タイプのためのスケジュールが使用可能 になっている場合。
 	ScheduledTimeEnabled	次回このコレクションおよび索引タイプのために索引作成が実行される時刻で、1970年以降の秒数。

検索サーバー状況: 検索サーバー状況を取得するコマンドを実行すると、XML 文書 フォーマットで情報が戻されます。検索サーバー状況コマンドによって、以下の情 報を戻すことができます。

FFQC5314I Result: <?xml version="1.0"?>

- <Monitor Type="Search" Count="1">
- <SearchStatus Name="Search Manager (node1)" SearchID=</pre>
- "searchmanager.node1" HostName="myComputer.svl.ibm.com">
- <Status>1</Status>
- </SearchStatus>
- </Monitor>

以下の表で、検索サーバー状況コマンドによって戻される情報の XML エレメント について説明します。

表 22. 検索サーバー状況コマンドのエレメント

I	エレメント	説明	
I	SearchStatusName	このコレクション用の検索索引のモニターおよび保守を行っている検索マネ	
I		ージャー・セッションの名前および ID。	
I	HostName	検索索引が実行されているサーバーのホスト名。	
	Status	• 0: このコレクション用の検索索引が実行されていない場合。	
		• 1: このコレクション用の検索索引が実行されている場合。	

**詳細な検索サーバー状況:** 検索サーバー状況を戻すコマンドによって、以下の情報 を戻すことができます。

FFQC5303I Search Manager (node1) (sid: searchmanager.node1)

is already running. PID: 15711

FFQC5314I Result: PID=18390

CacheHits=3

QueryRate=1

Port=44008

SessionId=col1.runtime.node1

CacheHitRate=0.333

ResponseTime=70

Status=1

SessionName=coll.runtime.node1.1

以下の表で、詳細な検索サーバー状況コマンドによって戻される情報の項目につい て説明します。

### Ⅰ 表 23. 詳細な検索サーバー状況コマンドの項目

1	項目	説明
I	CacheHits	検索キャッシュから取得される結果の数。
I	QueryRate	最後の時間間隔で受信した照会の数。デフォルトでは、時間間隔は 5 分です。
I	Port	照会を listen または受信するために検索索引が使用するポート番号。
I	SessionId	このコレクションの検索索引のセッション ID。
 	CacheHitRate	検索キャッシュから取得される結果の数 (すべての検索結果に対するパーセンテージ)。
1	ResponseTime	指定した時間間隔 (デフォルトは 5 分) での平均応答時間 (ミリ秒)。
	Status	・ 0: このコレクション用の検索索引が実行されていない場合。
Ι		• 1: このコレクション用の検索索引が実行されている場合。
1	SessionName	このコレクションの検索索引のセッション名。

### esadmin コマンドの戻りコード

esadmin コマンドから戻るコードは、以下のとおりです。

### Ⅰ 表 24. esadmin コマンドの戻りコード

I	コード	名前	説明
I	0	CODE_ERROR_NONE	コマンドが正常に完了しました。
1	102	CODE_ERROR_INSTANTIATION_EXCEPTION	コマンド・ハンドラーをインスタンス化する ときにエラーが発生しました。
  -  -	103	CODE_ERROR_ACCESS_EXCEPTION	コマンド・ハンドラーをインスタンス化する ときに、正しくないアクセスによるエラーが 発生しました。
I	104	CODE_ERROR_EXECUTE_EXCEPTION	
I	105	CODE_ERROR_THROWABLE	
I	106	CODE_ERROR_NO_SUCH_METHOD	
I	107	CODE_ERROR_INVALID_SESSION	
I	108	CODE_ERROR_INVALID_PARAMETER	
I	109	CODE_ERROR_SESSION_NOT_RUNNING	

### セッション ID の取得

esadmin check コマンドを使用して、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントおよびそれらに対応するセッション ID のリストを表示することができます。以下の表で、共通セッション、それらの ID、それらが存在しているサーバー、およびセッションの状態のリストを示します。

### Ⅰ 表 25. セッション名、起点サーバー、セッション ID、およびセッション状態の例

		セッションが実行されてい		
I	セッション	るサーバー	セッション ID	セッションの状態
I	configmanager	索引サーバー	10433	開始済み
I	controller	索引サーバー	10464	開始済み
I	customcommunication	索引サーバー	適用されない	適用されない

Ⅰ 表 25. セッション名、起点サーバー、セッション ID、およびセッション状態の例 (続き)

	セッションが実行され	てい	
<b>  セッション</b>	るサーバー	セッション ID	セッションの状態
datalistener	索引サーバー	10582	開始済み
discovery	索引サーバー	10649	開始済み
monitor	索引サーバー	10682	開始済み
parserservice	索引サーバー	10718	開始済み
resource.node1	索引サーバー	10759	開始済み
samplecpp	索引サーバー	10827	開始済み
sampletest	索引サーバー	10857	開始済み
scheduler	索引サーバー	10889	開始済み
searchmanager.node1	索引サーバー	10927	開始済み
utilities.node1	索引サーバー	10384	開始済み

### 関連概念

291 ページの『エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップとリスト

バックアップ・スクリプトおよびリストア・スクリプトを 使用して、エンター プライズ・サーチ・システムをバックアップおよびリストアすることができま

257 ページの『エンタープライズ・サーチ・アクティビティーのモニター』 システム・アクティビティーおよびコレクション・アクティビティーをモニター すると、さまざまな プロセスの状況の表示、問題発生の可能性の監視、また は、パフォーマンス改善のための構成設定の調整を行うことができます。

### 関連タスク

262 ページの『クローラーのモニター』

サーバーを開始する必要があります。

コレクション内の各クローラーの状態に関する一般情報を表示するか、または、 クローラーのアクティビティーに関する詳細情報を表示するオプションを選択す ることができます。

251ページの『エンタープライズ・サーチ・サーバーの開始』 ユーザーがコレクションを検索できるようにするために、システム・プロセスを 開始し、 その後、コレクションのクロール、構文解析、索引付け、検索を行う

253 ページの『エンタープライズ・サーチ・サーバーの停止』 エンタープライズ・サーチ・コンポーネントの構成に変更を加えた場合や、 問 題のトラブルシューティングが必要な場合などには、エンタープライズ・サー チ・サーバーを 停止して再始動する必要があります。

# エンタープライズ・サーチの資料

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の資料は、 PDF または HTML で読むことができます。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムは、「インフォメーション・センター」を自動的にインストールします。インストール・プログラムは検索サーバーに「インフォメーション・センター」をインストールします。マルチサーバー・インストールの場合、「インフォメーション・センター」は、両方の検索サーバーにインストールされます。「インフォメーション・センター」をインストールしていない場合、「ヘルプ」をクリックすると、IBM Webサイトの「インフォメーション・センター」が開きます。エンタープライズ・サーチの「HTML トピック」を参照するには、「インフォメーション・センター」を開始します。

PDF 資料を参照するには、docs/locale/pdf に移動します。例えば、英語で資料を見つけるには、docs/en\_US/pdf に移動します。 PDF 資料、ダウンロード、フィックス、技術情報、およびインフォメーション・センターを、 WebSphere Information Integrator OmniFind Edition サポート・サイトで表示できます。

以下のテーブルは、使用可能な資料、ファイル名、ロケーションを示します。

表 26. エンタープライズ・サーチ用 PDF 資料

ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー
エンタープライズ・サーチの インストール・ガイド (この 文書のトピックは、「インフ ォメーション・センター」で も使用可能です。)	iiysi.pdf	docs/locale/pdf/
エンタープライズ・サーチの 管理(この文書のトピック は、「インフォメーション・ センター」でも使用可能で す。)	iiysa.pdf	docs/locale/pdf/
エンタープライズ・サーチ プログラミング・ガイドおよ び API リファレンス (この 文書のトピックは、「インフ ォメーション・センター」で も使用可能です。)	iiysp.pdf	docs/locale/pdf/
メッセージ・リファレンス (この文書のトピックは、「イ ンフォメーション・センタ ー」でも使用可能です。)	iiysm.pdf	docs/locale/pdf/

327

表 26. エンタープライズ・サーチ用 PDF 資料 (続き)

ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー
エンタープライズ・サーチの	iiysr.txt または iiysr.htm	docs/locale/ (このファイル
インストール要件 (この文書		は、「ファースト・ステッ
のトピックは、「インフォメ		プ」プログラムから起動する
ーション・センター」でも使		ことも可能です。)
用可能です。)		
リリース情報	iiysn.pdf	IBM WebSphere Information
		Integrator OmniFind Edition
		資料 の Web サイトでのみ
		入手可能です。
テキスト分析機能ガイド	iiyst.pdf	docs/locale/pdf/

# WebSphere II OmniFind Edition アクセシビリティ

IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のユーザー・インターフェースおよび資料はアクセス可能です。

### インストール・プログラム

キーボード・ショートカットを使用して、 WebSphere II OmniFind Edition インストール・プログラム全体を移動することができます。以下のテーブルは、キーボード・ショートカットを説明しています。

表 27. インストール・プログラム用キーボード・ショートカット

アクション	ショートカット
ラジオ・ボタンの強調表示	矢印キー
ラジオ・ボタンの選択	タブ・キー
プッシュボタンの強調表示	タブ・キー
プッシュボタンの選択	Enter +-
次のウィンドウまたは前のウィンドウ へ移動、またはキャンセル	タブ・キーを押してプッシュボタンを強調表示し、 Enter キーを押す
アクティブ・ウィンドウを非アクティ ブにする	Ctrl + Alt + Esc

## エンタープライズ・サーチ管理コンソールおよびインフォメーショ ン・センター

管理コンソールおよびインフォメーション・センターは、 Microsoft Internet Explorer または Mozilla FireFox で表示することのできるブラウザー・ベースのインターフェースです。ブラウザーのキーボード・ショートカットのリストおよび他のアクセシビリティ機能については、Internet Explorer または FireFox のオンライン・ヘルプを参照してください。

### PDF 資料

エンタープライズ・サーチ資料のすべてを PDF で表示できます。PDF 文書は、Adobe Acrobat Version 6.0 によって利用できます。PDF 文書は、ほとんどのスクリーン・リーダー用に構造化され、それによって読むことができます。

# エンタープライズ・サーチの用語集

この用語集では、エンタープライズ・サーチのインターフェースおよび資料で使用 される用語を定義します。

### ア

### アクセス制御リスト (access control list)

関連付けられたオブジェクトにアクセスできるユーザーを識別し、そのオブジェクトへのユーザーのアクセス権限を指定するリスト。

### アノテーター (annotator)

特定の言語分析タスクを実行して、注釈を生成し、記録するソフトウェア・コンポーネント。アノテーターは、分析エンジンにおける分析論理コンポーネントです。

### エスケープ文字 (escape character)

後続の 1 つ以上の文字に対して特殊な意味を抑制または設定する文字。

### エンキュー (enqueue)

キューに項目を入れること。

### エンタープライズ・サーチ管理者 (enterprise search administrator)

エンタープライズ・サーチ・システム全体を管理できる管理役割。

### オペレーター (operator)

コレクション・レベルのプロセスを監視、開始、停止する権限を持つエンタープライズ・サーチ・ユーザー。

### 力

### 改行文字 (newline character)

印刷または表示位置を 1 行下へ移動させる制御文字。システムによっては、複数の文字を要求するものもあります。

#### 概念抽出 (concept extraction)

テキスト文書にある重要な語彙項目 (人、場所、製品など) を識別し、その項目リストを生成する検索機能。『テーマ抽出』も参照。

### 外部データ・ソース (external data source)

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition によってクロール、構文解析、または索引付けされていないフェデレーションに対するデータ・ソース。外部データ・ソースの検索は、それらのデータ・ソースの照会アプリケーション・プログラミング・インターフェースに委任されます。

### 鍵ストア・ファイル (keystore file)

署名者証明書として保管される公開鍵、および個人証明書に保管される秘密 鍵を含むキー・データベース・ファイル。

### カタカナ (Katakana)

2 つの一般的日本語表音文字の 1 つで使用されるシンボルから構成される文字セット。外国語のワードを表音的に書く場合に主に使用されます。

### カテゴリー (category)

類似した特性を持つ文書のグループ。

### カテゴリー・ツリー (category tree)

エンタープライズ・サーチ管理コンソールに表示されるカテゴリー階層。

#### 管理役割 (administrative role)

エンタープライズ・サーチ管理コンソールで実行できる機能を決めるユーザ ー種別。この役割により、ユーザーが管理できるコレクションも決まる。

### 共通通信層 (CCL) (Common Communication Layer)

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のさまざまなコンポーネ ント (コントローラー、パーサー、クローラー、インデクサー) を結びつけ る通信インフラストラクチャー。

### 共通分析構造 (common analysis structure)

テキスト分析エンジンによって分析される文書を保管する構造。情報は、注 釈の形式の共通分析構造および他の機能構造で保管されます。

### 近接検索 (proximity search)

同一のセンテンス、パラグラフ、または文書にある一定の語を探す検索タイ プ。

### クイック・リンク (quick link)

URI とキーワードと句の間のアソシエーション。

### クローラー (crawler)

データ・ソースから文書を取り出し、検索索引作成用の情報を収集するソフ トウェア・プログラム。

### クロール・スペース (crawl space)

指定パターン (データベース名、ファイル・システム・パス、ドメイン・ネ ーム、IP アドレス、URL など) に一致するソースの集合。クローラーはこ こから読み取って索引用の項目を取り出す。

### 言語の識別 (language identification)

文書の言語を判別するエンタープライズ・サーチ機能。

### 言語分析検索 (linguistic search)

基本形に戻したり (例: mice は mouse として索引付けされる)、または基本 形を使用して拡張したり (複合語語のように) した語句を使用して文書を表 示、取得、索引付けする検索タイプ。

### 検索アプリケーション (search application)

エンタープライズ・サーチ・システムで、照会の処理、索引の検索、検索結 果の表示、コレクション用のソース文書の取得を行うプログラム。

### 検索エンジン (search engine)

検索要求を受け取り、文書リストをユーザーに戻すプログラム。

#### 検索キャッシュ (search cache)

以前の検索要求のデータと結果を保持するバッファー。

#### 検索結果 (search results)

検索要求に一致する文書のリスト。

### 検索索引ファイル (search index files)

検索エンジンで索引が保管されているファイルのセット。

### 合字 (ligature)

結びつけることによって 1 つの文字として表示される複数の文字。例: f と i を結びつけて合字 fi を形成。

### 高頻度ランキング (popular ranking)

文書の既存のランキングに、その検索頻度を基に加算するランキング・タイ

### 語のステミング (word stemming)

言語学的な正規化のプロセス。1 つのワードの異形を一般形に分解する。例 えば、connections、connective、および connected のようなワードは connect に戻されます。

### コレクション (collection)

データ・ソースと、そのクロール、解析、索引作成、検索用のオプションの 集合。

### サ

### サーブレット (servlet)

Web サーバー上で稼働し、Web クライアント要求に対する応答として動的 コンテンツを生成することにより、サーバーの機能性を拡張する Java プロ グラム。サーブレットは、一般的に、データベースを Web に接続するのに 使用されます。

### 索引 (index)

『フルテキスト索引』を参照。

### 索引キュー (index queue)

索引の再編成要求、または処理される索引のリフレッシュ要求のリスト。

### 索引付けしないディレクティブ (no-index directive)

索引内の Web ページのコンテンツを含まないように、ロボット (Web クロ ーラーなど)を指示する、それらのページ内のディレクティブ。

### 索引の再編成 (index reorganization)

エンタープライズ・サーチ・システムで索引を作成する処理。『索引のリフ レッシュ』と対比。

### 索引のリフレッシュ (index refresh)

エンタープライズ・サーチ・システム内の既存の索引に新しい情報を追加す る処理。『索引の再編成』と対比。

#### シード URL (seed URL)

クロールの開始点。

### 識別名 (distinguished name)

ディレクトリーのエントリーを一意的に識別する名前。識別名は、コンマで 分離された「属性:値 (attribute:value)」ペアで構成されます。また、デジタ ル証明書のエンティティーを一意的に識別する名前/値ペアのセット(例: CN=個人の名前および C=国または地域)。

### 字句類縁性 (lexical affinity)

文書内で相互に密接な関係で出現する検索語間の関係。字句類縁性を使用し て、結果の適合度を算出する。

### 自然言語照会 (natural language query)

キーワードを単純に並べるのではなく、文語表現 (「Who runs the finance department?」など)を分析する検索のタイプ。

### 情報抽出 (information extraction)

概念抽出のタイプの 1 つで、テキスト文書内の重要な語彙項目 (名前、用 語、式など)を自動的に認識するもの。

### 証明書 (certificate)

公開鍵を証明書の所有者の ID に結合するデジタル文書で、それによって証 明書の所有者を認証済みにすることができます。証明書は、認証局 (CA) に よって発行されます。

### 処理エンジン・アーカイブ (processing engine archive)

UIMA 分析エンジン、およびエンタープライズ・サーチのカスタム分析に使 用するために要求されるリソースのすべてを含む .pear zip アーカイブ・フ ァイル。

### 信用証明情報 (credential)

認証中に獲得される詳細情報で、ユーザー、グループ・アソシエーション、 および他のセキュリティー関連識別属性を記述しています。信用証明情報 は、許可、監査、および委任など、多数のサービスを実行するのに使用でき ます。

### ステミング (stemming)

『語のステミング』を参照。

### ストップワード (stop word)

共通に使用されるワードで、the、an、またはand など、検索アプリケーシ ョンが無視するもの。

### ストップワードの除去 (stop word removal)

共通ワードを無視して、より関連性のある結果を戻すために、照会から索引 からストップワードを共通を除去するプロセス。

#### 静的要約 (static summarization)

要約タイプの 1 つ。検索結果には、文書の指定および保管された要約が含 まれる。『動的要約』と対比。

### 静的ランキング (static ranking)

ランキング・タイプの 1 つ。日付や、その文書を指すリンク数など、ラン キングされる文書に関する係数でランキングが上がる。『動的ランキング』 と対比。

### セキュリティー・トークン (security token)

コレクションの文書へのアクセス許可に使用される ID とセキュリティーに 関する情報。データ・ソース・タイプによって、サポートするセキュリティ ー・トークンのタイプは異なる。例えば、ユーザー役割、ユーザー ID、グ ループ ID や、コンテンツへのアクセス制御用のその他の情報などがある。

### セグメンテーション (segmentation)

パス制御が基本情報単位を、BIU セグメントと呼ばれる、より小さな単位 に分割する処理。これによって、隣接サーバーの、より小さなバッファー・ サイズに対応します。

### 接語 (clitic)

構文的には分離して機能するが、音声学的には別のワードに接続するワー ド。接語は、結合されるワードとは、接続して書かれたり、分離して書かれ たりします。接語の一般的な例としては、英語における縮小語の終わりの部 分が含まれます(wouldn't または you're)。

### ソフト・エラー・ページ (soft error page)

クライアントが要求したページを HTTP サーバーが戻すことができなかっ た場合に、詳細に問題を説明し、問題の内容を示す戻りコード付きのヘッダ ーのみで構成される応答の代わりに、これらのページを戻すように HTTP サーバーを構成する特別なページ。

### 夕

### 注釈 (annotation)

テキストのスパンに関する情報。例えば、注釈は、テキストのスパンが会社 名を表すことを指示することもあり得ます。UIMA では、注釈は、特別な種 類のフィーチャー構造です。

### データ・ソース (data source)

文書を検索できるデータ・リポジトリー。Web、リレーショナルおよび非リ レーショナル・データベース、およびコンテンツ・マネージメント・システ ムなど。

### データ・ソース・タイプ (data source type)

データ・アクセス用のプロトコルに応じたデータ・ソースのグループ。

#### テーマ抽出 (theme extraction)

概念抽出のタイプの 1 つで、テキスト文書内の重要な語彙項目を自動的に 認識して、文書のテーマやトピックを抽出するもの。『概念抽出』も参照。

### ディスカバラー (discoverer)

クローラー機能の 1 つで、クローラーが情報検索に使用できるデータソー スを判別する機能。

### テキスト・ベースのスコアリング (text-based scoring)

照会内の語に対する文書の適合度を表す整数値を、文書に割り当てるプロセ ス。整数値が大きいほど、照会への一致が緊密であることを表す。『動的ラ ンキング』も参照。

#### テキスト分析 (text analysis)

コレクションのデータの検索性を高めるために、テキストから意味やその他 の情報を抽出するプロセス。

### テキスト分析エンジン (text analysis engine)

テキスト内のコンテキストおよびセマンティック・コンテンツを検索および 表すことに関与するソフトウェア・コンポーネント。

### デキュー (dequeue)

キューから項目を除去すること。

#### トークナイザー (tokenizer)

テキストをスキャンし、一続きの文字をトークンとして認識できる場合に、 それを判別するテキスト・セグメンテーション・プログラム。

### トークン (token)

エンタープライズ・サーチによって索引付けされる基本テキスト単位。トー クンは、言語内のワードにすることもできますし、索引付けに適切な、他の テキスト単位にすることもできます。

### 同義語辞書 (synonym dictionary)

ユーザーがコレクションを検索するときに、その照会用語の同義語を検索で きるようにする辞書。

### 動的要約 (dynamic summarization)

要約タイプの 1 つ。検索語が強調表示され、検索結果には検索している文 書の概念を最もよく表す句が含まれる。『静的要約』と対比。

### 動的ランキング (dynamic ranking)

照会の条件を検索中の文書に関して分析し、結果のランクを決定するランキ ングのタイプ。『テキスト・ベースのスコアリング』も参照。『静的ランキ ング』と対比。

### ナ

### 認証局 (certificate authority)

証明書を発行する組織。CA は、電子トランザクションに含まれるエンティ ティー(個人または法人)を認証します。認証局は、情報を交換する二者が、 実際に、主張しているとおりの者であることを保証します。

### /\

### パーサー (parser)

エンタープライズ・サーチ・データ・ストアに追加された文書を解釈するプ ログラム。パーサーは、文書から情報を抽出し、索引付け、検索、取得の準 備を行う。

### ハイブリッド検索 (hybrid search)

ブール検索とフリー・テキスト検索を組み合わせたもの。

### パラメトリック検索 (parametric search)

指定された範囲内の数値または属性 (日付、整数、その他のデータ・タイプ など)を含むオブジェクトを探す検索のタイプ。

### ブール検索 (boolean search)

1 つ以上の検索語が、AND、NOT、OR などの演算子を使って結合された検

### ファジー検索 (fuzzy search)

検索語にスペルが似た語を戻す検索。

### フィーチャー・パス (feature path)

UIMA フィーチャー構造内のフィーチャーの値にアクセスするのに使用され るパス。

### フィーチャー構造 (feature structure)

テキスト分析の結果を表す、基礎となるデータ構造。フィーチャー構造は、 属性値構造です。各フィーチャー構造は、タイプに属します。すべてのタイ プは、Java クラスと非常に類似している、有効なフィーチャーまたは属性 の指定されたセットを持ちます。

### フィールド (field)

レコードの最小識別可能パート。

### フィールド検索 (fielded search)

特定のフィールドに限定された照会。

### フェデレーション (federation)

命名システムを結合する処理。それによって、集合システムは、命名システ ムをスパンする複合名を処理できます。

### フェデレーテッド・サーチ (federated search)

複数の検索サービスにわたって検索を可能にし、検索結果の統合化されたリ ストを戻す検索機能。

### 付加記号 (diacritic)

アクセント記号、またはドイツ語のウムラウトなど、ワードの発音を変更し たり、同じワードの間で区別したりする場合に、文字に追加されるマーク。

### フリー・テキスト検索 (free text search)

フリー・フォーム・テキストで検索語を表現した検索。

### フルテキスト索引 (full text index)

データ項目を参照し、照会用語を含む文書を検索で迅速に見つけられるよう にするデータ構造。

### プレース (place)

個人やグループが共同作業するために出会うポータルで、可視になる仮想口 ケーション。ポータルでは、各ユーザーは、専用作業のための個人用プレー スを持ち、個人やグループは、さまざまな共有スペースへのアクセス権を持 ちます。そこは、パブリック・プレースにも、制限されたプレースにもなり 得ます。『Lotus QuickPlace プレース』をも参照。

### プロキシー・サーバー (proxy server)

アプリケーションまたは Web サーバーがホストする HTTP Web 要求に対 する中継として動作するサーバー。プロキシー・サーバーは、エンタープラ イズのコンテント・サーバーの代理として動作します。

### 分析エンジン (analysis engine)

『テキスト分析エンジン』を参照。

### 分析結果 (analysis results)

アノテーターが生成する情報。分析結果は、検索したい情報に相当するもの で、共通分析構造と呼ばれるデータ構造に書き込まれます。

### 分類構造 (taxonomy)

類似性に基づいてオブジェクトをグループに分類したもの。エンタープライ ズ・サーチでは、分類構造によってデータはカテゴリーとサブカテゴリーに 編成される。『カテゴリー・ツリー』も参照。

### マスク文字 (masking character)

検索語の先頭、中間、および末尾にある任意の文字を表す文字。マスク文字 は通常、索引で語の異形を検索するために使用される。『ワイルドカード文 字』も参照。

### 末尾の文字 (trailing character)

ワードにおける最後の位置を保持する文字。

#### 見出し語 (lemma)

ワードの正規書式。見出し語は、チェコ語など、大きく語形変化する言語では重要です。

### 見出し語化 (lemmatization)

辞書に提示されているワードに代わって見出し語を検索する処理。見出し語 化は、ステミングとは異なります。ステミングは、アルゴリズム的であり、 ある言語のワードをリストする辞書を操作しません。

### 文字の正規化 (character normalization)

大文字化や発音区別符号など、文字の異体形式が共通形式に合わせられる処理。

### モデル・ベースのカテゴリー (model-based category)

類似した内容を含む文書で文書を索引付けおよび検索するために、文書の主題の判別に使われる事前定義用語を使用した分類構造。

### モニター担当者 (monitor)

コレクション・レベルのプロセスを監視する権限を持つエンタープライズ・ サーチ・ユーザー。

### t

### ユーザー・エージェント (user agent)

Web をブラウズし、アクセスしたサイトに自身の情報を残すアプリケーション。エンタープライズ・サーチで、Web クローラーはユーザー・エージェント。

### 有効範囲 (scope)

検索要求の範囲を定義するのに使用される関連 URI のグループ。

### 用語加重検索 (weighted term search)

一定の用語が重視される照会。

### 要約 (summarization)

文書の内容を簡潔に記述する文を検索結果に組み込むプロセス。『動的要約』と『静的要約』も参照。

### ラ

### ライブラリー (library)

他のオブジェクトにディレクトリーとしてサービスを提供するシステム・オブジェクト。『Domino Document Manager ライブラリー』を参照。

### ランキング (ranking)

照会検索結果の各文書に整数値を割り当てるプロセス。検索結果における文書の順序は、照会への適合度に基づいて決まる。ランクが高いほど、緊密な一致を表す。『動的ランキング』と『静的ランキング』も参照。

### ランキング調整クラス (boost class)

検索結果内の文書の相対的ランクに影響を与えることのできる仕様。

#### ランキング調整ワード (boost word)

検索結果内の文書の関連ランクに影響を与えることのできるワード。照会処

理中に、ワードに事前定義したスコアに従って、ランキング調整ワードを含 む文書の重要度を調整することも可能です。

### リモート・フェデレーター (Remote Federator)

検索可能なオブジェクトのセットをフェデレートするサーバー・フェデレー ター。

### リンク分析 (link analysis)

文書間のハイパーリンクの分析に基づき、コレクション内のどのページがユ ーザーにとって重要かを判別するための方法。

### リンクをたどらないディレクティブ (no-follow directive)

Web ページで検出されるリンクをたどらないように、ロボット (Web クロ ーラーなど)を指示する、それらのページ内のディレクティブ。

### ルーム (room)

ユーザーが、他の人々が読む文書を作成し、他の人々からのコメントに応答 し、プロジェクトの状況と期限を検討することができるようにするプログラ ム。ユーザーは、同じルームにいる他の人々とチャットすることもできま す。『Lotus OuickPlace ルーム』をも参照。

### ルール・ベースのカテゴリー (rule-based category)

どの文書が、どのカテゴリーと関連付けられるかを指定する規則によって作 成されるカテゴリー。例えば、一定の語を含む、または含まない文書や一定 の URI パターンに一致する文書を、特定のカテゴリーと関連付ける規則を 定義する。

### ローカル・フェデレーター (Local Federator)

検索可能なオブジェクトのセット全体をフェデレートするクライアント・フ ェデレーター。

### ロボット排他プロトコル (Robots Exclusion Protocol)

サイトのある部分をロボットが訪問しないように、Web サイト管理者が、 訪問するロボットに指示できるようにするプロトコル。

## ワ

### ワイルドカード文字 (wildcard character)

検索語の先頭、中間、または末尾にある任意の文字を表す文字。

### D

### **Document Object Model (DOM)**

XML ファイルなど、構造化文書を、プログラマチックにアクセスおよび更 新できるオブジェクトのツリーとして表示するシステム。

## Domino Document Manager ライブラリー (Domino Document Manager library) Domino Document Manager に対するエントリー・ポイントである Domino Document Manager データベース。

### Domino Document Manager キャビネット (Domino Document Manager cabinet) 文書を編成するのに使用される Domino Document Manager データベース。 キャビネットが Domino データベースを保持します。

### Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP)

サーバー上で稼働し、Domino Object Request Broker と連動して、Notes

Javaクラスを使用して作成される Java アプレットと Domino サーバーとの 間の通信を可能にするサーバー・タスク。ブラウザー・ユーザーおよび Domino サーバーは、DIIOP を使用して通信し、オブジェクト・データを交 換します。

П

### ID 管理 (identity management)

セキュア保管でユーザー信用証明情報を暗号化する能力。

### IP アドレス (IP address)

ネットワーク上のホストを識別する固有 32 ビット・アドレス。

J

#### Java Database Connectivity (JDBC)

Java プラットフォームと広範なデータベースとの間のデータベース依存接 続の業界標準。JDBC インターフェースは、SOL ベースのデータベース・ アクセスに対する呼び出しレベルの API を提供します。

### Java 仮想マシン (JVM) (Java virtual machine (JVM))

コンパイル済み Java コード (アプレットおよびアプリケーション) を実行 するプロセッサーのソフトウェア・インプリメンテーション。

### JavaScript

ブラウザーおよび Web サーバーで使用される Web スクリプト言語。

### JavaServer Pages (JSP)

動的コンテンツをクライアントに戻すために、Java コードを動的に Web ペ ージ (HTML ファイル) に組み込むことができるようにし、そのページのサ ービスが提供されるとき実行するサーバー・スクリプト・テクノロジー。

L

### Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)

X.500 モデルをサポートするディレクトリーへのアクセス権を提供する TCP/IP を使用し、より複雑な X.500 ディレクトリー・アクセス・プロトコ ルのリソース要件の影響を受けないオープン・プロトコル。

#### Lotus OuickPlace プレース (Lotus OuickPlace place)

地理的に分散した参加者が、構造化されてセキュアなワークスペースにおい て、プロジェクトで共同作業し、オンラインで通信することができるように なる、Lotus QuickPlace によって提供される Web の場。

#### Lotus QuickPlace ルーム (Lotus QuickPlace room)

共通の興味、および集合的作業の必要を共有する、許可されたメンバーに制 限されたLotus QuickPlace プレースのパーティション化領域。

M

### MIME タイプ (MIME type)

インターネット全体にわたって転送されるオブジェクトのタイプを識別する ためのインターネット標準。

### Ν

### N-gram セグメンテーション (n-gram segmentation)

Unicode ベースの空白文字セグメンテーションのように、ワードを区切るの にブランク・スペースを使用するよりはむしろ、所与の数の文字の重複シー ケンスを単一文字とみなす分析方法。

## Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) (Notes remote procedure call (NRPC))

すべての Notes-to-Notes 通信に使用される Lotus Notes のアーキテクチャ 一層。

### S

#### Secure Sockets Layer (SSL)

通信プライバシーを提供するセキュリティー・プロトコル。

### U

### Unicode ベースの空白スペース・セグメンテーション (Unicode-based white space segmentation)

トークンと区切り文字を区別するために Unicode 文字プロパティーを使用 するトークン化の方式。

### Universal Resource Name (URN)

特定の構文に準拠する文字の短ストリングからなるインターネット・プロト コル・エレメント。そのストリングは、リソースを参照するのに使用できる 名前またはアドレスから構成されます。

### **URI** (Uniform Resource Identifier)

抽象的または物理的リソースを識別するコンパクトな文字ストリング。

### **URL** (Uniform Resource Locator)

コンピューター上、またはインターネットなどのネットワーク内の情報リソ ースを表す一続きの文字。この一続きの文字には、その情報リソースへのア クセスに使用されるプロトコルの省略名、およびそのプロトコルが情報リソ ースを見つけるために使用する情報が含まれる。

#### **Unstructured Information Management Architecture (UIMA)**

非構造化データの分析用システムをインプリメントするフレームワークを定 義する IBM アーキテクチャー。

### W

#### Web クローラー (Web crawler)

Web 文書を検索したり、文書内のリンクをたどったりすることによって、 Web を探索するロボット・ソフトウェアのクラス。

### X

### XML パス言語 (XPath) (XML Path Language (XPath))

一意的に識別されたり、またはソースの XML 文書の一部にアドレッシン グしたりする言語。XPath はまた、ストリング、数値、およびブール演算子 の操作のための基本機能を提供します。

# WebSphere Information Integration に関する情報の入手

WebSphere Information Integration 製品に関する情報は、Web で入手できます。

WebSphere Information Integration に関する情報は、 Web の www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/ にあります。このサイトには、次の最新情報が入っています。

- 製品資料
- 製品ダウンロード
- フィックスパック
- リリース情報とその他のサポート文書
- WebSphere Information Integration に関する新情報
- ホワイト・ペーパーや IBM Redbooks<sup>™</sup> などの Web リソースへのリンク
- ニュースグループやユーザー・グループへのリンク
- WebSphere Information Integration 製品のオンライン・インフォメーション・センターへのリンク
- 資料の注文方法

製品資料を入手するには、以下のようにします。

- 1. Web の www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/ にアクセスします。
- 2. ドロップダウン・リストから製品 (例えば、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition) を選択します。
- 3. ページ左側の「Support」リンクをクリックします。
- 4. 「Learn」セクションで必要なリンクを選択します。選択した製品のインフォメーション・センターがある場合は、インフォメーション・センターのリンクを選択できます。 344 ページの図 2 の例を参照してください。

### Learn

- → Product documentation and manuals (2 items)
- → Redbooks (1 item)
- → V8.2 Documentation and release notes

# **Information Center**

Provides fast, online centralized access to product information.

 $\rightarrow$  1.0

図 2. WebSphere Information Integration Support Web サイトにおける製品資料へのリンクの例

# IBM と連絡を取る

お客様の国または地域で IBM に連絡する方法については、Web のwww.ibm.com/planetwide にある「IBM Directory of Worldwide Contacts」にアクセスしてください。

# 商標

ここでは、IBM の商標と、特定の IBM 以外の商標をリストします。

IBM の商標に関する情報については、http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml を参照してください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel、Intel Inside (ロゴ)、および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

# 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3-2-31 IBM World Trade Asia Corporation Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム(本プログラムを含む)との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation J46A/G4 555 Bailey Avenue San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があり、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

### 著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、 IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

Outside In  $(^{\text{@}})$  Viewer Technology, ©1992-2004 Stellent, Chicago, IL., Inc. All Rights Reserved.

IBM XSLT Processor Licensed Materials - Property of IBM ©Copyright IBM Corp., 1999-2004. All Rights Reserved.

## 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の 順に配列されています。なお、濁 音と半濁音は清音と同等に扱われ ています。

# 「ア行]

アクセシビリティ 329 アクセス制御 現行の検証 222 コレクションに対する使用不可化 230 説明 215 文書レベル・セキュリティー 221. 235 ポータル検索エンジン・サポート 235 ユーザー・プロファイル 224 Lotus Domino での要件 228 Windows ファイル・システムでの要件

アクティブ Web サイトのモニター 264,

アダプター、エンタープライズ・サーチ用 O 239

アノテーター 129 アプリケーション ID 220

アラート クロール済み文書数 282

> 検索応答時間 282 コレクション・レベル 258, 282 サーバー上のフリー・スペース 284 索引付けされた文書 282 索引の制限 258

システム・レベル 284

説明 281 E メールでの受信 287

E メール・オプション 282, 284

SMTP サーバー構成 286

アンカー・テキスト分析 グローバル分析 218

> コレクション・セキュリティー 218 説明 211

文書の索引作成 219

イベント・パブリッシング

説明 48

AIX オペレーティング・システムでの セットアップ 55

DB2 クローラー構成 50,53

Linux オペレーティング・システムで のセットアップ 55

イベント・パブリッシング (続き) Solaris オペレーティング環境でのセッ トアップ 55

Windows でのセットアップ 56 エラー・メッセージ

ログ・ファイルの表示 289 E メールでの受信 285, 287 SMTP サーバー構成 286

エンタープライズ・ サーチ クローラー・サーバー 4 索引サーバー 7 パーサー 5

エンタープライズ・アプリケーション ESAdmin アプリケーション 216 ESPACServer.ear ファイル 99 ESSearchAdapter.ear ファイル 239 ESSearchApplication アプリケーション

ESSearchServer アプリケーション 216 エンタープライズ・サーチ

概要 1 管理コンソール 9 管理役割 213 クローラー・サーバー 37

検索アプリケーション 12 検索サーバー 8.165

コマンド 297

コレクション・レベルのセキュリティ — 217

コンポーネント 3 サーバーの開始 251

サーバーの停止 251, 253

索引サーバー 149

システム・ファイルのリストア 294

セキュリティー 211 セッション ID 297

データ・フロー・ダイアグラム 13

パーサー 115

バックアップ 292

バックアップ・スクリプト 291

バックアップ・データからのリストア

文書レベル・セキュリティー 221

ポート番号構成 26 戻りコード 297

モニター 257

リストア・スクリプト 291

ログ・ファイル 281

API 11

URI フォーマット 105

WebSphere Portal との統合 233

エンタープライズ・サーチ管理者

説明 213

変更、シングル・サーバー上のパスワ ード 20

変更、マルチサーバー上のパスワード 22

役割の構成 214

エンタープライズ・サーチ資料の 検索 327

エンタープライズ・サーチのバックアップ 291, 292

エンタープライズ・サーチのリストア 291

応答時間履歴のモニター 275

オペレーター

説明 213

役割の構成 214

# 「力行]

開始

エンタープライズ・サーチ・サーバー

クローラー・サーバー 262

検索サーバー 275

索引作成 273

サンプル検索アプリケーション 203

データ・リスナー 277

パーサー 272

マイグレーション・ウィザード 243, 245

外部クローラー

構成 103

データ・リスナー API 11

データ・リスナー・アプリケーション 103

外部ソース

アプリケーション ID セキュリティー

検索 154

検索アプリケーションとの関連付け

209

構成 207

説明 207

カスタム・テキスト分析

共通分析構造のマッピング 134, 135 索引への分析結果のマッピング 134 説明 129

テキスト分析エンジン 130, 131

JDBC 表への分析結果の マッピング 135

カスタム・テキスト分析 (続き)	クイック・リンク (続き)	クローラー・タイプ
XML エレメントのマッピング 132	説明 173	単一コレクション内に組み合わせる
カテゴリー	グローバル Web クロール・スペース 95	37
カテゴリー化タイプ 121	グローバル分析	ベースとなる値 37
カテゴリー・ツリー 120	アンカー・テキスト分析 211, 218	クローラー・プラグイン 104
検索 116	説明 7	「クロール」ページ、説明 15
作成 122	重複文書の検出 211, 218	クロール速度のモニター 266
サブカテゴリーのネスティング 120	クローラー	クロール・スペース
説明 116	外部サポート 11, 103	アラート 282
モデル・ベース 120, 121	クローラーのプロパティーの編集 41	説明 4
ルール・ベース 117, 121	クロール・スペースの編集 41	編集 41
URI フォーマット 105	構成の概要 37	Web クローラーの構成 82
WebSphere Portal からのマイグレーシ	異なるクローラー・タイプの組み合わ	言語 サポート
ョン 243, 245	せ 37	カスタム・テキスト分析 129
カテゴリー化タイプ	削除 42	セマンティック検索 129
選択 31, 121	作成 40	言語サポート
モデル・ベース 120	システム状況 262	ストップワード辞書 169
ルール・ベース 117	初期値 40	セマンティック検索 137
カテゴリー規則	スケジューリング 37	同義語辞書 167
構成 122	説明 4	ネイティブ XML 検索 137
文書コンテンツ 117, 122	データ・リスナー・アプリケーション	
URI パターン 117, 122	103	検索
カテゴリー・ツリー	デフォルトのマイグレーション設定	外部ソース 154
説明 120	248	カテゴリー 116
WebSphere Portal からのマイグレーシ	プラグイン 104	クイック・リンク 173
ヨン 243, 245	文書レベル・セキュリティー 221	コレクション 154
韓国語		HTML 文書 127, 128
複合語分析 136	能にする 37	XML 文書 124, 125, 132
N-gram セグメンテーション 138	ボビッる 37 ベースとなる値 37	ANIL 文音 124, 123, 132 検索 結果
管理コンソール	モニター 262	ワイルドカード文字 156
インターフェース 15	Content Edition 43, 44	検索 サーバー
説明 9	DB2 48	開始 275
		「検索」ページ、説明 15
ラヘテの気安 15 ログイン 19	DB2 Content Manager 57	
管理者パスワード	Domino Document Manager 61	アプリケーション ID 220
変更、シングル・サーバー上 20	Exchange Server 63, 64	チョッケーション ID 220 外部ソースとの関連付け 209
	NNTP 64	
変更、マルチサーバー上 22	Notes 65, 67	カスタム 189
管理役割	QuickPlace 75	コレクションとの関連付け 190
エンタープライズ・サーチ管理者	UNIX ファイル・システム 79	コレクション・レベルのセキュリティ
213, 214	URI フォーマット 105	- 220
オペレーター 213, 214	Web 80	サンプル 189, 191
構成 214	WebSphere Portal 98, 99, 100	説明 12
コレクション管理者 213, 214	Windows ファイル・システム 101	
説明 213	クローラーのプロパティー	アラート 282
モニター担当者 213, 214	説明 4	モニター 275
キーワード、クイック・リンク 173, 174	編集 41	検索オプション
共通分析構造	クローラー履歴レポート	検索結果の 154
索引へのマッピング 134	サイト・レポート 267	パラメトリック検索 154
説明 129	作成 267	フィールド検索 154
JDBC 表へのマッピング 135	説明 264	フリー・テキスト検索 154
XML エレメントのマッピング 132		
	クローラー・サーバー	検索および索引 API 11, 189
URI フォーマット 105	開始 251, 262	検索キャッシュ
クイック・リンク	停止 253, 262	構成 166
検索 173		説明 166
作成 174		

検索結果	コマンド、エンタープライズ・サーチ	最新の照会のモニター 275
グループ化 161, 162	297	最大再クロール間隔 87
サマリー 172	コレクション	サイト履歴レポート
サマリーのカスタマイズ 172	アプリケーション ID セキュリティー	作成 267
縮小表示 161, 162	220	説明 264
静的ランキング 178	アンカー・テキスト・セキュリティー	
説明 177	218	アラート 282
テキスト・ベースのスコアリング 177	検索 154	アンカー・テキスト (anchor text) 219
動的要約 171	検索アプリケーションとの関連付け	キューからの削除 274
動的ランキング 177	190	縮小表示した URI 153, 161, 162
ランキング 182	検索サーバー 165	スケジューリング 150
ランキング調整クラスの構成 183,	構文解析 115	スケジュールの変更 151
185, 186, 187	「コレクション」ビューを使用した作	スケジュールを使用可能にする 151,
ワイルドカード文字展開 158	成 31	273
URI パターン構成 181	コレクション・ウィザードを使用した	スケジュールを使用不可にする 151,
検索結果の縮小表示	作成 30	273
構成 162	サイズの見積もり 31	説明 7, 149
検索結果のランキング	削除 34	同時作成 152
静的 178	作成方法 29	並行作成 152
説明 177	システム状況 259	モニター 273, 274
テキスト・ベースのスコアリング 177	セキュリティー 217	有効範囲 153, 159
動的 177	説明 3	ワイルドカード文字 153, 156, 158
ランキング調整クラス 183, 185, 186,	重複文書セキュリティー 218	URI の除去 153, 163
187	デフォルトのマイグレーション設定	URI フォーマット 105
ランキング調整ワード辞書 180	248	「索引」ページ、説明 15
URI パターン 181, 182	ドラフト 30	索引キュー 274
検索サーバー	フェデレーション 29	索引サーバー
応答時間履歴 275	文書レベルのアクセス制御の迂回 230	開始 251
開始 251	編集 33	停止 253
検索キャッシュ 166	モニター 259	索引作成
高頻度の照会 275	リソースの見積もり 258	開始 273
最新の照会 275	MigrationWizard.log ファイル 245	システム状況 274
システム状況 275	WebSphere Portal からのマイグレーシ	
ストップワード辞書 169	ョン 243, 245	同時 152
ストップワード辞書の関連付け 170,	コレクション ID、構文規則 31	並行 152
171	「コレクション」ビュー	索引スケジュールを使用可能にする 151
説明 8, 165	コレクションの作成 31	索引スケジュールを使用不可にする 151
停止 253, 275	説明 15	索引付けしないディレクティブ
同義語辞書 167, 168	コレクション管理者	構成 97
同義語辞書の関連付け 169	説明 213	説明 97
モニター 275	役割の構成 214	索引の 再編成 7
ランキング調整ワード辞書 178	コレクション・ウィザード 30	索引の再編成 149
ランキング調整ワード辞書の関連付け	コレクション・レベルのセキュリティー	スケジューリング 150, 151
180	アプリケーション ID 220	説明 7, 149
検索センター、 WebSphere Portal の エンタープライズ・サーチ用のアダプ	アンカー・テキスト分析 218	索引の並行作成 152
	使用可能化 31	索引のリフレッシュ 7, 149
ター 233, 239	説明 211, 217	スケジューリング 150, 151
説明 233	重複文書の検出 218	説明 7, 149
登録ポートレット 233, 241 検索ブラウズ・ポートレットの構成 238		削除
検索プラワス・ホートレットの構成 238 検索ポートレットのデプロイメント 236	[サ行]	キューから索引を 274 クローラー 42
検証、現行の信用証明情報の 222, 225,		フレクション 34
快証、現付の信用証明情報の 222, 225, 228	サーバー・モード、Content Edition リポ	コレクション 34 作成
226 高頻度の照会のモニター 275	ジトリー 44	クイック・リンク 174
「構文解析」ページ、説明 15	最近クロールされた URL のモニター	クローラー 40
117/17 V V WU71 13	264	コレクション 30, 31
	最小再クロール間隔 87	_ v

スクリプト (続き) ソフト・エラー・ページ、Web クローラ 作成 (続き) - 88 有効範囲 160 escrnote.vbs 70 ルール・ベースのカテゴリー 122 escrvbr.sh 45 HTML 検索フィールド 128 escrybr.ybs 46 [夕行] Web クローラー・レポート 267 esrestore.bat 293, 294 XML 検索フィールド 125 esrestore.sh 293, 294 高い再呼び出し照会 サマリー startccl 293 説明 183 カスタマイズ 172 スケジューリング デフォルトのランキング調整要因 187 クローラー 37 動的 171 タスクの概要、管理コンソール 15 サンプル検索アプリケーション 索引作成 150, 151 中国語 アクセス 203 ストップワード辞書 改行文字の解析 138 開始 203 コレクションとの関連付け 171 N-gram セグメンテーション 138 検索機能 189, 191 システムへの追加 170 重複文書の検出 セキュリティーの使用可能化 204 説明 169 グローバル分析 218 セキュリティーの使用不可化 216 スレッド セキュリティーの使用可能化 218 説明 12, 191 パーサー 136 説明 211 デフォルトのデプロイメント 201 Web クローラー 265 ランキング調整クラスの構成 183 config.properties ファイル 192, 201 スレッドの詳細のモニター 264 直接モード、Content Edition リポジトリ 静的ランキング WebSphere グローバル・セキュリティ - 204 コレクションの使用可能化 31 データ・ソース・タイプ 「システム」ビュー、説明 15 説明 178 エンタープライズ・サーチでサポート システム状況 マイグレーションされたコレクション されている 2 クローラー 262 における 245 外部サポート 2,11 検索サーバー 275 セキュリティー リレーショナル・データベース 48 コレクション 259 アクセス制御 215 Content Edition リポジトリー 43, 44 索引作成 274 アンカー・テキスト分析 218 DB2 Content Manager 項目タイプ 57 パーサー 272 エンタープライズ・アプリケーション DB2 データベース 48 Web クローラー 264 対する使用不可化 216 Domino Document Manager データベー システムのリストア 291, 293, 294 管理役割 214 ス 61 システム・バックアップ 291, 292 クローラー・プラグイン 104 Exchange Server のパブリック・フォ システム・リソース 検索アプリケーション ID 220 ルダー 63 チェック 258 コレクションの使用可能化 31,211 NNTP ニュースグループ 64 見積もり 258 コレクション・レベル 217, 230 Notes データベース 65, 67 システム・リソースのチェック 258 サンプル検索アプリケーション 204 QuickPlace データベース 75 システム・リソースの見積もり 258 説明 211 UNIX ファイル・システム 79 縮小表示した URI 重複文書の検出 218 Web サイト 80 構成 162 認証 215, 216 WebSphere Portal サイト 98 説明 161 文書レベル 221, 222, 225, 230 Windows ファイル・システム 101 縮小表示した検索結果 文書レベルのアクセス制御の迂回 230 データ・フロー、エンタープライズ・サー 説明 161 ユーザー・プロファイル 224 チ・システム 13 照会の検証 222 ID 管理 225 データ・リスナー 除去、索引から URI を 163 Lotus Domino 文書 228 構成 103 WebSphere グローバル・セキュリティ 除去された 文書 再始動 103, 277 ログ・ファイルの構成 278 - 216 モニター 277 除去された文書 Windows ドメイン 225 データ・リスナー API 11 説明 278 「セキュリティー」ビュー、説明 15 停止 に関するレポート 279 セキュリティー・トークン エンタープライズ・サーチ・サーバー 資料 327 クローラー構成 221 251, 253 スクリプト コレクションに対する使用不可化 230 クローラー・サーバー 262 文書レベル・セキュリティー 221, esbackup.bat 292, 294 検索 サーバー 275 esbackup.sh 292, 294 235 索引作成 273, 274 ポータル検索エンジン処理 235 escrem.sh 58 パーサー 272 セッション ID、エンタープライズ・サー escrcm.vbs 60 ディスカバリー 4 チ 297 escrdb2.sh 55 テキスト 処理 escrdb2.vbs 56 セマンティック検索 129, 132, 137 アノテーター 129 escrnote.sh 68 共通分析構造 129

テキスト処理 パーサー (続き) 文書サマリー 説明 5, 115 テキスト分析エンジン 129 カスタマイズ 172 テキスト分析 エンジン データ分析タスク 5 プロパティーの 編集 172 説明 129 停止 272 文書タイプ 分析結果のマッピング 134, 135 ネイティブ XML 検索 137 構文解析 139 パーサー・サービスの文書タイプ パーサー・サービスの 140, 142 テキスト分析 (text analysis) 共通分析構造 134, 135 140, 142 Stellent セッション用 143, 145 テキスト分析エンジン 130, 131 文書トラッキング 複合語分析 136 モニター 272 XML エレメントのマッピング 132 使用可能化 278 テキスト分析エンジン N-gram セグメンテーション 138 使用不可化 278 コレクションとの関連付け 131 Stellent セッション用の文書タイプ 説明 278 レポート 279 システムへの追加 130 143, 145 XML エレメントのマッピング 132 パーサー・ サーバー 文書の重要度 テキスト・ベースのスコアリング 177 開始 251 コレクションの使用可能化 31 デフォルトの検索アプリケーション 201 停止 253 静的 178 パーサー・サーバー デプロイメント マイグレーションされたコレクション エンタープライズ・サーチ用のアダプ スレッド構成 136 における 245 ター 239 パスワード、エンタープライズ・サーチ管 ランキング調整クラス 183, 187 検索ブラウズ・ポートレット 238 理者 20, 22 ランキング調整ワード辞書 180 検索ポートレット 236 パスワード保護された Web サイト 90 URI パターン 181, 182 登録ポートレット 241 フォーム・ベースの認証 91 文書レベル・セキュリティー HTTP 基本認証 90 クローラー構成 37 ESPACServer.ear ファイル 99 バックアップ・スクリプト クローラー・プラグイン 104 ESSearchAdapterPortlet.war ファイル 現行の信用証明情報の検証 222 241 稼働中 292 ESSearchAdapter.ear ファイル 239 実行中 294 索引付きアクセス制御 221 ESSearchPortlet.war ファイル 236 説明 291 セキュリティー・トークン 221 パラメトリック検索 154 同義語辞書 説明 211, 221 コレクションとの関連付け 169 低い再呼び出し照会 ポータル検索エンジン・サポート 235 システムへの追加 168 説明 183 ユーザー・プロファイル 224 デフォルトのランキング調整要因 187 説明 167 リアルタイムの検証 222 同時索引作成 152 ID 管理 225 動的要約 171 ログ・ファイル 289 Lotus Domino 文書 228 動的ランキング 177 URI の詳細 260 Lotus Domino 文書の 228 トラステッド・サーバー構成 228 ファイアウォール、Exchange Server 文書 Windows ファイル・システムでの のクロール 64 ファイル拡張子 分類、WebSphere Portal からのマイグレ 「ナ行] コレクション・パーサーによってサポ ーション 243, 245 ートされている 140, 142 分類管理ポートレット 243 日本語 除外、Web クロール・スペースから 改行文字の解析 138 82 クローラーのプロパティー 41 N-gram セグメンテーション 138 Stellent セッションでサポートされて クロール・スペース 41 認証 いる 143, 145 検索アプリケーションのプロパティー エンタープライズ・アプリケーション フィールド、ランキング調整クラスへのマ 192, 201 対する使用不可化 216 ッピング 185 コレクション 33 説明 215 データ・リスナー・アプリケーション フィールド検索 154 ネイティブ XML 検索 137 フェデレーテッド・コレクション 29 フォーム・ベースの認証 90,91 ポータル検索エンジン [ハ行] 複合語、構文解析 136 セキュリティー・トークンを渡す 235 プラグイン、クローラーの 104 説明 233 パーサー フリー・スペースのアラート 284 文書レベル・セキュリティー 235 改行文字 138 フリー・テキスト検索 154 ポート番号、エンタープライズ・サーチ 開始 272 プロキシー・サーバー 92 26 空白文字 138 文書 トラッキング ポートレット 構文解析、文書タイプの 139 ログ・ファイルの構成 278 エンタープライズ・サーチ 233 システム状況 272 文書コンテンツ・オプション 154 検索 236

スレッド 136

検索ブラウズ 238

ポートレット (続き) サポートされる WebSphere Portal の バージョン 233 説明 233 登録 241 分類管理ポートレット 243 ESSearchAdapterPortlet.war ファイル 241 [マ行] マイグレーション コレクション 245 モデル・ベースの分類 243 ルール・ベースの分類 245 マイグレーション・ウィザード 開始 243, 245 コレクション 245 説明 243 デフォルトのクローラー設定 248 デフォルトのコレクション設定 248 モデル・ベースの分類 243 ルール・ベースの分類 245 ログ・ファイル 249 マッピング 共通分析構造への XML エレメントの 132 共通分析構造を 索引へ 134 ランキング調整クラスに対するフィー ルドの 185 HTML 検索フィールド 128 JDBC 表へ 共通分析構造を 135 XML 検索フィールド 125 モデル・ベースのカテゴリー

カテゴリー化タイプの選択 121 説明 120 モデル・ベースの分類、WebSphere Portal からのマイグレーション 243 戻りコード、エンタープライズ・サーチ 297

モニター エンタープライズ・サーチ 257 応答時間履歴 275 クローラー 262 検索サーバー 275 高頻度の照会 275 コレクション 259 最新の照会 275 除去された文書 279 データ・リスナー 277 パーサー 272 ログ・ファイル 289 URI の詳細 260 Web クローラー 264 Web クローラーのクロール速度 266 モニター (続き) Web クローラーのスレッドの詳細 265 Web クローラー・アクティブ・サイト 「モニター」ビュー、 説明 15 モニター担当者 説明 213 役割の構成 214

# [ヤ行]

ユーザー・エージェント 81 ユーザー・プロファイル 構成 225 説明 224 有効範囲 検索 159 作成 160 説明 159 URI パターン 159, 160 URI フォーマット 105

# 「ラ行〕

ランキング調整クラス 構成 185, 186 説明 183 高い再呼び出し照会 183, 187 重複文書の検出 183 デフォルト値 187 低い再呼び出し照会 183, 187 フィールドのマップ 185 ランキング調整要因 ランキング調整クラスの 185, 187 ランキング調整クラスの構成 183, 186 ランキング調整ワード辞書の 178 URI パターン 181. 182 ランキング調整ワード辞書 コレクションとの関連付け 180 システムへの追加 180 説明 178 リストア システム・ファイルを新規のサーバー バックアップ・データからの 293 リストア・スクリプト 実行中 293, 294 説明 291 リンクをたどらないディレクティブ 構成 97

ルール・ベースのカテゴリー (続き) 作成 122 説明 117 ルール・ベースの分類、 WebSphere Portal からのマイグレーション 243 ルール・ベースの分類、WebSphere Portal からのマイグレーション 245 ローカル・ユーザー・セキュリティー、 OuickPlace クローラー 77 「ログ」ページ、説明 15 ログイン、管理コンソールへの 19 ログ・ ファイル 文書トラッキングに対する 278 ログ・ファイル 最大サイズ 285 重大度レベル 285 循環 285 説明 281 デフォルトの場所 281 表示 289 フィルター 289 マイグレーション・ウィザード 249 モニター 289 E メール・オプション 287 SMTP サーバー構成 286

# [ワ行]

ワイルドカード文字 索引展開 156, 158 照会展開 156, 158

AIX オペレーティング・システム イベント・パブリッシング構成 55 Content Edition クローラーの 構成 DB2 Content Manager クローラー構成 Domino Document Manager クローラー 構成 68 Notes クローラー構成 68 QuickPlace クローラー構成 68 検索および索引 11, 189 説明 11 データ・ リスナー 11

### В

bos.iocp.rte モジュール 73

ルール・ベースのカテゴリー

カテゴリー化タイプの選択 121

説明 97

С	Domino Document Manager クローラー 構成 61	ESSearchServer アプリケーション セキュリティーの使用不可化 216
CCLServer_date.log ファイル 26 config.properties ファイル プロパティーの説明 192	AIX オペレーティング・システムでの セットアップ 68 DIIOP プロトコル構成 72	es.cfg ファイル 20, 22 ES_INSTALL_ROOT、説明 20, 22 ES_NODE_ROOT、説明 20, 22
編集 201	IOCP 構成 73	es_special_field.default_field 187
Content Edition クローラー	Linux オペレーティング・システムで	es_special_field.regular_text フィールド
構成 43	のセットアップ 68	187
サーバー・モード 44	NRPC プロトコル 68, 70	Exchange Server クローラー
直接モード 44	Solaris オペレーティング環境でのセッ	構成 63
AIX オペレーティング・システム で	トアップ 68	セキュア文書 64
のセットアップ 45	URI フォーマット 105	URI フォーマット 105
Linux オペレーティング・システム で	Windows でのセットアップ 70	
のセットアップ 45	Domino ユーザー構成、QuickPlace クロー	=
Solaris オペレーティング環境 でのセ	ラー 77	F
ットアップ 45 URI フォーマット 105		followindex.rules ファイル
Windows でのセットアップ 46	E	構成 97
cookies.ini ファイル	_	説明 97
構成 94	E メール通知	
説明 93	アラート 287	G
フォーマット 93	メッセージ 287	G
Cookie、Web クロールの	SMTP サーバー構成 286	global.rules ファイル 95
構成 94	EAR ファイル ESAdmin アプリケーション 216	
フォーマット 93	ESPACServer.ear 99	Н
crawl.rules ファイル 95	ESSearchAdapter.ear 239	п
	ESSearchApplication アプリケーション	HTML 検索フィールド
D	216	エレメントのマッピング 127, 128
	ESSearchServer アプリケーション 216	作成 128
DB2 Content Manager クローラー	ESAdmin アプリケーション	説明 127
構成 57	セキュリティーの使用不可化 216	HTML 文書、検索 127 HTTP 基本認証 90
AIX オペレーティング・システムでの	ログイン 19	HTTP 基本総証 90 HTTP プロキシー・サーバー 92
セットアップ 58 Linux オペレーティング・システムで	esadmin コマンド 297	HTTP 戻りコード
のセットアップ 58	esbackup.bat スクリプト 292, 294	Web クローラーが受け取った 267
Solaris オペレーティング環境でのセッ	esbackup.sh スクリプト 292, 294 eschangepw スクリプト 20, 22	Web クローラー・レポート 267
トアップ 58	escrem.sh スクリプト 58	
URI フォーマット 105	escrem.vbs スクリプト 60	
Windows でのセットアップ 60	escrdb2.sh スクリプト 55	1
DB2 Content Manager の Java コネクター	escrdb2.vbs スクリプト 56	ID 管理
58, 60	escrnote.sh スクリプト 68	構成 225
DB2 クローラー	escrnote.vbs スクリプト 70	ユーザー・プロファイル 224
イベント・パブリッシング 48	escrvbr.sh スクリプト 45	IOCP、クローラー構成 73
イベント・パブリッシング構成 55,	escrvbr.vbs スクリプト 46	I/O 完了ポート・モジュール、クローラー
56 構成 48	ESPACServer.ear ファイル 99	構成 73
構成 48 URI フォーマット 105	esrestore.bat スクリプト 293, 294	
WebSphere II Event Publisher Edition	esrestore.sh スクリプト 293, 294	J
構成 50	ESSearchAdapterPortlet.war ファイル 241 ESSearchAdapter.ear ファイル 239	
WebSphere MQ インストール 55	ESSearchApplication アプリケーション	JavaScript サポート、Web クローラーの
WebSphere MQ 構成 53	ESSearchApplication テフザゲーンヨン 再始動 201, 204	82
Windows での WebSphere MQ インス	セキュリティーの使用可能化 204	JDBC 外部ソース
トール 56	セキュリティーの使用不可化 216	構成 207
DIIOP プロトコル、クローラー構成 72	config.properties ファイル 192, 201	削除 207 編集 207
Directory Assistance 構成 78	ESSearchPortlet.war ファイル 236	棚乗 207 JDBC ドライバー 207
		200 1 2 1 / 1 201

LDAP 外部ソース 構成 207 削除 207 編集 207

Linux オペレーティング・ システム Content Edition クローラーの構成 45 Linux オペレーティング・システム

イベント・パブリッシング構成 55 DB2 Content Manager クローラー構成

Domino Document Manager クローラー 構成 68

Notes クローラー構成 68 OuickPlace クローラー構成 68 Solaris オペレーティング環境

イベント・パブリッシング構成 55

Lotus Domino ドメイン 228 Lotus Domino トラステッド・サーバー 228

### M

MIME タイプ、Web クロール・スペース に入れる 82

## N

NNTP クローラー、構成 64 Notes クローラー

検証、現行の信用証明情報の 228 構成 65 使用のヒント 67

フィールド・マッピング規則 67 文書レベル・セキュリティー構成 228 AIX オペレーティング・システムでの セットアップ 68

DIIOP プロトコル構成 72 IOCP 構成 73

Linux オペレーティング・システムで のセットアップ 68

Lotus Domino トラステッド・サーバ - 228

NRPC プロトコル 68, 70

Solaris オペレーティング環境でのセッ トアップ 68

URI フォーマット 105

Windows でのセットアップ 70

NRPC プロトコル、クローラー構成 68,

N-gram セグメンテーション 138

### P

parserTypes.cfg ファイル 140 PDF 資料 327

## Q

QuickPlace クローラー 構成 75 ローカル・ユーザー・セキュリティー AIX オペレーティング・システムでの セットアップ 68 DIIOP プロトコル構成 72 Directory Assistance 構成 78 Domino ユーザー構成 77 IOCP 構成 73 Linux オペレーティング・システムで のセットアップ 68 NRPC プロトコル 68, 70 Solaris オペレーティング環境でのセッ トアップ 68 URI フォーマット 105 Windows でのセットアップ 70

## R

Robots Exclusion プロトコル 81 robots.txt ファイル 81 runtime-generic.properties ファイル 172

SIAPI (検索および索引 API) 11, 189 SMTP サーバー構成 286 Solaris オペレーティング環境 Content Edition クローラーの 構成 DB2 Content Manager クローラー構成 Domino Document Manager クローラー 構成 68 Notes クローラー構成 68

QuickPlace クローラー構成 68 startccl スクリプト 293

Stellent セッション

構文解析、文書タイプの 139 デフォルトの文書タイプ 145 文書タイプの関連付け 143

stellenttypes.cfg ファイル 143 stellent.properties ファイル 143 synonyms.xml ファイル 243

### Т

titles.xml ファイル 243 treenodes.xml ファイル 243

### U

UIMA

共通分析構造 134, 135 コレクションとの関連付け 131 索引への分析結果のマッピング 134 システムへのテキスト分析エンジンの 追加 130 説明 129 JDBC 表への分析結果の マッピング 135 XML エレメントのマッピング 132 UNIX ファイル・システム・クローラー 構成 79 URI フォーマット 105 URI エンタープライズ・サーチにおけるフ

オーマット 105 カテゴリー規則 117, 122 クイック・リンク 173, 174 検索結果の縮小表示 161, 162 索引からの除去 163 詳細情報の表示 260 静的スコアの操作 181, 182 有効範囲 159, 160

URI の詳細

除去された文書 279 モニター 260

URL にできる限り早くアクセスする 88 URL にできる限り早く再アクセスする 88

URL パスの深さ 82

vbr\_access\_services.jar ファイル 45, 46

## W

Web クローラー アクティブ・サイト 264, 266 開始 URL 82, 88 グローバル・クロール・スペース 95 クローラー履歴 264 クロール規則 82 クロール速度 266 クロール・スペース の制限 82 構成 80 最近クロールされた URL 264 再クロール間隔 87

Web クローラー (続き) WebSphere MQ、クローラー・サーバー構 XML 検索フィールド サイト履歴 264 成 55, 56 エレメントのマッピング 124, 125, 索引付けしないディレクティブ 97 WebSphere MQ、DB2 クローラー構成 132 システム状況 264 53 作成 125 スレッドの詳細 264, 265 説明 124, 132 WebSphere Portal ソフト・エラー・ページ 88 エンタープライズ・サーチとの統合 XML 照会構文、ネイティブ 137 パスワード保護された Web サイト XML フラグメント、ネイティブ XML 検 カテゴリー・ツリーのマイグレーショ 索 137 90, 91 プロキシー・サーバー 92 ン 243 XML 文書 検索ブラウズ・ポートレット 238 検索 125 モニター 264 ユーザー・エージェント 81 検索ポートレットのデプロイメント ネイティブ XML 検索 137 リンクをたどらないディレクティブ 236 XPath、ネイティブ XML 検索 137 コレクションのマイグレーション 243 レポートの作成 267 デフォルトのマイグレーション設定 Cookie 93 248 Cookie 構成 94 分類管理ポートレット 243 Cookie フォーマット 93 分類のマイグレーション 243 followindex.rules ファイル 97 モデル・ベースの分類 243 WebSphere Portal クローラー JavaScript サポート 82 URL 状況 264 エンタープライズ・アプリケーション URL にできる限り早くアクセスする のデプロイメント 99 88 構成 98 サイト URL のコピー 100 Web クローラーの 開始 URL 88 Web クローラーの IP アドレス規則 82 ESPACServer.ear ファイルのデプロイ Web クローラーのアドレス規則 82 99 Web クローラーの開始 URL 82 URI フォーマット 105 Web クローラーの再クロール間隔 87 WebSphere Portal 検索センター エンタープライズ・サーチ用のアダプ Web クローラーの接頭部規則 82 Web クローラーのドメイン規則 82 ター 233, 239 Web クロールの Cookie 説明 233 説明 93 登録ポートレット 233, 241 Web クロール・スペースの制限 82 WebSphere グローバル・セキュリティー 検索アプリケーションのプロパティー WebSphere II Event Publisher Edition、DB2 クローラー構成 50 201 WebSphere II OmniFind Edition 329 使用不可化 216 アクセシビリティ 329 Windows オペレーティング・システム 概要 1 イベント・パブリッシング構成 56 クローラー構成 70 管理コンソール 9 クローラー・サーバー 4 Content Edition クローラーの 構成 検索アプリケーション 12 46 検索サーバー 8 DB2 Content Manager クローラー構成 コマンド 297 コンポーネント 3 Windows ドメイン 225 索引サーバー 7 Windows ファイル・システム・クローラ セッション ID 297 データ・フロー・ダイアグラム 13 構成 101 パーサー 5 文書レベル・セキュリティー構成 225 変更、シングル・サーバー上のパスワ URI フォーマット 105 ード 20 WpsMigratorLog.log ファイル 249 変更、マルチサーバー上のパスワード 22 X ポート番号構成 26 戻りコード 297 XML エレメント API 11 共通分析構造へのマッピング 132 ID 管理 225 検索 124, 132 WebSphere Portal との統合 233

検索フィールドへの マッピング 125

# IBM

Printed in Japan



SD88-6374-02



**日本アイ·ビー·エム株式会社** 〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12